

揖斐川町こども計画
ニーズ調査報告書

令和6年3月
揖斐川町

も く じ

調査の概要／ 1

1 調査の目的	2	3 回収結果	2
2 調査方法	2	4 集計・分析にあたって	3

第 1 部 就学前児童保護者調査／ 5

1 子どもと家族の状況	6	6 子育て支援事業等の利用状況	33
(1) 小学校区	6	(1) 子育て支援事業等の認知度	33
(2) 子どもの年齢	6	(2) 子育て支援事業等の利用経験	34
(3) 子どもの人数	6	(3) 子育て支援事業等の利用意向	35
(4) 子どもと生計をともにしている人数	7	7 休日の定期的な教育・保育事業の利用意向	36
(5) 同居者	7	(1) 土曜日	36
(6) 調査票の回答者	8	(2) 日曜日・祝日	37
(7) 経済状況	8	(3) 長期休暇期間中の教育・保育事業の利用	38
2 子どもの育ちをめぐる環境	9	8 子どもが病気の時の対応	39
(1) 子どもをみてくれる人はいるか	9	(1) 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無	39
(2) 相談相手	10	(2) 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の対処方法	40
(3) 子育てに関する相談で充実してほしいこと	12	(3) 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業ができなかった時の施設の利用意向	41
3 保護者の就労状況等	13	(4) 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由	41
(1) 母親の就労状況	13	9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり	43
(2) 父親の就労状況	16	(1) 不定期に利用している教育・保育事業	43
(3) フルタイムへの転換希望	17	(2) 不定期の教育・保育事業の利用意向	44
(4) 働いていない母親の就労意向	18	(3) 短期入所生活援助事業	46
(5) 働いていない父親の就労意向	19	10 放課後の居場所	47
4 平日の定期的な教育・保育事業	21	(1) 小学校低学年の放課後の過ごし方と希望日数	47
(1) 定期的な教育・保育事業の利用の有無	21	(2) 小学校高学年の放課後の過ごし方と希望日数	48
(2) 利用している定期的な教育・保育事業の種類	22	(3) 長期休暇期間中の留守家庭児童教室（学童保育）の利用意向	50
(3) 定期的な教育・保育事業の利用状況	23	11 育児休業制度	51
(4) 定期的な教育・保育事業の利用希望日数・時間	25	(1) 育児休業の取得	51
(5) 現在、利用している教育・保育事業の実施場所	27	(2) 育児休業取得後の職場復帰（母親）	52
(6) 定期的な教育・保育事業を利用していない理由	27		
(7) 利用したい定期的な教育・保育事業	28		
(8) 教育・保育事業を利用したい場所	29		
5 子育て支援センター	30		
(1) 子育て支援センターの利用状況	30		
(2) 子育て支援センターの利用意向	31		

(3) 育児休業から職場に復帰した時期 (母親)	53	(1) 子育て支援全般	70
(4) 育児休業取得期間と取得希望期間 (母親)	53	(2) 幼稚園・保育園・幼稚園	7
(5) 希望の時期に職場復帰しなかった理 由(母親)	54	(3) 不定期に利用する子ども・子育て支 援事業	73
(6) 短時間勤務制度の利用状況	55	(4) 遊び場	73
(7) 育児休業後の職場復帰をする時期	56	(5) 支援が必用な子ども	75
12 子育て観やサービスの満足度	57	(6) 子育て支援センター	75
(1) 子育てに関する不安や負担	57	(7) 子育て環境・安全	76
(2) 子どもに対する暴言や暴力	58	(8) 医療	77
(3) 子育てに関する悩みごと、気になる こと	59	(9) 保健センター・保健事業	77
(4) 子育てに関する情報の取得方法	62	(10) 児童館・図書館	78
(5) 子育てに関して知りたい情報	63	(11) 学童保育	78
(6) 子育てに関して地域に求めること	64	(12) 教育・学校	78
(7) 揖斐川町にあるとよい子育て支援施策	65	(13) 相談・情報提供	79
(8) 力を入れてほしい子育て支援	67	(14) イベント	80
(9) 揖斐川町の人口減少や少子化の現状 に対する考え方	69	(15) 経済的支援	80
13 意見・要望等	70	(16) 行政への意見・要望	81
		(17) アンケート	82
		(18) その他	82

第2部 小学生保護者調査 / 83

1 子どもと家族の状況	84	(2) 土曜・休日の過ごし方	100
(1) 居住地区	84	5 留守家庭児童教室(学童保育) ..	102
(2) 子どもの学年	84	(1) 留守家庭児童教室(学童保育)の利 用状況	102
(3) 子どもの人数	84	(2) 利用希望学年	105
(4) 生計をともにしている人数	85	(3) 留守家庭児童教室(学童保育)の利 用希望日数・時間等	105
(5) 同居者	85	(4) 留守家庭児童教室(学童保育)を利 用しない理由	109
(6) 調査票の回答者	86	(5) 放課後に必要だと思うもの	110
(7) 経済状況	86	6 子育て支援事業等の利用状況	112
2 子どもの育ちをめぐる環境	87	(1) 子育て支援事業等の認知度	112
(1) 子どもをみてくれる人はいるか	87	(2) 子育て支援事業等の利用経験	113
(2) 相談相手	88	(3) 子育て支援事業等の利用意向	114
(3) 子育てに関する相談で充実してほし いこと	90	7 子どもが病気の時の対応	115
3 保護者の就労状況等	91	(1) 子どもが病気等で学校を休まなけれ ばならなかったことの有無	115
(1) 母親の就労状況	91	(2) 子どもが病気等で学校を休んだ場合 の対処方法	116
(2) 父親の就労状況	94	(3) 子どもが病気等で学校を休んだ場合 の施設の利用意向	117
(3) フルタイムへの転換希望	95		
(4) 働いていない母親の就労意向	96		
(5) 働いていない父親の就労意向	97		
4 放課後等の居場所	98		
(1) 平日の放課後の過ごし方	98		

(4) 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由	117	(2) 留守家庭児童教室（学童保育）	139
8 不定期の事業や宿泊を伴う一時預かり	120	(3) 支援が必用な子ども	140
(1) 不定期に利用している事業	120	(4) ひとり親家庭への支援	141
(2) 不定期の預かり等の事業の利用意向	120	(5) 児童館・公民館・図書館	141
(3) 短期入所生活援助事業	121	(6) 遊び場・居場所	141
9 子育て観やサービスの満足度	123	(7) 学校・教育	142
(1) 子育てに関する不安や負担	123	(8) 不登校の子どもへの支援	143
(2) 子どもに対する暴言や暴力	124	(9) 地域の関わり	144
(3) 子育てに関する悩みごと、気になること	125	(10) スポーツ・地域活動	144
(4) 子育てに関する情報の取得方法	128	(11) 習い事	144
(5) 子育てに関して知りたい情報	129	(12) 移動手段・送迎	145
(6) 子育てに関して地域に求めること	130	(13) 医療	145
(7) 揖斐川町にあるとよい子育て支援施策	132	(14) 子育て環境・安全	146
(8) 力を入れてほしい子育て支援	134	(15) 学校や地域の行事・役について	147
(9) 揖斐川町の人口減少や少子化の現状に対する考え方	137	(16) 子育てと仕事の両立	148
10 意見・要望等	138	(17) 人口減少・少子化対策	148
(1) 子育て支援全般	138	(18) 経済的な負担と支援	149
		(19) 相談・情報提供	150
		(20) 行政への意見・要望	151
		(21) その他	151

第3部 小学生調査、中学生調査、16～17歳調査／153

1 小学生調査	154	(4) 平日の就寝時間	165
(1) 小学校	154	(5) 朝、すっきりと起きられるか	165
(2) 性別	154	(6) 睡眠不足	166
(3) 同居者	154	(7) 朝食の摂取	166
(4) 平日の就寝時間	155	(8) 誰と食事をとっているか	167
(5) 朝、すっきりと起きられるか	155	(9) 生活の満足度	167
(6) 睡眠不足	156	(10) 放課後過ごす場所	168
(7) 朝食の摂取	156	(11) 最も悩んでいること・気がかりなこと	169
(8) 誰と食事をとっているか	157	(12) 携帯電話やスマートフォン等の所持	170
(9) 生活の満足度	158	(13) インターネットの用途	171
(10) 放課後過ごす場所	158	(14) 家事作業	172
(11) 最も悩んでいること・気がかりなこと	159	(15) 近くにあるとよい遊び場・施設	173
(12) 携帯電話やスマートフォン等の所持	159	(16) 大人になったときに住みたい場所	174
(13) インターネットの用途	160		
(14) 家事作業	161	3 16～17歳調査	175
(15) 近くにあるとよい遊び場・施設	162	(1) 現在の立場	175
(16) 大人になったときに住みたい場所	163	(2) 性別	175
2 中学生調査	164	(3) 同居者	175
(1) 中学校	164	(4) 平日の就寝時間	176
(2) 性別	164	(5) 朝、すっきりと起きられるか	176
(3) 同居者	164	(6) 睡眠不足	177
		(7) 朝食の摂取	177

(8) 誰と食事をとっているか	178	ついでにの考え	184
(9) 生活の満足度	178	(18) 揖斐川町の人口減少や少子化の現状 に対する考え方	184
(10) 最も悩んでいること・気がかりなこと	179	4 子どもが住みやすくなるために、必 要な取組	185
(11) 携帯電話やスマートフォン等の所持	179	(1) 小学生	185
(12) インターネットの用途	180	(2) 中学生	187
(13) 家事作業	181	(3) 16～17歳	192
(14) ヤングケアラー	181		
(15) 近くにあるとよい遊び場・施設	182		
(16) 大人になったときに住みたい場所	183		
(17) 結婚すること、子どもを持つことに			

第4部 まとめと考察／195

1 仕事と子育て	196	(1) 子育てに関する不安や負担	208
(1) 母親の就労状況・形態	196	(2) 子どもに対する暴言や暴力	208
(2) フルタイムへの転換希望	196	(3) 子育ての悩み	209
(3) 就労していない母親の就労意向	197	(4) 子育てに関する情報の取得方法	210
(3) 育児休業の取得状況	198	(5) 子育てに関して知りたい情報	211
2 教育・保育事業	199	(6) 子育てに関して地域に求めること	212
(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利 用状況と利用意向	199	(7) 力を入れてほしい子育て支援	212
(2) 土・日・祝日の定期的な教育・保育 事業の利用意向	201	(8) 大人になったときに住みたい場所	214
(3) 子どもが病気の時の対応	201	(9) 結婚すること、子どもを持つことに ついでにの考え	214
(4) 子どもが病気等で定期的な教育・保育 事業ができなかった時の施設の利用意向	202	6 考察	215
(5) 病児・病後児保育施設等の利用を希 望しない理由	203	(1) 就労している母親の増加	215
(6) 不定期の教育・保育事業	204	(2) 父親の育児休業の取得	215
3 子育て支援センターの利用状況と 利用意向	205	(3) 幼稚園、幼児園・保育園	215
4 放課後の居場所	206	(4) 病児・病後児保育	216
(1) 希望する放課後の過ごし方（就学前 児童）	206	(5) 子育て支援センター	216
(2) 留守家庭児童教室（学童保育）の利 用状況	207	(6) 子育て環境・安心	216
(3) 放課後に必要なもの	207	(7) 放課後の過ごし方	217
5 子ども・子育て支援の充実のために	208	(8) 子育ての負担	217
		(9) 児童虐待の防止	217
		(10) 情報	217
		(11) 経済的な支援	218
		(12) 少子化対策	218

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、子ども・子育て支援法に基づく「第3期揖斐川町子ども・子育て支援事業計画」を策定するための基礎資料を得ることを目的とし、小学校6年生以下の児童を持つ保護者、小学5生、中学2生、16～17歳を対象として実施しました。

就学前児童の保護者に対しては、保育サービス等の利用状況や利用意向、子育てについての悩み、仕事と子育てなどについて、また、小学生の保護者に対しては、放課後児童クラブの利用状況や利用意向、仕事と子育て、病気・病後の対応などについてお聞きしました。さらに、小学5年生、中学2年生、16～17歳には生活の満足度や悩みごと、日頃の生活状況などについてお聞きしました。

2 調査方法

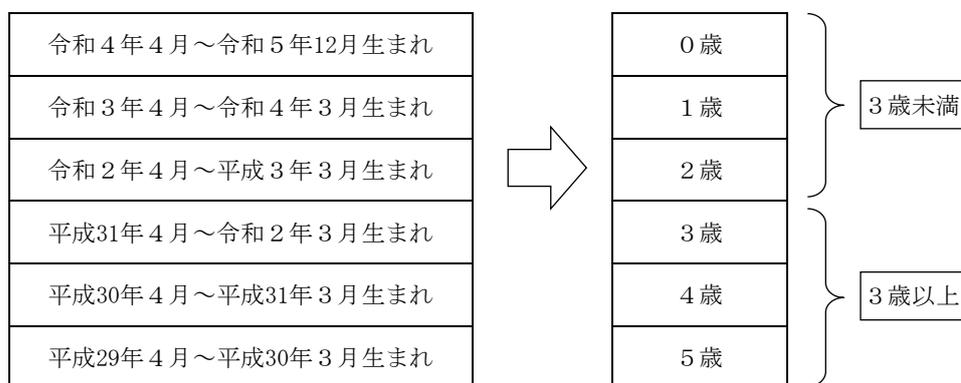
区 分	①就学前児童 保護者調査	②小学生 保護者調査	③小学生調査	④中学生調査	⑤16～17歳調査
調査対象者	就学前児童の保護者全数。ただし、就学前児童が2人以上いる世帯は1人とした。	小学生の保護者全数。ただし、小学生が2人以上いる世帯は1人とした。	小学5年生全数	中学2年生全数	16～17歳全数
調査方法	幼稚園・保育園通園児は各園にて配布・回収。幼稚園児・未就園児は郵送配布・郵送回収	学校にて配布・郵送回収	学校にて配布・回収		郵送配布・郵送回収
調査基準日	令和6年1月1日		令和5年12月1日		令和6年1月1日
調査期間	令和6年1月15日～1月31日		令和5年12月14日～12月28日		令和6年1月15日～1月31日

3 回収結果

区分	①就学前児童 保護者調査	②小学生 保護者調査	③小学生調査	④中学生調査	⑤16～17歳調査
配布数	384	548	127	152	174
回収数	284	347	126	141	87
有効回答数	283	347	126	141	85
有効回答率	73.7%	63.3%	99.2%	92.8%	48.9%

4 集計・分析にあたって

- ① 回答の比率は、その設問の回答数を基数（N）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- ② 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ③ 有効回答とした中には、子どもの年齢、学年の属性不詳があります。したがって、全体の回答数と属性別の回答数の合計が一致しない場合があります。
- ④ 就学前児童の年齢については次の区分で集計しました。



- ⑤ 選択肢が長いものについては、内容を損なわない範囲内で、要約して表記しているものがあります。
- ⑥ 第4部では、調査項目によっては過去に行った調査と比較分析を行いました。

「平成25年度」とあるのは平成25年度に、「平成30年度」とあるのは平成30年実施した「揖斐川町子ども・子育て支援事業に関わるニーズ調査結果」

「令和5年度」とあるのは今回の調査

第 1 部

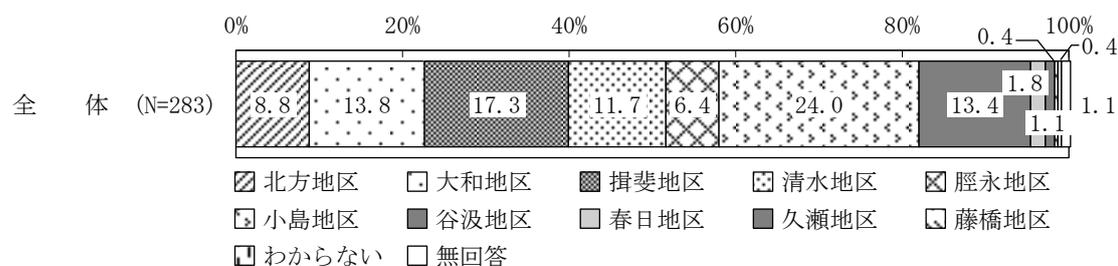
就学前児童保護者調査

1 子どもと家族の状況

(1) 小学校区

住んでいる地区は、「小島地区」が24.0%と最も高く、次いで「揖斐地区」(17.3%)、「大和地区」(13.8%)、「久瀬地区」(13.4%)となっています。

図表1-1 小学校区

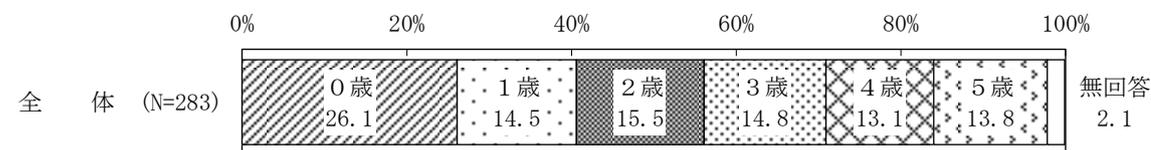


(注)「坂内地区」という選択肢には該当がなかった。

(2) 子どもの年齢

対象となった子どもの年齢は、「0歳」が26.1%と最も高く、これに1歳、2歳を加えた〈3歳未満〉が56.1%を占めています。〈3歳以上〉は41.7%です。

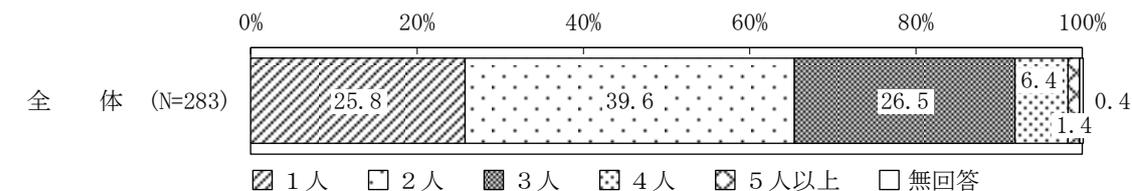
図表1-2 子どもの年齢



(3) 子どもの人数

子どもの人数は、「2人」が39.6%と最も高く、次いで「3人」(26.5%)、「1人」(25.8%)、「4人」(6.4%)、「5人以上」(1.4%)となっています。

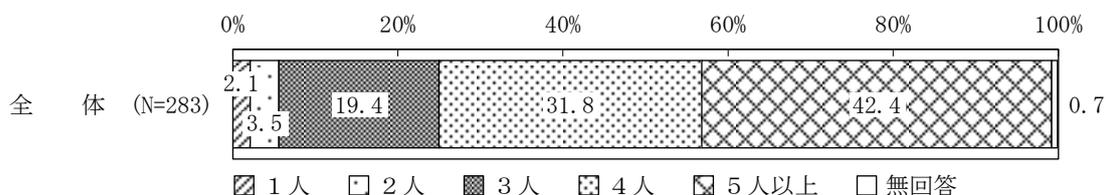
図表1-3 子どもの人数



(4) 子どもと生計をともにしている人数

子どもと生計をともにしている人の数は、「5人以上」が42.4%と最も高く、次いで「4人」(31.8%)、「3人」(19.4%)、「2人」(3.5%)、「1人」(2.1%)となっています。

図表1-4 子どもと生計をともにしている人数



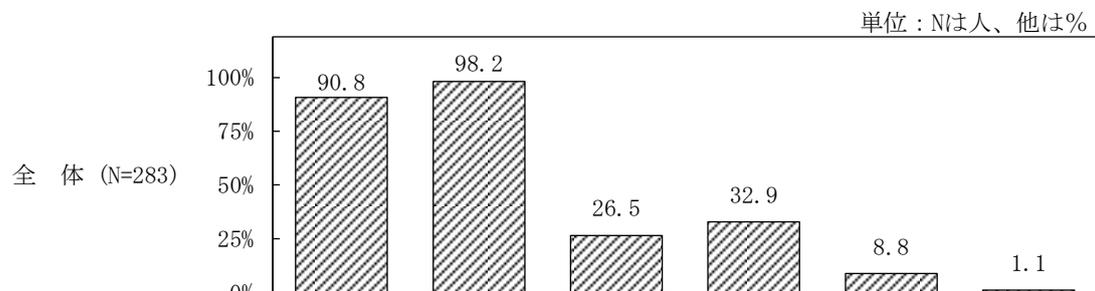
(5) 同居者

子どもの同居者は「母親」及び「父親」が90%以上を占めています。

子どもの年齢別では、3歳以上は3歳未満に比べて「父親」が10ポイント近く低くなっています。

「その他の親族」として、図表1-6の内容が記載されていました。

図表1-5 同居者（複数回答）



区分		N	父親	母親	祖父	祖母	その他の親族等	無回答
年齢	3歳未満	159	95.0	99.4	25.8	31.4	10.1	-
	3歳以上	118	85.6	97.5	28.0	35.6	7.6	1.7

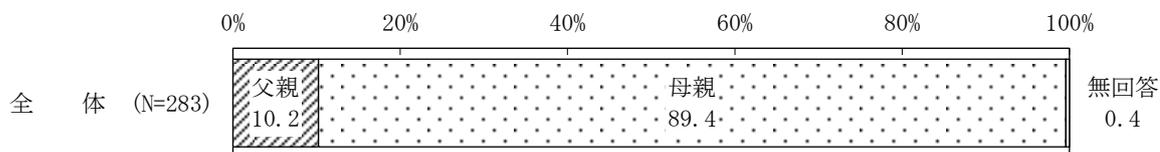
図表1-6 同居者（その他の親族、複数回答）

・曾祖母 (11人)	・曾祖父
・おじ (8人)	・いとこ
・おば (4人)	

(6) 調査票の回答者

調査票の回答者は、「母親」が89.4%を占めています。

図表 1-7 調査票の回答者

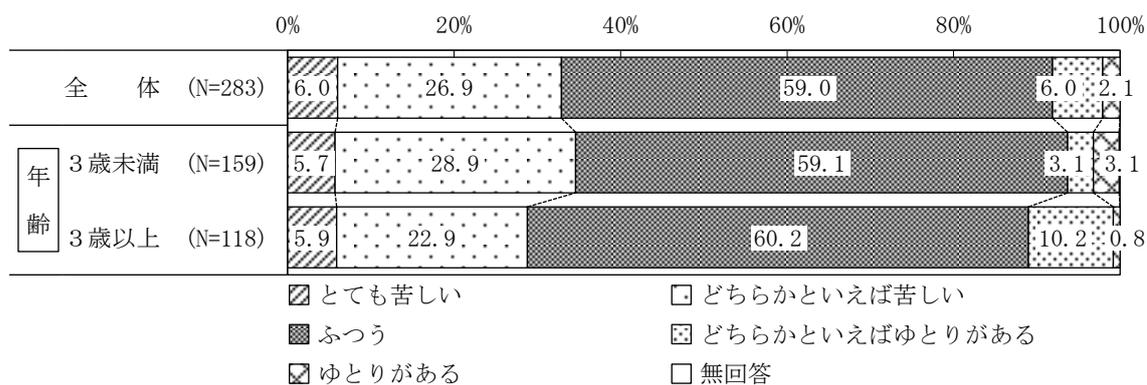


(注)「その他」という選択肢には該当がなかった。

(7) 経済状況

経済的にみた現在の状況は「ふつう」が59.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば苦しい」(26.9%)となっています。「とても苦しい」と「どちらかといえば苦しい」を合計した〈経済的に苦しい〉が32.9%、「どちらかといえばゆとりがある」と「ゆとりがある」を合計した〈経済的にゆとりがある〉が8.1%です。

図表 1-8 経済状況

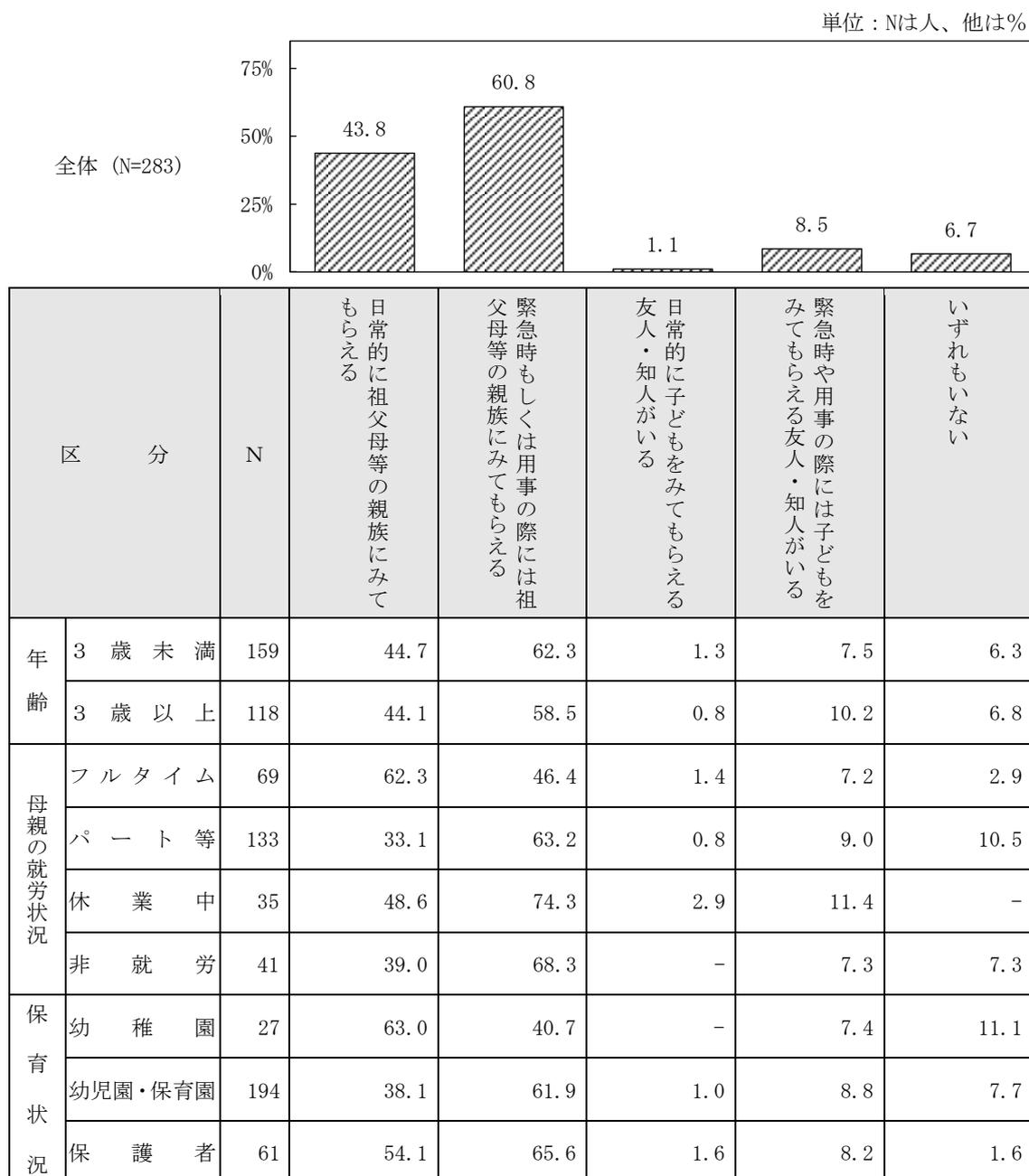


2 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子どもをみてくれる人はいるか

「日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか」という設問では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が60.8%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(43.8%)となっています。「いずれもない」が6.7% (19人) あります。

図表1-9 子どもをみてくれる人がいるか(複数回答)

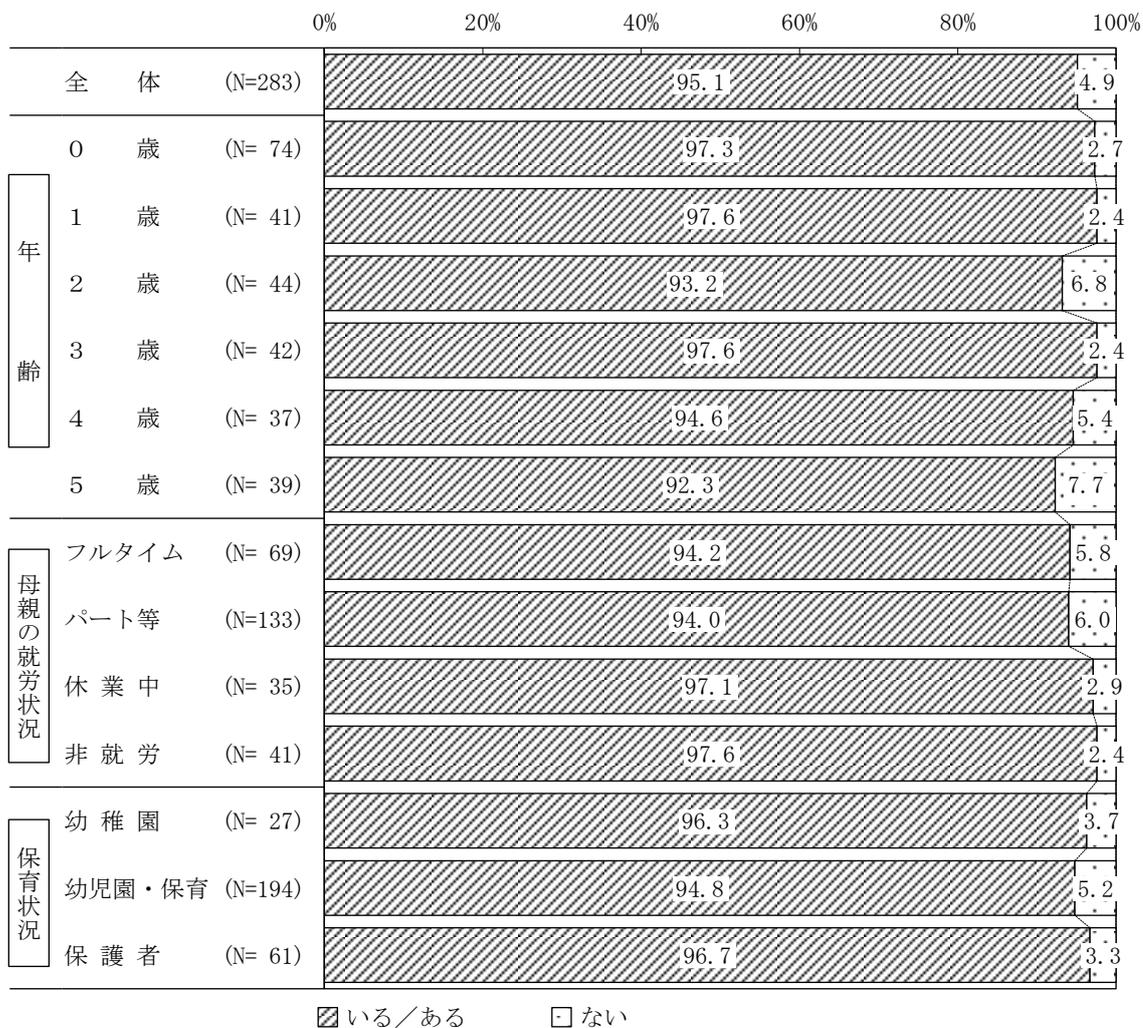


(2) 相談相手

① 子育ての相談相手はいるか

子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人、相談できる場所があるかをたずねたところ、「いる／ある」が95.1%となっています。

図表 1-10 相談相手の有無

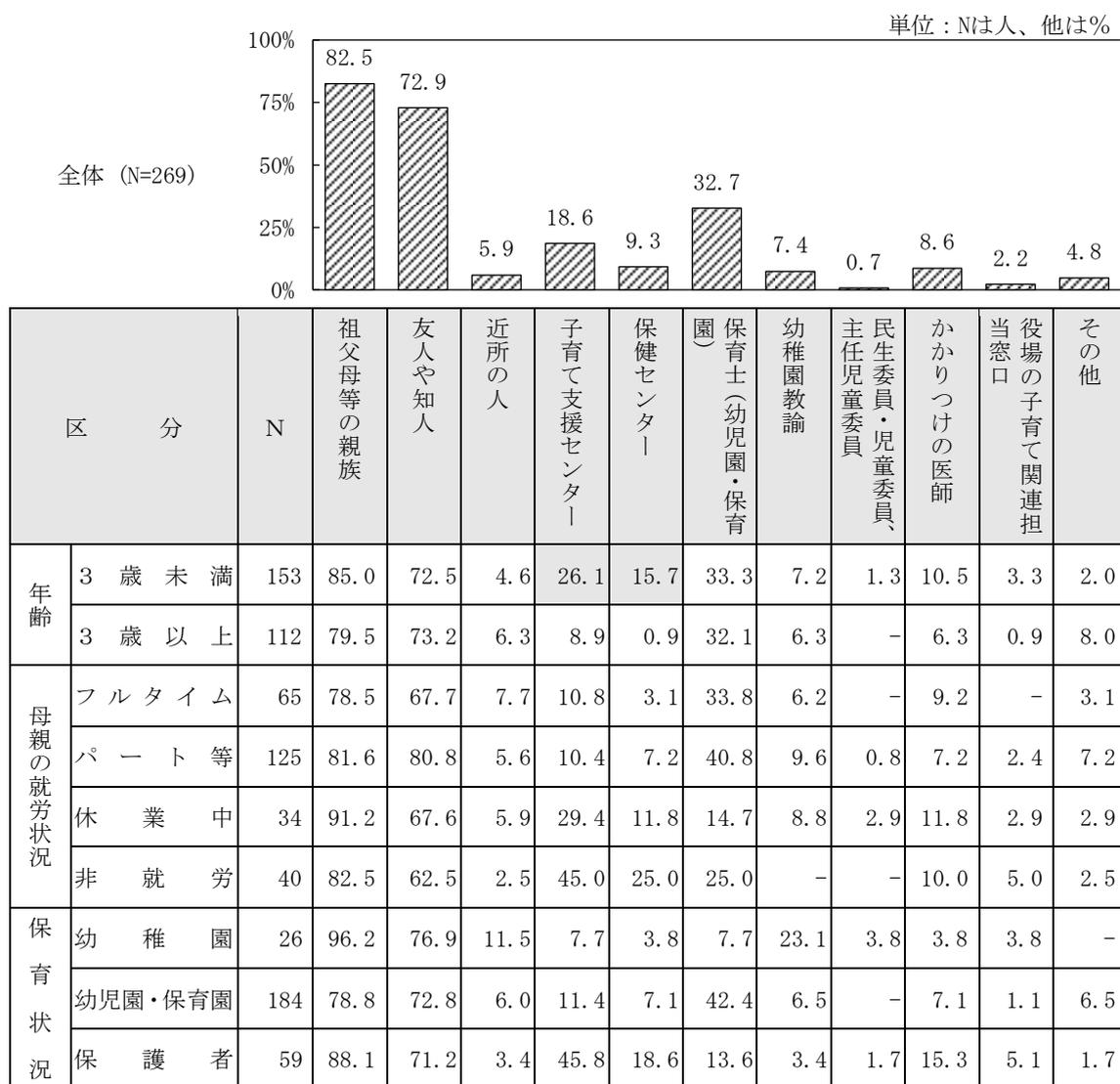


② 相談相手

前問で気軽に相談できる人や場所が「いる／ある」と答えた人に、その相談相手等をたずねところ、「祖父母等の親族」が82.5%と最も高く、次いで「友人や知人」(72.9%)となっています。そのほかでは、「保育士(幼稚園・保育園)」が30%以上の比較的高い割合です。子どもの年齢別では、3歳未満は3歳以上に比べて「子育て支援センター」、「保健センター」が高くなっています。

「その他」として、図表1-12の内容が記載されていました。

図表1-11 相談相手(相談先がある人、複数回答)



図表1-12 相談相手(その他、相談先がある人、複数回答)

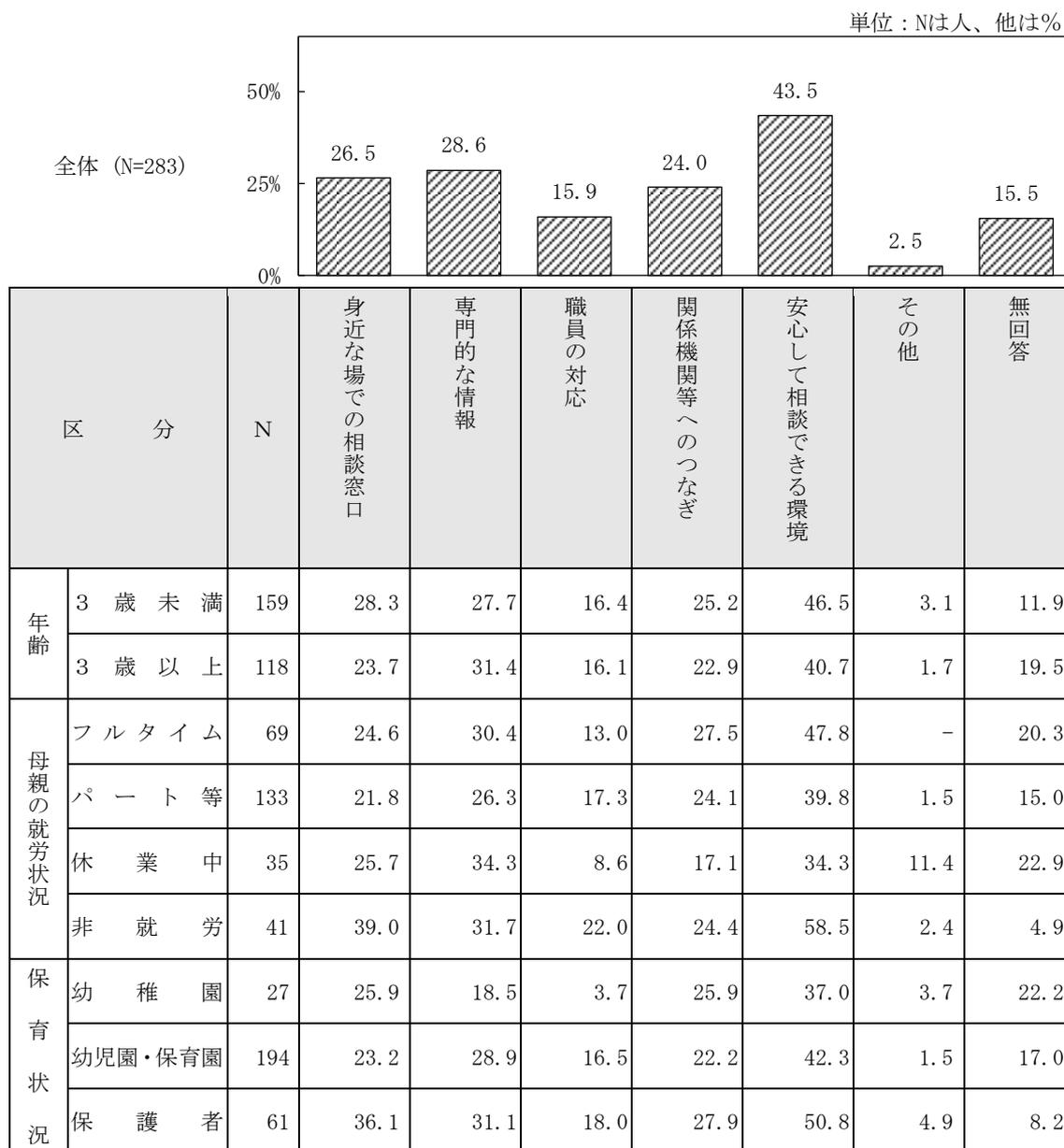
<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業所(3人) ・職場の人(2人) ・母子ケアルーム ・児童相談所 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育施設 ・お世話になっている保育所の先生 ・カウンセラー
---	--

(3) 子育てに関する相談で充実してほしいこと

子育てに関する相談で充実してほしいことは、「安心して相談できる環境」が43.5%と最も高く、次いで「専門的な情報」(28.6%)となっています。

「その他」として、「なし(2人)」、「幼稚園の先生の専門性の向上」という記載がありました。

図表1-13 子育てに関する相談で充実してほしいこと(複数回答)



3 保護者の就労状況等

(1) 母親の就労状況

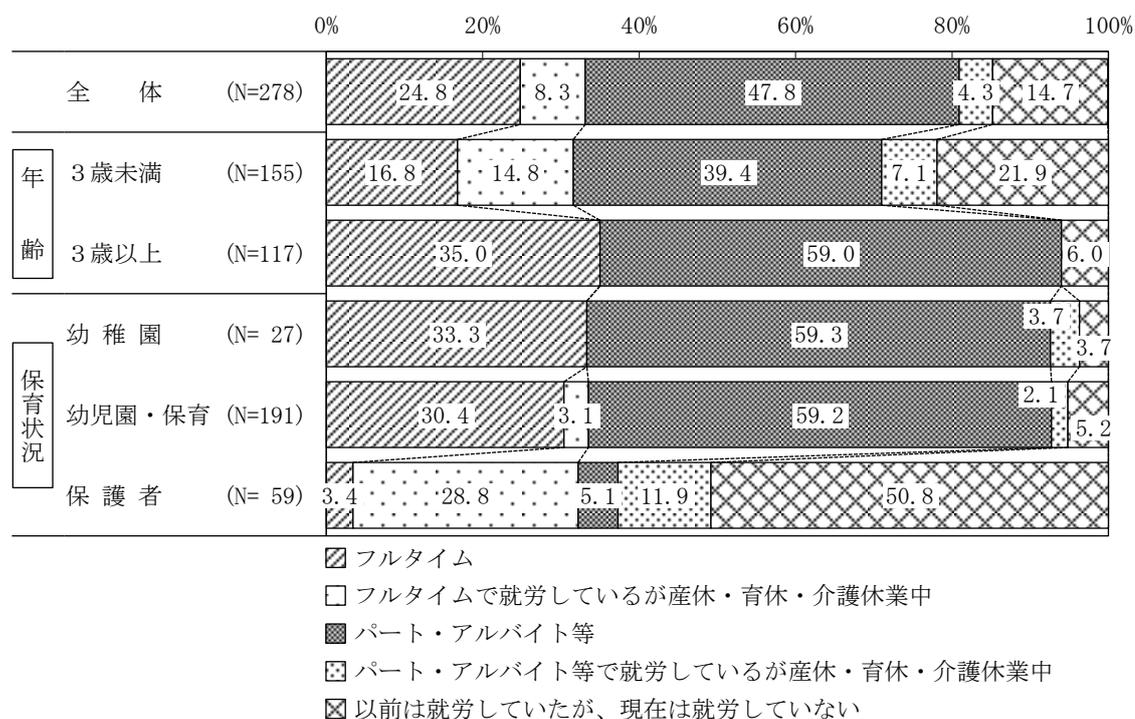
① 母親の就労状況・形態

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」(以下「パート等」といいます)が47.8%と最も高く、次いで「フルタイム」(24.8%)が高くなっています。「産休・育休・介護休業中」は、フルタイムとパート等を合わせると12.6%になります。

子どもの年齢別にみると、3歳未満は「以前は就労していたが、現在は就労していない」が高く、3歳以上は「フルタイム」及び「パート等」が高くなっています。

保育状況別にみると、保育サービス等を利用していない保護者は「以前は就労していたが、現在は就労していない」が過半数を占めています。

図表 1-14 母親の就労状況・形態 (回答者のみ)



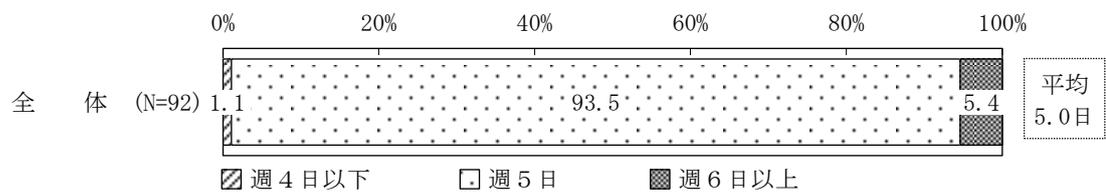
(注) 「これまで就労したことがない」という選択肢には該当がなかった。

② 母親の就労日数と就労時間数

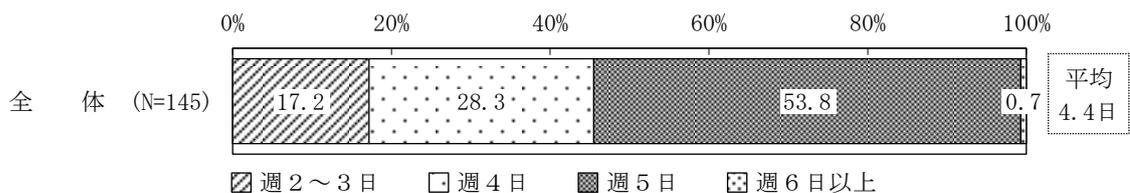
図表1-15、図表1-16は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数（産休・育休・介護休業中の人は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムは、1週当たりの平均就労日数が5.0日、1日当たりの平均就労時間数が8.0時間であり、パート等は、1週当たりの平均就労日数が4.4日、1日当たりの平均就労時間数が5.7時間となっています。

図表1-15 母親の1週間当たり就労日数（就労している母親）

【フルタイム（休業中を含む）】

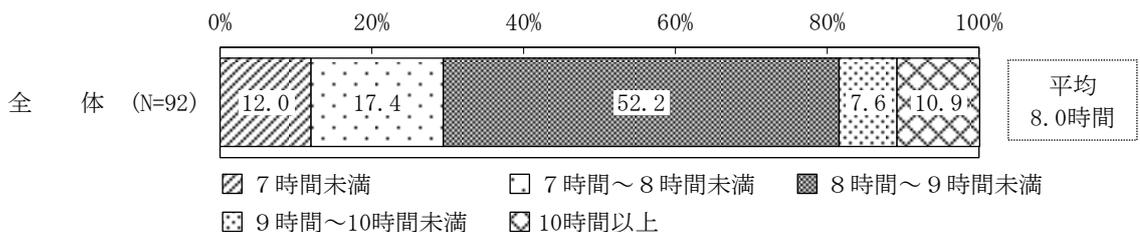


【パート等（休業中を含む）】

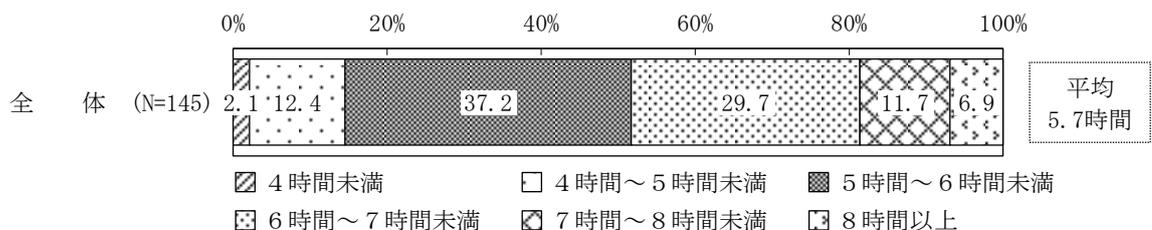


図表1-16 母親の1日当たり就労時間数（就労している母親）

【フルタイム（休業中を含む）】



【パート等（休業中を含む）】

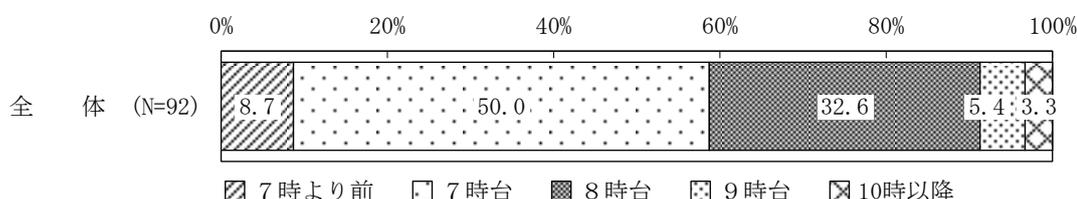


③ 母親の家を出る時刻と帰宅時刻

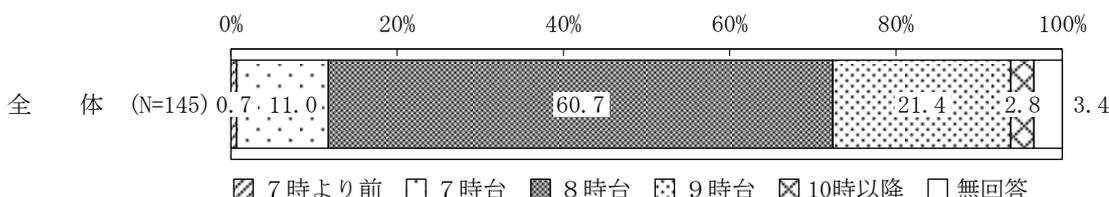
図表1-17、図表1-18は、①で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻（産休・育休・介護休業中の方は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムは、家を出る時刻が「7時台」（50.0%）と「8時台」（32.6%）で大半を占めており、帰宅時刻は「18時台」（37.0%）が最も高くなっています。パート等は、家を出る時刻は「8時台」（60.7%）が高く、帰宅時刻は「16時台」（33.1%）が最も高くなっています。

図表1-17 母親の家を出る時刻（就労している母親）

【フルタイム（休業中を含む）】

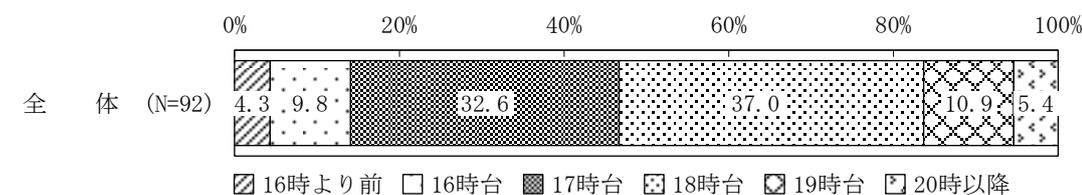


【パート等（休業中を含む）】

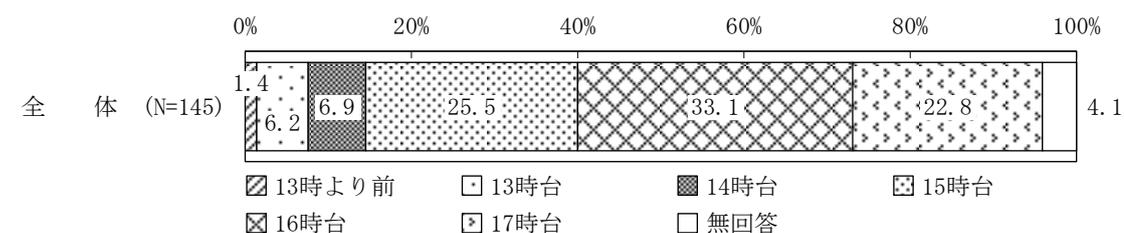


図表1-18 母親の帰宅時刻（就労している母親）

【フルタイム（休業中を含む）】



【パート等（休業中を含む）】

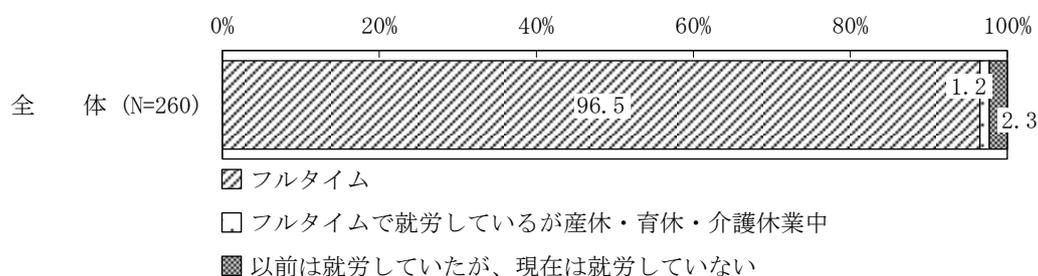


(2) 父親の就労状況

① 父親の就労状況・形態

父親の96.5%が「フルタイム」で働いていると答えています。

図表1-19 父親の就労状況・形態（回答者のみ）



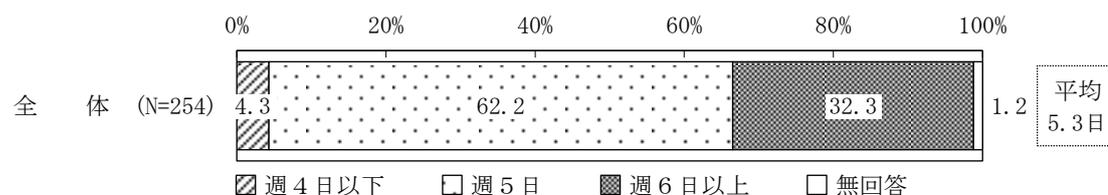
(注) 「パート・アルバイト等」、「パート・アルバイト等で就労しているが産休・育休・介護休業中」、「これまで就労したことがない」という選択肢には該当がなかった。

② 父親の就労日数と就労時間数

図表1-20、図表1-21は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数をたずねた結果です。「フルタイム」で働いている人の1週当たりの平均就労日数は5.3日、1日当たりの平均就労時間数は9.5時間です。

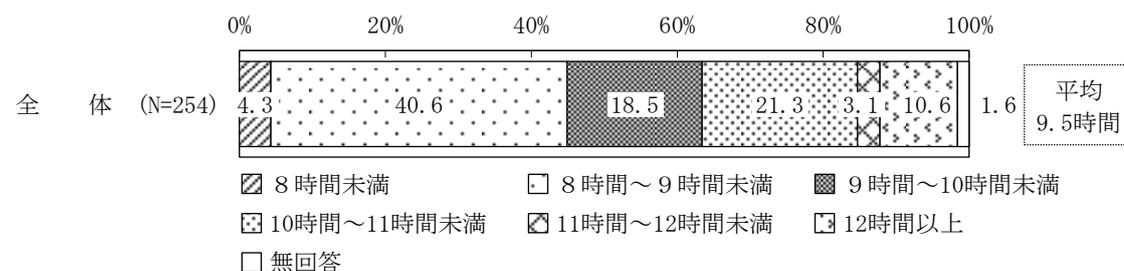
図表1-20 父親の1週間当たり就労日数（就労している父親）

【フルタイム（休業中を含む）】



図表1-21 父親の1日当たり就労時間数（就労している父親）

【フルタイム（休業中を含む）】

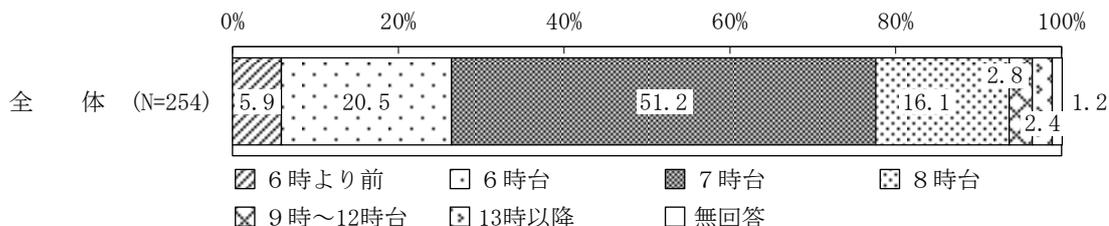


③ 父親の家を出る時刻と帰宅時刻

図表1-22、図表1-23は、①で「フルタイム」で働いていると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻をたずねた結果です。家を出る時刻は「7時台」が最も高く、帰宅時刻は「18時台」及び「19時台」が20%台となっています。

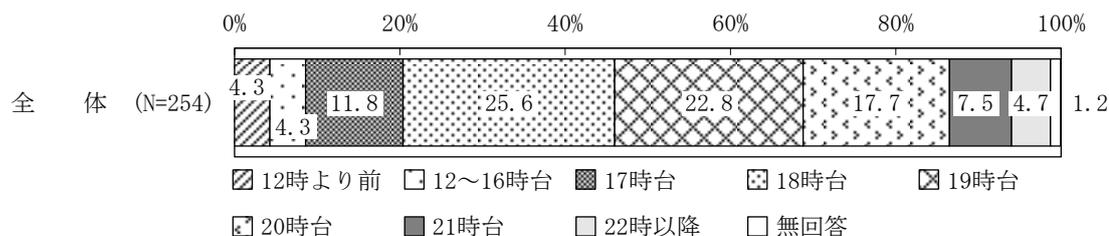
図表1-22 父親の家を出る時刻（就労している父親）

【フルタイム（休業中を含む）】



図表1-23 父親の帰宅時刻（就労している父親）

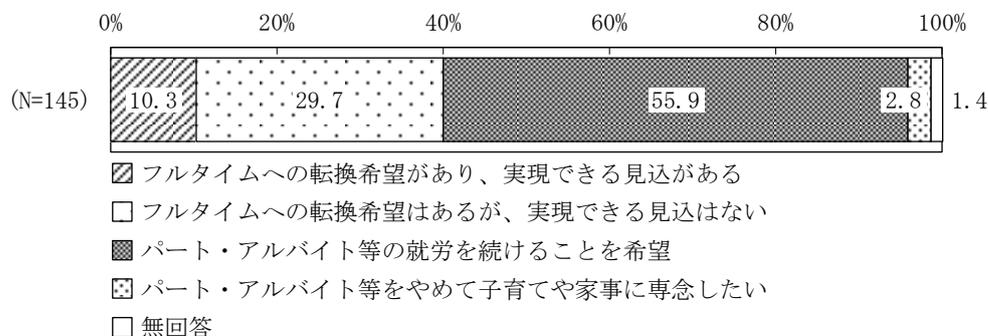
【フルタイム（休業中を含む）】



(3) フルタイムへの転換希望

パート等と答えた145人の母親のフルタイムへの転換の「希望がある」は40.0%ですが、29.7%は「実現できる見込みはない」としています。

図表1-24 母親のフルタイムへの転換希望（パート等で働いている母親）

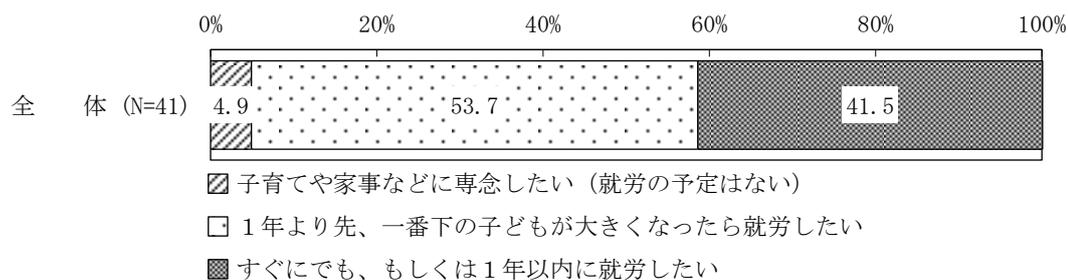


(4) 働いていない母親の就労意向

① 働いていない母親の就労意向

現在、仕事をしていない41人の母親の就労意向は、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」が53.7%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が41.5%となっています。

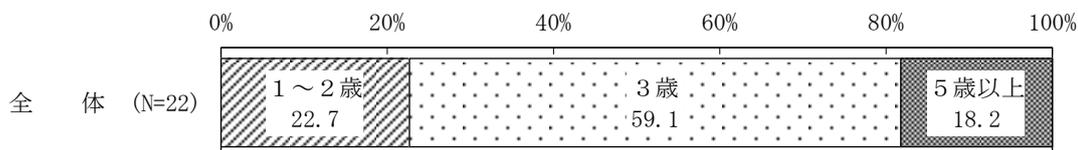
図表1-25 働いていない母親の就労意向（非就労の母親）



② 子どもが何歳になったら就労したいか

①で「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と答えた22人の母親に、子どもが何歳になったら就労したいかたずねたところ、「3歳」が59.1%（13人）となっています。

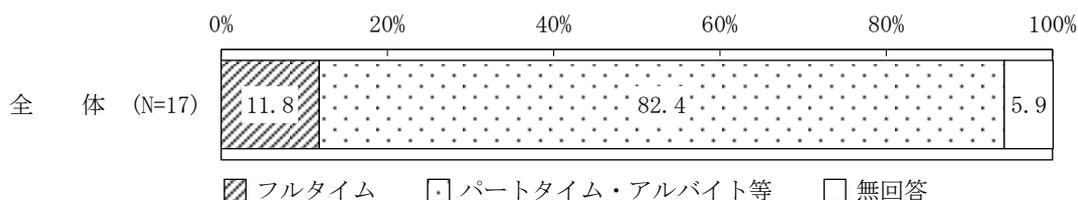
図表1-26 子どもが何歳になったら就労したいか（子どもが大きくなったら就労したい母親）



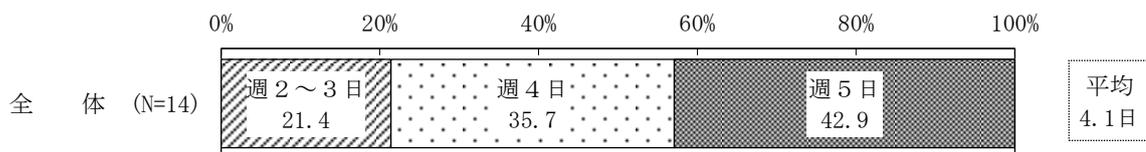
③ 希望する就労形態・日数・時間

①で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた17人の母親の希望する就労形態は、82.4% (14人) が「パートタイム・アルバイト等」です (図表1-27)。また、パート等と答えた14人の1週間当たりの平均就労希望日数は4.1日 (図表1-28)、1日当たりの平均就労希望時間数は5.1時間となっています (図表1-29)。

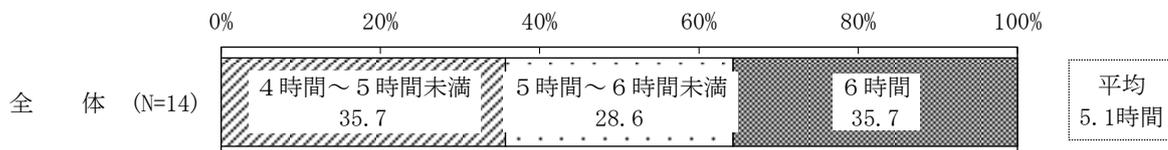
図表1-27 母親の就労希望形態 (すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい母親)



図表1-28 パート等の就労希望日数 (パート等で就労したい母親)



図表1-29 パート等の就労希望時間数 (パート等で就労したい母親)



(5) 働いていない父親の就労意向

① 働いていない父親の就労意向

現在、仕事をしていない6人の父親の就労意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が4人、「子育てや家事などに専念したい (就労の予定はない)」が1人となっています。

図表1-30 働いていない父親の就労意向 (非就労の父親)

単位：人

区分	子育てや家事などに専念したい (就労の予定はない)	すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	無回答
全体 (N=6)	1	4	1

(注) 「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」という選択肢には該当がなかった。

② 希望する就労形態・日数・時間

①で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた4人の父親の希望する就労形態は、全員が「フルタイム」です。

図表1-31 父親の就労希望形態（すぐにでも、もしくは1年以内に就労した父親） 単位：人

区 分	フルタイム
全 体 (N=4)	4

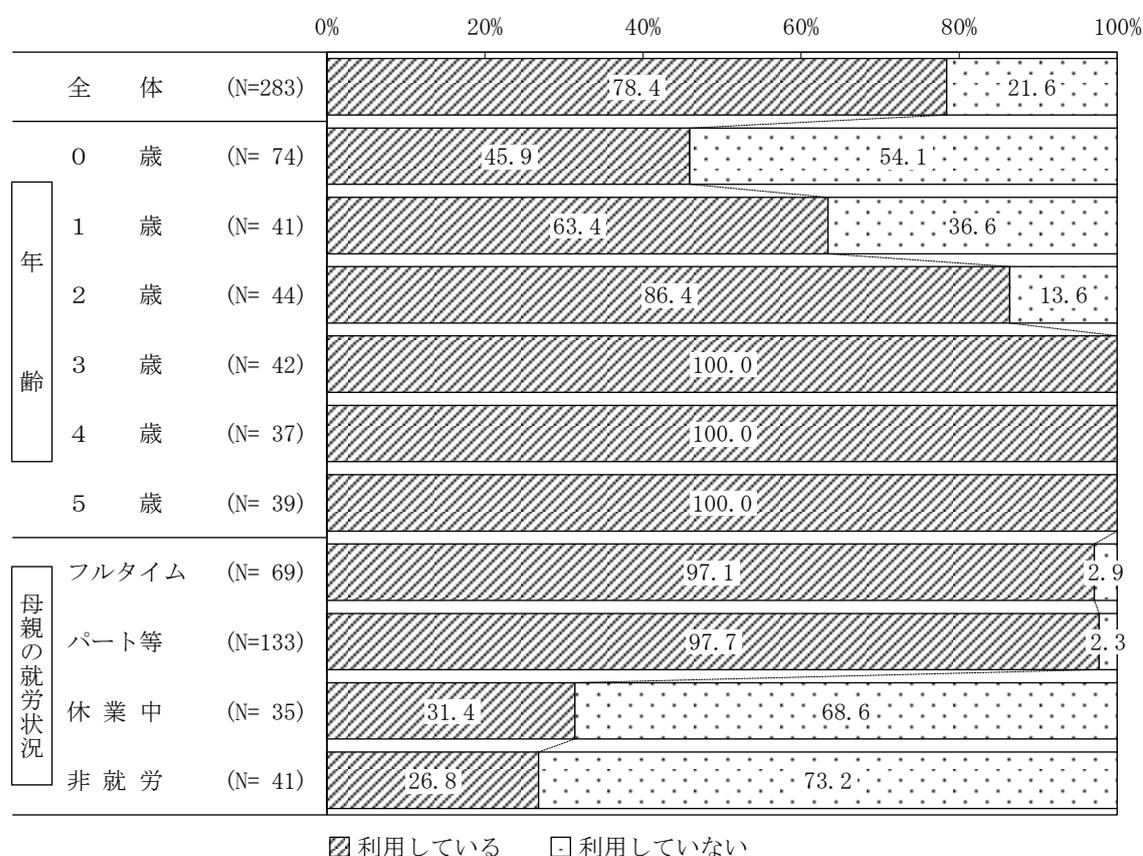
(注)「パートタイム・アルバイト等」という選択肢には該当がなかった。

4 平日の定期的な教育・保育事業

(1) 定期的な教育・保育事業の利用の有無

「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的にご利用しているサービスをいい、幼稚園、幼児園・保育園、事業所内保育施設などが該当します。定期的な教育・保育事業は、調査対象である子どもの78.4%が利用しており、子どもの年齢別では、3歳以上は全員が利用しています。母親の就労状況別にみると、フルタイムは97.1%、パート等は97.7%となっています。

図表1-32 定期的な教育・保育事業の利用の有無

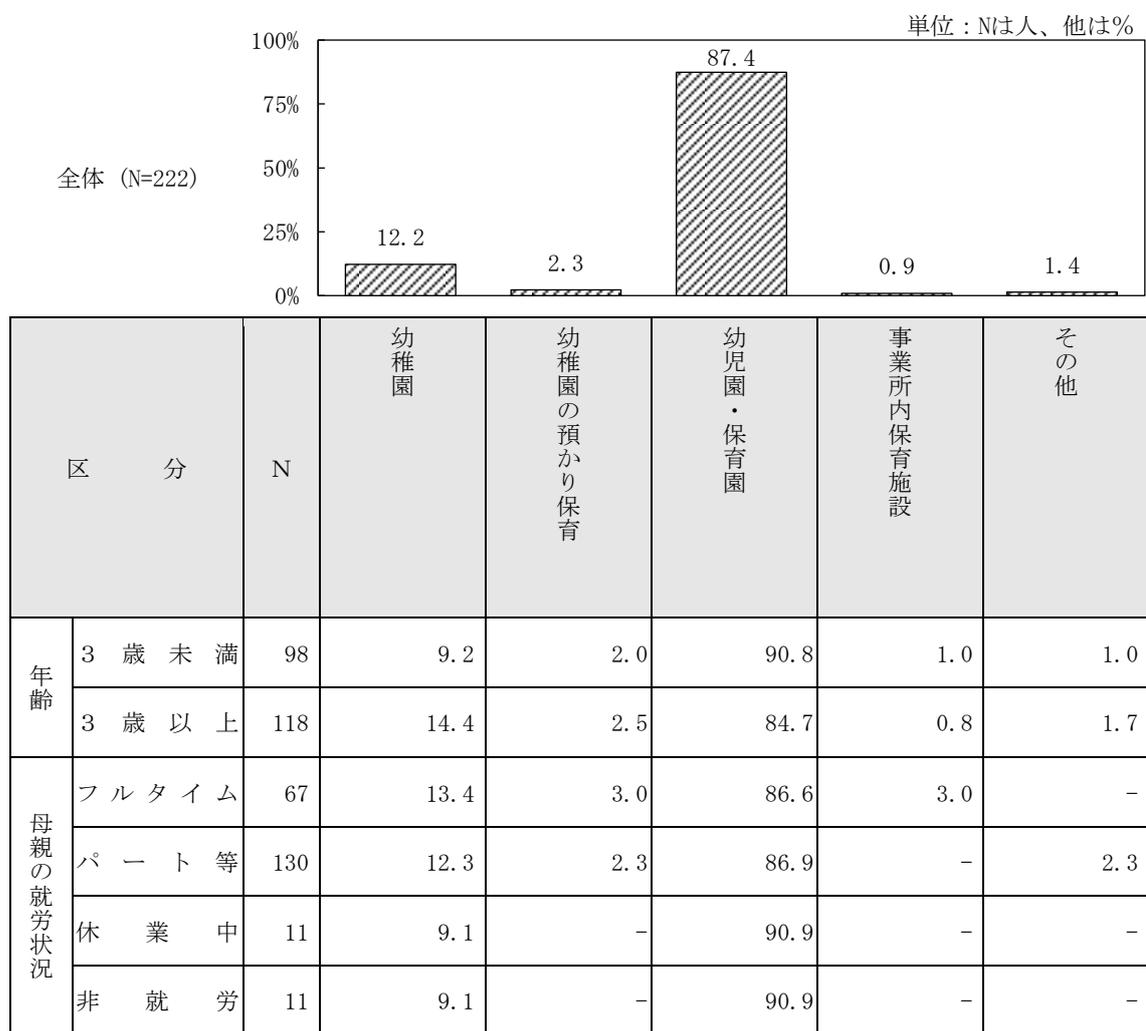


(2) 利用している定期的な教育・保育事業の種類

利用している定期的な教育・保育事業の種類は、「幼稚園・保育園」が87.4%と最も高く、次いで「幼稚園」（12.2%）、「幼稚園の預かり保育」（2.3%）となっています。全体の合計が104.2%となっているので、わずかですが複数のサービスを利用していると答えた人がいます。

「その他」として、「児童発達支援施設（2人）」、「こども園」という記載がありました。

図表 1-33 利用している定期的な教育・保育事業（定期的な教育・保育事業を利用している人、複数回答）



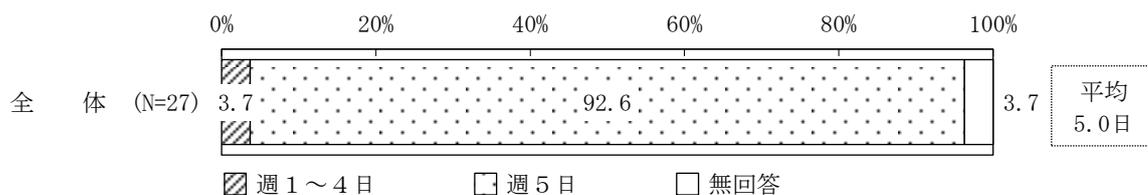
(3) 定期的な教育・保育事業の利用状況

① 幼稚園

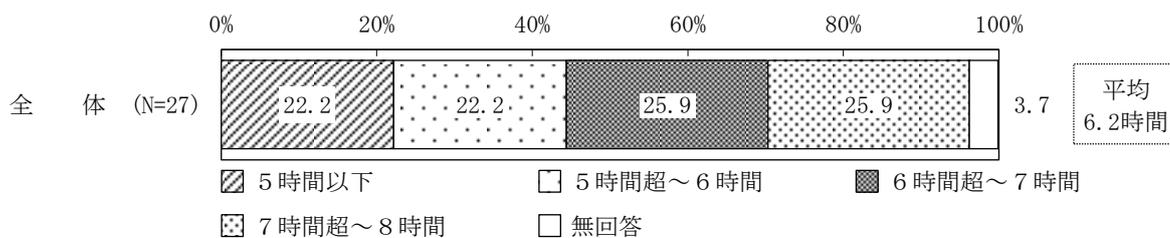
幼稚園を利用している子どもの1週間の利用日数は「5日」が92.6%を占めています。1日の当たり平均利用時間数は6.2時間です(図表1-34)。また、利用時間帯は、9時台前半から14時台が高くなっています(図表1-35)。

図表1-34 幼稚園の利用日数・利用時間(幼稚園を利用している人)

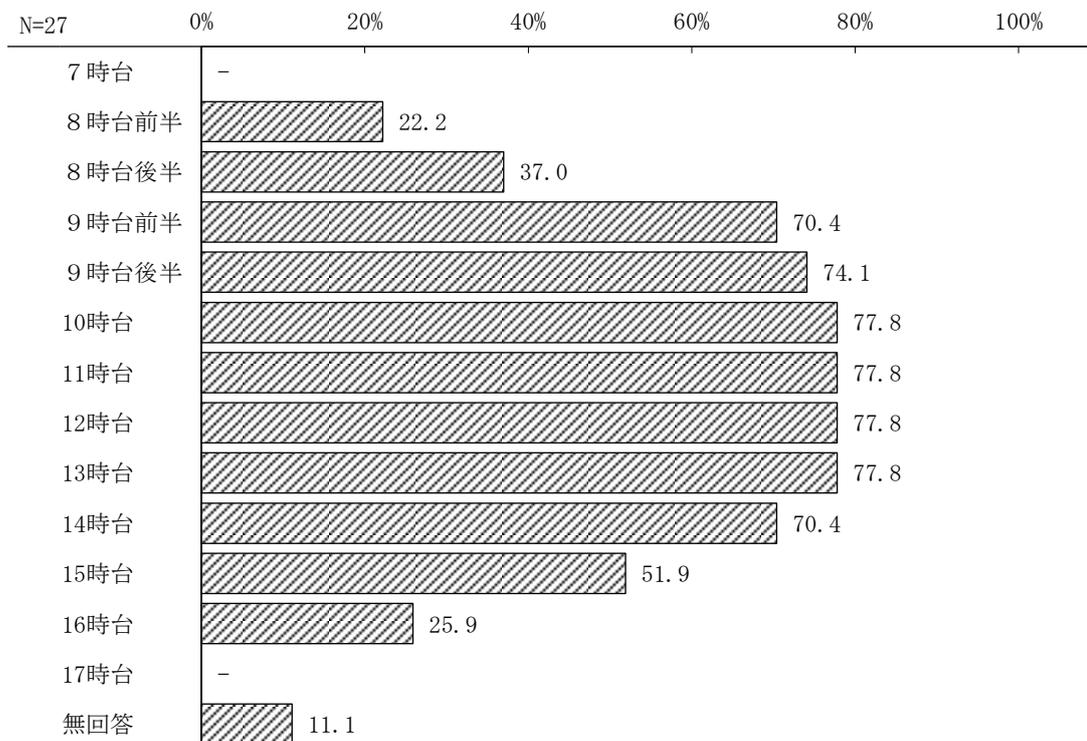
【1週間の利用日数】



【1日の利用時間数】



図表1-35 幼稚園の利用時間帯(幼稚園を利用している人)

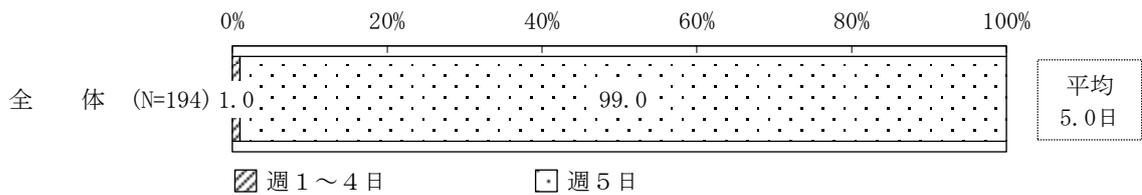


② 幼稚園・保育園

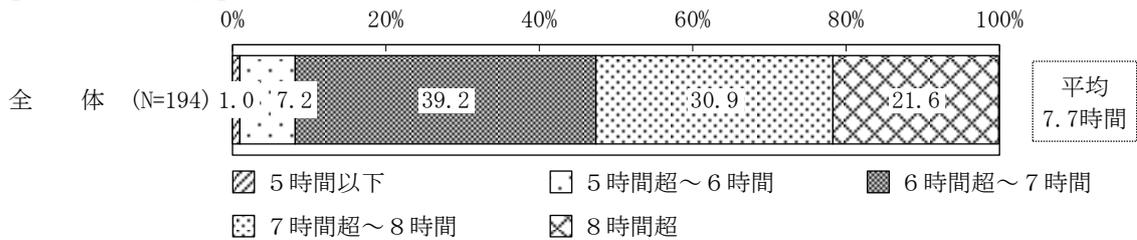
幼稚園・保育園を利用している子どもの1週間の利用日数は、「5日」が99.0%を占めています。1日の利用時間数は「6時間超～7時間」が39.2%と最も高く、次いで「7時間超～8時間」（30.9%）となっており、両方で70.0%を占めています。1日当たり平均利用時間数は7.7時間となっています（図表1-36）。また、利用時間帯は、9時台前半から15時台が高くなっています（図表1-37）。

図表1-36 幼稚園・保育園の利用日数・利用時間数（幼稚園・保育園を利用している人）

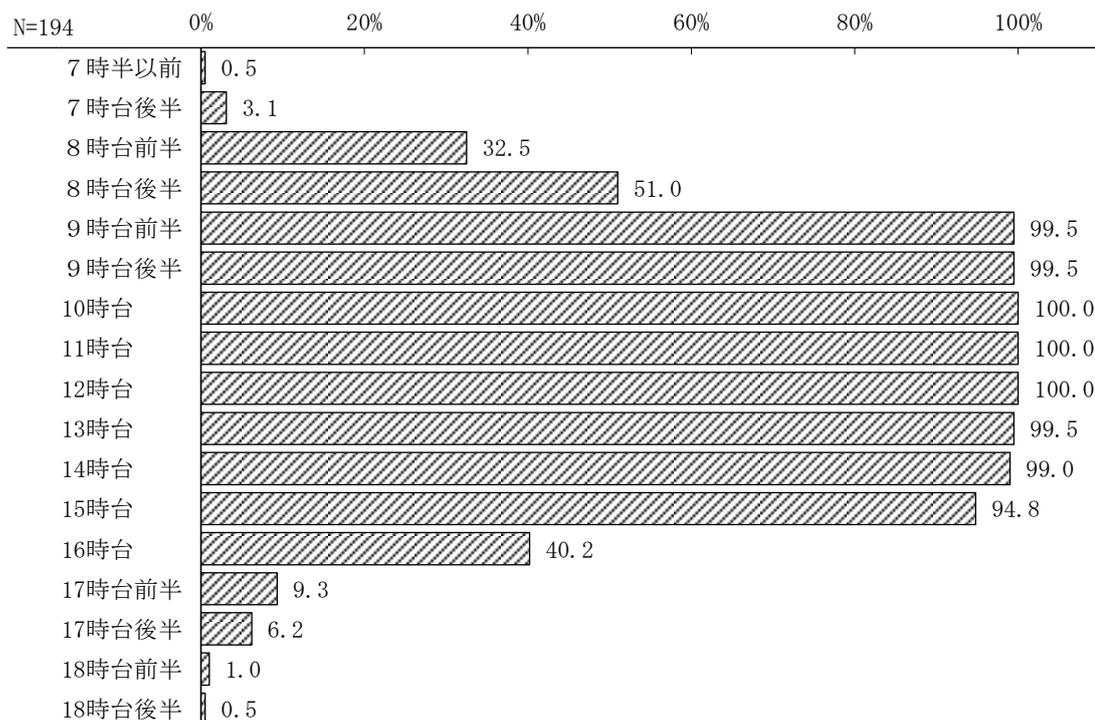
【1週間の利用日数】



【1日の利用時間数】



図表1-37 幼稚園・保育園の利用時間帯（幼稚園・保育園を利用している人）



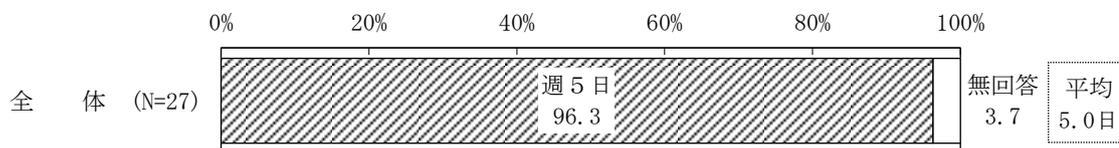
(4) 定期的な教育・保育事業の利用希望日数・時間

① 幼稚園

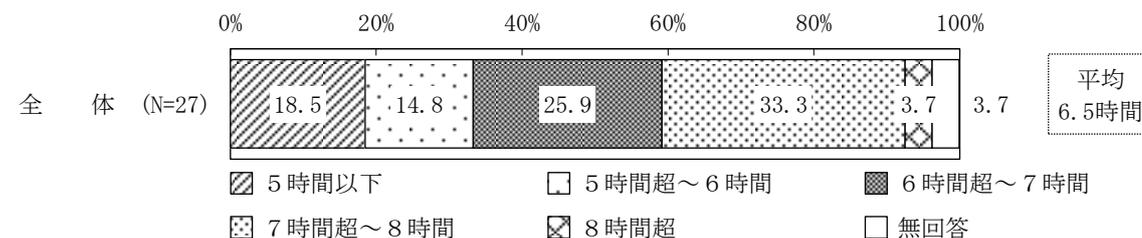
幼稚園を利用している子どもの1週間の利用希望日数は、利用状況と同じく、ほぼ全員が「週5日」です。1日の利用希望時間は「7時間超～8時間」が33.3%と最も高くなっており、利用状況の25.9%を7.4ポイント上回っています。1日当たり平均利用希望時間数は6.5時間となっており、利用状況の6.2時間を0.3時間上回っています（図表1-38）。また、利用希望時間帯は、利用状況に比べて15時台、16時台が高くなっています（図表1-39）。

図表1-38 幼稚園の利用希望日数・希望時間数（幼稚園を利用している人）

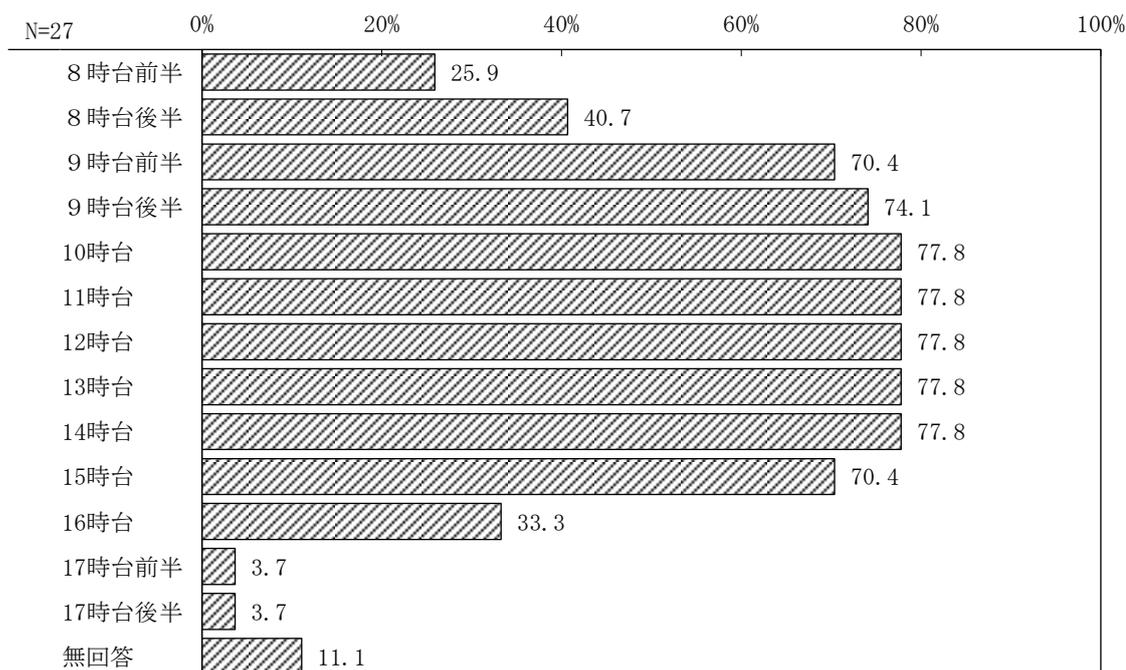
【1週間の利用希望日数】



【1日の利用希望時間数】



図表1-39 幼稚園の利用希望時間帯（幼稚園を利用している人）

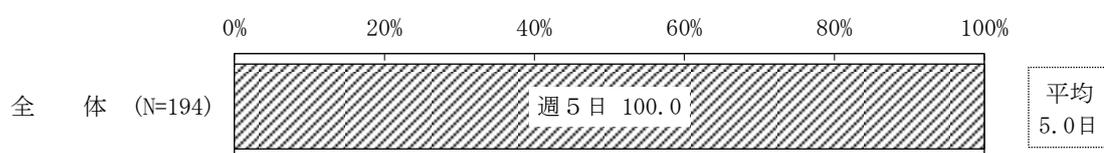


② 幼稚園・保育園

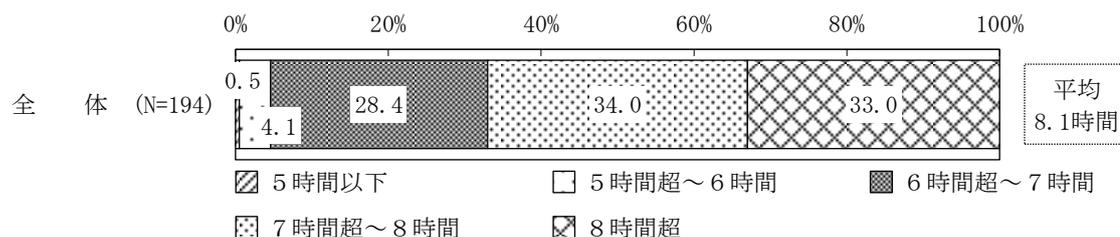
幼稚園・保育園を利用している子どもの1週間の利用希望日数は、全員が「週5日」です。1日の利用希望時間数は「7時間超～8時間」(34.0%)が最も高く、次いで「8時間超」(33.0%)となっており、両方で67.0%を占めています。1日当たり平均利用希望時間数は8.1時間で、利用状況より0.4時間長くなっています(図表1-40)。また、利用希望時間帯は、利用状況に比べて8時台前半、16時台、17時台が15ポイント前後高くなっています(図表1-41)。

図表1-40 幼稚園・保育園の利用希望日数・希望時間数(幼稚園・保育園を利用している人)

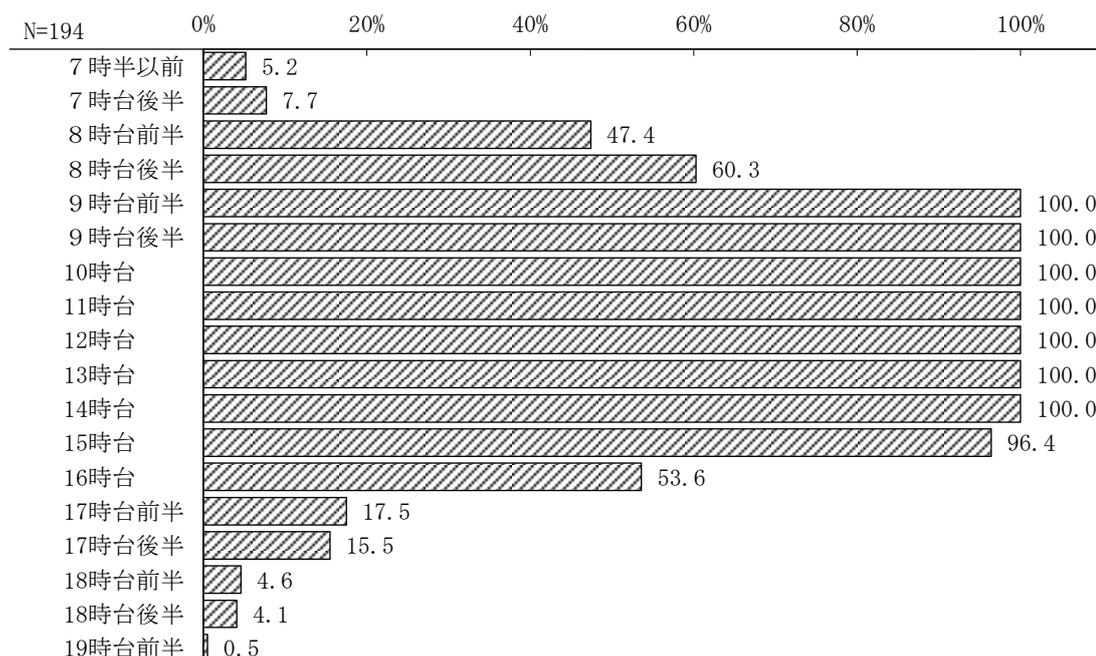
【1週間の利用希望日数】



【1日の利用希望時間数】



図表1-41 幼稚園・保育園の利用希望時間帯(幼稚園・保育園を利用している人)

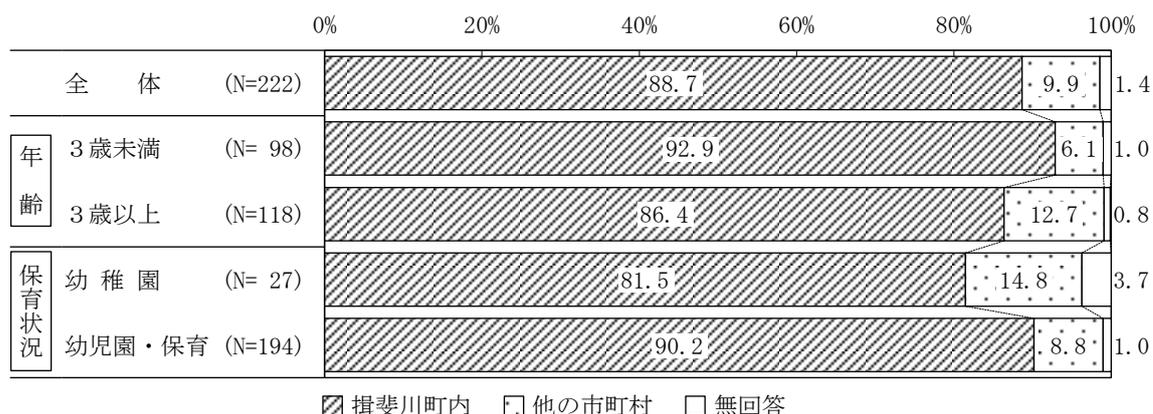


(5) 現在、利用している教育・保育事業の実施場所

現在、利用している教育・保育事業の実施場所としては「揖斐川町内」が88.7%、「他の市町村」が9.9%という結果です。保育状況別にみると、幼稚園・保育園は幼稚園に比べて「揖斐川町内」が高くなっています。

「他の市町村」として、「池田町（17人）」、「大野町（2人）」、「岐阜市」、「大垣市」が記載されていました。

図表 1-42 現在、利用している教育・保育事業の実施場所（定期的な教育・保育事業を利用している人）



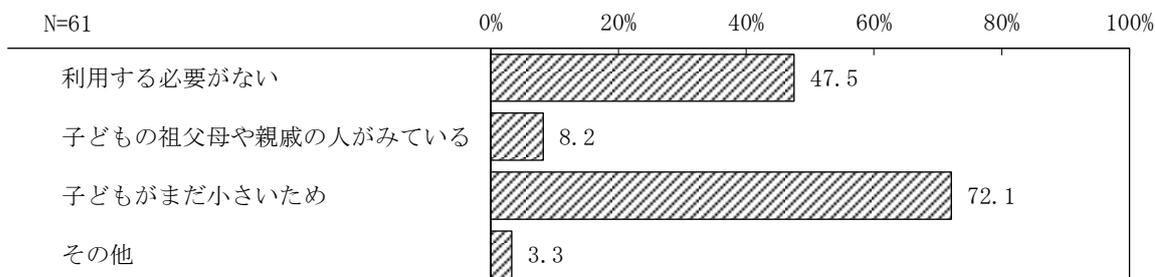
(6) 定期的な教育・保育事業を利用していない理由

定期的な教育・保育事業を利用していない理由としては、「子どもがまだ小さいため」(72.1%)が最も高く、次いで「利用する必要がない」(47.5%)となっています(図表 1-43)。

「その他」として「育休中のため(2人)」が記載されていました。

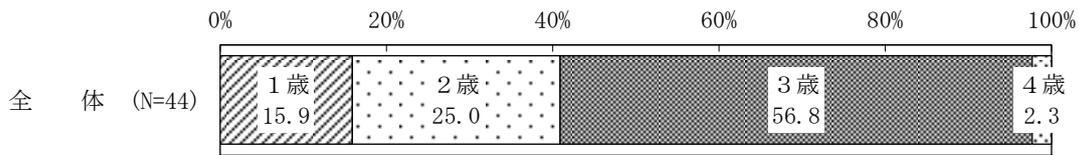
「子どもがまだ小さいため」と答えた人は、定期的な教育・保育事業を子どもが3歳ぐらいになったら利用したいと考えている人が高くなっています(図表 1-44)。

図表 1-43 定期的な教育・保育事業を利用していない理由（定期的な教育・保育事業を利用していない人、複数回答）



(注)「近所の人や父母の友人・知人がみている」、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」、「利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない」、「利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない」という選択肢には該当がなかった。

図表1-44 定期的な教育・保育事業を子どもが何歳ぐらいになったら利用したいか（「子どもがまだ小さいため」と答えた人）

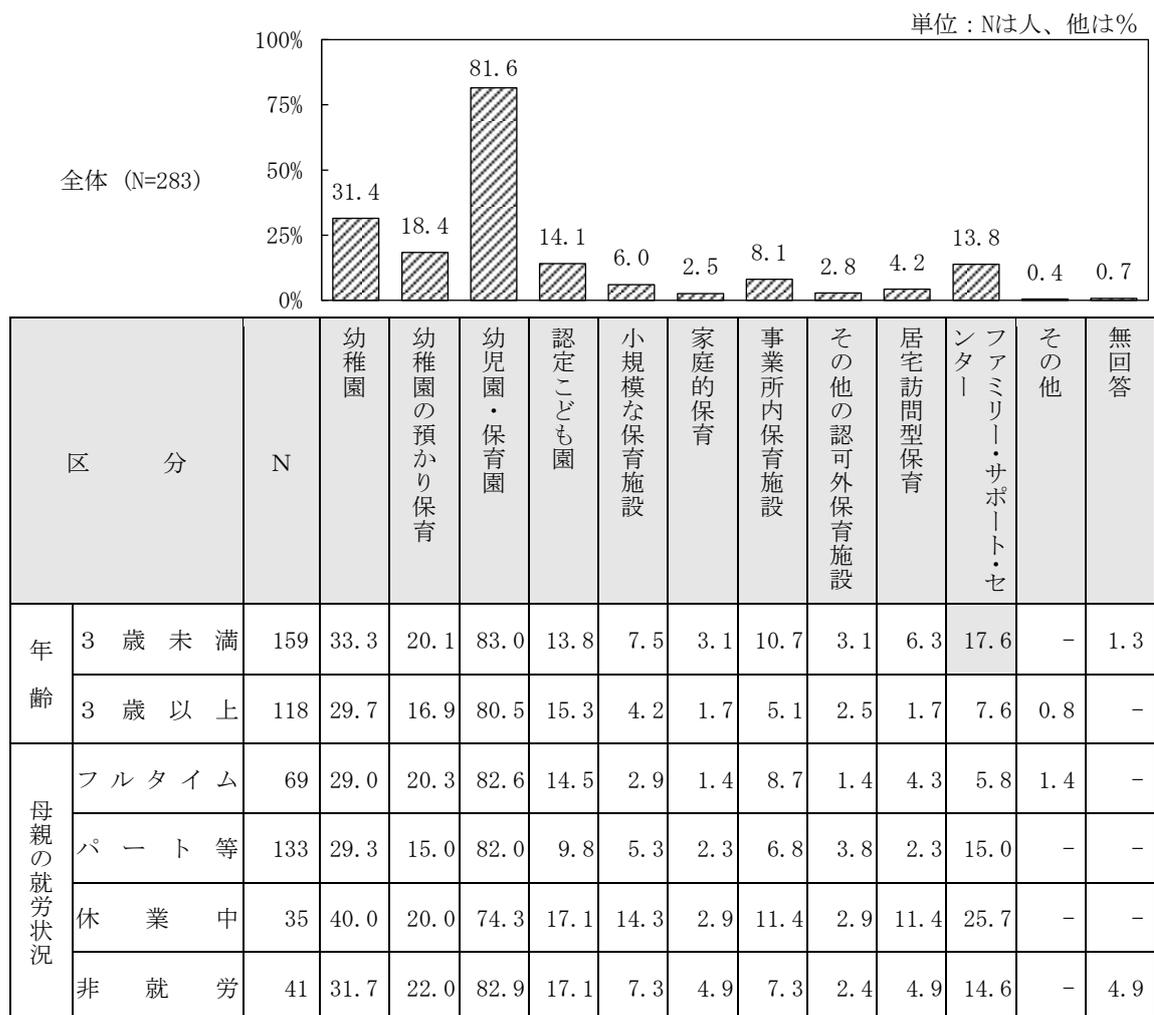


(7) 利用したい定期的な教育・保育事業

現在、利用している、利用していないにかかわらず、平日の教育・保育事業として、定期的に利用したい事業は、「幼稚園・保育園」(81.6%)が最も高く、次いで「幼稚園」(31.4%)、「幼稚園の預かり保育」(18.4%)などとなっています。子どもの年齢別にみると、3歳未満は3歳以上に比べて「ファミリー・サポート・センター」が10.0ポイント高くなっています。

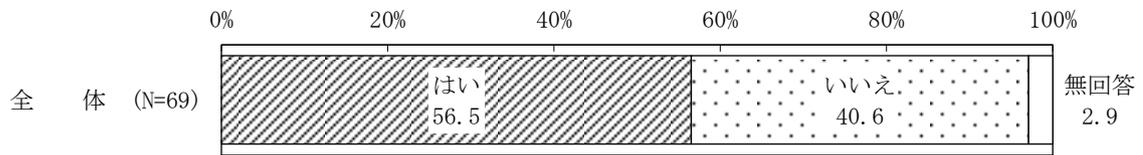
「その他」として、「無償で希望時間であれば、どんな形でも」が記載されていました。

図表1-45 利用したい定期的な教育・保育事業（複数回答）



幼稚園利用について、正確にニーズを把握することを目的として、「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」の利用を希望し、かつそのほかサービスも希望した人に、特に幼稚園の利用を強く希望するかたずねたところ、56.5%が「はい」と回答しています。

図表 1-46 幼稚園の利用を強く希望するか

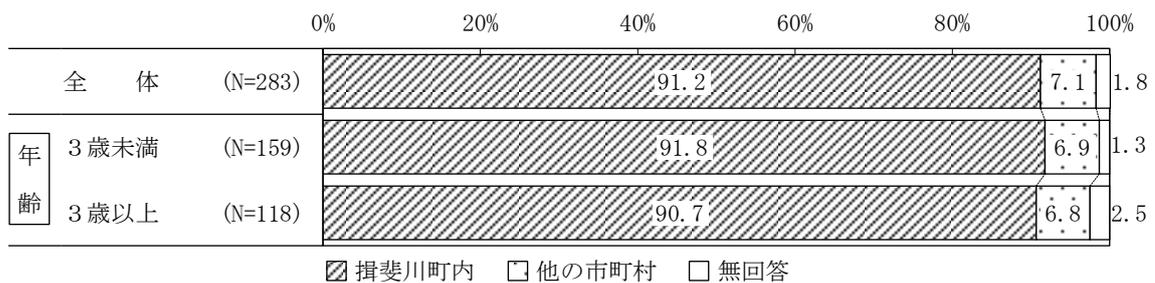


(8) 教育・保育事業を利用したい場所

教育・保育事業を利用したい場所としては、「揖斐川町内」が91.2%、「他の市町村」が7.1%という結果です。

町外の利用したい場所としては、図表 1-48の内容が記載されていました。

図表 1-47 教育・保育事業を利用したい場所



図表 1-48 揖斐川町外で教育・保育事業を利用したい場所

<ul style="list-style-type: none"> ・池田町 (6人) ・大野町 (3人) ・岐阜市 (2人) ・大垣市 (2人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本巣市 ・職場の近くで無償にしてほしい ・近くて便利ならどこでも ・自宅近く
--	--

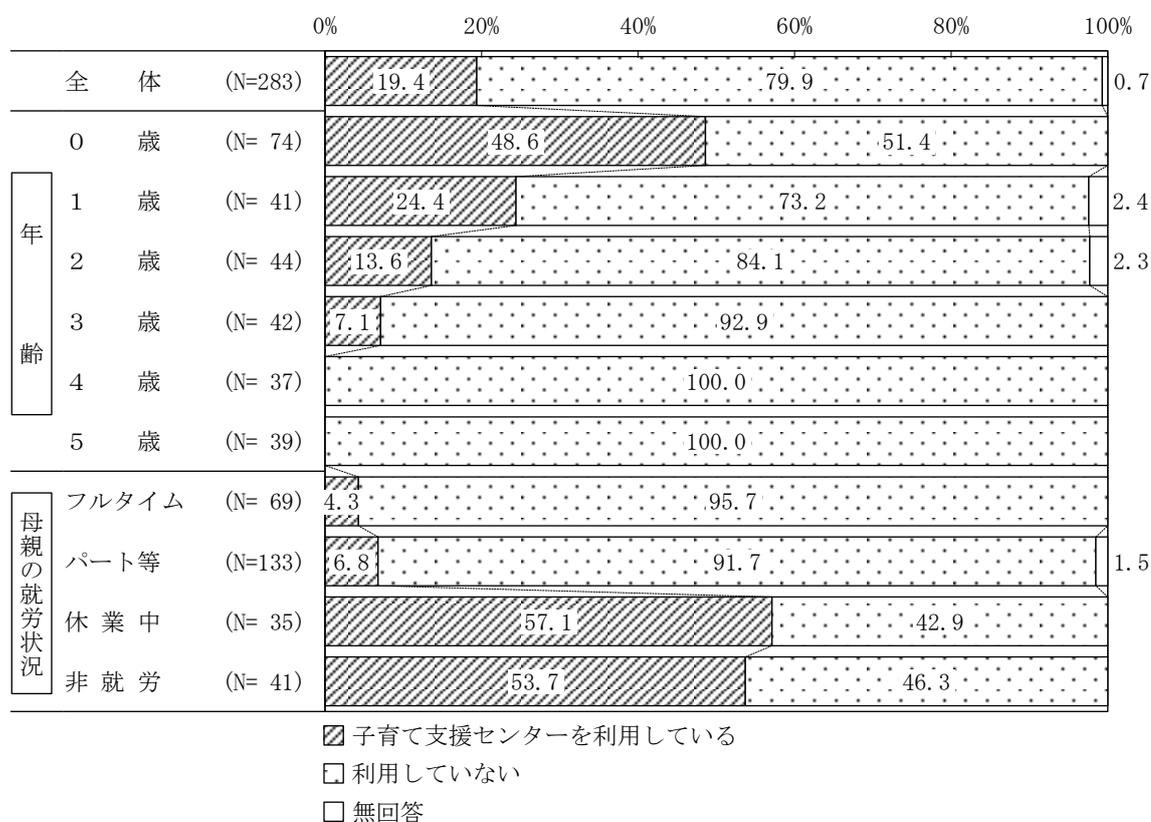
5 子育て支援センター

(1) 子育て支援センターの利用状況

① 子育て支援センターの利用状況

子育て支援センター（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場）の利用状況をたずねた結果が図表1-49です。年齢別にみると、0歳は「子育て支援センターを利用している」が48.6%と高くなっています。母親の就労状況別では、フルタイムやパート等に比べて、休業中や非就労の利用が高くなっています。

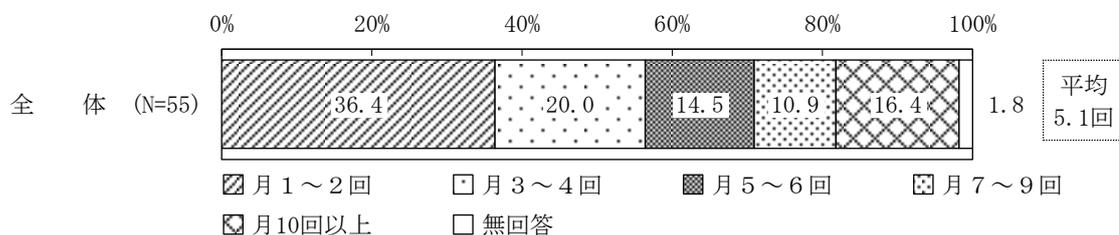
図表1-49 地域子育て支援拠点事業の利用状況



② 子育て支援センターの利用回数

子育て支援センターの利用回数は、「月1～2回」が36.4%と最も高くなっており、1か月当たりの平均利用回数は5.1回となっています。

図表1-50 子育て支援センターの1か月当たりの利用回数（子育て支援センターを利用している人）



(2) 子育て支援センターの利用意向

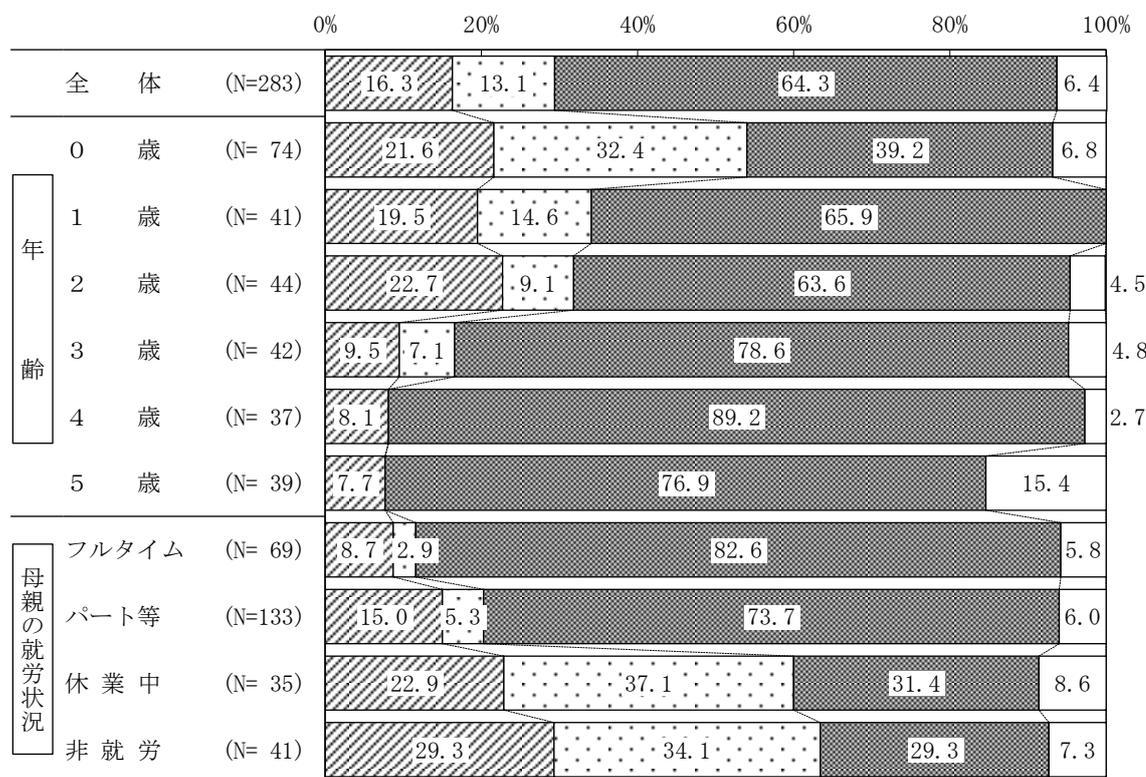
① 子育て支援センターの利用意向

子育て支援センターの利用意向は、全体では「利用していないが、今後利用したい」が16.3%、「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」が13.1%となっています。

年齢別にみると、0歳では「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」が32.4%と高くなっています。

母親の就労状況別では、フルタイムやパート等と比べて、休業中や非就労は「利用していないが、今後利用したい」、「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」が高くなっています。

図表 1-51 子育て支援センターの利用意向



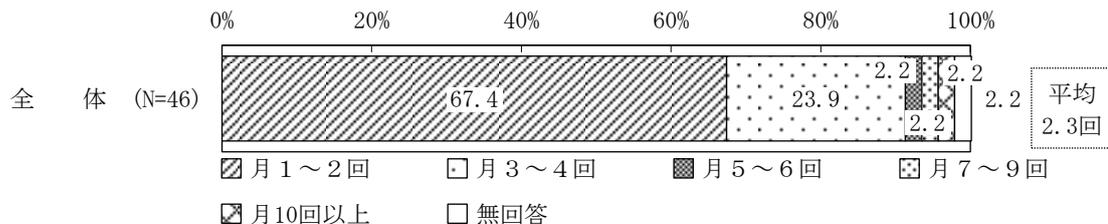
- ▨ 利用していないが、今後利用したい
- ▤ すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい
- 新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない
- 無回答

② 子育て支援センターの利用希望回数

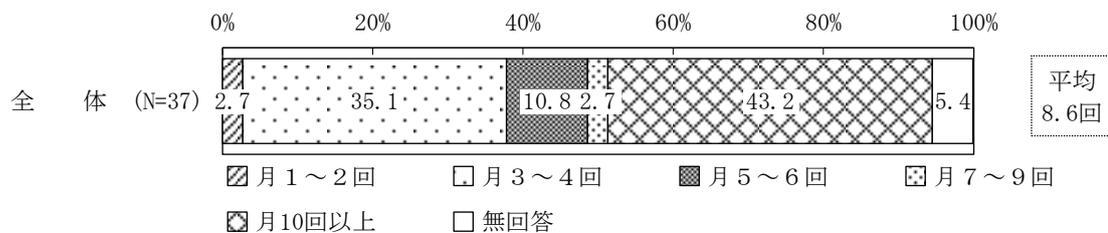
子育て支援センターの利用希望回数は、「利用していないが、今後利用したい」と答えた人は月平均2.3回、「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」と答えた人は月平均8.6回となっています。

図表 1-52 子育て支援センターの利用希望回数（子育て支援センターを利用したい人）

【「利用していないが、今後利用したい」と答えた人】



【「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」と答えた人】

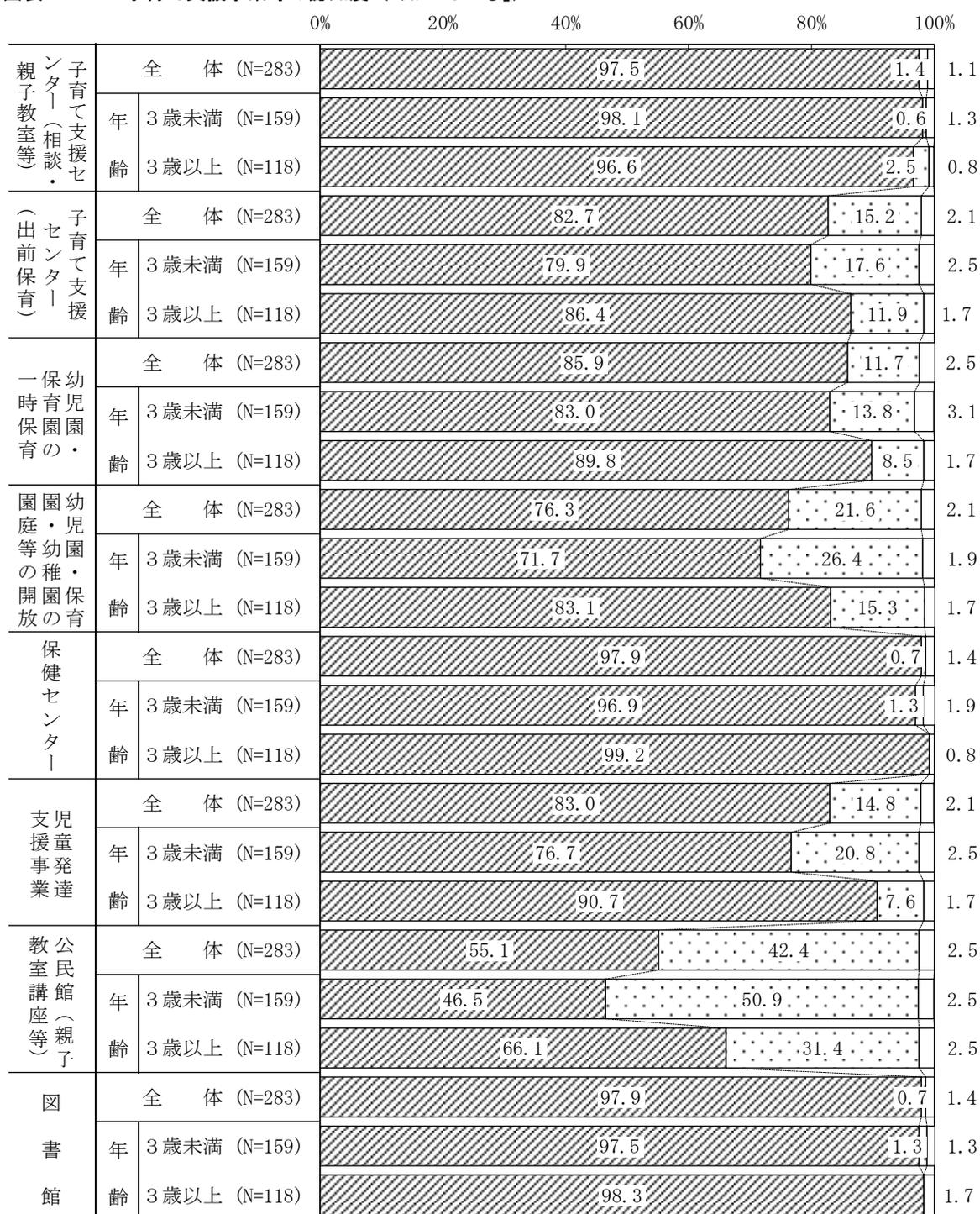


6 子育て支援事業等の利用状況

(1) 子育て支援事業等の認知度

子育て支援に関連する8の施設・事業の認知度（「はい」）をみると、「子育て支援センター（相談・親子教室）」、「保健センター」、「図書館」は90%以上と高いのに対し、「公民館（親子教室講座等）」は50%台、「幼児園・保育園・幼稚園の園庭等の開放」は70%台にとどまっています。子どもの年齢別にみると、「子育て支援センター（相談・親子教室等）」は3歳未満が高く、それ以外は3歳以上が高くなっています。

図表1-53 子育て支援事業等の認知度（「知っている」）

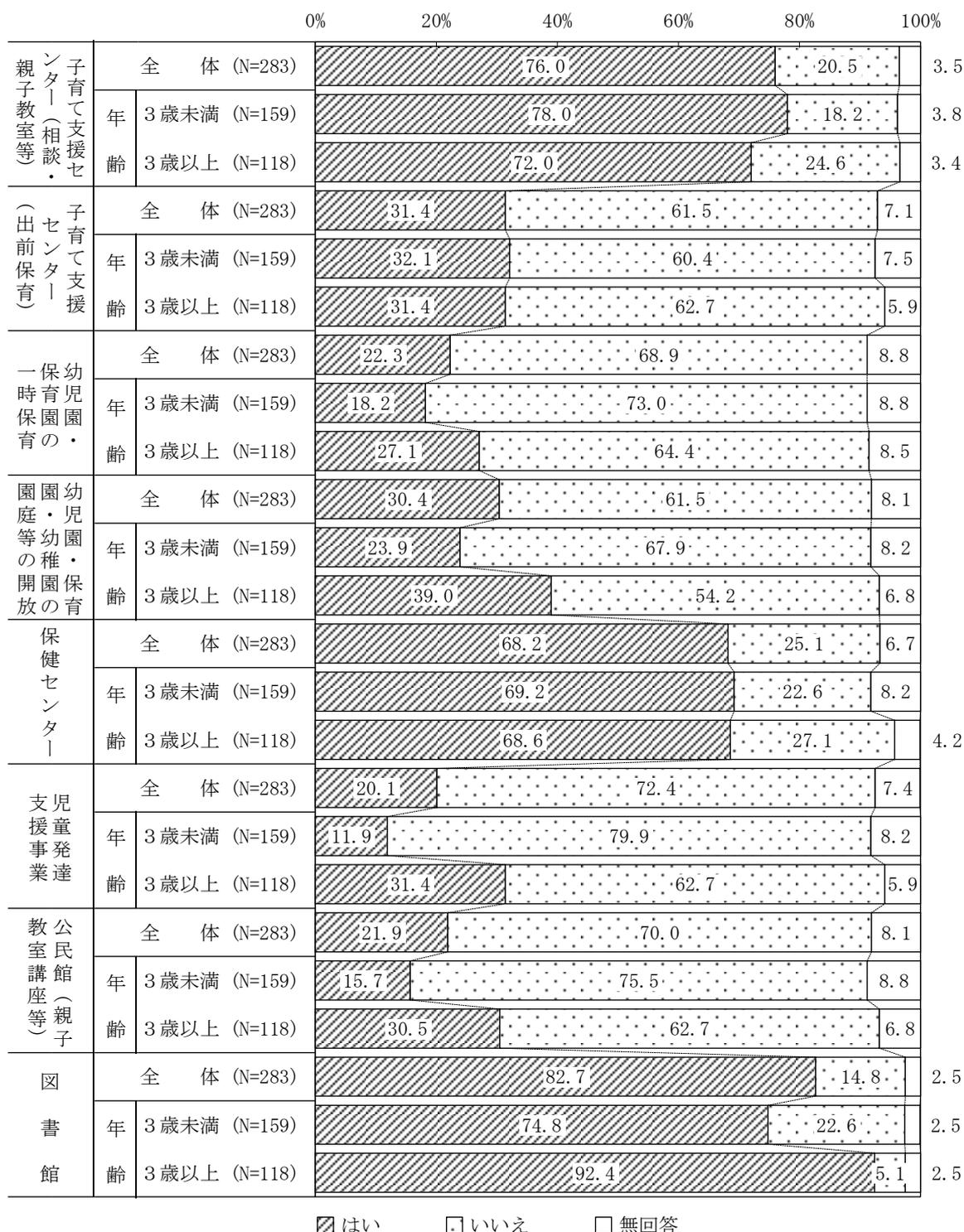


☑ はい ☐ いいえ ☐ 無回答

(2) 子育て支援事業等の利用経験

利用経験（「はい」）が高いのは、「図書館」（82.7%）、「子育て支援センター（相談・親子教室等）」（76.0%）、「保健センター」（68.2%）などであり、「児童発達支援事業」（20.1%）、「公民館（親子教室講座等）」（21.9%）、「幼児園・保育園の一時保育」（22.3%）は低くなっています。子どもの年齢別にみると、「子育て支援センター（相談・親子教室等）」、「子育て支援センター（出前保育）」、「保健センター」以外は3歳以上が高くなっています。

図表1-54 子育て支援事業等の利用経験（「これまでに利用したことがある」）

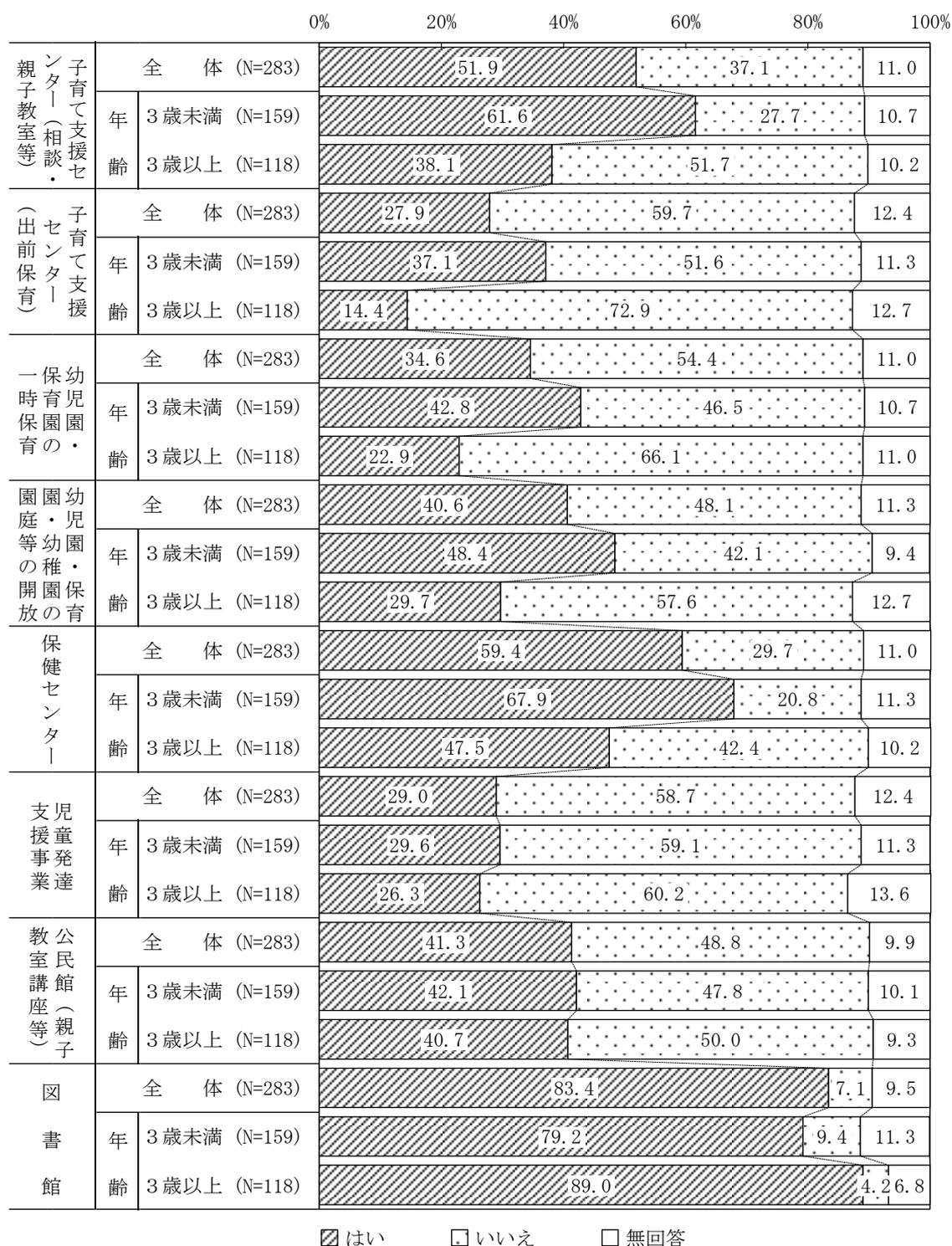


■ はい □ いいえ □ 無回答

(3) 子育て支援事業等の利用意向

利用意向（「はい」）は、多くの項目が利用経験より高くなっています。特に、利用経験が低かった「公民館（親子教室講座等）」は20ポイント近く高くなっています。また、3歳未満の「幼稚園・保育園の一時保育」、「幼稚園・保育園・幼稚園の園庭等の開放」、「公民館（親子教室講座等）」も25ポイント前後高くなっています。逆に利用経験より低くなっているのは、「子育て支援センター（相談・親子教室等）」、「子育て支援センター（出前保育）」、「保健センター」で、3歳頃までの利用が多い施設です。

図表1-55 子育て支援事業等の利用意向（「今後利用したい」）



■ はい □ いいえ □ 無回答

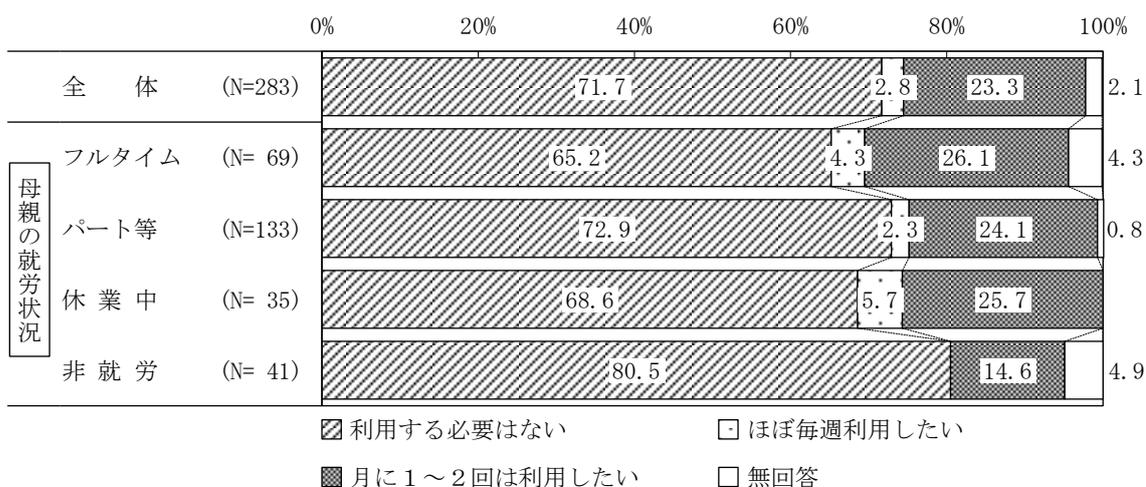
7 休日の定期的な教育・保育事業の利用意向

(1) 土曜日

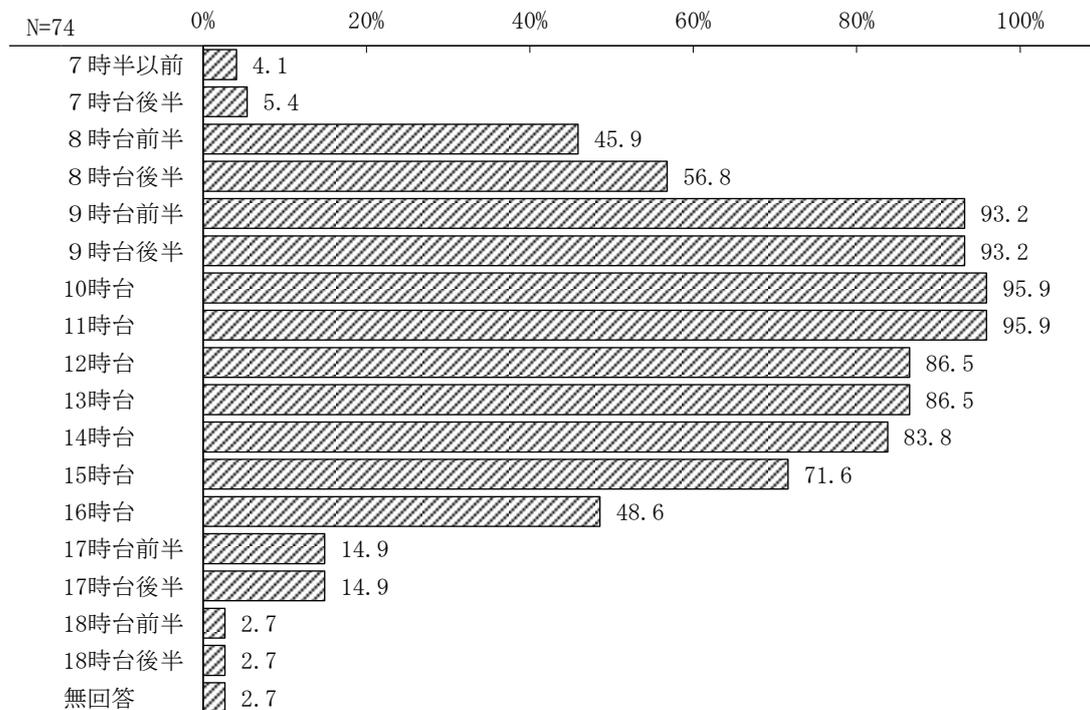
土曜日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が71.7%を占めていますが、「月に1～2回は利用したい」が23.3%、「ほぼ毎週利用したい」が2.8%と、合わせて26.1%の利用希望があります（図表1-56）。

利用希望時間帯をみると、9時台前半から15時台が高くなっています（図表1-57）。

図表1-56 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向



図表1-57 土曜日の利用希望時間帯（土曜日の定期的な教育・保育事業を利用したい人）

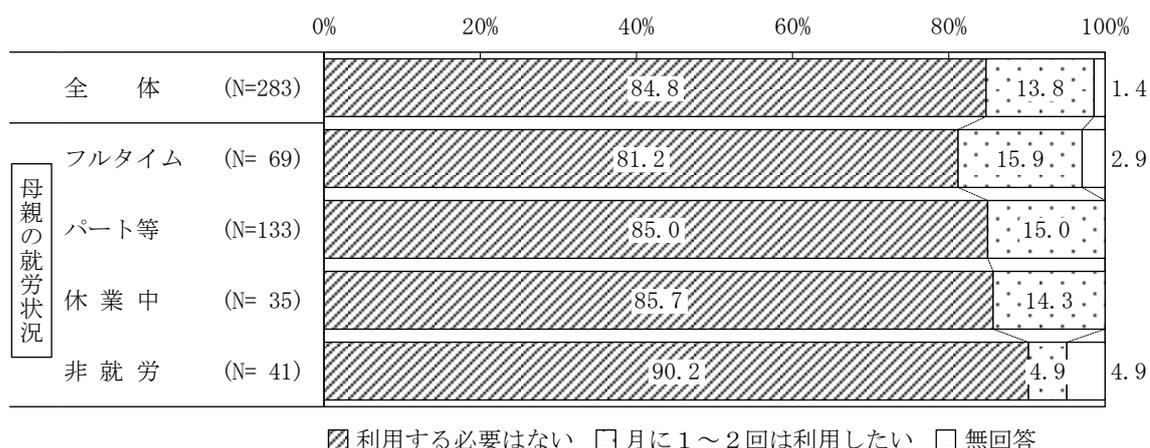


(2) 日曜日・祝日

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が84.8%を占めています。母親の就労状況別にみると、非就労以外は「月に1～2回は利用したい」が15%前後となっています（図表1-58）。

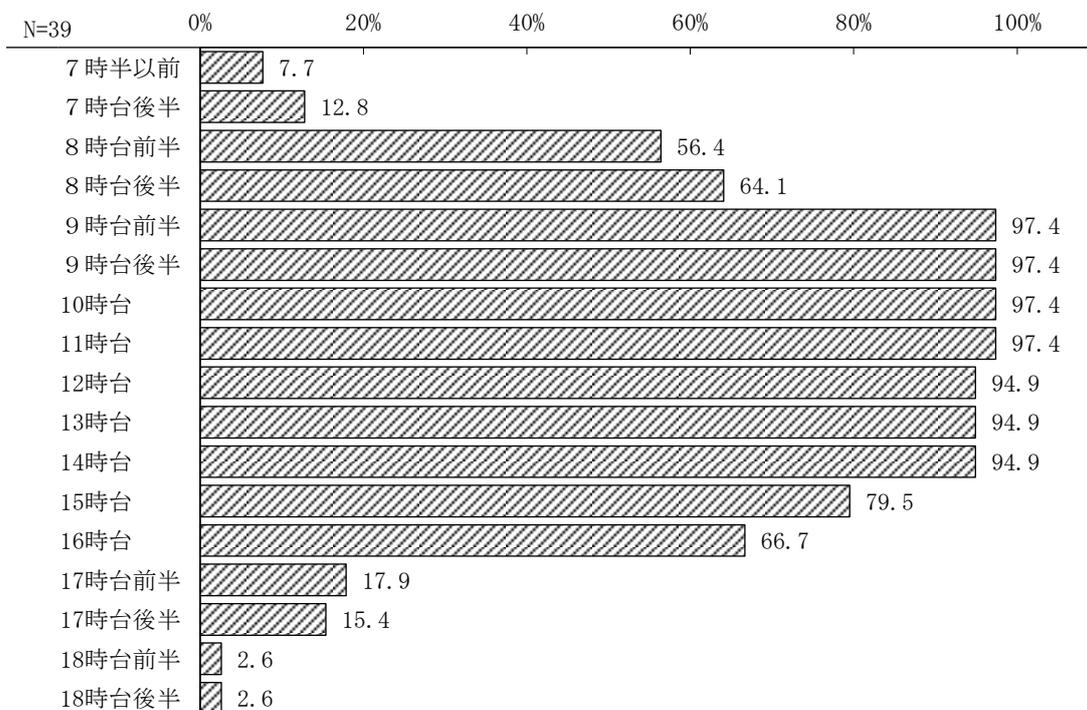
利用希望時間帯をみると、8時台後半から16時台が高くなっています（図表1-59）。

図表1-58 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向



(注) 「ほぼ毎週利用したい」という選択肢には該当がなかった。

図表1-59 日曜日・祝日の利用希望時間帯（日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業を利用したい人）

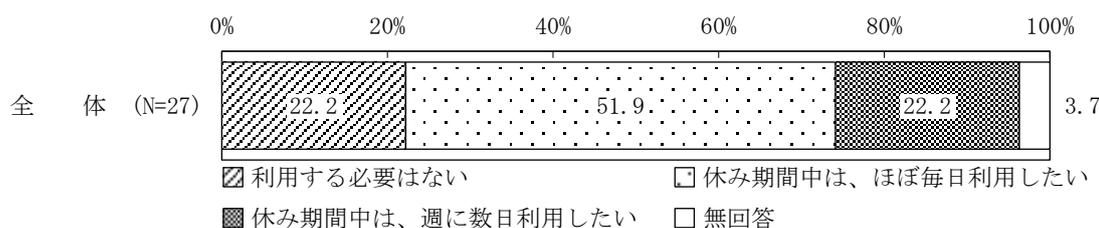


(3) 長期休暇期間中の教育・保育事業の利用

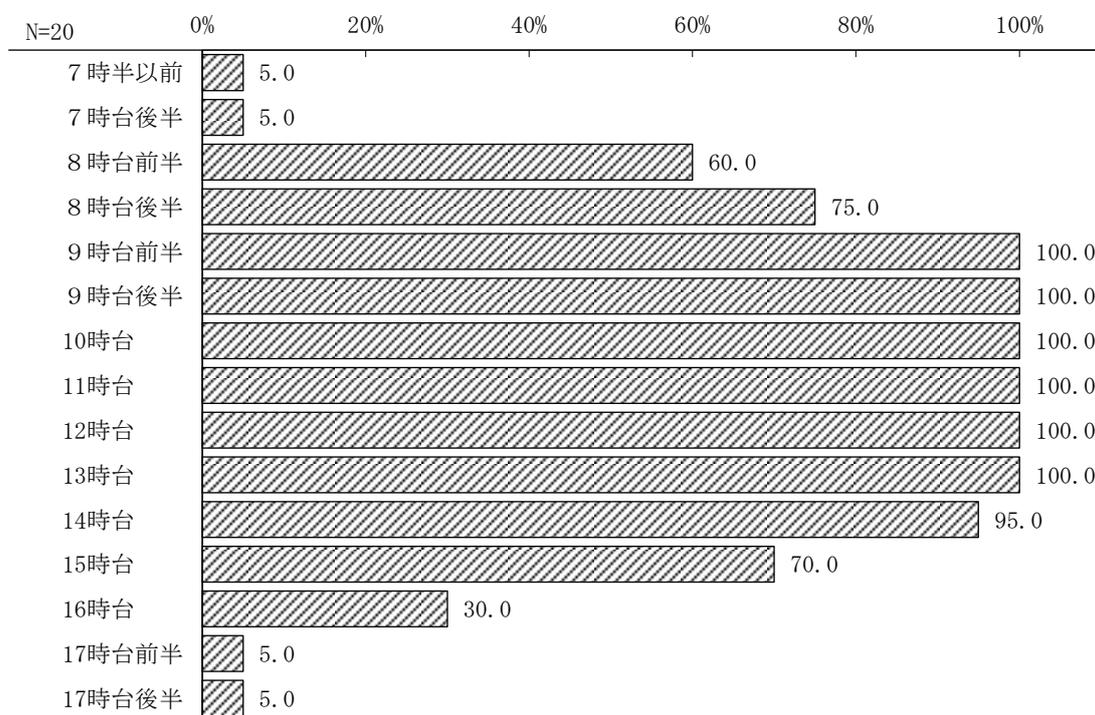
図表1-60は、幼稚園を利用している27人に夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望をたずねた結果です。「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が51.9%と最も高く、「利用する必要はない」、「休みの期間中は、週に数日利用したい」が22.2%となっています（図表1-60）。

利用希望時間帯をみると、8時台前半から15時台が高くなっています（図表1-61）。

図表1-60 長期休暇期間中の教育・保育事業の利用意向（幼稚園を利用している人）



図表1-61 長期休暇期間中の利用希望時間帯（長期休暇期間中に幼稚園を利用したい人）

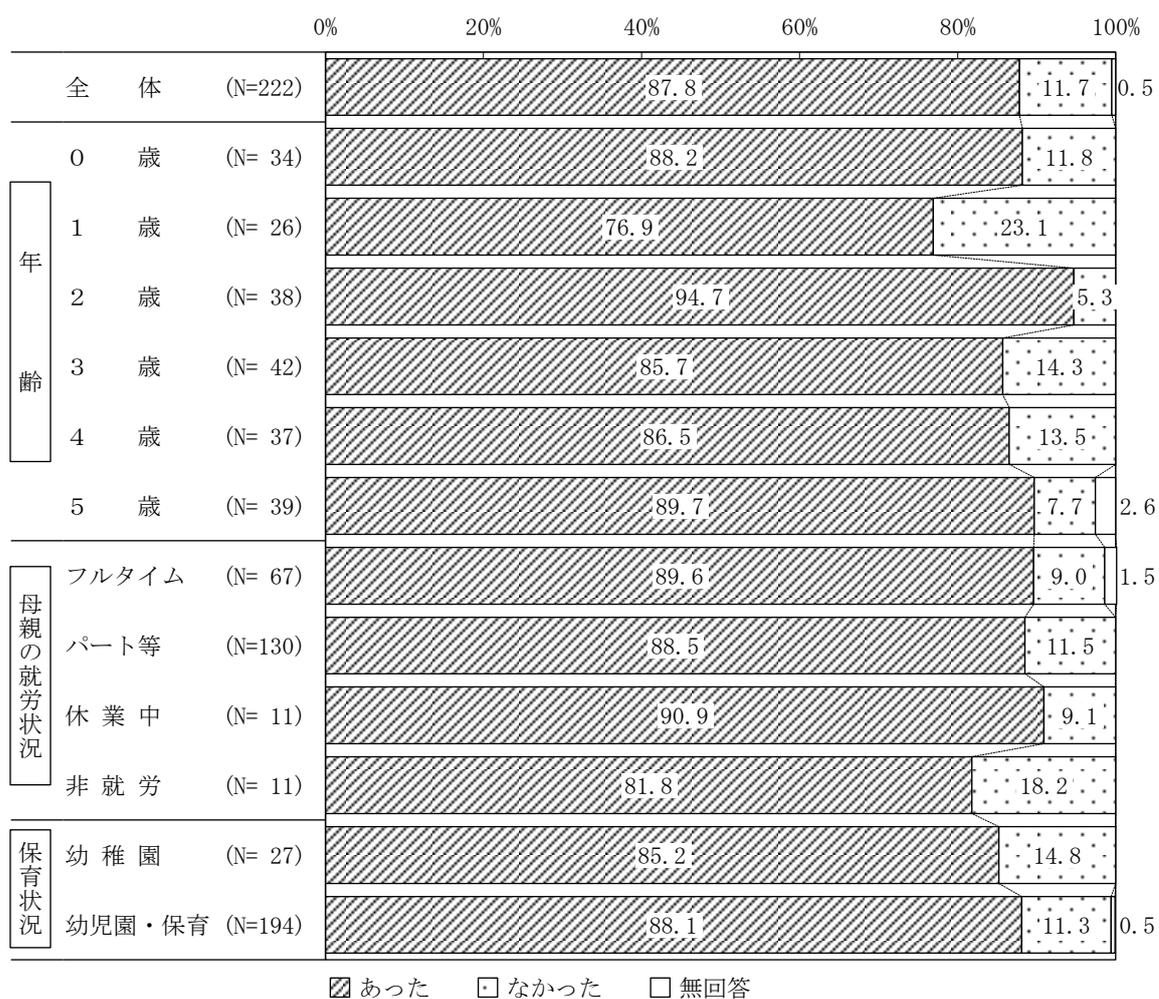


8 子どもが病気の時の対応

(1) 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無

平日の定期的な教育・保育事業を利用している子どもが病気やケガで通常の定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無については、「あった」が87.8%、「なかった」が11.7%です。

図表1-62 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無（平日の教育・保育事業を利用している人）

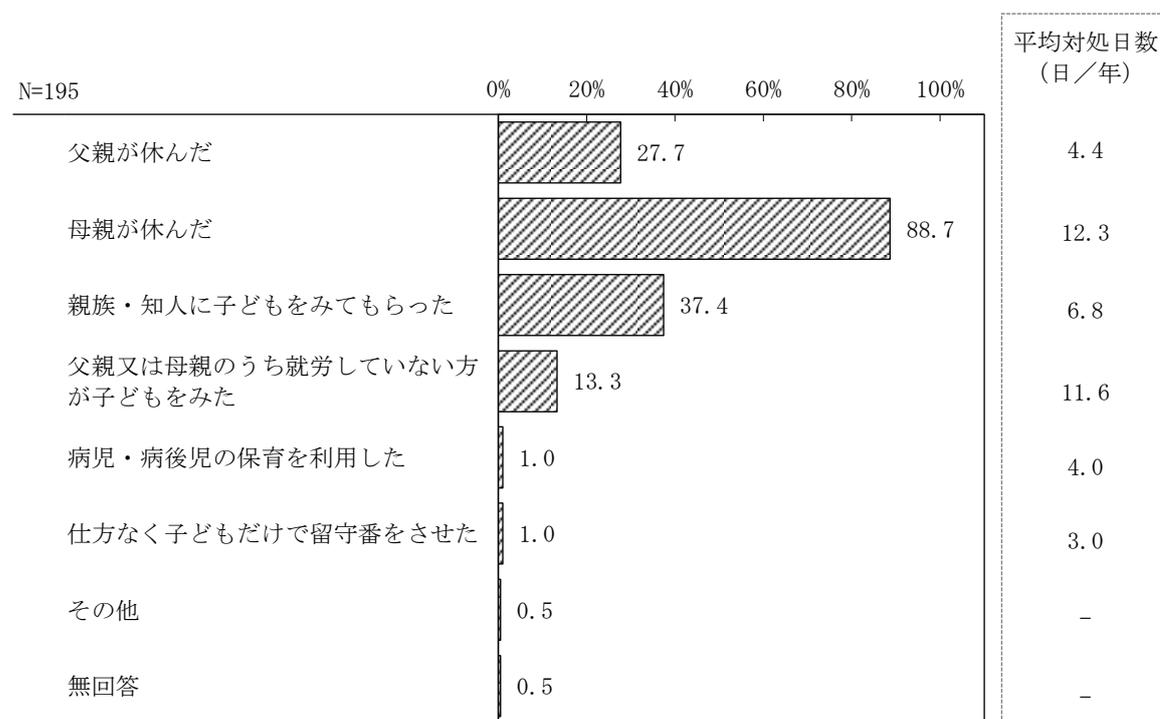


(2) 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の対処方法

平日の定期的な教育・保育事業を利用している子どもが病気等で事業が利用できなかった時の対処方法については、「母親が休んだ」(88.7%)が最も高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」(37.4%)、「父親が休んだ」(27.7%)、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」(13.3%)の順となっています。「病児・病後児の保育を利用した」は1.0%でした。

対処が必要だった日数の平均を対処方法別にみると、「母親が休んだ」は12.3日、「親族・知人に子どもをみてもらった」は6.8日、「父親が休んだ」は4.4日、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」は11.6日、「病児・病後児の保育を利用した」は4.0日、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」は3.0日となっています。

図表1-63 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の対処方法（子どもが病気等で教育・保育事業が利用できなかったことがある人、複数回答）



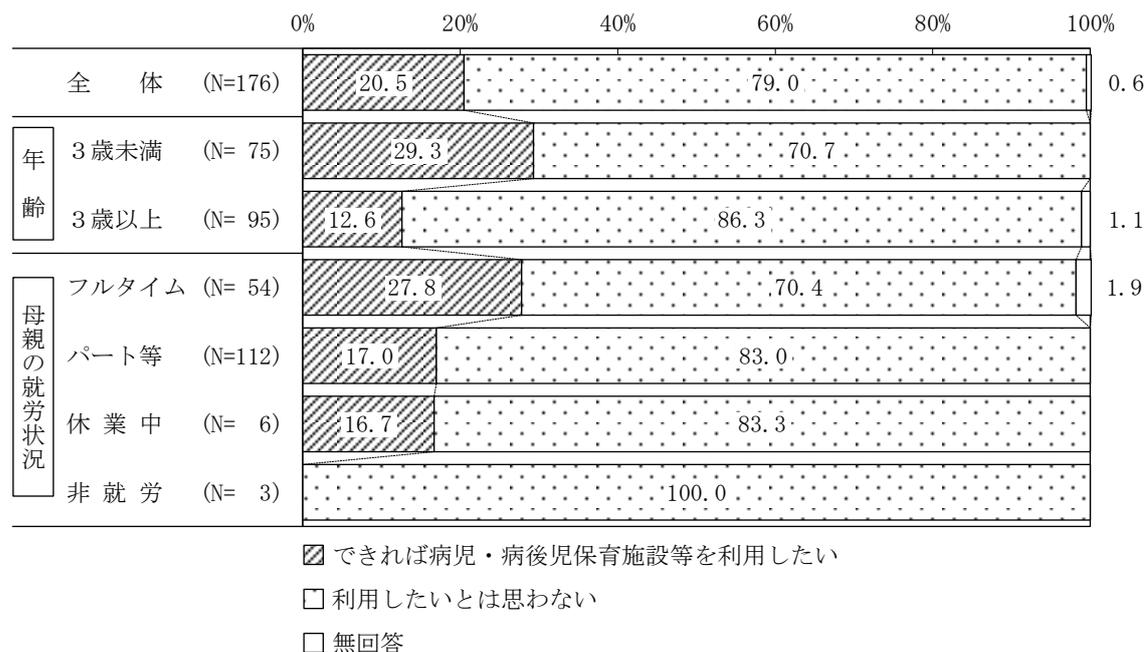
(注)「ベビーシッターを利用した」という選択肢には該当がなかった。

(3) 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業ができなかった時の施設の利用意向

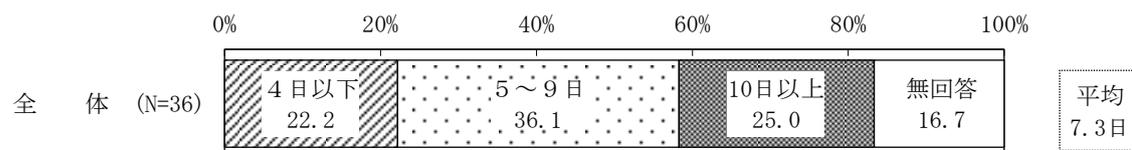
子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できず、親が仕事を休んで対処した人のうち、病児・病後児保育施設等を利用したいと答えた人は20.5%です(図表1-64)。

預けたい日数の平均は、7.3日になっています(図表1-65)。

図表1-64 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業ができず、親が仕事を休んだ人の施設の利用意向
(子どもが病気等で教育・保育事業が利用できなかった際に親が休んだ人)



図表1-65 施設に預けたいと思った日数(日/年)

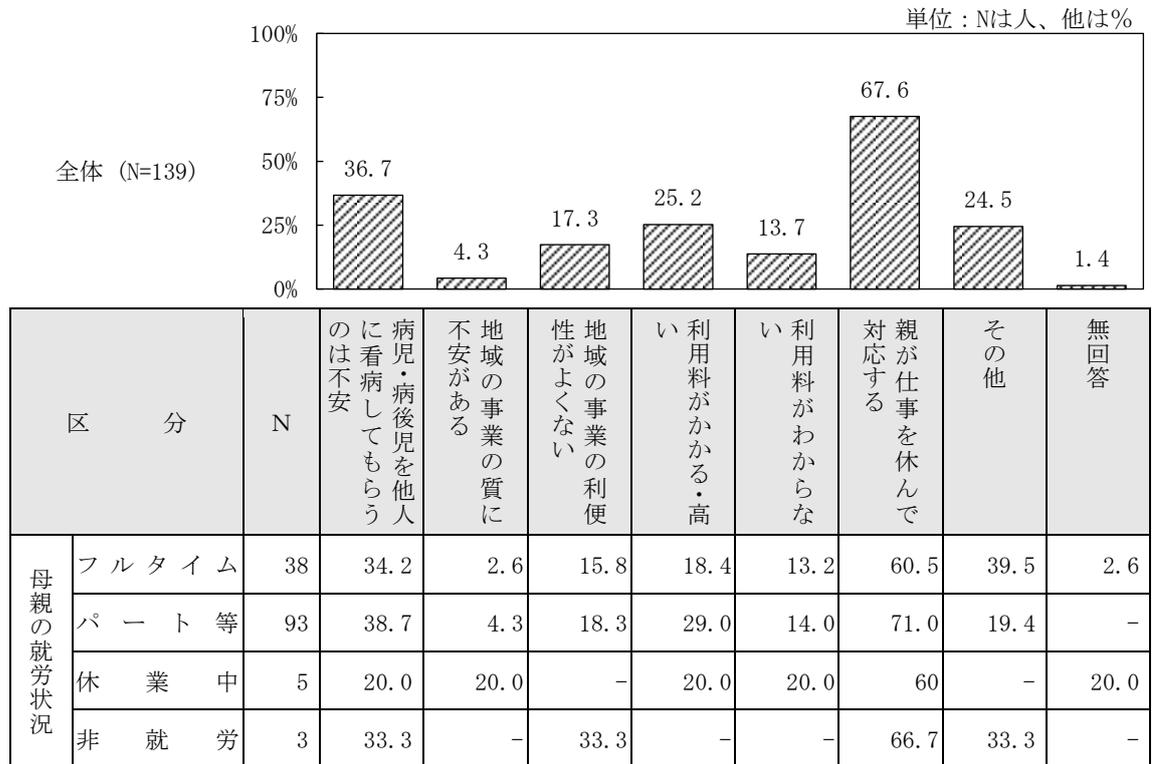


(4) 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由

病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない人にその理由をたずねたところ、「親が仕事を休んで対応する」が67.6%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看病してもらうのは不安」(36.7%)、「利用料がかかる・高い」(25.2%)となっています。

「その他」として図表1-67の内容が記載されていました。

図表 1-66 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由（病児・病後児保育施設等の利用を希望しない人、複数回答）



図表 1-67 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由（その他、病児・病後児保育施設等の利用を希望しない人、複数回答）

- ・親族にみてもらうことが可能（3人）
- ・母親がまだ働いていないので、家で看病できるため
- ・子どもの体調が悪いときくらい、側にいてあげたい（5人）
- ・心配だし、側にいてあげたい気持ちがある
- ・病気ときは、親がみたい
- ・数日休んで食事ができなくなるようなことはないため、自分の子は自分でみる
- ・子どもが慣れていないので、行きたがらない
- ・子どもがかわいそう
- ・子の心のケア
- ・本人が不安に思うことが、考えられるため
- ・病児・病後保育は児童も不安になるため、できれば親が対応したい
- ・手続きが面倒（2人）
- ・事前の登録等が手間
- ・手続きが多く、よくわからない
- ・何度か利用しようとしたが、面倒で腹が立った
- ・手続きが必要なため、フルタイムで働いていると結果遅刻になる（受診や事前登録の手続きが面倒）
- ・かかりつけ医の受診で時間がかかるので、仕事を休むのとほぼ変わらないことになる（2人）
- ・病児を初めてのところに連れて行くのは不安。他の病気をもらってしまう
- ・コロナやインフル、感染症の場合は、みてもらえないと聞いたことがある
- ・お弁当や昼寝の準備があると負担
- ・当日、急に預けられないため
- ・病院勤務で職業的に家族に体調不良者がいると出勤が難しい。どちらにしても時短勤務になるため
- ・給料と同じくらいの利用料になるため
- ・利用できる条件がよくわからない
- ・場所を知らない

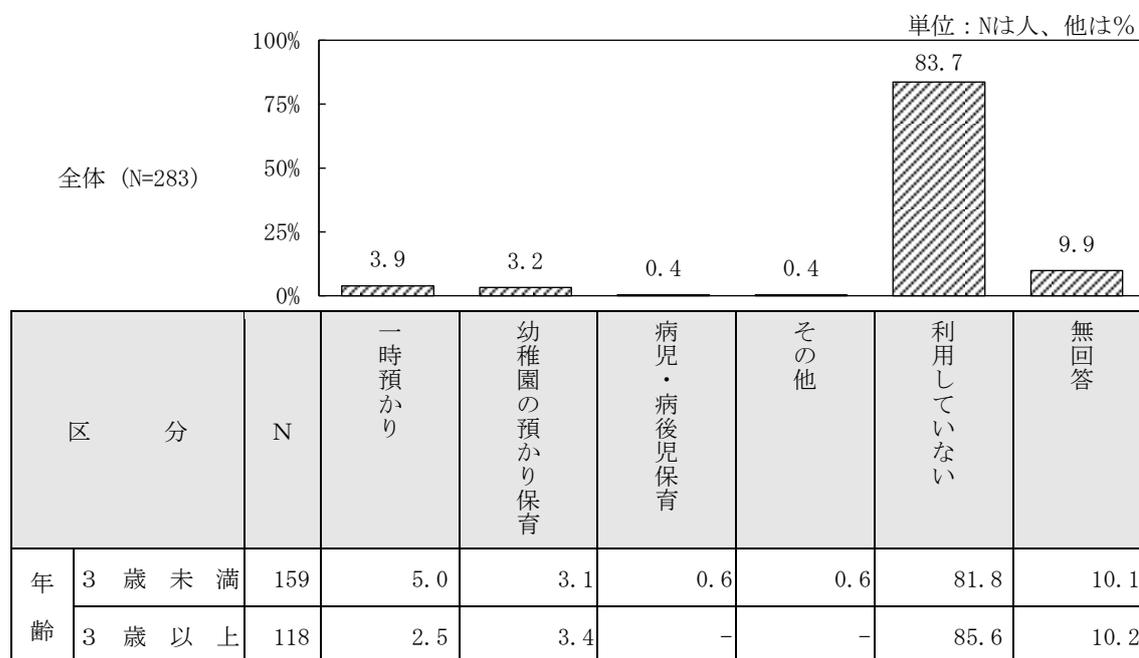
9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり

(1) 不定期に利用している教育・保育事業

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業としては、「一時預かり」、「幼稚園の預かり保育」が3%程度の非常に低い割合となっています。また、1年間の平均利用日数は、「一時預かり」が14.3日、「幼稚園の預かり保育」が8.9日、「病児・病後児保育」が10.0日となっています。

「その他」として、「認可外保育施設」が記載されていました。

図表1-68 不定期に利用している教育・保育事業（複数回答）



(注)「夜間養護等事業」、「ベビーシッター」という選択肢には該当がなかった。

図表1-69 不定期に利用している教育・保育事業の平均利用日数 単位：日/年

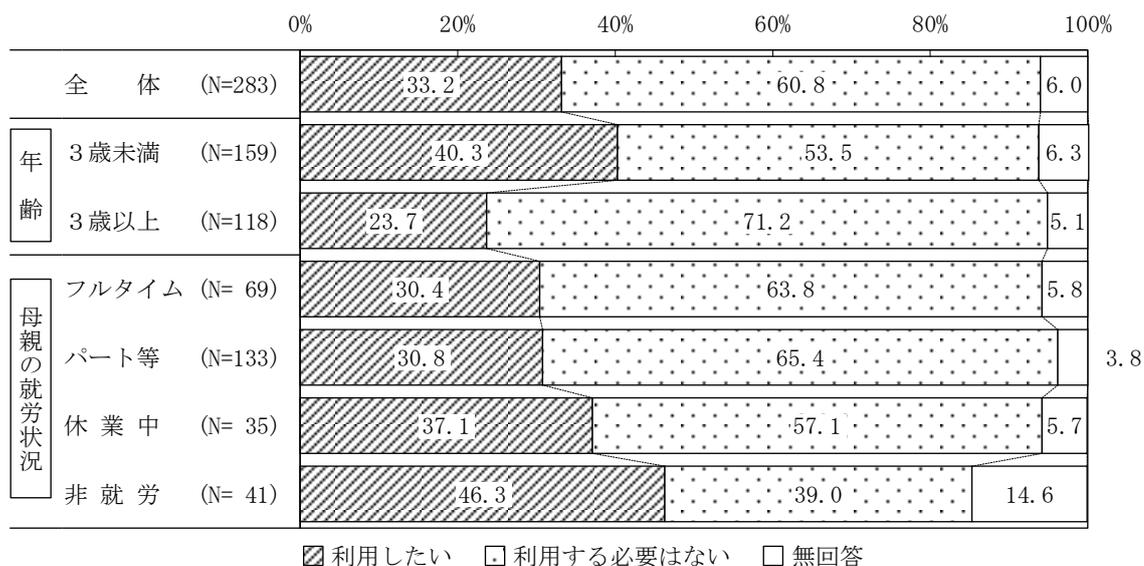
区分	一時預かり	幼稚園の預かり保育	病児・病後児保育	その他
全体	14.3	8.9	10.0	3.0
年齢				
3歳未満	17.0	11.0	10.0	3.0
3歳以上	7.0	6.3	-	-

(2) 不定期の教育・保育事業の利用意向

① 利用意向

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で教育・保育事業を「利用したい」と答えているのは33.2%です。「利用したい」は、子どもの年齢別では3歳未満（40.3%）が高く、母親の就労状況別では、非就労（46.3%）、休業中（37.1%）が高くなっています。

図表1-70 不定期の教育・保育事業の利用意向



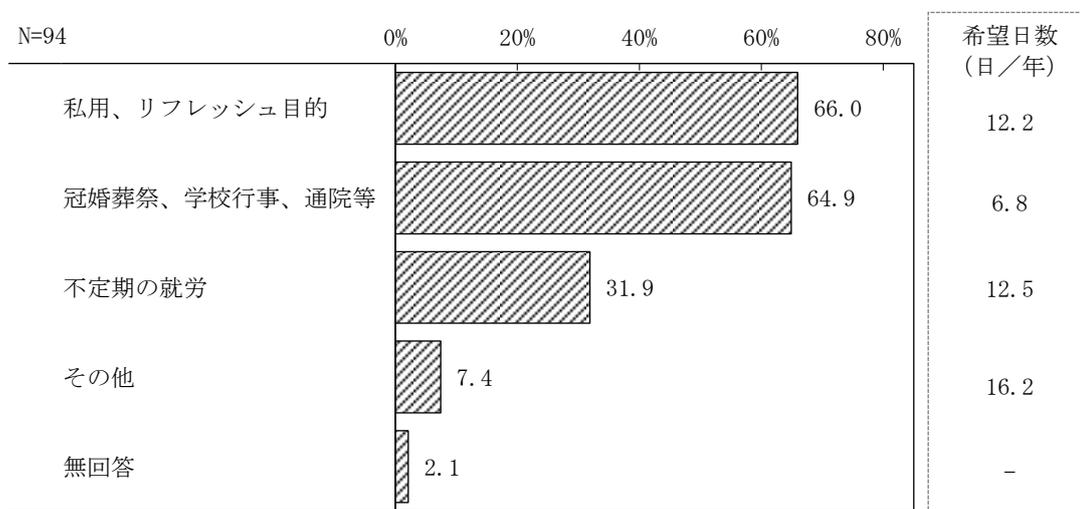
② 不特定の教育・保育事業の利用目的

①で「利用したい」と答えた人の利用目的をたずねた結果が図表1-71です。「私用、リフレッシュ」(66.0%)、「冠婚葬祭、学校行事、通院等」(64.9%)、「不特定の就労」(31.9%)などとなっています。

目的別の1年間の利用希望日数をみると、「不特定の就労」が12.5日と最も多く、「私用、リフレッシュ」が12.2日、「冠婚葬祭、学校行事、通院等」が6.8日です。

「その他」として、図表1-72の内容が記載されていました。

図表1-71 目的別の不特定の教育・保育事業の利用目的（不特定の教育・保育事業を利用したい人、複数回答）



図表1-72 目的別の不特定の教育・保育事業の利用目的（その他、不特定の教育・保育事業を利用したい人、複数回答）

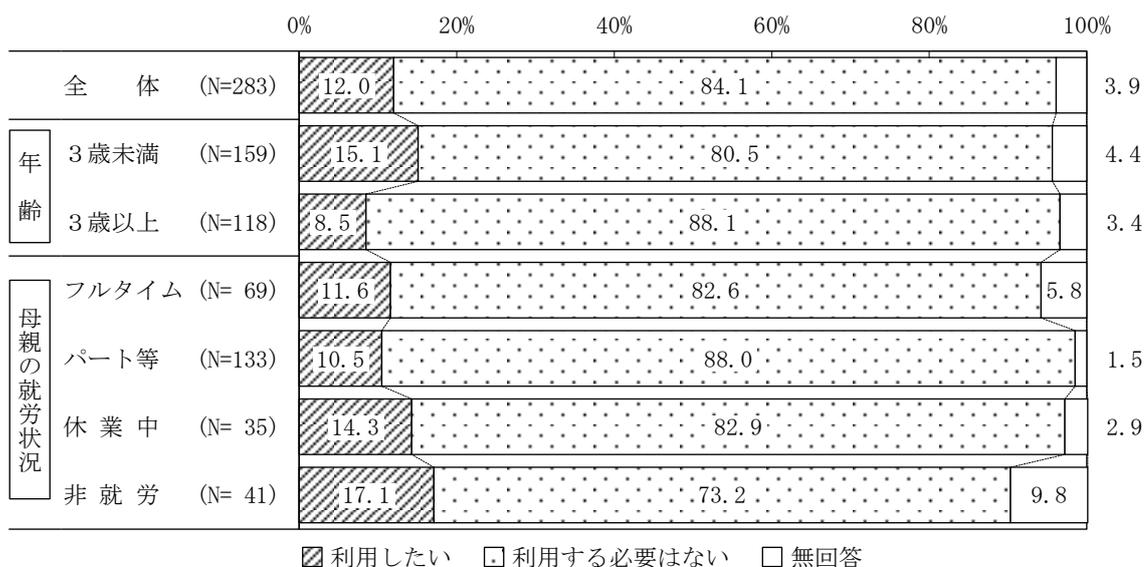
- ・病児・病後児
- ・家族の入院
- ・出産入院中等
- ・平日休みのため、週に1回は利用したい
- ・子どもが小さいので、家で世話をしている、今は具体的なことが考えられないのでわからない

(3) 短期入所生活援助事業

① 短期入所生活援助事業の利用意向

保護者の用事によって短期入所生活援助事業（ショートステイ）を「利用したい」と答えているのは12.0%です。母親の就労状況別では、フルタイムやパート等に比べて、休業中や非就労の利用意向が高くなっています。

図表 1-73 短期入所生活援助事業の利用意向

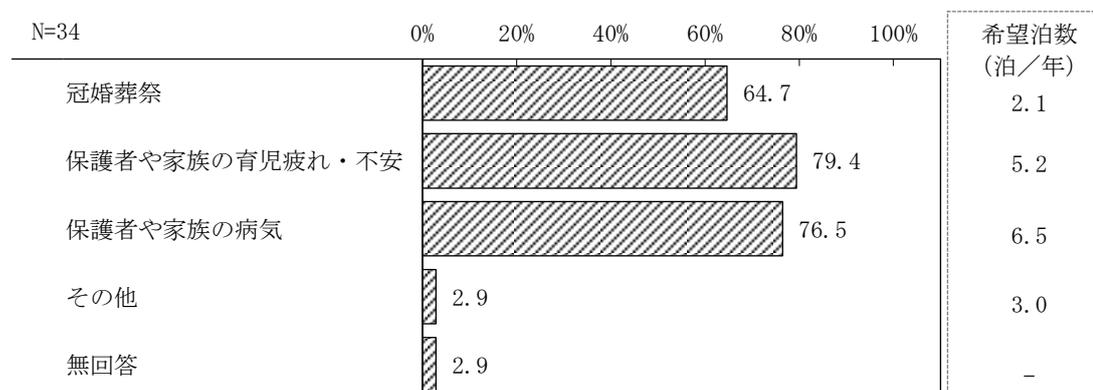


② 短期入所生活援助事業の利用目的

①で「利用したい」と答えた人の利用目的をたずねた結果が図表 1-74です。「保護者や家族の育児疲れ・不安」(79.4%)、「保護者や家族の病気」(76.5%)、「冠婚葬祭」(64.7%) などとなっています。

目的別の1年間の利用希望泊数をみると、「保護者や家族の病気」が6.5日と最も多く、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が5.2日、「冠婚葬祭」が2.1日です。

図表 1-74 目的別の短期入所生活援助事業の利用目的（短期入所生活援助事業を利用したい人、複数回答）



1 0 放課後の居場所

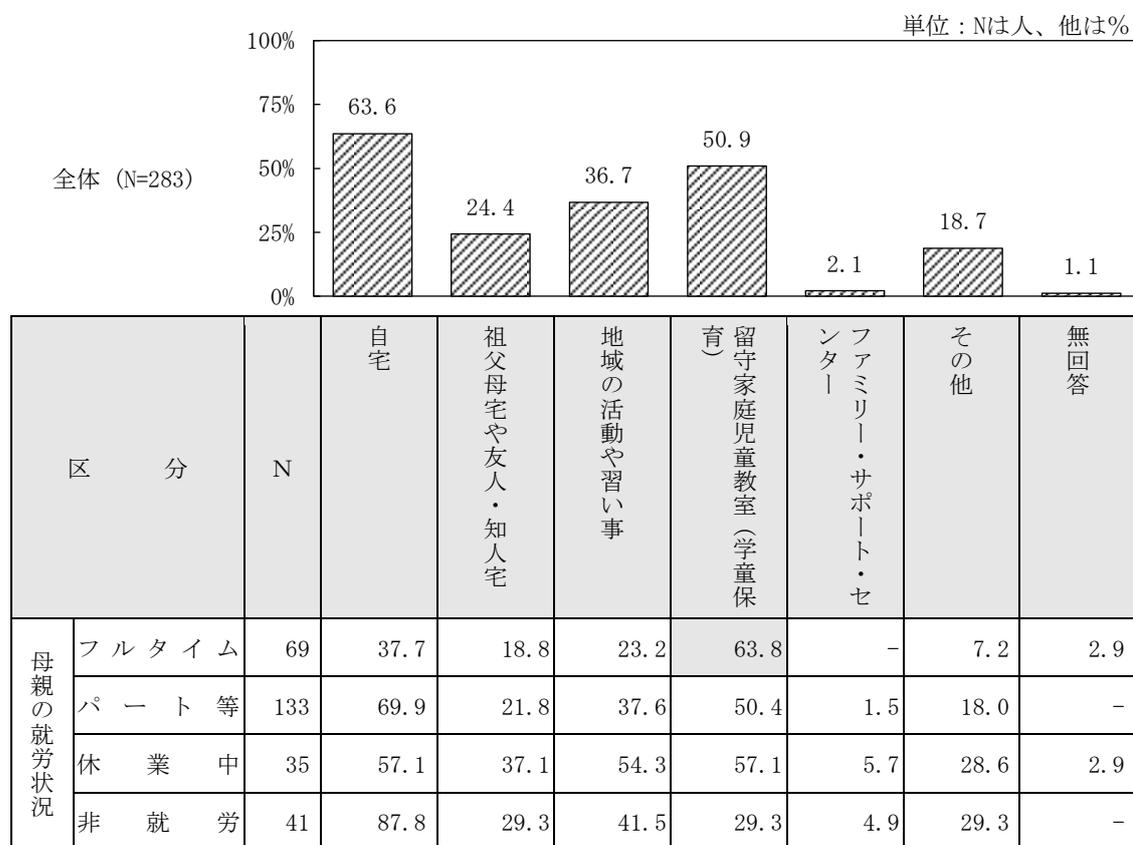
(1) 小学校低学年の放課後の過ごし方と希望日数

「お子さんが小学校低学年になったら、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか」という設問では、「自宅」が63.6%と最も高く、次いで「留守家庭児童教室（学童保育）」（50.9%）、「地域の活動や習い事」（36.7%）、「祖父母宅や友人・知人宅」（24.4%）となっています。母親の就労状況別にみると、フルタイムは「留守家庭児童教室（学童保育）」が60%以上の高い割合です。（図表1-75）

放課後の過ごし方別の1週間の希望日数をみると、「留守家庭児童教室（学童保育）」が4.3日と最も多く、「自宅」が3.8日、「ファミリー・サポート・センター」が3.2日、「祖父母宅や友人・知人宅」が2.3日、「地域の活動や習い事」が1.8日です。（図表1-76）

また、留守家庭児童教室（学童保育）を何時まで利用したいかたずねたところ、「16時30分～17時」が38.9%と最も高く、次いで「17時30分～18時」（32.6%）となっています。（図表1-77）

図表1-75 小学校低学年の放課後の過ごし方（複数回答）

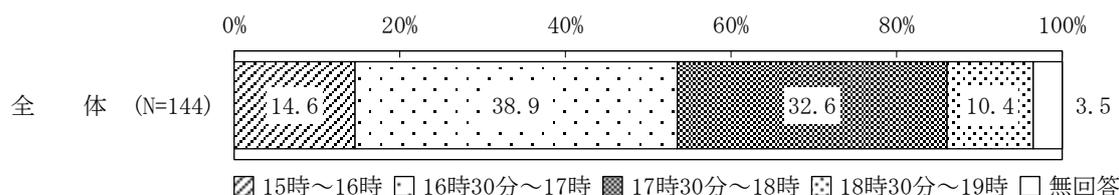


図表 1-76 小学校低学年の放課後の過ごし方別の平均希望日数

単位：日／週

区 分		自宅	祖父母宅や友人・知人宅	地域の活動や習い事	留守家庭児童教室（学童保育）	ファミリー・サポート・センター	その他
全 体		3.8	2.3	1.8	4.3	3.2	2.2
母親の就労状況	フルタイム	3.9	3.3	2.1	4.5	-	1.8
	パート等	3.8	2.2	1.7	4.3	5.0	2.3
	休業中	3.8	2.3	1.6	4.1	3.0	2.1
	非就労	3.7	1.5	1.8	4.1	1.5	2.2

図表 1-77 小学校低学年とき、留守家庭児童教室（児童保育）を何時まで利用したいか（留守家庭児童教室（児童保育）の利用を希望している人）



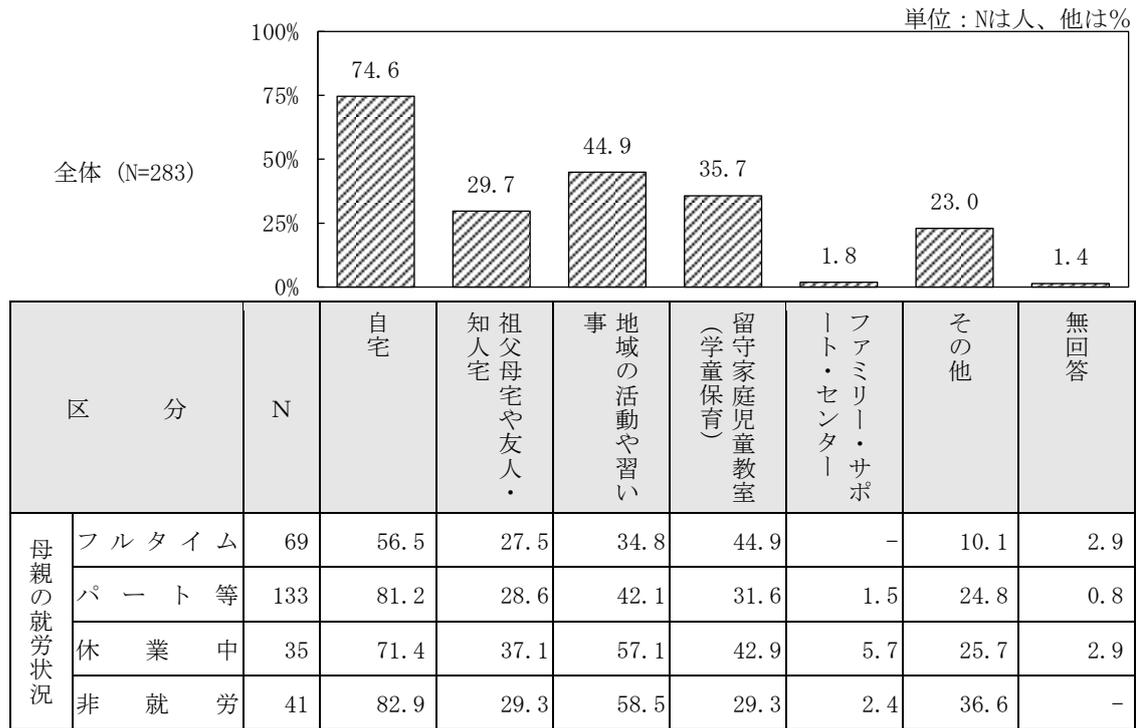
(2) 小学校高学年の放課後の過ごし方と希望日数

「お子さんが小学校高学年になったら、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか」という設問では、「自宅」が74.6%と最も高く、次いで「地域の活動や習い事」(44.9%)、「留守家庭児童教室（学童保育）」(35.7%)、「祖父母宅や友人・知人宅」(29.7%)となっています。小学校低学年よりも「自宅」が高く、「留守家庭児童教室（学童保育）」が低下しています。(図表 1-78)

放課後の過ごし方別の1週間の希望日数をみると、「留守家庭児童教室（学童保育）」が4.0日と最も多く、「自宅」が3.8日、「ファミリー・サポート・センター」が2.6日、「祖父母宅や友人・知人宅」が2.5日、「地域の活動や習い事」が2.0日です。(図表 1-79)

また、留守家庭児童教室（学童保育）を何時まで利用したいかたずねたところ、「17時30分～18時」が38.6%と最も高く、次いで「16時30分～17時」(34.7%)となっています。(図表 1-80)

図表 1-78 小学校高学年の放課後の過ごし方（複数回答）

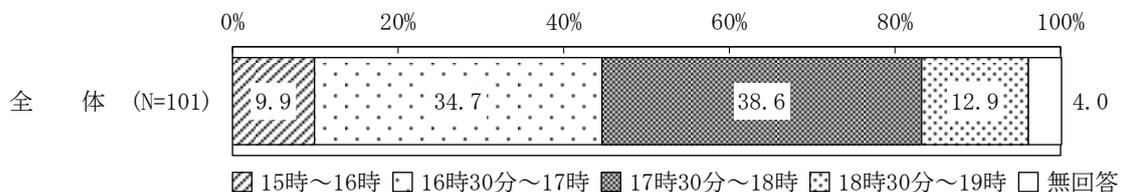


図表 1-79 小学校高学年の放課後の過ごし方別の平均日数

単位：日/週

区分		自宅	祖父母宅や友人・知人宅	地域の活動や習い事	留守家庭児童教室(学童保育)	ファミリー・サポート・センター	その他
全体		3.8	2.5	2.0	4.0	2.6	2.3
母親の就労状況	フルタイム	3.7	3.4	2.2	4.0	-	2.0
	パート等	3.8	2.4	1.8	4.1	3.0	2.3
	休業中	4.0	2.6	1.8	3.7	3.0	2.0
	非就労	3.6	1.7	2.1	4.1	1.0	2.5

図表 1-80 小学校高学年とき、留守家庭児童教室（児童保育）を何時まで利用したいか（留守家庭児童教室（児童保育）の利用を希望している人）

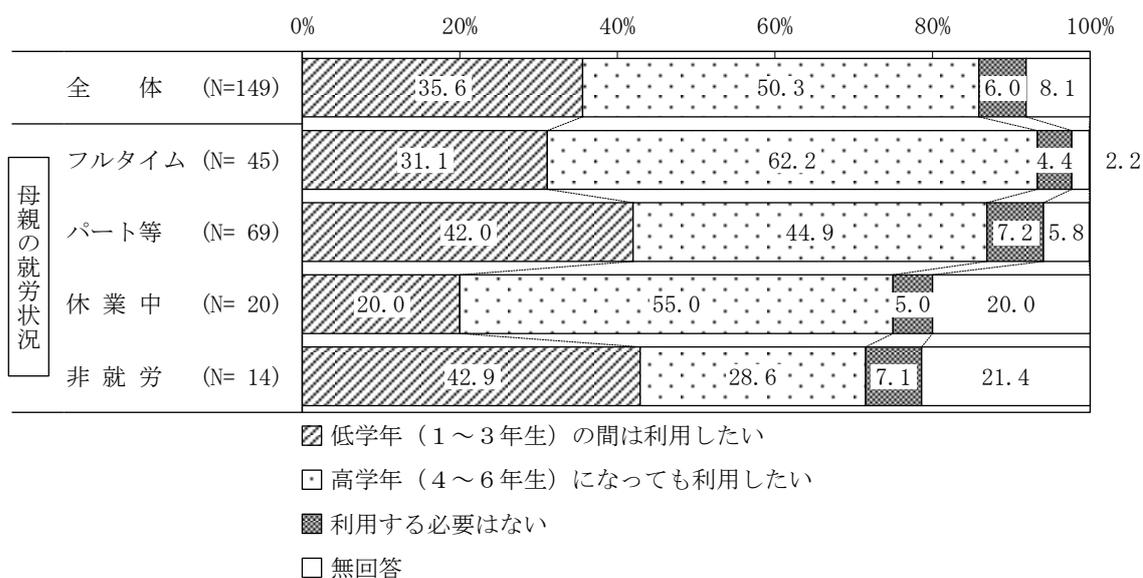


(3) 長期休暇期間中の留守家庭児童教室（学童保育）の利用意向

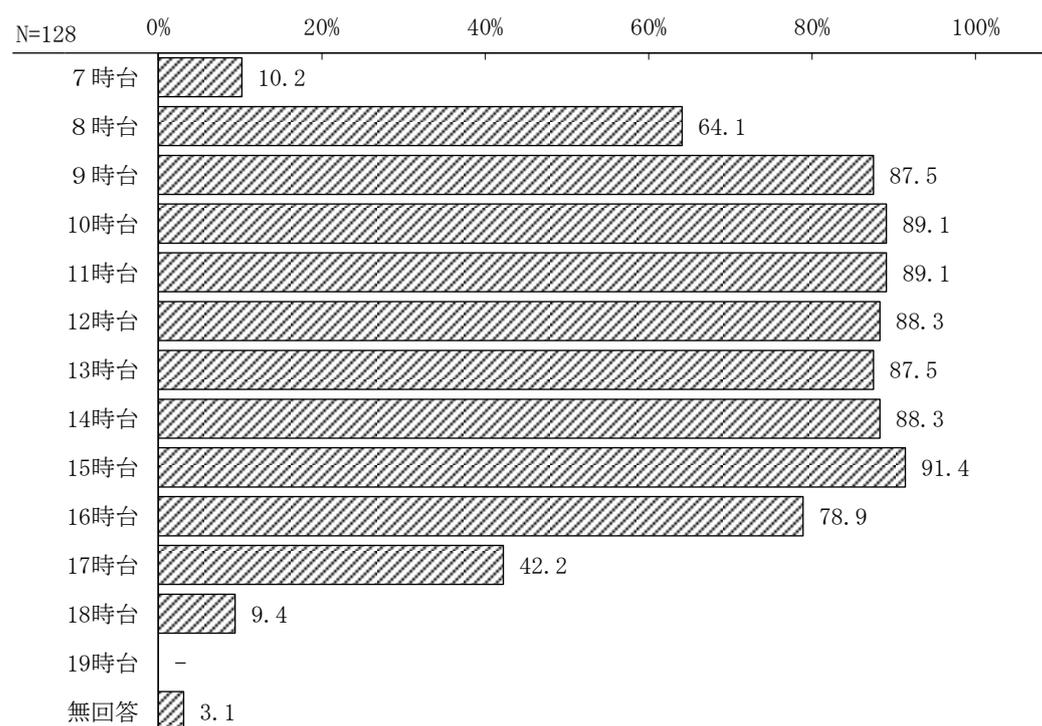
放課後の留守家庭児童教室（学童保育）の利用を希望している人の長期休暇期間中の利用希望は、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が過半数を占め、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（35.6%）となっており、85%以上の人が高学年（4～6年生）の間は利用したい。85%以上の人が高学年（4～6年生）の間は利用したい。（図表1-81）

利用希望時間帯をみると、8時台から16時台が高くなっています（図表1-82）。

図表1-81 長期休暇期間中の留守家庭児童教室（学童保育）の利用意向（放課後に留守家庭児童教室（学童保育）の利用を希望している人）



図表1-82 長期休暇期間中の利用希望時間帯（長期休暇期間中の留守家庭児童教室（学童保育）の利用を希望する人）



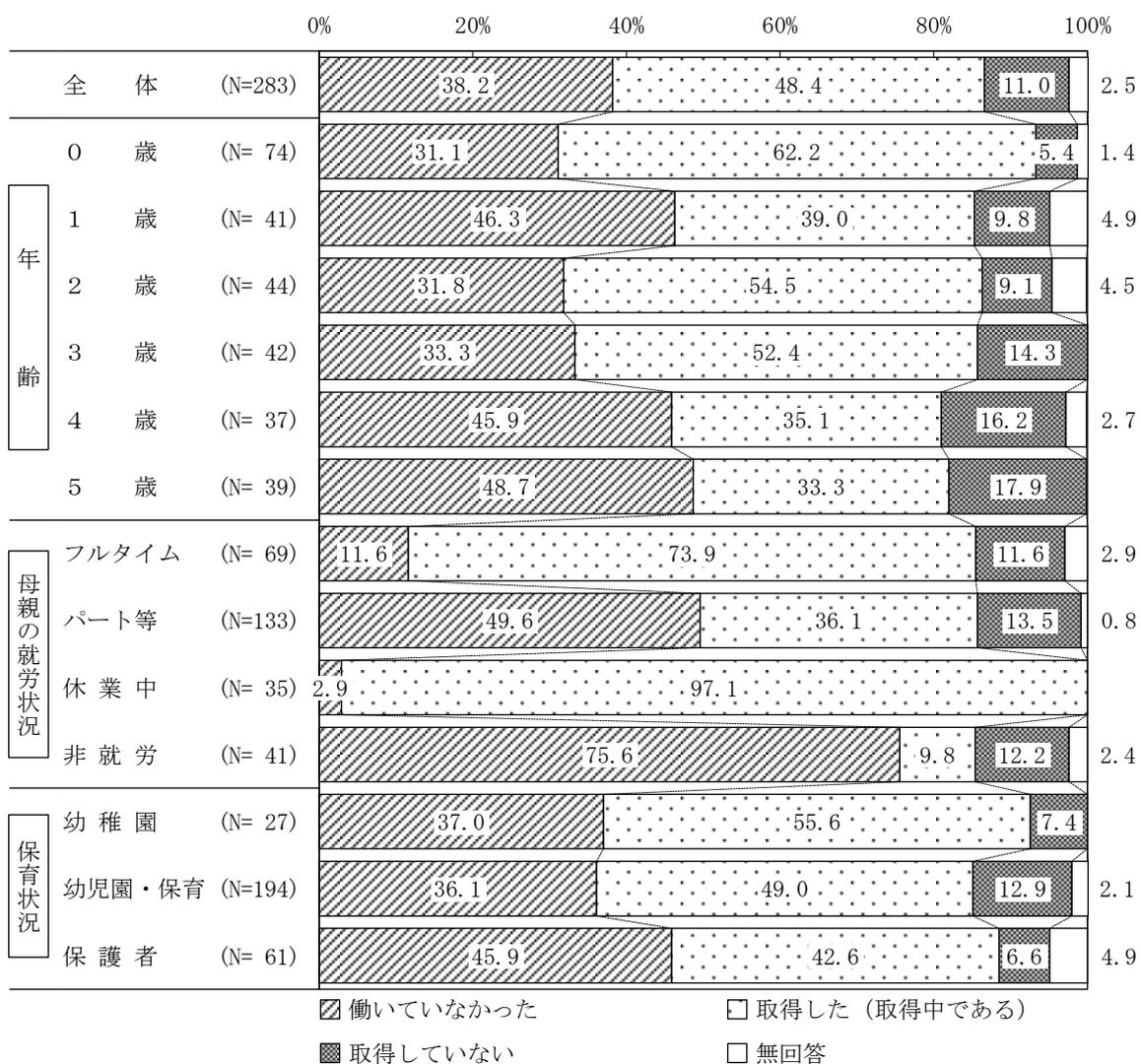
1 1 育児休業制度

(1) 育児休業の取得

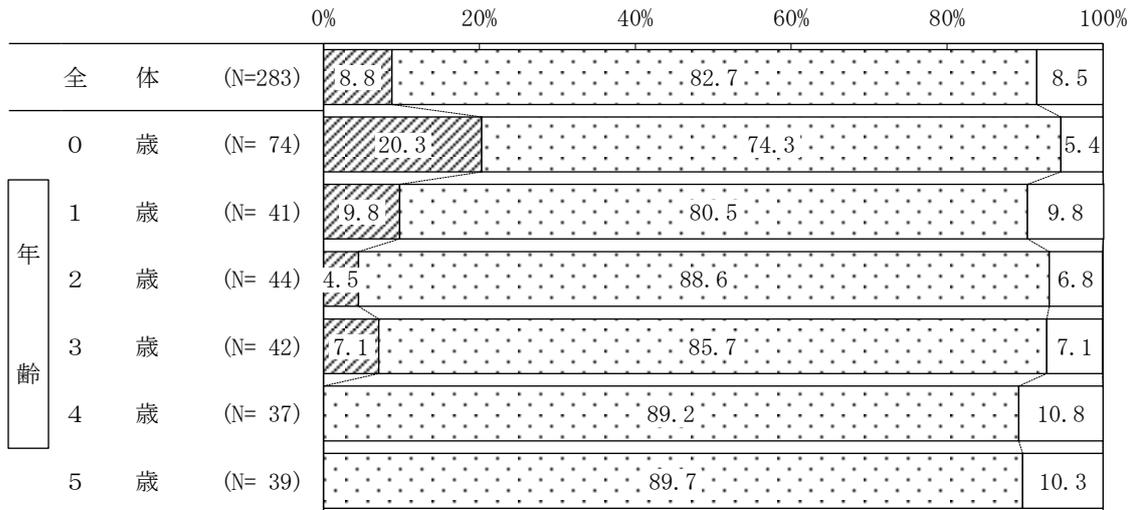
育児休業を「取得した（取得中である）」母親は48.4%ですが、子どもの出生時に「働いていなかった」母親が38.2%います。子どもの年齢別にみると、0歳は「取得した（取得中である）」が60%を超える高い割合です。また、母親の就労状況別にみると、フルタイムでは「取得した（取得中である）」は73.9%を占めています（図表1-83）。

育児休業を「取得した（取得中である）」と答えた父親は、8.8%（25人）です（図表1-84）。

図表1-83 母親の育児休業の取得状況



図表 1-84 父親の育児休業の取得状況



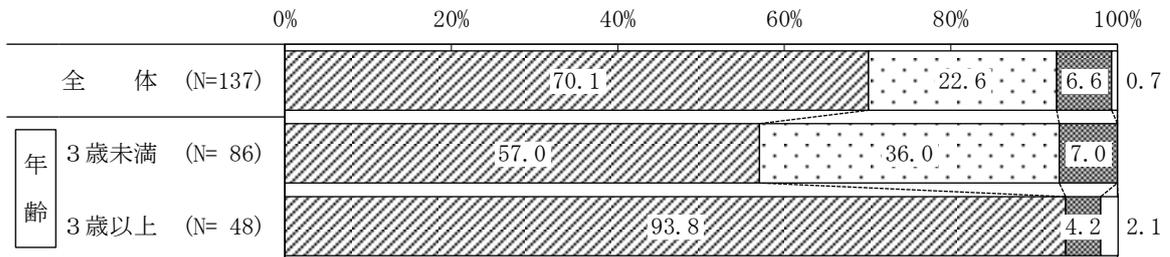
■ 取得した (取得中である) □ 取得していない □ 無回答

(注) 「働いていなかった」という選択肢には該当がなかった。

(2) 育児休業取得後の職場復帰 (母親)

(1)で育児休業を「取得した (取得中である)」と答えた137人の母親のうち、70.1%が「育児休業取得後、職場に復帰した」、22.6%が「現在も育児休業中である」、6.6%が「育児休業中に離職した」と答えています。子どもの年齢別にみると、3歳以上は「育児休業取得後、職場に復帰した」が93.8%を占めています。子どもの年齢別では、3歳未満は3歳以上に比べて「現在も育児休業中である」が高くなっています。

図表 1-85 育児休業取得後の母親の職場復帰 (育児休業を取得した母親)

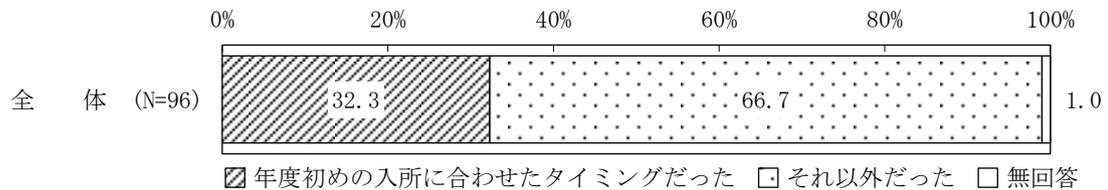


■ 育児休業取得後、職場に復帰した
 □ 現在も育児休業中である
 ■ 育児休業中に離職した
 □ 無回答

(3) 育児休業から職場に復帰した時期（母親）

(2)で「育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた母親に、職場へ復帰したのは年度初めの保育所入所に合わせたタイミングだったかたずねたところ、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」は32.3%です。

図表1-86 育児休業から職場に復帰した時期（育児休業の取得後に職場復帰した母親）



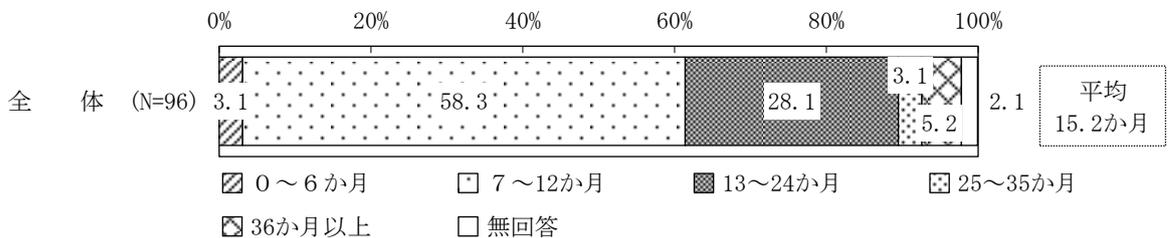
(4) 育児休業取得期間と取得希望期間（母親）

(2)で「育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた母親に、子どもが何歳何か月のときに職場復帰したか、また、何歳何か月のときまで育児休業をとりたかったのかたずねた結果が図表1-87です。母親の実際の取得期間は「7～12か月」が58.3%、「13～24か月」が28.1%などとなっており、平均は15.2か月です。これに対して、取得希望期間は「7～12か月」と「13～24か月」が32.3%と最も高く、「36か月以上」も22.9%あり、平均は21.5か月となっています。これは、子どもが1歳3か月で職場復帰を余儀なくされているが、子どもが2歳位までは仕事を休んで子どもの面倒をみたいという母親が多いことを物語っています。

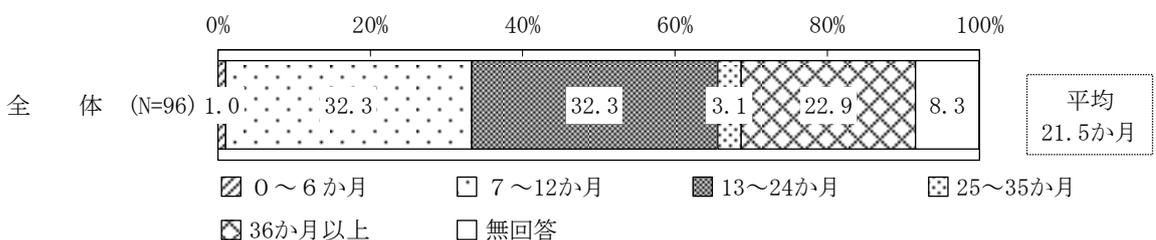
図表1-88は、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度が勤め先にあれば、子どもが何歳何か月までとりたかったかをたずねた結果ですが、「36か月以上」が50.0%を占めており、平均は28.7か月となっています。

図表1-87 育児休業の実際の取得期間と希望期間（育児休業の取得後に職場復帰した母親）

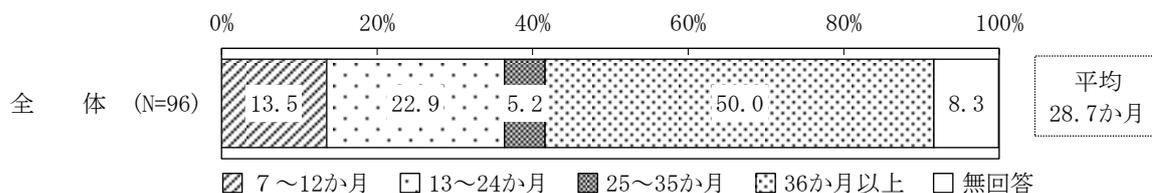
【実際の取得期間（子どもの月齢）】



【希望の期間（子どもの月齢）】



図表 1-88 3歳まで休暇を取得できる制度があったら子どもが何か月までとるか（育児休業の取得後に職場復帰した母親）



(5) 希望の時期に職場復帰しなかった理由（母親）

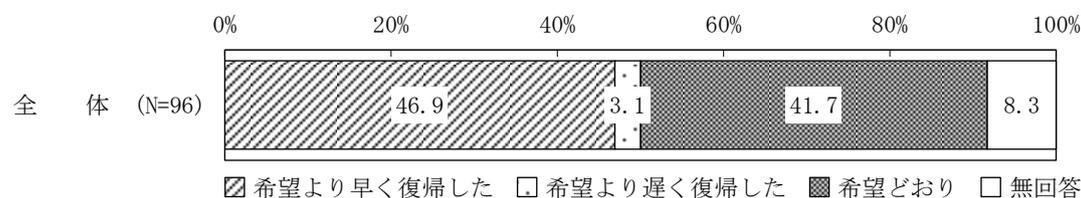
図表 1-89は、育児休業取得期間と取得希望期間の差異を表しています。育児休業取得期間が「希望より早く復帰した」が46.9%、「希望どおり」が41.7%、「希望より遅く復帰した」が3.1%となっています（図表 1-89）。

「希望より早く復帰した」理由は、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」（24.4%）、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」（20.0%）、「希望する保育所等に入るため」（13.3%）となっています（図表 1-90）。

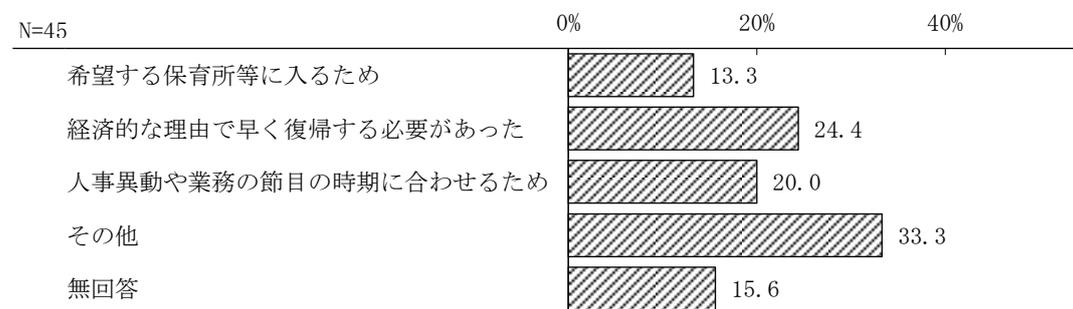
「その他」として、図表 1-91の内容が記載されていました。

「希望より遅く復帰した」3人の遅く復帰した理由は、図表 1-92のとおりです。

図表 1-89 育児休業取得期間と取得希望期間の差異（育児休業の取得後に職場復帰した母親）



図表 1-90 早く復帰した理由（希望よりも早く職場に復帰した母親、複数回答）



(注) 「配偶者や家族の希望があったため」という選択肢には該当がなかった。

図表 1-91 早く復帰した理由（その他、希望よりも早く職場に復帰した母親、複数回答）

- ・会社の育休制度が満1歳までのため（2人）
- ・1歳までしか給付金がなかったため
- ・希望の園に途中入園が可能だったため
- ・幼稚園に空きがあるから、期間を延ばせなかった
- ・長子も家庭保育をしていたため、長子の年齢に合わせた
- ・復帰するまでの休める日数が決まっていた
- ・職場復帰までの育休期間が決まっていたため
- ・職場に託児所があるため
- ・職場の職員不足のため
- ・職場の雰囲気
- ・少しでも早く復帰しないと職場に人が足りないため
- ・都合がいいときに好きな時間働いてもよいと会社が言ってくれたため
- ・子どもを園に慣れさせるため

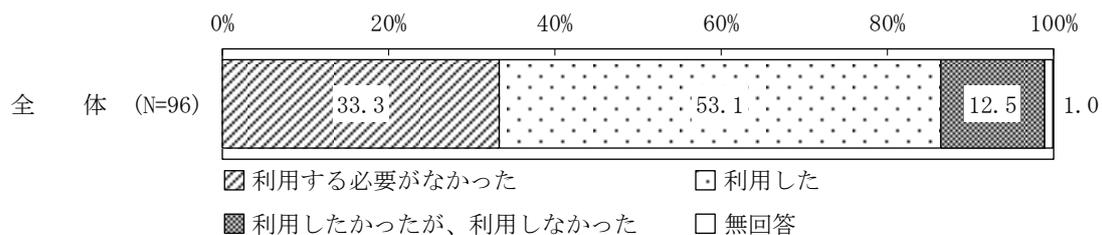
図表 1-92 遅く復帰した理由（希望よりも遅く職場に復帰した母親、複数回答） 単位：人

区 分	そ の 他	無 回 答
全 体 (N=3)	2	1

(6) 短時間勤務制度の利用状況

(2)で「育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた母親の短時間勤務制度の利用状況は「利用した」が53.1%と最も高く、「利用する必要がなかった」(33.3%)、「利用したかったが、利用しなかった」(12.5%)となっています。

図表 1-93 短時間勤務制度の利用状況（育児休業の取得後に職場復帰した母親）



(7) 育児休業後の職場復帰をする時期

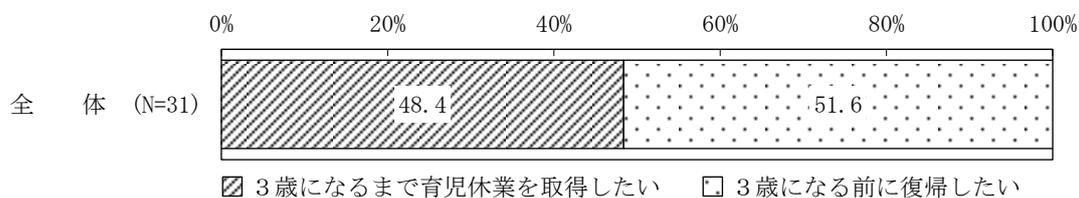
(2)で「現在も育児休業中である」と答えた31人の母親に、子どもが1歳になったときに必ず預けられる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するかたずねたところ、全員が「1歳になるまで育児休業を取得したい」と答えています。

また、子どもが3歳になったときに必ず預けられる事業があれば、3歳になるまで育児休業を取得するかたずねたところ、「3歳になるまで育児休業を取得したい」と「3歳になる前に復帰したい」は同程度です。

図表1-94 1歳になったときに必ず子どもを預けられる事業がある場合の職場復帰をする時期（現在も育児休業中の母親）



図表1-95 3歳になったときに必ず子どもを預けられる事業がある場合の職場復帰をする時期（現在も育児休業中の母親）

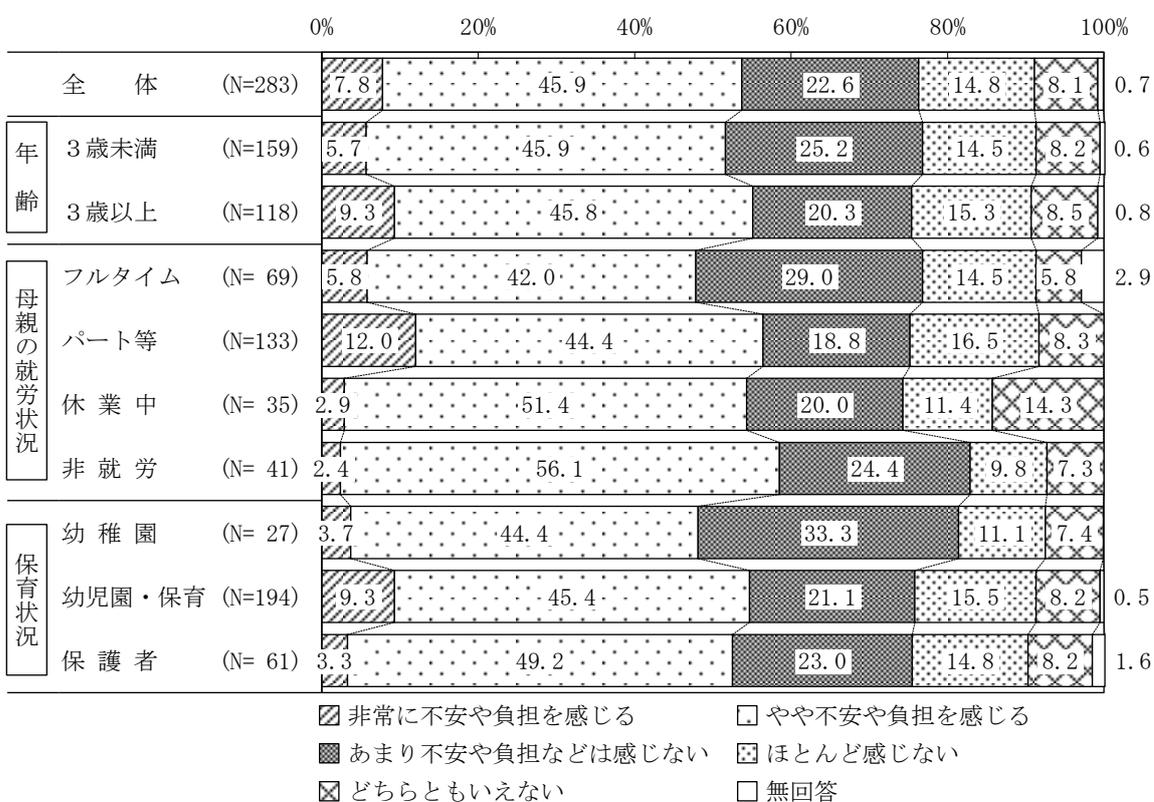


1 2 子育て観やサービスの満足度

(1) 子育てに関する不安や負担

子育てに関して不安や負担を感じたことがあるかたずねたところ、「やや不安や負担を感じる」が45.9%と最も高く、これに「非常に不安や負担を感じる」(7.8%)を加えた〈不安や負担を感じる〉が53.7%を占めています。「あまり不安や負担などは感じない」(22.6%)と「ほとんど感じない」(14.8%)を合計した〈不安や負担は感じない〉は37.4%です。

図表1-96 子育てに関する不安や負担

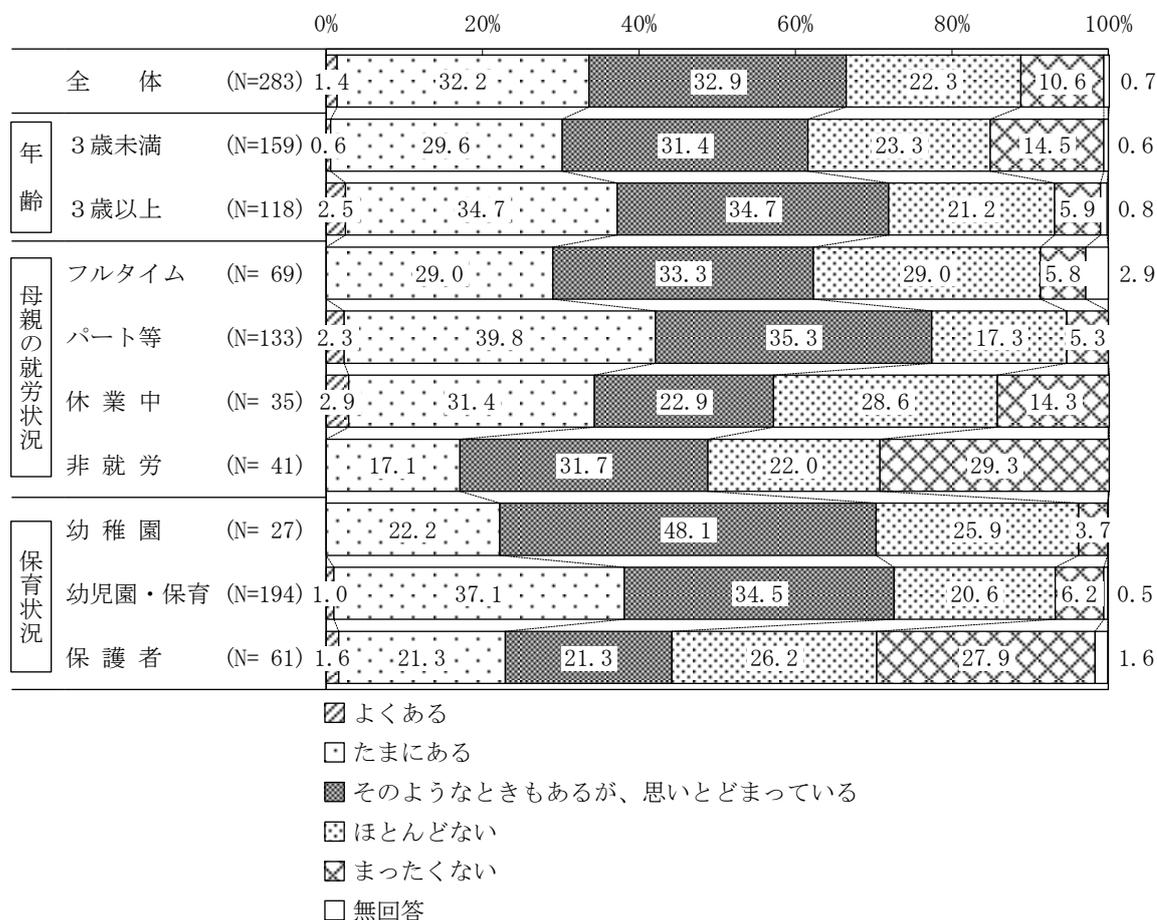


(2) 子どもに対する暴言や暴力

「子どもに対して思わずたいたり、子どもの心を傷つける言動をしたり、子どもの世話をしないことがあるか」という設問では、「そのようなときもあるが、思いとどまっている」が32.9%と最も高くなっていますが、「よくある」(1.4%)と「たまにある」(32.2%)を合計した〈子どもを傷つけることがある〉が33.6%あります。

子どもの年齢別にみると、3歳以上は3歳未満に比べて〈子どもを傷つけることがある〉が7.0ポイント高くなっています。また、母親の就労状況別にみると、パート等は〈子どもを傷つけることがある〉が42.1%の高い割合です。

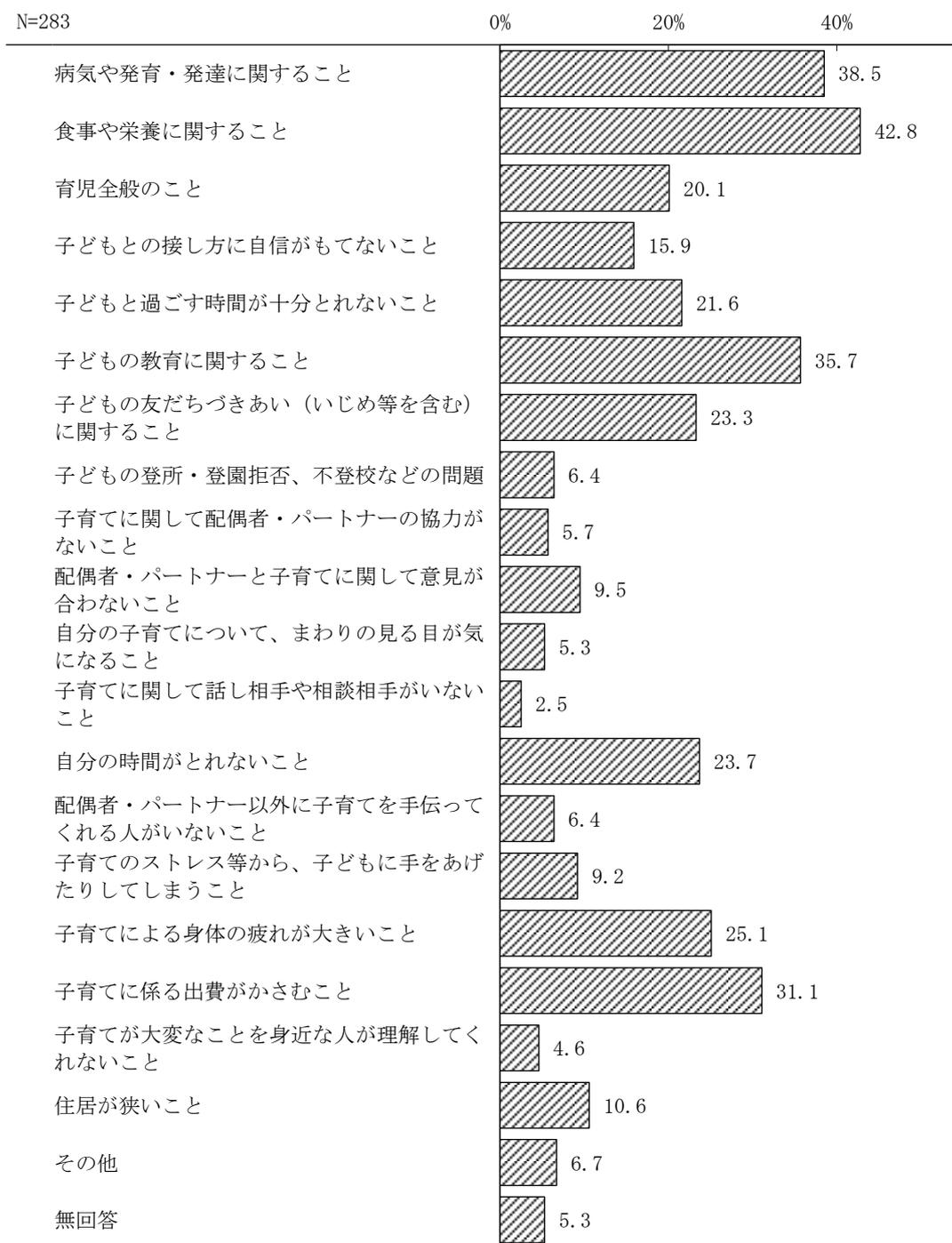
図表1-97 子どもに対する暴言や暴力



(3) 子育てに関する悩みごと、気になること

子育てに関して、日頃悩んでいることや気になることは「食事や栄養に関すること」が42.8%と最も高く、次いで「病気や発育・発達に関すること」(38.5%)、「子どもの教育に関すること」(35.7%)、「子育てに係る出費がかさむこと」(31.1%)となっています。

図表1-98 子育てに関する悩みごと、気になること（複数回答）



子どもの年齢別では、3歳未満は3歳以上に比べて「食事や栄養に関すること」、「子育てに係る出費がかさむこと」が15ポイント以上高くなっています。

母親の就労状況別では、フルタイムやパート等に比べて、休業中や非就労は「食事や栄養に関すること」が高くなっています。また、フルタイムは「子どもと過ごす時間が十分とれないこと」が47.8%の高い割合です。

「その他」として図表1-100の内容が記載されていました。

図表1-99 子育てに関する悩みごと、気になること（年齢・母親の就労状況別、複数回答）

単位：Nは人、他は%

区 分	年 齢		母親の就労状況			
	3歳未満	3歳以上	フルタイム	パート等	休業中	非就労
N	159	118	69	133	35	41
病気や発育・発達に関すること	40.3	36.4	30.4	39.1	31.4	53.7
食事や栄養に関すること	50.3	33.1	34.8	35.3	51.4	70.7
育児全般のこと	22.6	16.1	20.3	19.5	14.3	24.4
子どもとの接し方に自信がもてないこと	19.5	11.0	7.2	18.8	11.4	24.4
子どもと過ごす時間が十分とれないこと	16.4	28.0	47.8	16.5	14.3	2.4
子どもの教育に関すること	34.0	36.4	31.9	36.1	31.4	43.9
子どもの友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること	19.5	28.8	20.3	28.6	11.4	22.0
子どもの登所・登園拒否、不登校などの問題	7.5	4.2	4.3	6.0	17.1	2.4
子育てに関して配偶者・パートナーの協力がでないこと	6.3	5.1	2.9	7.5	5.7	2.4
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと	11.9	5.1	5.8	12.8	11.4	4.9
自分の子育てについて、まわりの見目が気になること	6.9	2.5	1.4	7.5	8.6	2.4
子育てに関して話し相手や相談相手がないこと	1.3	3.4	2.9	3.0	-	2.4
自分の時間がとれないこと	25.2	19.5	26.1	22.6	31.4	17.1
配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	8.2	4.2	4.3	9.0	2.9	4.9
子育てのストレス等から、子どもに手をあげたりしてしまうこと	8.2	10.2	8.7	10.5	11.4	4.9
子育てによる身体の疲れが大きいこと	29.6	16.1	20.3	25.6	37.1	19.5
子育てに係る出費がかさむこと	37.7	21.2	30.4	33.1	25.7	29.3
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれないこと	5.0	2.5	2.9	5.3	5.7	4.9
住居が狭いこと	12.6	6.8	7.2	9.8	14.3	14.6
その他	7.5	5.9	7.2	4.5	11.4	9.8
無回答	5.0	5.9	5.8	6.8	2.9	-

図表 1-100 子育てに関する悩みごと、気になること（その他、複数回答）

- ・仕事と育児の両立（2人）
- ・仕事と家事であり時間がないこと
- ・仕事と子育てのバランスの取り方
- ・1年しか産休～育休が取れないこと。休むことはできるが、お金が出ないので、経済的に復帰せざるを得ない
- ・仕事と育児を両立するための働き方（フレックス、リモートワーク）が、職場に整備されていないこと
- ・子育てに関して女性の負担が大きすぎると思う
- ・出費だけでなく、子どもがいない同世代の女性より、稼げない人が多いと感じる
- ・公共のサービスで、子どもを預けられるところが、揖斐幼稚園しかないこと。定員が1、2名のため、預けたいときに預けられない
- ・これから必要なお金や、夫婦の老後の生活等、収入面でもっと充実させたいこと
- ・小児科ではなく、子ども専門病院がないこと
- ・子どもの世話が祖母にかかっているため、日曜日も家族に予定があり、必要なときに、保育園が利用できるとうれしいです
- ・急なお迎えが無理なときや、園が休園になった場合に、仕事を休めないので、預かり先がほしい
- ・同居の祖父の言動が時々きつい。大人ならわかることだが、大人と同じように冗談を言うので、子どもは本気にして泣いてしまう。周囲（祖母・母）が、注意しても理解してくれない。すぐ忘れる。いつもではないが祖父の言動が気になる
- ・祖父母が必要以上に関わってくる
- ・現在、別居中で、子どもに会うことができていない
- ・家系的な問題
- ・地域が協力的でないこと
- ・特になし（2人）

(4) 子育てに関する情報の取得方法

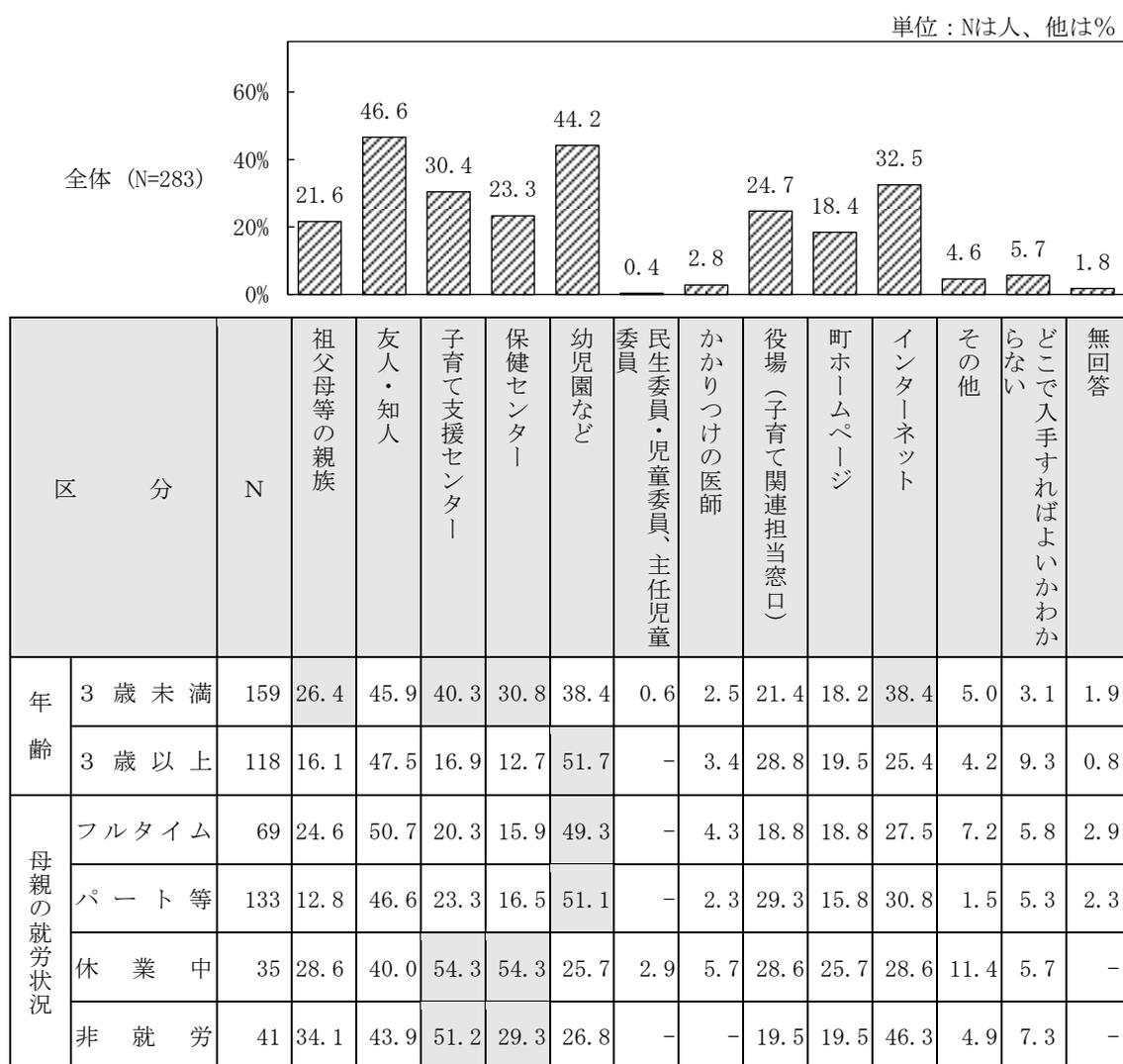
子育てに関する情報の取得方法は「友人・知人」が46.6%と最も高く、「幼稚園など」(44.2%)、「インターネット」(32.5%)、「子育て支援センター」(30.4%)となっています。また、「どこで入手すればよいかわからない」が5.7% (16人) あります。

子どもの年齢別では、3歳未満は3歳以上と比較して「祖父母等の親族」、「子育て支援センター」、「保健センター」、「インターネット」が高く、「幼稚園など」が低くなっています。

母親の就労状況別では、フルタイムやパート等に比べて、休業中や非就労は「子育て支援センター」、「保健センター」が高く、「幼稚園など」が低くなっています。

「その他」として「広報(11人)」、「広報無線」、「パンフレット」、「児童発達支援事業所」という記載がありました。

図表1-101 子育てに関する情報の取得方法(複数回答)

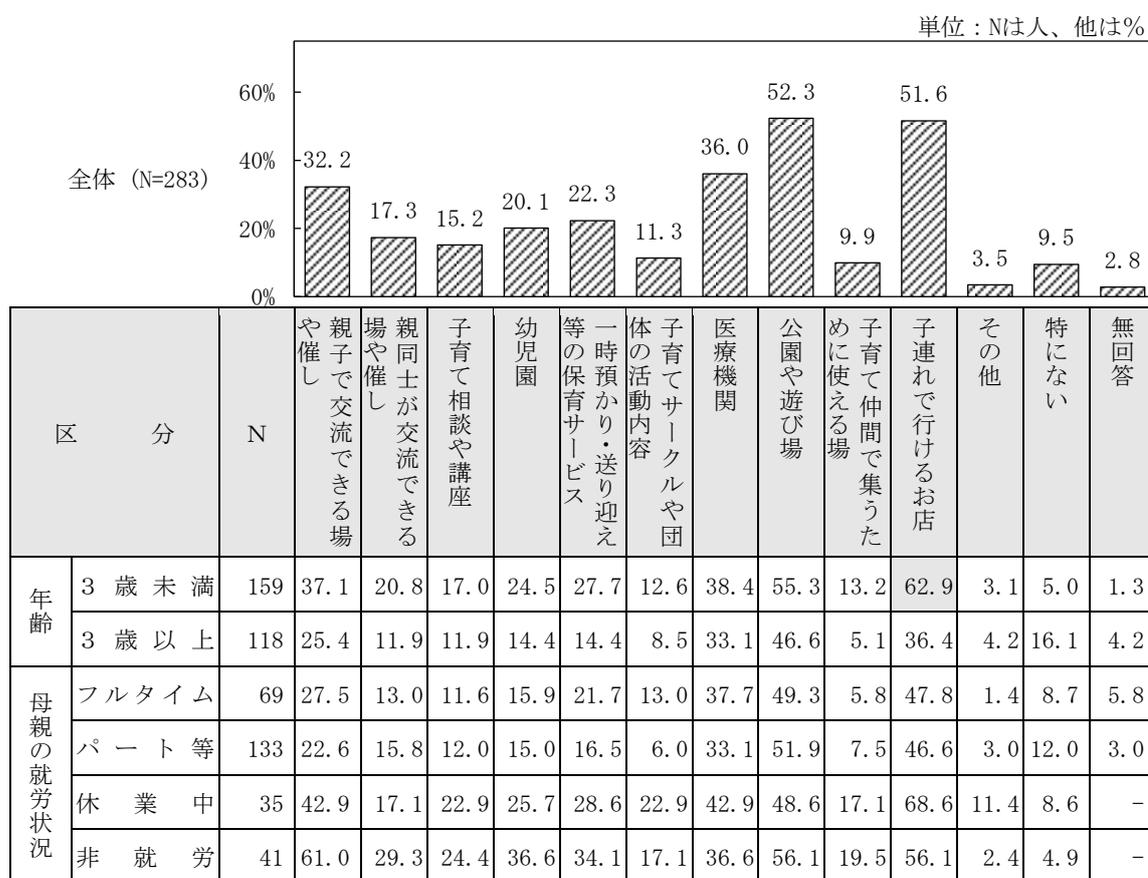


(5) 子育てに関して知りたい情報

子育てに関して知りたい情報は「公園や遊び場」、「子連れで行けるお店」が過半数を占めています。また、「医療機関」(36.0%)、「親子で交流できる場や催し」(32.2%)も30%を超える高い割合です。子どもの年齢別では、3歳未満は3歳以上に比べて「子連れで行けるお店」が26.5ポイント高くなっています。母親の就労状況別にみると、フルタイムやパート等に比べて、休業中や非就労は多くの項目で高くなっています。

「その他」として図表1-103の内容が記載されていました。

図表1-102 子育てに関して知りたい情報（複数回答）



図表1-103 子育てに関して知りたい情報（その他、複数回答）

- ・子育てのライフハックのようなもの。こういう方法で少し楽に育児ができるなど
- ・発達の遅れ等の子がいる親のサークル
- ・カウンセリング
- ・習い事
- ・金銭的な手当や助成の申請方法
- ・申請すればもらえるお金や受けられるサービス
- ・奨学金等の補助
- ・子連れで行けるお祭り、マルシェ
- ・子連れ可能なマタニティヨガ
- ・産後体操
- ・保育付ジム
- ・育児をしながらでも働きやすい職場の紹介。求人情報

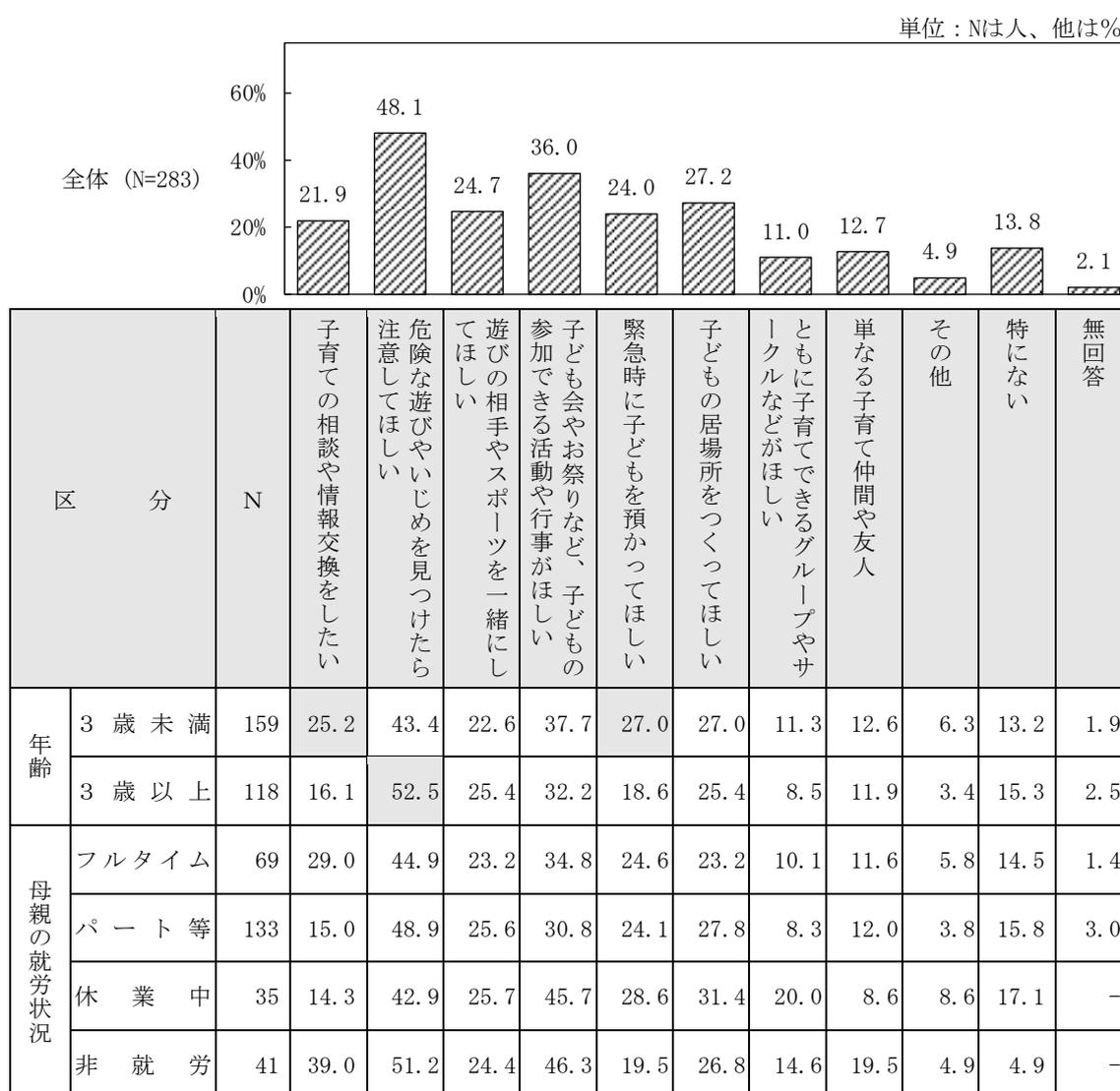
(6) 子育てに関して地域に求めること

子育てに関して地域に求めることは「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」が48.1%と最も高く、「子ども会やお祭りなど、子どもの参加できる活動や行事がほしい」(36.0%)、「子どもの居場所をつくってほしい」(27.2%)などとなっています。

子どもの年齢別では、3歳未満は3歳以上に比べて「子育ての相談や情報交換をしたい」、「緊急時に子どもを預かってほしい」が高く、「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」が低くなっています。

「その他」として図表1-105の内容が記載されていました。

図表1-104 子育てに関して地域に求めること（複数回答）



図表 1-105 子育てに関して地域に求めること（その他、複数回答）

- ・お金の補助
- ・児童手当等、もらえるお金が増えると嬉しい
- ・経済的支援
- ・運動ができる施設
- ・車通りの少ない場所で広い公園を増やしてほしい
- ・公園等遊ぶ場所。山の方には公園・遊具がない
- ・児童館がほしい
- ・土、日曜日も子育て支援センターを開けてほしい
- ・幼稚園での一時預かりではなく、親の用事で気軽に子どもを預けられる場所がほしい
- ・子育て支援センターでママサークルができる部屋がほしい
- ・こちらが調べて、手続きを行う前に、子育てに関する情報・サービスの内容等を出産時に提供してほしいです
- ・職員のスキルアップ。はっきり言って何も任せられるレベルではない
- ・オーガニック給食等、食の質を高めてほしい
- ・役員等を減らしてほしい
- ・医療機関（小児科、夜間救急等）
- ・山奥すぎてないため、学習塾
- ・移住者を受け入れてほしい

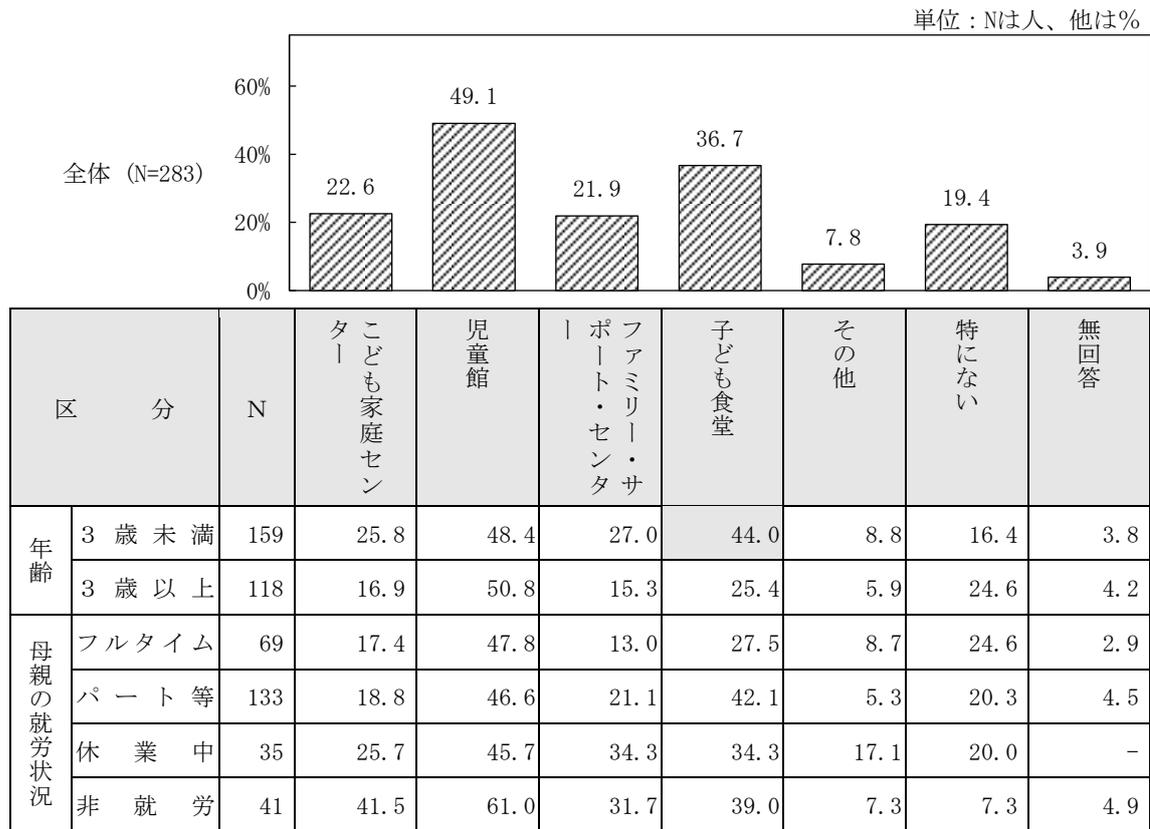
(7) 揖斐川町にあるとよい子育て支援施策

揖斐川町にあるとよい子育て支援施策をたずねたところ、「児童館」が49.1%と最も高く、「子ども食堂」(36.7%)、「こども家庭センター」(22.6%)となっています。

子どもの年齢別では、3歳未満は3歳以上に比べて「子ども食堂」が18.6ポイント高くなっています。

「その他」としての図表 1-107の内容が記載されていました。

図表 1-106 揖斐川町にあるとよい子育て支援施策（複数回答）



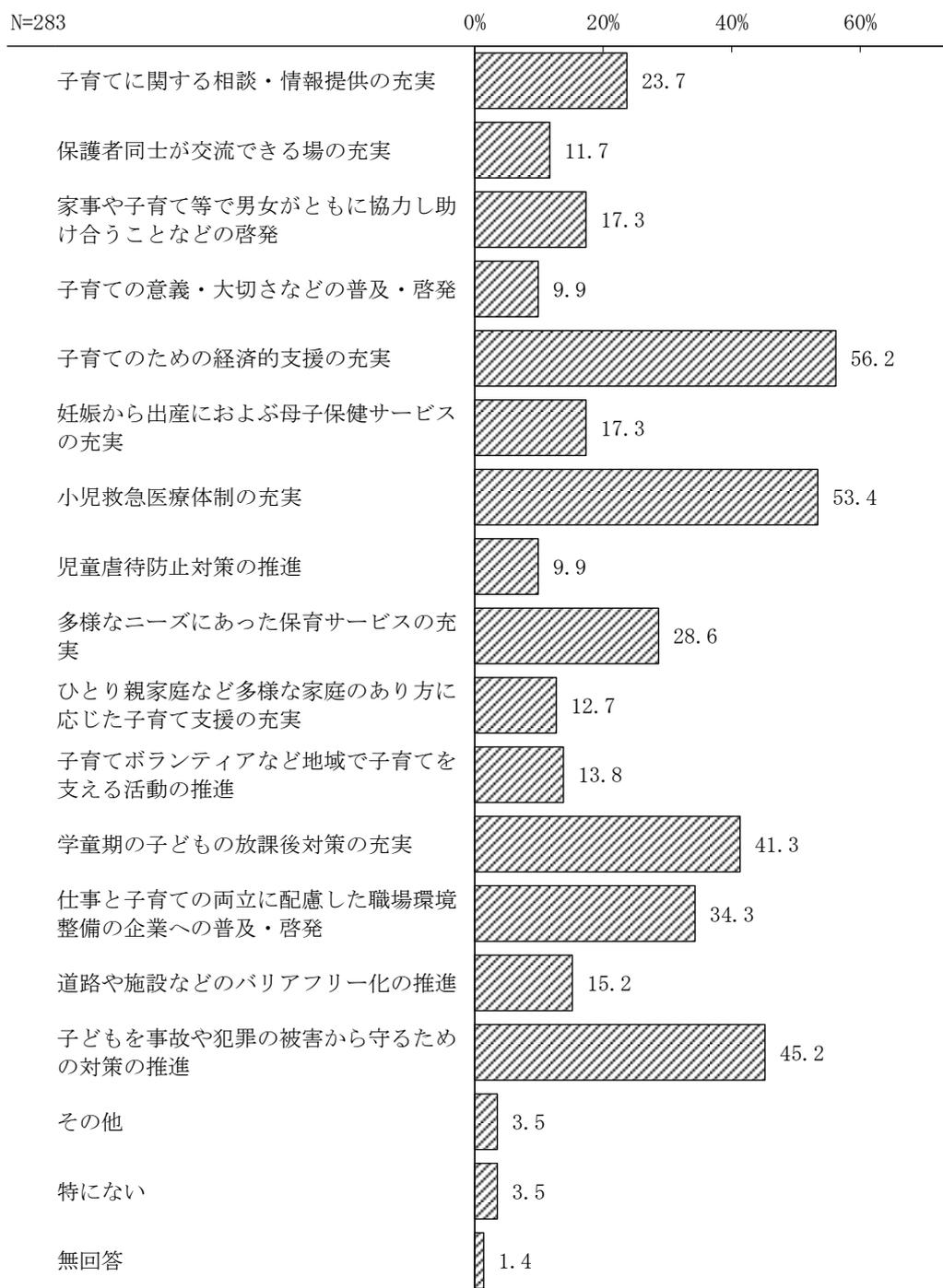
図表 1-107 揖斐川町にあるとよい子育て支援施策（その他、複数回答）

- ・病児・病後児保育（3人）
- ・簡単に利用できる病児保育
- ・放課後等デイサービス（2人）
- ・産後ケアホテル
- ・産後ケアをもっと充実させるといいと思います。育児指導では特に、お母さんのケアを大切に
- ・子連れ可能なマタニティヨガ
- ・産後体操
- ・保育付ジム
- ・児童発達支援事業
- ・夕方の学童の充実
- ・ドゥーラ（出産前・出産中・産後早期を通して継続的な身体的、心理的なお産のサポートができる専門家）の利用支援・援助
- ・ベビーシッター
- ・24時間対応の子育てサロンのようなところ。夜泣きで息がつまりそうとき、日中、泣いてどうしようもないとき、ママが子どもと一緒に気分転換がてら、出掛けられるところがほしい
- ・習い事（習字、ピアノ、スポーツ等）
- ・平日、就労後（18:00以降）でも通える子どものスポーツ教室や英語、ダンス等の習い事
- ・大野町の中小前のような、近くに小学生も遊べるような公園や広場がほしい
- ・休日も遊べる室内遊具の施設
- ・室内の遊び場
- ・経永、清水地区等に小規模のものでいいので、ゆめパークのような公園がほしい
- ・スケートパーク
- ・子どもも大人も楽しめる施設
- ・両親が共働きで、休みも不定期です。土、日曜日に気兼ねなく預けて安心して働ける揖斐川町を希望します
- ・子どもの送迎サービス

(8) 力を入れてほしい子育て支援

力を入れてほしい子育て支援をたずねたところ、「子育てのための経済的支援の充実」が56.2%と最も高く、「小児救急医療体制の充実」(53.4%)、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」(45.2%)、「学童期の子どもの放課後対策の充実」(41.3%)となっています。

図表1-108 力を入れてほしい子育て支援 (〇は5つまで)



子どもの年齢別では、3歳未満は3歳以上に比べて「子育てのための経済的支援の充実」が高く、「学童期の子どもの放課後対策の充実」が低くなっており、それぞれ10ポイント以上の差があります。

「その他」として、図表1-110の内容が記載されていました。

図表1-109 力を入れてほしい子育て支援（年齢別・母親の就労状況別、○は5つまで）

単位：Nは人、他は%

区 分	年 齢		母親の就労状況			
	3歳未満	3歳以上	フルタイム	パート等	休業中	非就労
N	159	118	69	133	35	41
子育てに関する相談・情報提供の充実	23.9	23.7	26.1	18.8	31.4	26.8
保護者同士が交流できる場の充実	12.6	10.2	10.1	12.0	8.6	14.6
家事や子育て等で男女がともに協力し助け合うことなどの啓発	20.1	14.4	14.5	19.5	17.1	14.6
子育ての意義・大切さなどの普及・啓発	8.8	11.0	8.7	10.5	8.6	9.8
子育てのための経済的支援の充実	61.6	48.3	50.7	54.9	62.9	61.0
妊娠から出産におよぶ母子保健サービスの充実	20.1	12.7	17.4	15.0	20.0	19.5
小児救急医療体制の充実	55.3	50.8	53.6	54.1	54.3	48.8
児童虐待防止対策の推進	8.8	11.0	11.6	10.5	5.7	9.8
多様なニーズにあった保育サービスの充実	32.1	24.6	30.4	24.8	31.4	36.6
ひとり親家庭など多様な家庭のあり方に応じた子育て支援の充実	10.7	14.4	10.1	12.8	8.6	17.1
子育てボランティアなど地域で子育てを支える活動の推進	13.2	13.6	11.6	13.5	14.3	19.5
学童期の子どもの放課後対策の充実	36.5	47.5	44.9	42.9	40.0	34.1
仕事と子育ての両立に配慮した職場環境整備の企業への普及・啓発	35.2	33.1	31.9	34.6	25.7	43.9
道路や施設などのバリアフリー化の推進	18.9	10.2	15.9	15.8	17.1	12.2
子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進	44.7	46.6	42.0	44.4	37.1	58.5
その他	3.8	2.5	2.9	2.3	14.3	-
特になし	3.1	4.2	2.9	3.0	5.7	4.9
無回答	0.6	2.5	2.9	1.5	-	-

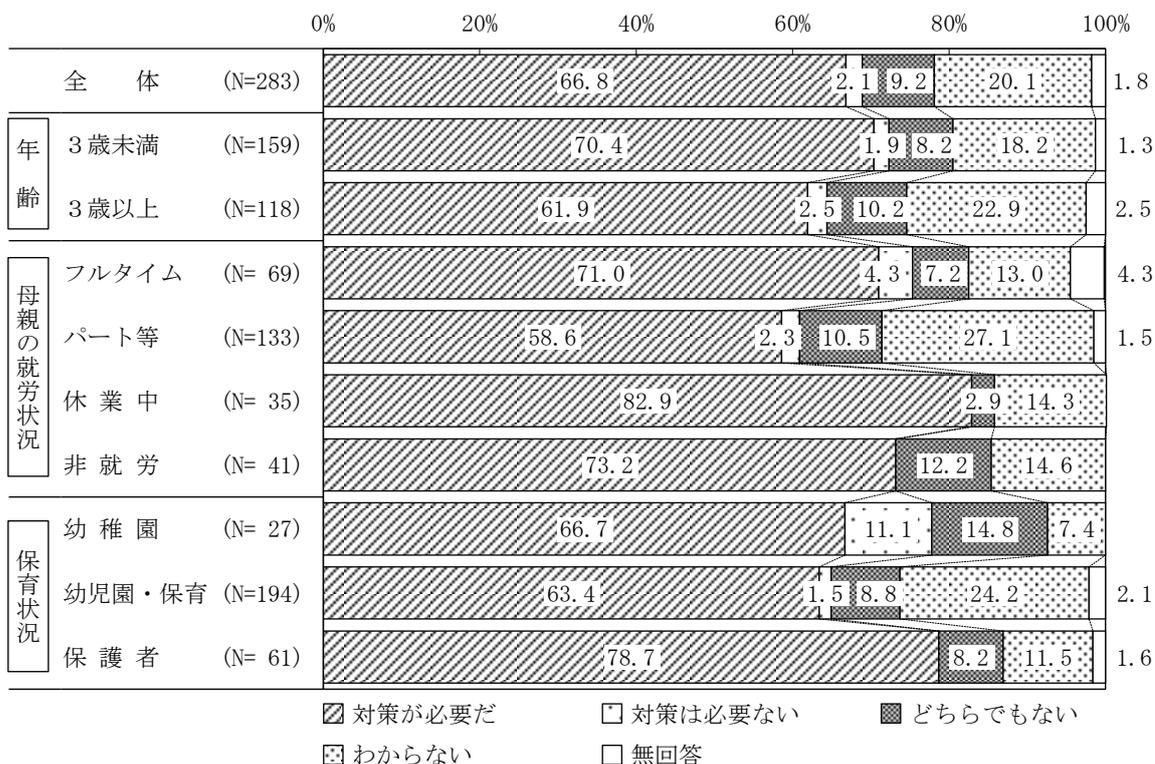
図表1-110 力を入れてほしい子育て支援（その他、○は5つまで）

- ・ 幼稚園の登園時間（受け入れ時間）を早くしてほしい
- ・ 子ども食堂や児童館等、子どもの居場所の充実
- ・ 土、日曜日に、子どもが利用できる室内の施設ができれば嬉しい
- ・ 子どもが遊べる場所
- ・ 極楽寺周辺に用水路があって危ないので何とかしてほしい。雪の日が特に危ない
- ・ 親の負担が大きいため、子ども会の廃止

(9) 揖斐川町の人口減少や少子化の現状に対する考え方

「揖斐川町の人口減少や少子化の現状についてどう思うか」という設問では、「対策が必要だ」が66.8%を占め、「わからない」(20.1%)、「どちらでもない」(9.2%)、「対策は必要ない」(2.1%)となっています。

図表 1-111 揖斐川町の人口減少や少子化の現状に対する考え方



1 3 意見・要望等

(1) 子育て支援全般

- 日頃よりお世話になっております。大切な子どもたちを守るために、引き続き支援をよろしく
お願いします。(0歳)
- チャイルドシートやお祝い金等、子育てしやすい環境だと思います。ありがたいです。(1歳)
- 他の自治体と比べて、揖斐川町の子育ての支援は手厚いと感じています。今後も継続していた
だけると嬉しいです。(4歳)
- 皆さんの意見を全て聞くのは大変だとは思いますが、可能な範囲での対策を、どうぞよろしく
お願いします。(6歳)
- 幼児や小学生でも買い物ができる場所がほしい。コンビニではなく駄菓子屋とか、危なくない
場所に(3歳)
- 町外からの人が見ても、魅力的な育児政策を積極的に取り入れ、児童の人数を増やしてほし
い。(3歳)
- 出産前後の子どもの預かりや送り迎え、親(自分自身)や子どもの入院で父親か母親のどちら
かが動けなかったとき、残った子どもたちの預かりや送り迎えを頼めるとありがたいと思
いました。(1歳)
- 少子化が進んでいく中で、子どもが小学生になる頃に、クラスの人数がかなり少なくなると思
います。揖斐川町で子育てがしやすい支援を手厚くしていただけると、転入者が増えるので、
大きく変えていってほしいです。(1歳)
- 子育て世帯が急激に減っていて、まちに活気がなくなってきているのを感じます。揖斐川町は
素敵どころがたくさんあるのに、働く世帯は、ますます減る一方だと思います。明石市のよ
うな取組がないと、さらに揖斐川町は高齢者ばかりのまちになりそうです。(3歳)
- 同居も少なくなり、核家族化が進んでいます。町外から移り住む方も多くなったと思います。
周りに祖父母や親族がいなくて、頼れない場合も多々あります。そのことも踏まえてサービ
スを考えていただけるとよいと思います。(年齢不明)
- 子ども食堂はとってもありがたい。大きくなってお友だちと休みの日に食べに行って遊べる
日があれば、親も自分の時間が持てて嬉しい。(3歳)
- クリスマスのデザートがケーキからゼリーになり、パンの日が減った等、給食が質素化されて
いるように感じる。子どもたちが、しっかりお腹いっぱい食べられるよう、少額でもお金を集
めた方がいいと思う。(4歳)

-
- 揖斐川町は子育て支援が、充実しておりありがたいです。我が子もちろんですが、多くの大人の目で子どもを見ながら、躰けていくことが必要ではないかと、今の子どもたちを見て思います。様々な家庭がある中で、多くの大人で補っていけるよう、町民が動きやすいような雰囲気・制度を考えてもらいたいです。(6歳)
 - 親が子どもをみる時間も必要だと思う。何でもかんでも他人にみてもらっていたら、子ども自身が愛情不足になってしまう。(6歳)
 - 高校に行きにくいです。人のいるまちづくりをハード面から改善してほしいです。土地を買って家を建てるのは厳しいです。(6歳)
 - 子どもが乳児の場合、荷物が多くなり、体調・授乳のタイミング等があり、なかなか外出しづらいので、オンラインで参加できるサークル等があると参加しやすくいいと思います。(1歳)
 - 1人目の妊娠直後は、想像と現実の子育てのギャップでうつ気味になりました。妊娠中から、お父さん、お母さんがそれを知る機会があればよいと思います。どちらか片方の親が働いていなくても、育休を取りやすい環境をつくってほしいです。祖父母の高齢化や周りに頼る人がいないとき、大人がいるだけで、お母さんの心の安定に繋がり、育児に個々の余裕ができると思います。(3歳)
 - 児童養護施設以外のショートステイ先の新設を特に希望する。(5歳)
 - コロナ禍で、交流の場が閉ざされることが多かったので、同年代の子ども同士の交流の機会が少なく、どうしても家庭内で母親との時間が長く、人見知り心配なため、これからは交流できる場を増やしてほしい。(0歳)

(2) 幼稚園・保育園・幼稚園

- 幼稚園の先生を増やして子どもの対応を充実させてほしい。(5歳)
- 幼稚園に通わせていただいておりますが、保育士不足の解消や保育・教育に必要な経費がもう少しあると、より手厚い保育環境づくりができるのではないかと思います。先生や子どもたちが、毎日楽しく過ごせる手助けを今後ともよろしくお願いします。(2歳)
- 幼稚園の先生方の負担が大きいと思うため、仕事の簡素・省略化をした方がよいと思う。金額面でなく仕事量、内容をきちんと見直し、先生方が働きやすい環境をもっと整えてほしい。(4歳)
- 保育士の給料・待遇の向上。(4歳)
- 揖斐幼稚園の駐車場が狭い。どうにかしてほしい。(3歳)

-
- 幼稚園の遊具が壊れて撤去されていくが、新しい遊具が入ってこないのが、年々減って行って寂しい。新しい遊具を検討してほしい。(5歳)
- 揖斐川町の自然のよさを活かした教育・保育をもっとやってほしいと思います。(1歳)
- 幼稚園の昼寝について、クラスの半数以上の子が夕方寝てしまう、機嫌が悪いという姿が多いので、子どもの体力的にも、年少は年間を通して行う方が生活習慣も整うように思います。(6歳)
- 上の子が幼稚園に通うときに、下の子がまだ未就園児で、年少クラスの年齢になっていない場合、条件なしで2号認定を受けられるようにしてほしい。上の子が昼食後に帰宅すると下の子が昼寝できない。(1歳)
- 第2子を出産したタイミングで1番上の子は、保育園を利用しておらず、家庭で保育しなければならない状況でした。日中は、親族も仕事があり、産後は1人で保育しなければならないので、保育園を利用したかったのですが、定員に達しているため利用できませんでした。利用したいときに利用できる受け皿をつくっていただけるとありがたいです。第3子を出産したときには、上の子2人は幼稚園を利用しており、時間外保育等、柔軟に対応していただけたので助かりました。(0歳)
- 幼稚園の慣らし保育を親の就労開始日からしかできないのはなぜか。就労のための幼稚園の預かりなのに、就労早々慣らしのために、有休を消化して対応しろという制度なのか。矛盾していないか。大野町や他の自治体は、入園予定日の1か月前から慣らし保育を受付してもらえる。揖斐川町は子育てに厳しすぎる。今まで声が上がらなかったのも疑問。早急に改善してほしい。(年齢不明)
- 幼稚園の希望保育(夏・年末年始・春)を利用させていただいていますが、勤務先の本社が遠方ということもあり、社印を取得するのに、とても時間がかかります。また、社印の取得にあたり、直属の上司にも勤務証明をしてもらわなければいけないため、工数がかかっています。希望保育申請をもう少し簡素化することはできないでしょうか。もしくは、直属の上司のデータ印でよくなるとありがたいです。(4歳)
- 育休明け入園希望や産休に入る前の入園希望の募集期間が前年度願書受付時と同じであるということに疑問を感じます。また、祖父母や親戚が近隣にいることが当然であるかのような、子育て支援システム、幼稚園の対応も少し改善してほしいです。食育に力を入れているのであれば、幼稚園で提供されるおやつの内容を是非とも見直していただきたいです。(4歳)
- 雪の日は希望保育にして、本当に必要な人だけ預ければいいと思う。雪道は危険だが、保育園、小学校があると仕事も休めない。大雪警報が出ている中、通園、通学して何かあったとき

に保証してくれるのか。休みにしてほしい。(6歳)

○休日保育も給食があると助かります。(2歳)

○今の園では、子どもたちが、楽しくすくすく育ってくれているので感謝です。(2歳)

(3) 不定期に利用する子ども・子育て支援事業

○働いている母親の手助けとなる施設がほしい。土・日曜日に開所している支援センターやシッター等の充実。急な残業でお迎えに行けないときのサポート制度等を利用できるようにしてほしい。特に病後・病後児保育については利用できるようにしてほしい。父母ともに有休が足りない。本当に仕事と子育ての両立が難しいと感じる。また、子どもは朝起きて体調が悪いときが多いので当日利用できるようにしてほしい。(4歳)

○病児保育や就園している子ども、預かってもらえるところや、サービスがないので困っています。今は少し子育てしにくいまちだと考えています。(1歳)

○一時保育等、兄弟がいる場合、同じ園でできるとありがたいです。また学校式典時等、町内同日となり、人数の枠が少ないと利用しにくいです。(年齢不明)

○一時保育の定員をもっと充実させてほしい。アンケートをとるだけで終わらないでほしい。ファミリー・サポートが成り立たないなら、ドゥーラ等、民間のもので充実させてほしい。(1歳)

○土・日曜日は仕事があるため、預かり先があると嬉しい。子どもの数がすごく減っており不安になる。(1歳)

○他の地域のことは、あまりわかりませんが、揖斐川町はとても子育てしやすいと感じています。保育料・医療費の無償化、児童手当等手厚いと思います。ただ、いつも子どもと一緒に行動しているので、未就園児等を気軽に半日預けたりする場所を設けてもらえると、少し自分の時間ができて、1人で気軽にフレッシュできると思います。そうすると親の気持ちも余裕がでてくるような気がします。(1歳)

(4) 遊び場

○公園が増えたのはすごくありがたいです。(1歳)

○公園もつくってもらえて、子どもたちがのびのび遊べる場所ができたことがありがたいです。(4歳)

○公園をもっとあるといいなと思います。

○公園や商業施設等、家の近くに子どもが遊べる場所がほしい。車がないと遊びに行けないとこ

るばかりなので、自転車や徒歩で行ける環境が非常にほしい。(3歳)

○地区ごとに、公園を新しくつくってほしいです。歩いて行けるところにありますが、私が子どものころに建てられたままで、もったいないです。室内で遊べるところがあると嬉しいです。

(5歳)

○子どもを遊ばせられるところが少ない。各地区に公園がほしい。(4歳)

○揖斐川町に公園ができ、大きい子と小さい子が遊べるゾーンが分かれていて、水遊びもできていいと思います。もう少し大きくなったら利用したいです。(0歳)

○おじまーの隣りに公園があったら、交流が増え、活気が出そう。自由に使える空き地でもいい。(5歳)

○アスレチックのような、子どもが楽しめる遊具のある公園を増やしてほしいです。外で遊ぶ子どもが増えてコミュニケーションを取り、健康的な生活が送れるので、とてもいいと思います。

(1歳)

○公園の使い方。ごみを平気で捨てる小学生。マナーが悪い小・中学生。小学生にゲームや菓子を与える中高生。公園にいる高校生。(3歳)

○大野町にパレットピアのような、子どもが遊べる施設とカフェのようなものがあると、ママたちのリフレッシュの場になるのかなと思います。町外から来たいと思うような、木を使った子どもの遊び場とか、おしゃれでかわいい場所だと、町の発展にも繋がると思います。(1歳)

○バスケットゴールを増やしてほしい。(1歳)

○屋外で体を動かして遊べるところを増やしてほしい。夏、暑くても遊べるよう公園全体に屋根がほしい。冬、天候が悪くても遊べるよう、園や学校の遊戯室、体育館を開放してほしい。閉校した学校の備品(平均台等)を有効利用して、たくさん体を動かせるようにしたらどうか。山が多いので、活発に遊べるアスレチックをつくってほしい。(5歳)

○自然がいっぱいのところで子育てできるのは、貴重なことだと思いますので、それを活かした施設があると嬉しいです。また、商品券が使えるところが少ないので管轄外かもしれませんが、子どもの食費が多いので、スーパーやドラッグストア等、日常的に利用できる場所で使いたいです。(1歳)

○支援センターも行きづらく、子を遊ばせる場所(室内)が、少なすぎると思う。(2歳)

○使っていない保育園が家の前にあるのですが、そこを開放してもらえると遊ぶ場所ができる。藤橋は公園が少ないので、遊具で遊ばせたい。(1歳)

○もっと土地の有効利用をしてほしい。キャンプ、スケートパーク等、体を動かせる施設を増やしてほしい。(0歳)

○地域の繋がりが疎遠になりつつあり、子どもの居場所が減っているのが気になっている。(2歳)

(5) 支援が必要な子ども

○家庭のこと、子どもの発達のことを理解してくださり、子どもに合った方法で、幼稚園にも通わせてくださりありがとうございます。すごく恵まれた環境で子育てをさせてもらえ、とても嬉しく思っております。(1歳)

○1人で1～2校を受け持つ形でいいので、アップルのように、小学校にもっと気楽に相談できる方がいたらよいかと思います。学校だけでなく、外部にでもよいです。小学生になると親は家から送り出して迎えるだけです。園のように先生に毎日会って話をすることがなくなるので、気になることがあっても、なかなか相談できません。アップルが終了したらどうすればいいのか気になります。(年齢不明)

○障がいがある子を持つ親にとって、子育てしやすく便利な環境を望みます。事業所や利用計画等、全て自分で探さなければならず、放課後等デイサービスも利用できる場所が少なく探すのが大変な現状です。発達検査も予約が取りにくく、近くで検査できないので、保育園や仕事も休まざるを得ません。町内で全ての検査や手続きができれば嬉しいです。(6歳)

○特別支援学級を町内すべての学校に設置してほしい。(5歳)

○障がいのある子のおむつ代を助成している自治体があると聞いた。揖斐川町もぜひ取り入れてほしい。(5歳)

(6) 子育て支援センター

○日頃、子育て支援センターを利用していますが、子どもが遊ぶホールは、今は暖房がないため、夏は扇風機のみで外と同じ30℃を超える暑さ、冬は石油ストーブでとても寒いです。おもちゃ等は充実していて、先生もいい方ばかりで子どもも支援センターに行きたがりますが、特に夏は利用頻度が減ってしまいます。空調設備を整えていただけたらと思います。ご検討よろしくをお願いします。(0歳)

○支援センターを利用させてもらっていますが、夏は本当に暑く、冬はとても寒いので、子どもの体調が悪くならないか心配なほどです。小さい子が利用するので、そういった環境にも気をかけていただけるともっと利用しやすくなります。(0歳)

○支援センターの冷暖房の整備をしてほしいです。夏は非常に暑く、冬は非常に寒いです。小さい子にとって不適切です。(3歳)

-
- 揖斐川町は子育てについては、昔のやり方のままで、力を入れていません。支援センターの遊び場にクーラーがありません。
 - 子育て支援センターについて、車を止められる数が少ないと思います。ホールでクーラーが使えないので、夏季の暑さ対策をお願いします。ランチ時間と部屋の復活を望みます。(3歳)
 - 支援センターをもっと広くしてほしい。(4歳)
 - 子育て支援センターをよく利用させていただいております。雨で、外で遊べないときに支援センターのような施設で、土・日・祝日も室内で子どもと遊べる施設があると嬉しいです。(2歳)
 - 休日に支援センターを開けてほしいです。平日は、毎日仕事で、土・日曜日にワンオペになることが多いので、利用したいです。そのとき、ママ友等と話すことで、ストレス発散にもなります。雨の日や寒い日等、公園には行けず、一日中家で過ごすことは、とても大変です。(2歳)
 - 子育て支援センターの建て替え、もしくは雨天時に遊べる施設を増やしてほしい。(4歳)
 - 1歳までは定期的に身体測定ができる育児サークル(いびレディース)があったのですが、それ以降は、ほとんどできていないので、支援センター等、普段よく行く場所で行っていただくと嬉しいです。(1歳)
 - 子育て支援センターをよく利用させてもらっていますが、職員の方と話すことで親の気分転換になり、子どもものびのびと遊べてありがたいです。
 - 子育て支援センターを、以前利用したら通園中の子どもは利用できないと言われたので、それ以降は行っていませんが、通園する前は楽しく遊ばせていただきました。(3歳)
 - 子育て支援センターの行事は『子どもは参加しなくてもOK』といった自由度が高い方がいい。(2歳)

(7) 子育て環境・安全

- 幼稚園・小学校の通学路を車の抜け道に使われてしまい、交通事故がとても心配である。警察とも連携して対策してほしい。子どもたちが安心して登下校できるまちづくりをしてほしい。田舎は歩道がないため、すぐに対策を講じていただきたい。(3歳)
- 揖斐川町島地区に新しく道路が完成したが、信号がないのでとても危険。大きな事故が起きる前に検討してほしい。(3歳)
- 歩道がなく、子どもが自由に歩くスペース、自転車の利用がとても危ないです。高齢者の運転による事故が多発しており、子どもを連れての歩きはとても怖いです。いろいろなところに子

子どもと歩いて行きたいと思えるまちにしてほしいです。(4歳)

○高齢者の車の運転が多く、子どもが事故に巻き込まれないか不安。免許を返納しても不便でないように対策を強化して、返納を促す。道路や用水路等、古くなって段差があって危険がないか、チェックして補修してほしい。(1歳)

○清水小は人数が少なく「通常なら祖父が家にいるので、歩いて帰って来られるが、帰り道が1人になるため。毎日、親が学校に迎えに行っている。」という話を聞きました。サポーターさんもいてくださるのですが、その辺りが将来心配です。

○ミルクスポット(お湯が出るところ)がほしい。休日でも利用できる場所があると助かる。(1歳)

○防災対策教室を開いてほしい。子どもはお菓子プレゼント付きで。(5歳)

(8) 医療

○町内に小児専門医がいる医療機関の必要性を感じます。(4歳)

○揖斐川町内に、小児科専用の病院がほしい。気軽に子どもを預けられるところがほしい。(3歳)

○小児科専門、休日診療が充実すると思います。

○揖斐厚生病院が移転したことで、救急の対応の場に、不安を感じることがあります。(4歳)

○揖斐川町に、夜間・休日等に子どもの体調が悪くなったとき、すぐに対応してもらえる病院がほしい。(5歳)

(9) 保健センター・保健事業

○定期的にある保健センターでの健診の際に「6か月ごろからジュースを飲ませている」と答えたところ「ジュースは、1歳からしかだめ」と言われました。ジュースのパックに6か月からと書いてあったのに、強い口調で注意され、行ってあまりよかったことがないので、今でも保健センターである健診等は、あまり行きたくないです。(1歳)

○身体測定で、身長、体重に加え、足のサイズも記録対象にしてほしい。体重は、薬量の目安、身長は服。なぜ足を測ってくれないのか意味がわからない。靴のサイズを変えるタイミングが子どもからの自己申告。小さくなってから急に言ってくるので、身長、体重と共に計測項目に入れてもらえると非常に助かる。(5歳)

(10) 児童館・図書館

- 児童館等の施設があると小学生も安心して遊ぶ場が増えて、嬉しいです。(4歳)
- 図書館は幼児・児童向けの本を増やしてほしいです。(3歳)

(11) 学童保育

- 北方学童保育の預かり時間をもう30分～1時間増やしてほしい。(4歳)
- 学童や延長・早朝保育を利用していますが、本当に助かっています。(費用も含む)現場の方が働きやすいようにしてもらえたらいいと思います。(4歳)
- 夏季休暇中や平日もですが、幼稚園より学童の預かり時間が短いため、同じにしていだけるとありがたいです。(4歳)
- 小学校に入ったとき、保育園よりも早く帰ってくるので、仕事の時間を短くしたいのですが、25年以降扶養がなくなり、長く働かなくてはならないので、どうしたらいいものかと不安になっているところです。働きながら、子どもをどうみていけばいいのかと思うので、学童等を充実させてくれると助かります。(5歳)
- 体育館にエアコン設置希望。夏休み中の学童の内容の充実。(4歳)
- 揖斐川町の学童保育(小学生の夕方預かり)は、サービスが悪すぎます。こんな子育てがしにくく働きにくい学童は、ただのお飾りです。給食費の免除等、素晴らしい政策だとは思いますが、働く親をサポートする政策を充実させることに目を向けてほしいです。その方が健全だと思います。現在の学童は、利用条件が厳しいです。他の自治体は、もっとハードルが低いです。学童だけでなく、保育園の預かり保育、土曜保育全般に思うことですが、理由が仕事でないと利用できない、祖父母がいたら利用できない等、条件が限定的で厳しいです。それから、小学校内の学童の部屋が狭いです。(4歳)
- 留守家庭児童教室の利用料が高いため、母子家庭には、厳しい出費になるので、もう少し安いと助かります。(6歳)

(12) 教育・学校

- 自然豊かなところを活かした教育や課外活動や食育をもっと取り入れてほしいです。オーガニック給食を取り入れて、アレルギー物質や添加物を使わないようにしてほしいです。小規模、少人数ならではのよさを取り入れてもらえるといいと思います。教育も食も質にこだわっていただきたいです。(3歳)
- 小学校がなくならないよう、頑張ってください。(0歳)

-
- 小学生になる子どもがいますが、1クラスに10人も同級生がいない状況です。人数が少ないとできることも限られてしまいます。統合する等して、子どもの可能性を奪わないでほしいです。(1歳)
 - 少子化が進んでいるので、小・中学校の統合をしてほしい。園は少人数でもいいが、学校はある程度、人数がいる中で生活させたい。(1歳)
 - 子ども数に対して、学校数が多い。どんどん統合して、教員にかかる人件費、校舎等の箱代をカットして、より質の高い教育を受けられるようにするとよいと思う。将来的には小学校を数校、中学校は1校でいいと思う(ここ10~20年の間に)。わたしたちの揖斐川町は、大変子育てしやすい環境だと感じています。ありがとうございます。(1歳)
 - 小学校の人数が少なくなっている。統合を考えてほしい。幼稚園も小学校も子ども会も役員を担う年数の負担が大きい。(1歳)
 - 山間部に住んでいるため、同じ世代の子どもがいません。小・中学を統合し、その周辺に住宅街をつくりコミュニティをつくらないと、ずっと安心して揖斐川町で暮らせません。住宅街の補助金の制度づくりを求めます。(6歳)
 - いじめ等の元になるかもしれないので、ランドセルは自由ではなく、学校指定にしてほしい。隣の地区は、昔から指定なのにも関わらず、なぜ未だに自由なのか不思議。指定によって親の負担も減ることに気付いてほしい。(5歳)
 - 習い事をするところが少ない。子どもの習い事で、1番人気のスイミングスクールがあるといい。(6歳)

(13) 相談・情報提供

- フルタイム勤務の方が少ないのか、妊娠時に保育園の入所期間・要項に関する情報が少なく、自身で直接園に問い合わせる時間を要しました。経永に住まいがあるので、特に少なかったのかもしれませんが、母子手帳配布時にいろいろと教えていただけると非常にありがたかったと思います。(長子妊娠の場合は今後のビジョンが見えていなかったりするので。)(4歳)
- 子育てに関する情報を町のHPで、もっと積極的に公開してほしい。転入前に知る術がなく困った。(2歳)
- 子育ての希望ではないのですが、不妊治療について、手当をもっと手厚くしてほしいです。治療についての情報もほしいです。(5歳)
- 揖斐川町は子育てしやすい環境(医療費や給食費が無料等、いろいろよい点がある)なので、もっと上手にアピールすると人が集まると思う。(2歳)

-
- スポーツ少年団や地域内で習い事をしている子どもたちの様子や活動を、大会で結果が出たときだけではなく、写真付きで広報に載せてほしい。(5歳)
 - 北方町では毎月赤ちゃんや小さい子のママのおしゃべり&相談会があるそうです。気軽に行けてママのリフレッシュや悩みがなくても情報交換ができてよいと思いました。それと離乳食教室は生後5か月くらいにあると嬉しいです。(0歳)
 - 揖斐川町は本当に子育てがしにくいまちだと思います。相談できるところがわかりづらいです。役場の人は不親切で、わかっていない方ばかりです。公務員は、どなたも変化することに消極的です。だから、このアンケートも意味はないのだろうなと思っています。今までもそうでしたから。これでは、出て行く人ばかりで、子どもは減るばかりです。いい加減変わらないといけないと思います。(5歳)

(14) イベント

- 働くママが多いので、平日のイベントよりも土・日曜日が増えるといいと思います(学校や園行事)。(1歳)
- 幼児園児を含む様々な施設において、子どもたちに、家庭ではなかなかできない体験の機会(田植え、お仕事見学、ものづくり等)が増えていくといいなと感じます(有料もあり)。(4歳)

(15) 経済的支援

- 子育てに対する助成金を多く出していただけるので、とても助かっています。(4歳)
- 児童手当や妊婦・子どもへの予防接種の助成等、金銭的な援助があり、とても助かっています。(1歳)
- 揖斐川町は経済的支援も多いので、助かります。人口(子ども)が増えてくれると嬉しい。(0歳)
- 子どもの医療費が高校生まで負担なしなのはとても助かるので続けてほしいです。(6歳)
- 子育てに1番必要なのは、やはりお金だと思います。他の町に比べて揖斐川町は補助金等が多いので助かっています。3人以上いる家庭には、もう少し補助があると助かります。子ども手当を増額してほしいです。(6歳)
- 経済的負担が多く不安もあり、就労し子と触れ合う時間、親のリフレッシュ時間が持てず、余裕を持って子育てができない。経済的支援を手厚くしてほしい。(5歳)
- 3歳までは、育児休業が継続できる制度(町独自の給付金)。1人目の子どもから保育料を無

料にする制度。(1歳)

- 物価の高騰で、子育て世代は、どの家庭も経済的に余裕がありません。ひとり親家庭に限らず、子育て家庭全てに経済的な支援が必要です。(3歳)
- 産休・育休から復帰して、今まで通りに仕事ができるわけがなく、子どもの風邪や用事で休みが増え、お金が減るばかりで、生活が苦しくなるので、育児手当の他にスーパーで使える券や現金、おむつや離乳食等が月に1回支給されると助かる。(0歳)
- 揖斐川町は、第2子以降の町立の幼稚園の利用料が無料であったり、医療費がかからなかったり、ありがたく思います。(1歳)
- 揖斐川町もおむつ支給等、もう少し経済的に家庭での負担をなくしてほしい。(2歳)
- 子育てに力を入れていて、子育て世帯には、住みやすいまちだと思っています。友人にも自信を持ってお奨めできますが、1点だけ、出産したときにもらえるクーポン券では子どものおむつもミルクも買えません。せめてドラッグストアで使えるようにしてほしいです。(1歳)
- 保育料の無償化について、一般的に企業の育休は1年のところが多いのに対して3歳からでは遅いです。町として、もっと早い時期から無償化を取り入れることで、この町で産み育てたいと思う家庭が増えるかと思っています。(0歳)
- 子ども手当がいただけるのは、大変嬉しく思っていますが、個人事業主として税金を新たに支払うことになり、その額と子ども手当がほぼ同額でした。子どものために使わないよう貯めています。少し残念に感じてしまいました。(2歳)
- 第2子以降、高校・大学、無償化。(5歳)

(16) 行政への意見・要望

- 揖斐川町の職員のスキルアップ。専門知識にも乏しく質問に答えがない。役場でさえ、知識不足が露見されている。アンケートを集めたところで、力がないから時間と金の無駄。(1歳)
- 子育て支援課について、不親切な対応をされたことが何度かあります。他縣市町村から学び、力を入れないと人口は減るばかりだと思います。この地域での子育てに満足していません。(6歳)
- 揖斐川町役場職員(保育士等含む)や揖斐川町内の企業等での育休の充実や時短勤務(男女共に)はできていますか。もっと町民へアピールしてほしいし、できていないのなら、そこから変えていってほしいです。(1歳)

(17) アンケート

○このアンケートの質問内容から調査の趣旨・意図を理解できない。利用したい施設の利用日数や時間帯等、希望を聞かれたら切りがない。現状利用できるサービスの限界と、それぞれの家庭環境を加味して利用するサービスを選択している。そのとき、利用したいときに気軽に利用できる環境がほしいとしか答えようがない。(1歳)

(18) その他

○電車を残していただきたいです。(4歳)

第2部

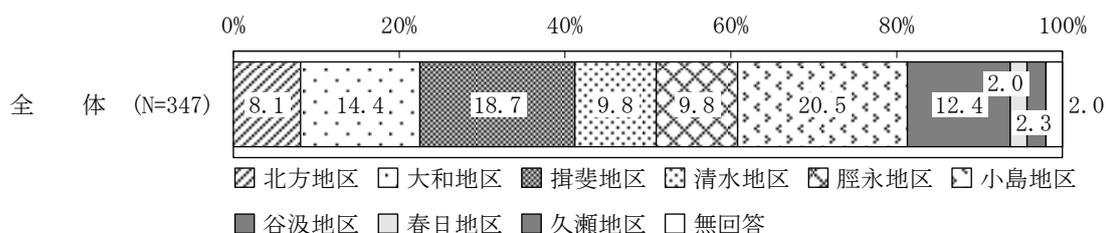
小学生保護者調査

1 子どもと家族の状況

(1) 居住地区

住んでいる地区は、「小島地区」が20.5%と最も多く、次いで「揖斐地区」(18.7%)、「大和地区」(14.4%)、「谷汲地区」(12.4%)となっています。

図表2-1 居住地区

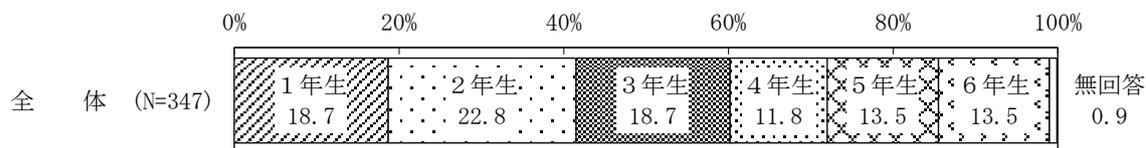


(注)「藤橋地区」、「坂内地区」という選択肢には該当がなかった。

(2) 子どもの学年

対象となった子どもの学年は、「2年生」が22.8%と最も多く、次いで「1年生」、「3年生」が18.7%の順となっています。「4年生」、「5年生」、「6年生」は11~13%台です。

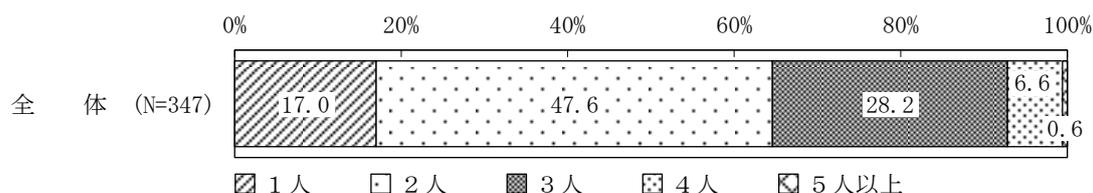
図表2-2 子どもの学年



(3) 子どもの人数

子どもの人数は「2人」が47.6%と最も高く、次いで「3人」(28.2%)、「1人」(17.0%)、「4人」(6.6%)、「5人以上」(0.6%)となっています。

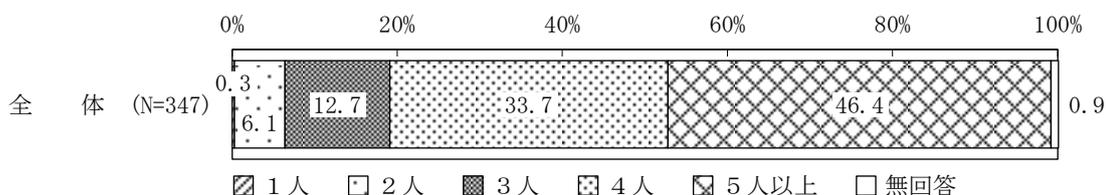
図表2-3 子どもの人数



(4) 生計をともにしている人数

子どもと生計をともにしている人の数は、「5人以上」が46.4%と最も多く、次いで「4人」(33.7%)、「3人」(12.7%)、「2人」(6.1%)、「1人」(0.3%)となっています。

図表2-4 生計をともにしている人数

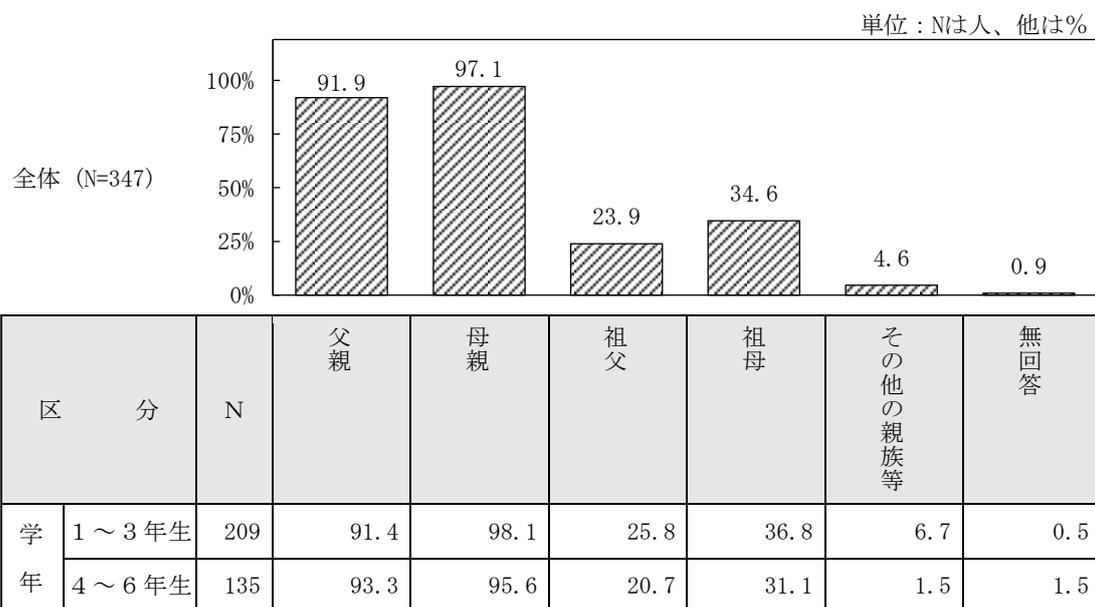


(5) 同居者

子どもの同居者は「母親」及び「父親」が90%以上を占めています。

「その他の親族」として、図表2-6の内容が記載されていました。

図表2-5 同居者（複数回答）



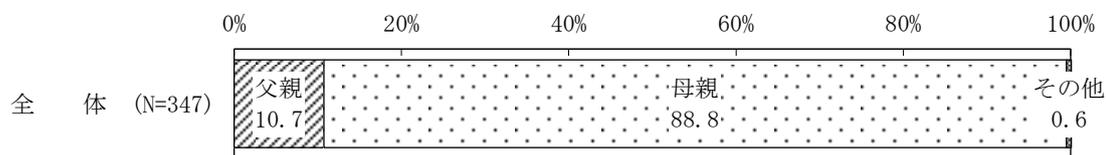
図表2-6 同居者（その他の親族、複数回答）

<ul style="list-style-type: none"> ・曾祖母（7人） ・おじ（4人） ・おば（4人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・曾祖父（3人） ・甥、姪
--	--

(6) 調査票の回答者

調査票の回答者は、「母親」が88.8%を占めています。「その他」として「祖母（2人）」の記載がありました。

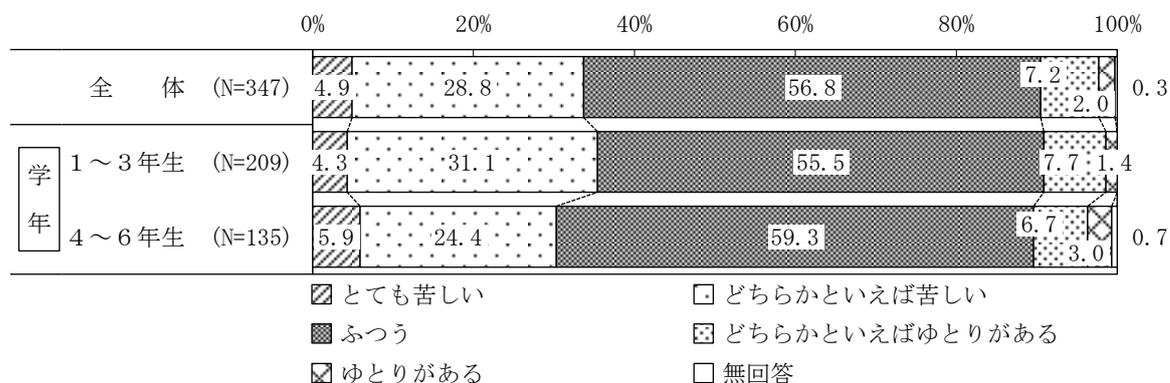
図表2-7 回答者



(7) 経済状況

経済的にみた現在の状況は「ふつう」が56.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば苦しい」(28.8%)となっています。「とても苦しい」と「どちらかといえば苦しい」を合計した〈苦しい〉が33.7%、「どちらかといえばゆとりがある」と「ゆとりがある」を合計した〈ゆとりがある〉が9.2%です。

図表2-8 経済状況



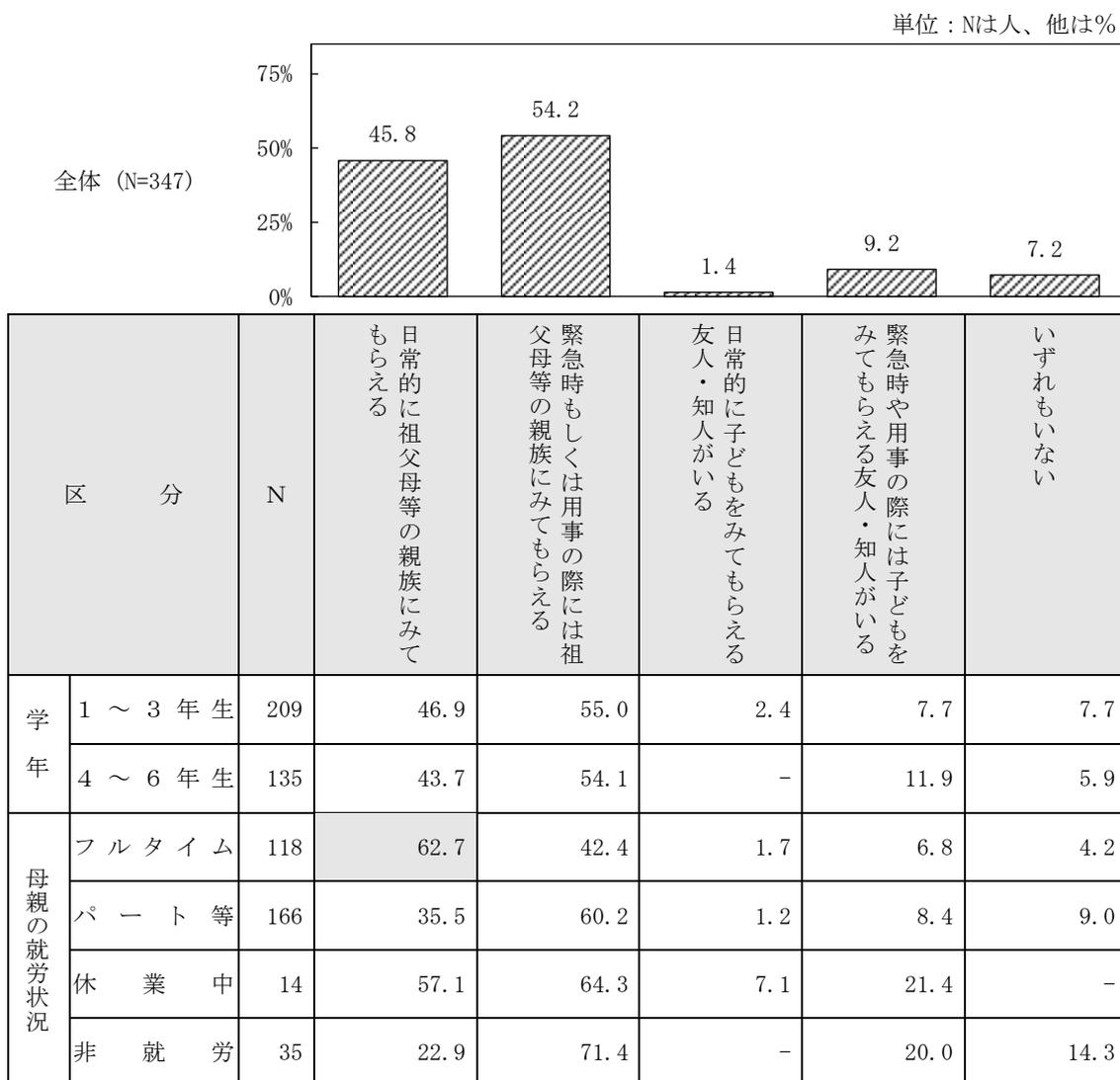
2 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子どもをみてくれる人はいるか

「日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか」という設問では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が54.2%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(45.8%)となっています。「いずれもない」が7.2% (25人) あります。

母親の就労状況別の「フルタイム」は、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が60%以上と他より高くなっています。

図表2-9 子どもをみてくれる人がいるか（複数回答）

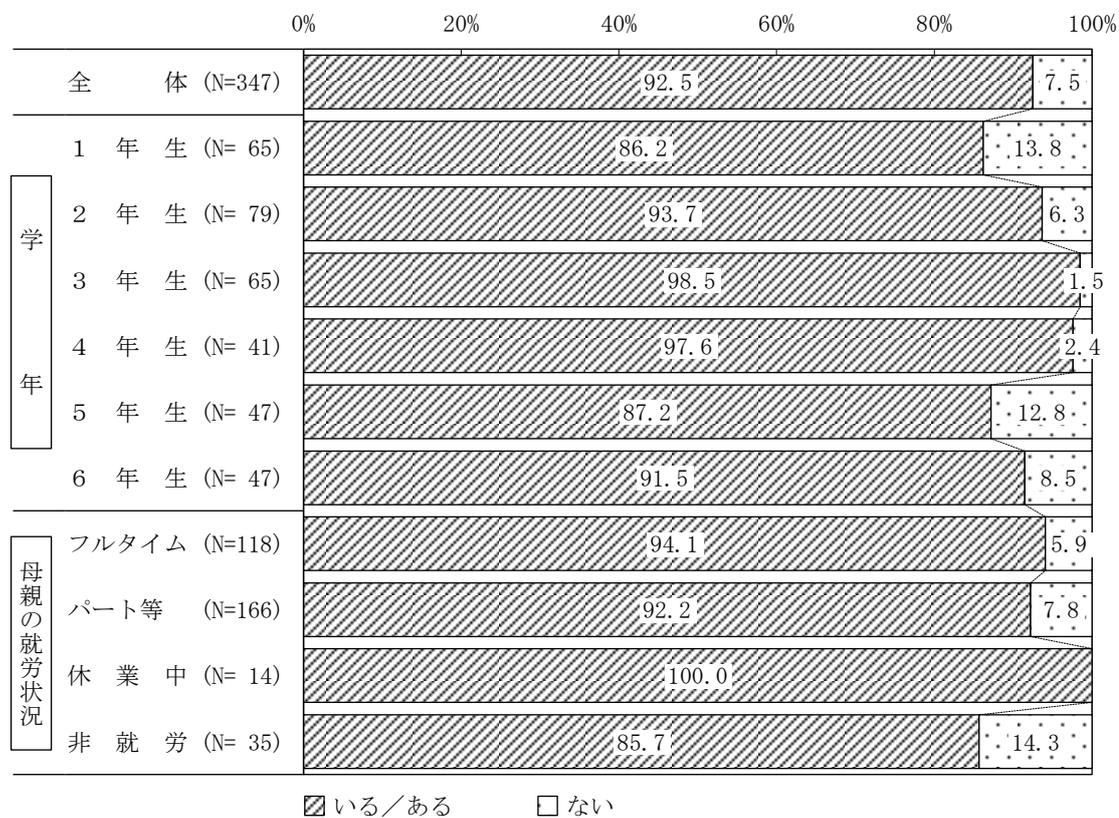


(2) 相談相手

① 子育ての相談相手はいるか

回答者の 92.5%が子育ての相談を気軽にできる相手が「いる／ある」と答えています。

図表 2-10 相談相手の有無

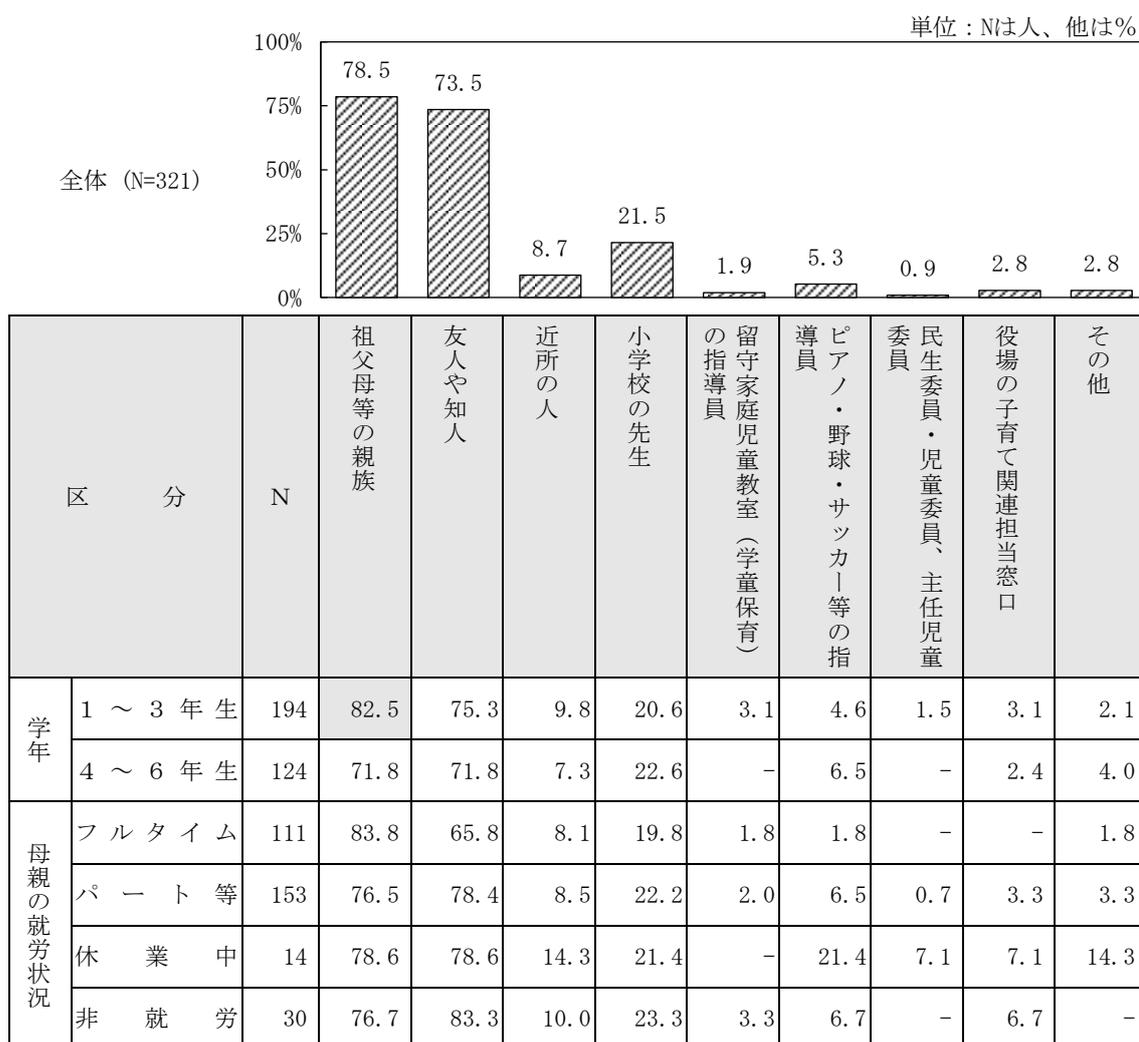


② 相談相手

前問で子育てに関する相談相手が「いる／ある」と答えた人の相談先は、「祖父母等の親族」(78.5%)と「友人や知人」(73.5%)が高く、次いで「小学校の先生」(21.5%)などとなっています。学年別にみると、1～3年生は4～6年生に比べて「祖父母等の親族」が10.7ポイント高くなっています。

「その他」として、図表2-12の内容が記載されていました。

図表2-11 相談相手（相談先がある人、複数回答）



図表2-12 相談相手（その他、相談先がある人、複数回答）

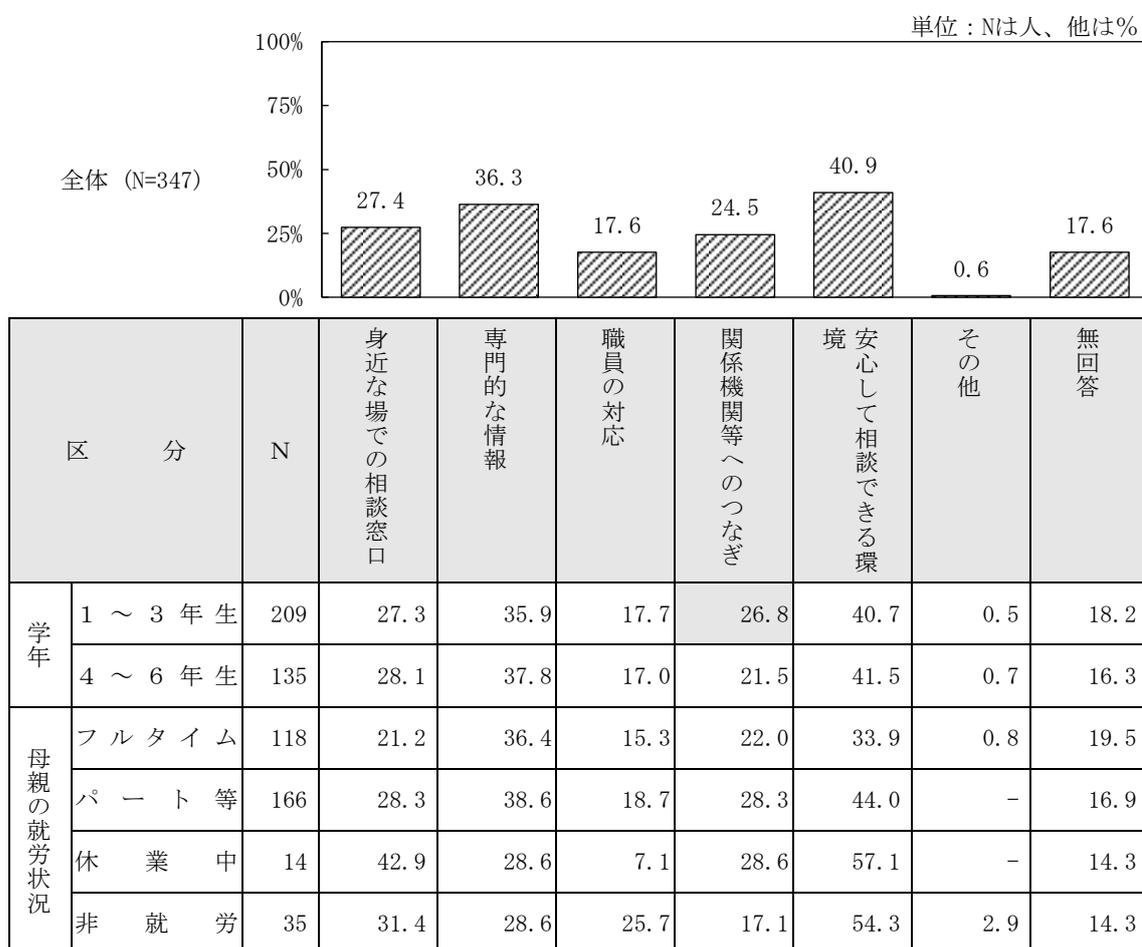
<ul style="list-style-type: none"> ・職場の人（2人） ・医師 ・放課後等デイサービスの職員 ・適応指導教室の先生 ・医療機関 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になった保育所の先生 ・塾の先生 ・ことばの教室 ・大野子ども家庭支援センター
---	--

(3) 子育てに関する相談で充実してほしいこと

子育てに関する相談で充実してほしいことは、「安心して相談できる環境」が40.9%と最も高く、次いで「専門的な情報」(36.3%)となっています。学年別にみると、1～3年生は4～6年生に比べて「関係機関等へのつなぎ」が5.3ポイント高くなっています。

「その他」として、「中学校でもスマート連絡帳を導入して、授業の予習（少なくとも1週間分）ができるようにしてほしい」、「気軽に相談できる場」という記載がありました。

図表2-13 子育てに関する相談で充実してほしいこと（複数回答）



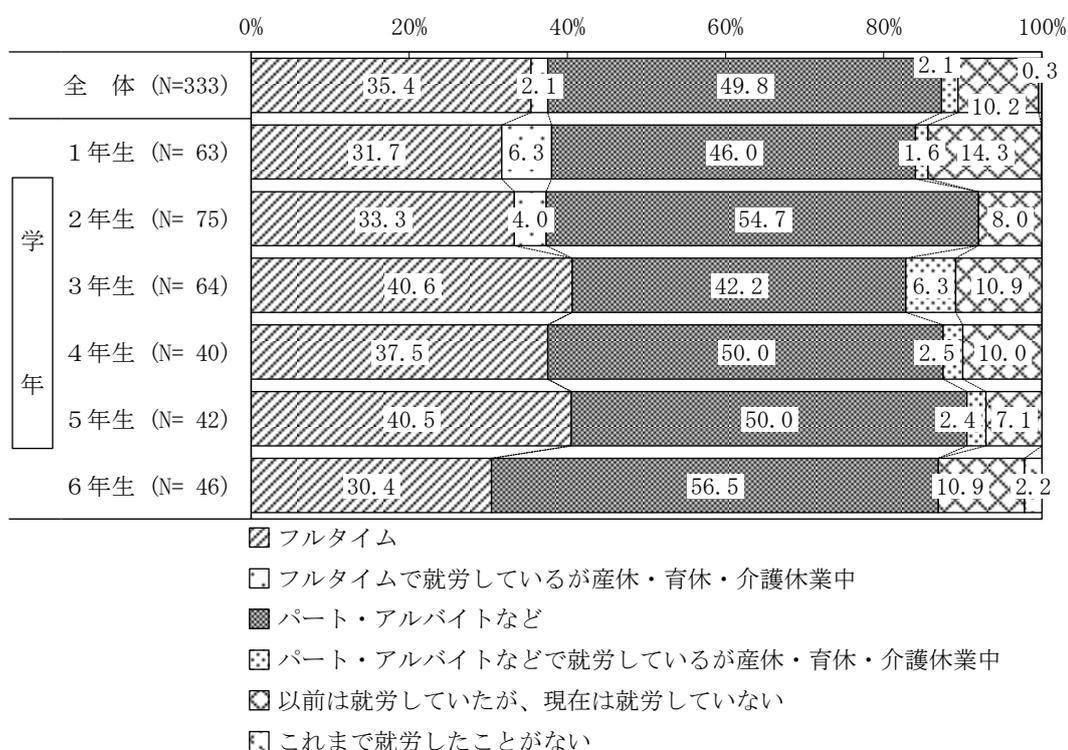
3 保護者の就労状況等

(1) 母親の就労状況

① 母親の就労状況・形態

母親の就労状況は、「パート・アルバイトなど」(以下「パート等」といいます)が49.8%と最も高く、次いで「フルタイム」(35.3%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(10.2%)などとなっています。「産休・育休・介護休業中」は、フルタイムとパート等を合わせると4.2%になります。

図表2-14 母親の就労状況・形態 (回答者のみ)

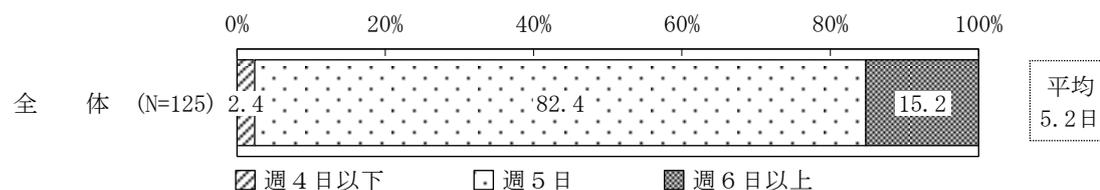


② 母親の就労日数と就労時間数

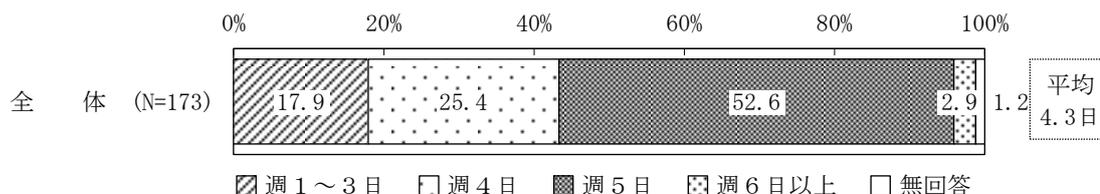
前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数（産休・育休・介護休業中の人は休業に入る前の状況）をたずねた結果が図表2-15および図表2-16です。フルタイムは、1週当たりの平均就労日数が5.2日、1日当たりの平均就労時間数が8.1時間であり、パート等は、1週当たりの平均就労日数が4.3日、1日当たりの平均就労時間数が5.5時間となっています。

図表2-15 母親の1週間当たり就労日数（就労している母親）

【フルタイム（休業中を含む）】

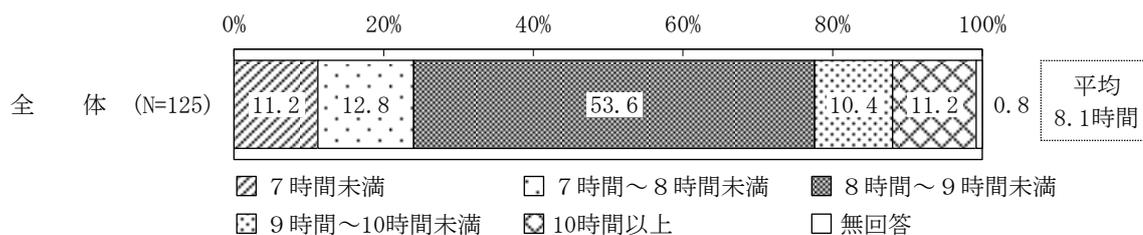


【パート等（休業中を含む）】

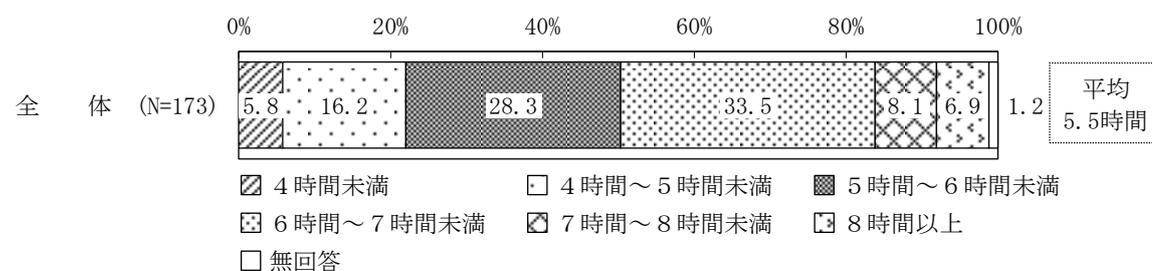


図表2-16 母親の1日当たり就労時間数（就労している母親）

【フルタイム（休業中を含む）】



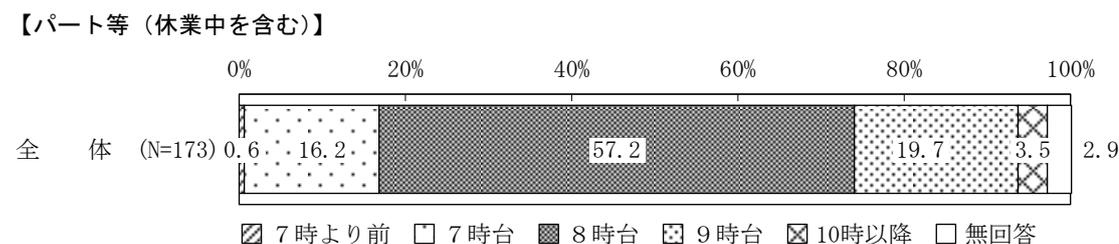
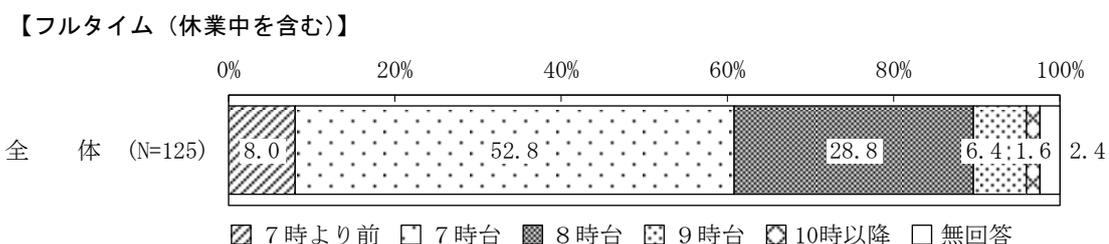
【パート等（休業中を含む）】



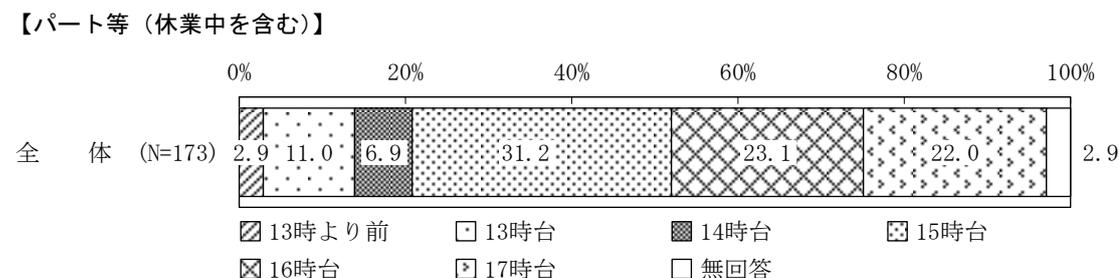
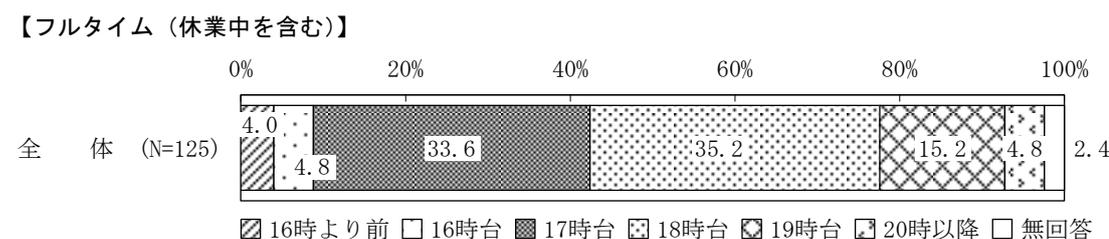
③ 母親の家を出る時刻と帰宅時刻

図表2-17、図表2-18は、①で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻（産休・育休・介護休業中の方は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムは、家を出る時刻が「7時台」（52.8%）と「8時台」（28.8%）で大半を占めており、帰宅時刻は「17時台」と「18時台」が35%前後と高くなっています。パート等は、家を出る時刻は「8時台」（57.2%）が高く、帰宅時刻は「15時台」（31.2%）、「16時台」（23.1%）、「17時台」（22.0%）と様々です。

図表2-17 母親の家を出る時刻（就労している母親）



図表2-18 母親の帰宅時刻（就労している母親）

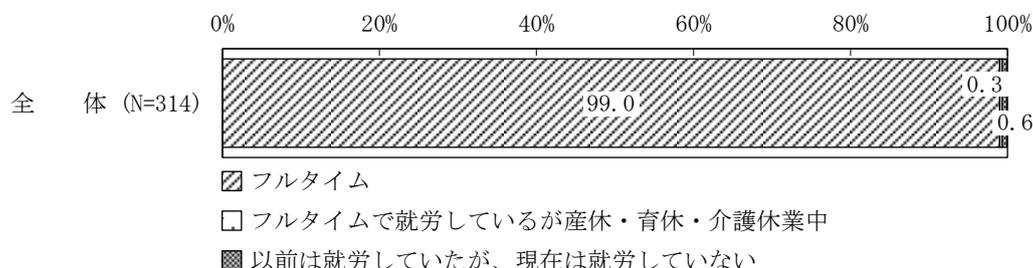


(2) 父親の就労状況

① 父親の就労状況・形態

父親の99.0%が「フルタイム」で働いていると答えています。

図表2-19 父親の就労状況・形態（回答者のみ）



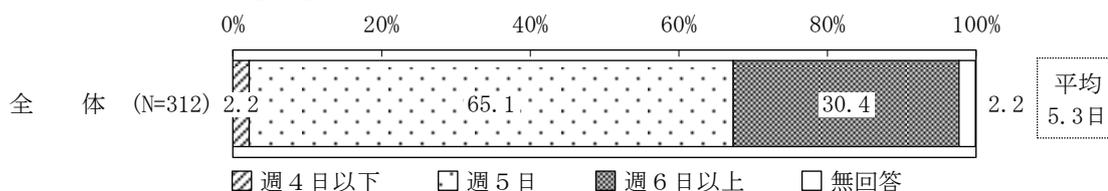
(注) 「パート・アルバイトなど」、「パート・アルバイトなどで就労しているが産休・育休・介護休業中」、「これまで就労したことがない」という選択肢には該当がなかった。

② 父親の就労日数と就労時間数

図表2-20、図表2-21は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数をたずねた結果です。「フルタイム」で働いている人の1週当たりの平均就労日数は5.3日、1日当たりの平均就労時間数は9.4時間です。

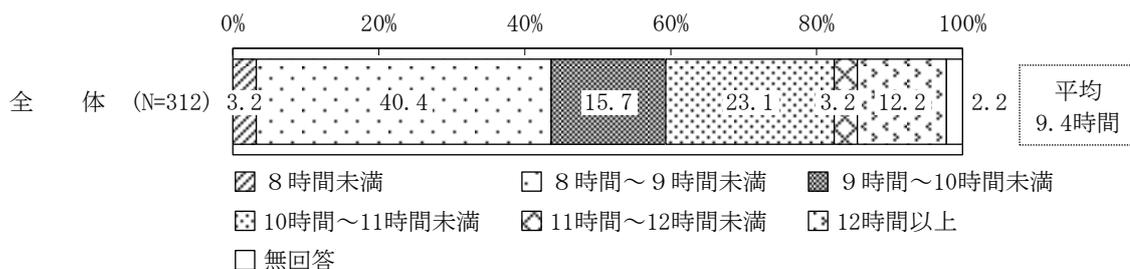
図表2-20 父親の1週間当たり就労日数（就労している父親）

【フルタイム（休業中を含む）】



図表2-21 父親の1日当たり就労時間数（就労している父親）

【フルタイム（休業中を含む）】

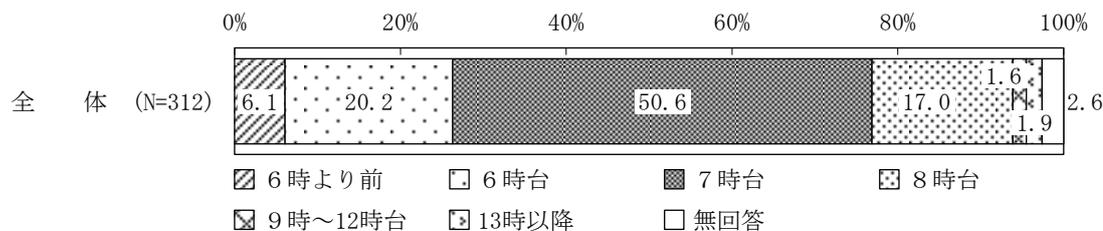


③ 父親の家を出る時刻と帰宅時刻

図表2-22、図表2-23は、①で「フルタイム」で働いていると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻をたずねた結果です。家を出る時刻は「7時台」が最も高く、帰宅時刻は「18時台」、「19時台」が20%台、「20時台」が16.3%と様々です。

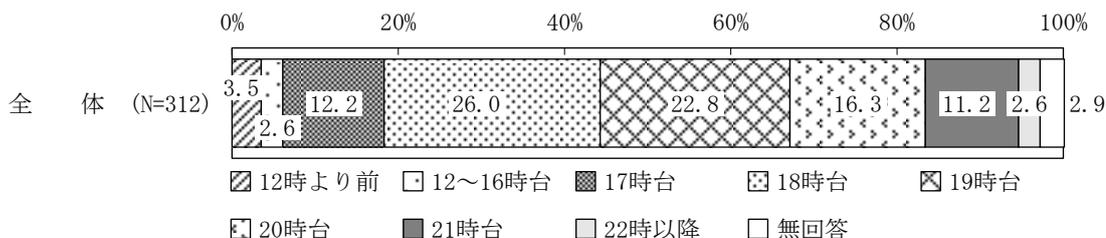
図表2-22 父親の家を出る時刻（就労している父親）

【フルタイム（休業中を含む）】



図表2-23 父親の帰宅時刻（就労している父親）

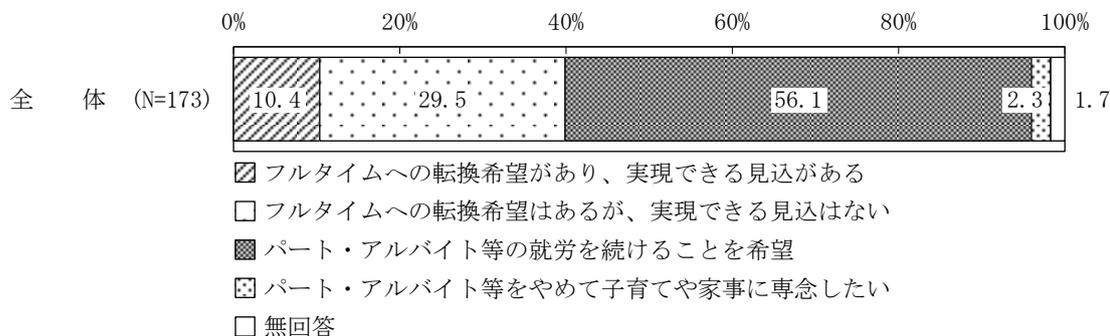
【フルタイム（休業中を含む）】



(3) フルタイムへの転換希望

パート等と答えた145人の母親のフルタイムへの転換の「希望がある」は39.9%ですが、29.5%は「実現できる見込みはない」としています。

図表2-24 母親のフルタイムへの転換希望（パート等で働いている母親）

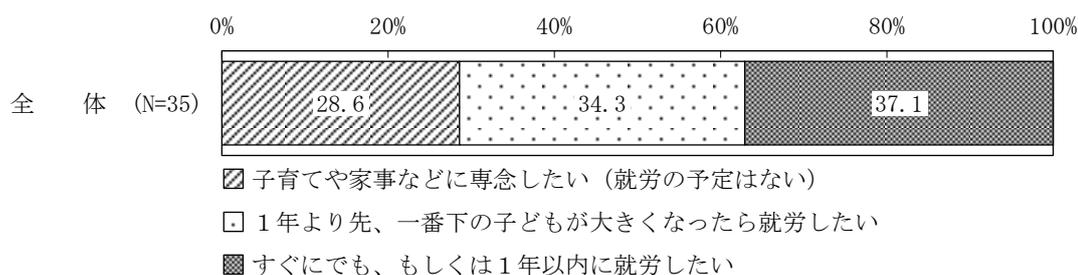


(4) 働いていない母親の就労意向

① 働いていない母親の就労意向

現在、就労していない35人の母親の就労意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が37.1%（13人）、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」が34.3%（12人）となっていますが、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」も28.6%（10人）あります。

図表2-25 働いていない母親の就労意向（非就労の母親）



② 子どもが何歳になったら就労したいか

①で「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と答えた12人の母親に、子どもが何歳になったら就労したいかたずねたところ、「3歳」が6人と最も多く、次いで「12歳以上」が4人となっています。

図表2-26 子どもが何歳になったら就労したいか（子どもが大きくなったら就労したい母親） 単位：人

区分	2歳	3歳	7歳	12歳以上
全体 (N=12)	1	6	1	4

③ 希望する就労形態・日数・時間

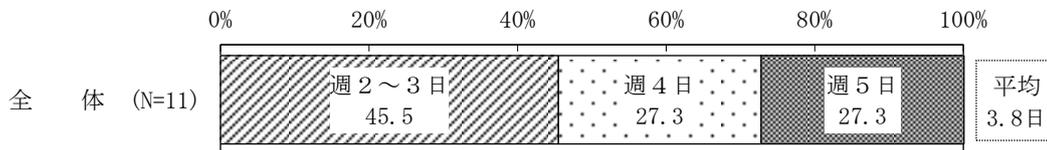
①で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた13人の母親の希望する就労形態は、11人が「パート・アルバイト等」です（図表2-27）。また、パート等と答えた11人の1週間当たりの平均就労希望日数は3.8日（図表2-28）、1日当たりの平均就労希望時間数は4.8時間です。（図表2-29）。

図表2-27 就労希望形態（すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい母親）

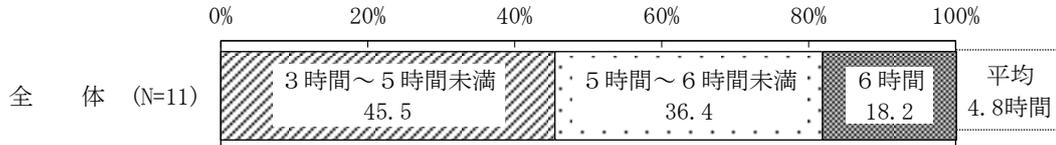
単位：人

区 分	フルタイム	パートタイム・ アルバイト等
全 体 (N=13)	2	11

図表2-28 パート等の就労希望日数（パート等で就労したい母親）



図表2-29 パート等の就労希望時間数（パート等で就労したい母親）



(5) 働いていない父親の就労意向

① 働いていない父親の就労意向

現在、仕事をしていない2人の父親の就労意向は、ともに「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」です。

図表2-30 働いていない父親の就労意向（非就労の父親）

単位：人

区 分	子育てや家事などに専念したい (就労の予定はない)
全 体 (N=2)	2

(注)「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」という選択肢には該当がなかった。

4 放課後等の居場所

(1) 平日の放課後の過ごし方

1年生から3年生の平日の放課後の過ごし方をみると、16時以降は各学年とも「保護者や祖父母といることが多い」が高くなっています。1・2年生では14～16時、16～18時の「留守家庭児童教室（学童保育）に行っている」が20%以上あります。

図表2-31 放課後の過ごし方（1年生～3年生）

単位：Nは人、他は%

学年	時間帯	小学校に いることが 多い	保護者や 祖父母と いることが 多い	家で きょうだい、 友人など と子ども たちだけで 過ごしている	学習塾 や習い事 に行っている	留守家庭 児童教室 （学童保 育）に 行っている	図書館、 公民館 などの公 共施設に いる	スポーツ 少年団や 子ども会 活動など に参加し ている	公園など 屋外で遊 んでいる	家で一人 で過ごし ている	その他	無回答
1年生 (N=65)	14～16時	36.9	38.5	1.5	-	21.5	-	-	1.5	-	-	-
	16～18時	3.1	53.8	1.5	13.8	24.6	-	-	3.1	-	-	-
	18～20時	-	92.3	-	6.2	-	-	1.5	-	-	-	-
	20時以降	1.5	98.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2年生 (N=79)	14～16時	32.9	36.7	-	1.3	24.1	-	-	1.3	-	-	3.8
	16～18時	-	53.2	5.1	15.2	20.3	-	-	1.3	-	1.3	3.8
	18～20時	-	87.3	-	5.1	-	-	2.5	-	-	-	5.1
	20時以降	-	94.9	-	-	-	-	-	-	-	-	5.1
3年生 (N=65)	14～16時	47.7	30.8	12.3	1.5	4.6	-	-	-	1.5	-	1.5
	16～18時	1.5	56.9	15.4	12.3	4.6	-	-	6.2	-	3.1	-
	18～20時	-	90.8	-	3.1	-	-	1.5	-	1.5	1.5	1.5
	20時以降	-	92.3	1.5	1.5	-	-	-	-	1.5	1.5	1.5

4年生から6年生の放課後の過ごし方をみると、14～16時は「小学校にいたることが多い」、16時以降は「保護者や祖父母といたることが多い」が最も高くなっています。本町の「放課後児童クラブ」の利用は、6年生まで拡大されていますが、学年が上がるにつれて低くなっています。

「その他」として、図表2-33の内容が記載されていました。

図表2-32 放課後の過ごし方（4年生～6年生）

単位：Nは人、他は%

学年	時間帯	小学校にいたることが多い	保護者や祖父母といたることが多い	家できょうだい、友人など子どもたちだけで過ごしている	学習塾や習い事に行っている	留守家庭児童教室（学童保育）に行っている	図書館、公民館などの公共施設にいる	スポーツ少年団や子ども会活動などに参加している	公園など屋外で遊んでいる	家で一人で過ごしている	その他	無回答
4年生 (N=41)	14～16時	48.8	26.8	2.4	2.4	4.9	-	-	2.4	-	2.4	9.8
	16～18時	-	56.1	7.3	14.6	9.8	-	-	2.4	-	2.4	7.3
	18～20時	-	85.4	-	9.8	-	-	-	-	-	-	4.9
	20時以降	-	90.2	-	2.4	-	-	-	-	-	-	7.3
5年生 (N=47)	14～16時	66.0	14.9	4.3	-	-	-	-	-	4.3	2.1	8.5
	16～18時	-	57.4	17.0	10.6	6.4	-	-	2.1	2.1	-	4.3
	18～20時	-	74.5	2.1	2.1	-	-	12.8	-	-	-	8.5
	20時以降	-	80.9	-	-	-	-	8.5	-	-	-	10.6
6年生 (N=47)	14～16時	63.8	12.8	4.3	-	2.1	-	-	-	6.4	2.1	8.5
	16～18時	-	61.7	12.8	6.4	2.1	-	-	4.3	4.3	4.3	4.3
	18～20時	-	80.9	-	8.5	-	-	2.1	-	2.1	2.1	4.3
	20時以降	-	87.2	2.1	-	-	-	2.1	-	2.1	2.1	4.3

図表2-33 平日の放課後の過ごし方（その他）

<p>【14～16時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス（2人） <p>【16～18時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス（3人） ・家で家族や友人と過ごす ・友人の家で遊ぶ 	<p>【18～20時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家で家族や友人と過ごす ・友人の家で遊ぶ <p>【20時以降】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家で家族や友人と過ごす ・友人の家で遊ぶ
---	--

(2) 土曜・休日の過ごし方

1年生から3年生の土曜・休日の過ごし方は、午前・午後・夕方以降を通して、「保護者や祖父母等」が最も高くなっています。そのほかでは、各学年とも午前中の「学習塾や習い事に行っている」、2・3年生の午前中の「スポーツ少年団や子ども会活動などに参加している」が10%以上と比較的高くなっています。

図表2-34 土曜・休日の過ごし方（1年生～3年生）

単位：Nは人、他は%

学 年	時間帯	小学校に いることが 多い	保護者や 祖父母と いることが 多い	家で きょうだい、 友人などと 過ごす	学習塾や 習い事に行 っている	留守家庭 児童教室（ 学童保育） に行ってい る	図書館、 公民館など の公共施設 に	スポーツ少年 団や子ども 会活動など に参加してい る	公園など 屋外で遊ん でいる	家で一人 で過ごしてい る	その他	無回答
		1 年生 (N=65)	午前中	-	69.2	-	12.3	-	1.5	7.7	7.7	-
	昼食後～夕方	-	78.5	3.1	7.7	-	3.1	-	3.1	-	3.1	1.5
	夕方以降	-	95.4	-	1.5	-	-	1.5	-	-	-	1.5
2 年生 (N=79)	午前中	-	64.6	-	12.7	-	-	15.2	1.3	1.3	-	5.1
	昼食後～夕方	-	73.4	3.8	8.9	-	-	3.8	3.8	-	1.3	5.1
	夕方以降	-	91.1	-	-	-	-	2.5	1.3	-	-	5.1
3 年生 (N=65)	午前中	-	60.0	3.1	16.9	-	-	13.8	3.1	-	1.5	1.5
	昼食後～夕方	-	73.8	7.7	3.1	-	-	1.5	7.7	1.5	3.1	1.5
	夕方以降	-	87.7	-	4.6	-	-	3.1	-	1.5	1.5	1.5

4年生から6年生の午前は「保護者や祖父母といることが多い」と「スポーツ少年団や子ども会活動などに参加している」が高く、午後と夕方以降は「保護者や祖父母といることが多い」が高くなっています。

「その他」として、図表2-36の内容が記載されていました。

図表2-35 土曜・休日の過ごし方（4年生～6年生）

単位：Nは人、他は%

学年	時間帯	小学校に いることが 多い	保護者や 祖父母と いることが 多い	家で きょうだい、 友人などと 子ども たちだけで 過ごしている	学習塾や 習い事 に行っている	留守家庭 児童教室 （学童 保育） に行っている	図書館、 公民館 などの 公共施設 にいる	スポーツ 少年団や 子ども 会活動 などに 参加 している	公園 など 屋外 で遊 んでいる	家で 一人 で過 ごして いる	その他	無 回 答
4年生 (N=41)	午前中	-	58.5	2.4	2.4	-	-	31.7	-	-	-	4.9
	昼食後～夕方	-	80.5	4.9	2.4	-	-	4.9	-	-	-	7.3
	夕方以降	-	92.7	-	-	-	-	-	-	-	-	7.3
5年生 (N=47)	午前中	-	57.4	4.3	4.3	-	-	27.7	-	-	-	6.4
	昼食後～夕方	-	66.0	4.3	6.4	-	-	10.6	2.1	2.1	2.1	6.4
	夕方以降	-	89.4	-	-	-	-	4.3	-	-	-	6.4
6年生 (N=47)	午前中	-	61.7	4.3	2.1	-	-	19.1	-	4.3	4.3	4.3
	昼食後～夕方	-	68.1	4.3	6.4	-	-	6.4	6.4	-	6.4	2.1
	夕方以降	-	87.2	2.1	-	-	-	2.1	-	2.1	2.1	4.3

図表2-36 土日・休日の放課後の過ごし方（その他）

<p>【午前中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス ・家で家族や友人と過ごす ・友人の家で遊ぶ <p>【昼食後～夕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人と家族と過ごしている（2人） ・友人の家で遊ぶ（2人） ・自宅以外の室内で家族と過ごす ・放課後等デイサービス 	<p>【夕方以降】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家で家族や友人と過ごす ・友人の家で遊ぶ
--	---

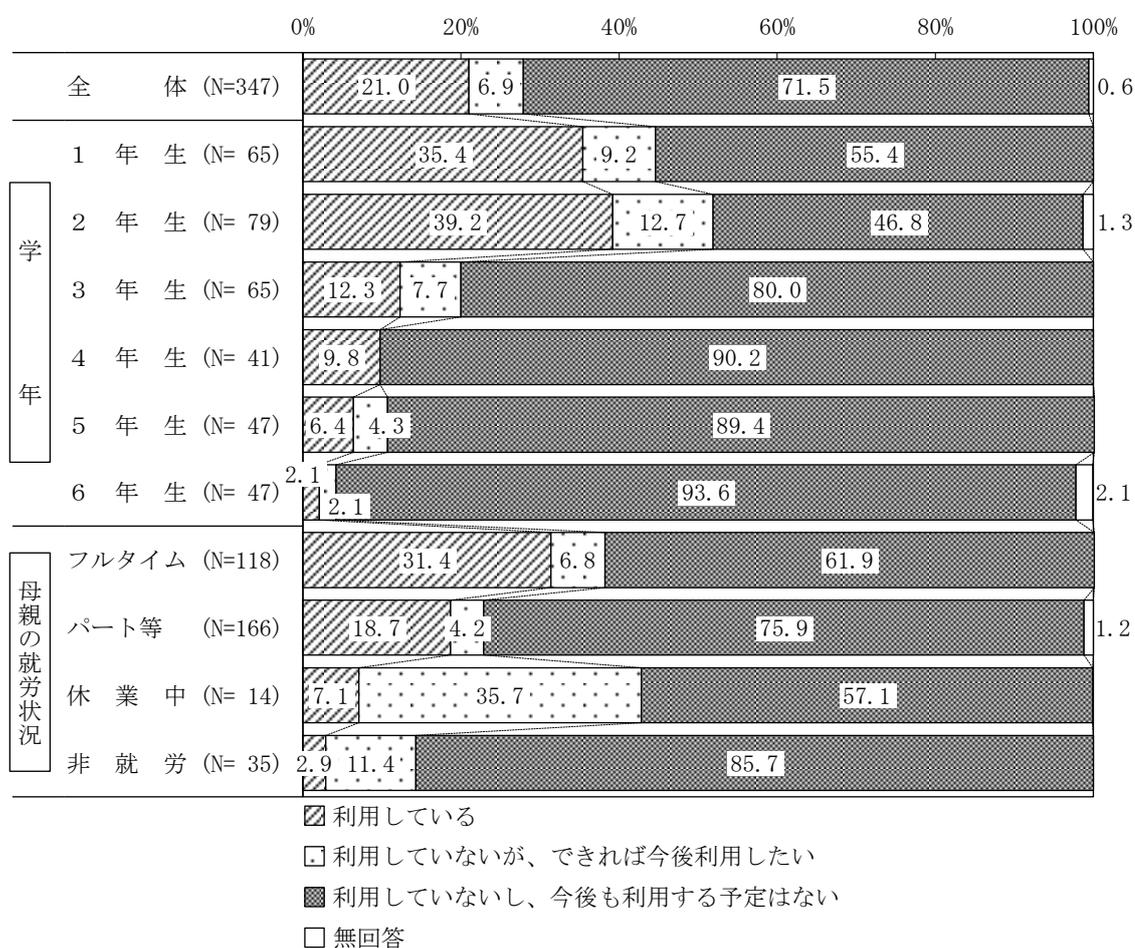
5 留守家庭児童教室（学童保育）

(1) 留守家庭児童教室（学童保育）の利用状況

① 留守家庭児童教室（学童保育）の利用の有無

留守家庭児童教室（学童保育）を利用しているのは、2年生が最も高く、学年が上がるにつれて低下しています。母親の就労状況別にみると、フルタイムとパート等が比較的高くなっています。「利用していないが、できれば今後利用したい」は、学年別では2年生、母親の就業状況別では休業中が高くなっています。

図表2-37 留守家庭児童教室（学童保育）の利用の有無

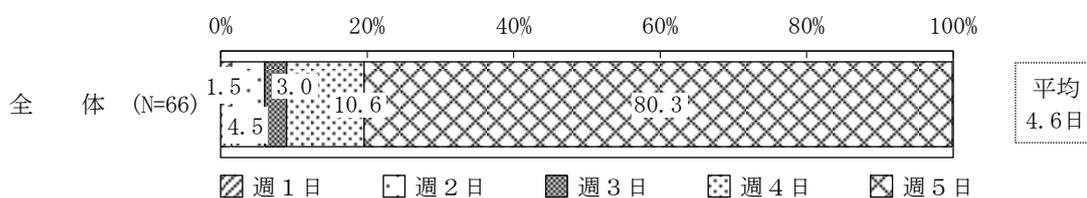


② 平日

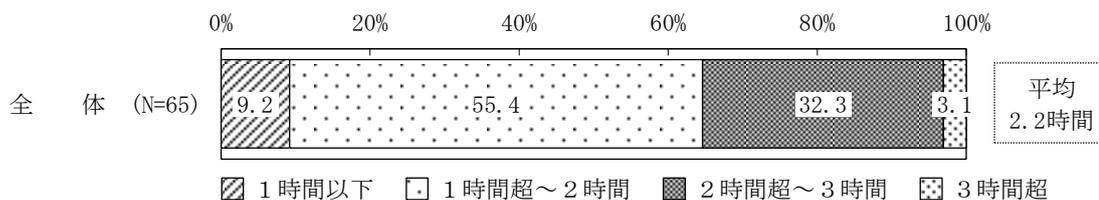
留守家庭児童教室（学童保育）を「利用している」人の平日の利用日数は、「週5日」（80.3%）、「週4日」（10.6%）などとなっており、週平均利用日数は4.6日です。1日の利用希望時間数は「1時間超～2時間」（55.4%）が最も高く、次いで「2時間超～3時間」（32.3%）となっており、1日当たり平均利用希望時間数は2.2時間です（図表2-38）。また、利用希望時間帯は、15時台と16時台が高くなっています（図表2-39）

図表2-38 平日の利用日数・利用時間数（留守家庭児童教室（学童保育）を利用している人）

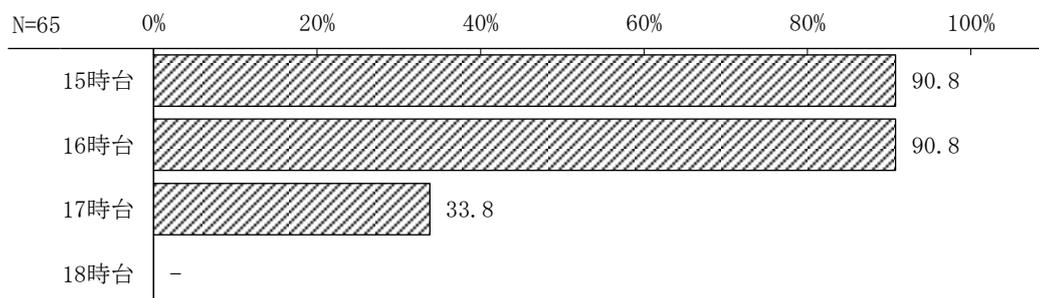
【利用日数】



【利用時間数】



図表2-39 平日の利用時間帯（留守家庭児童教室（学童保育）を利用している人）

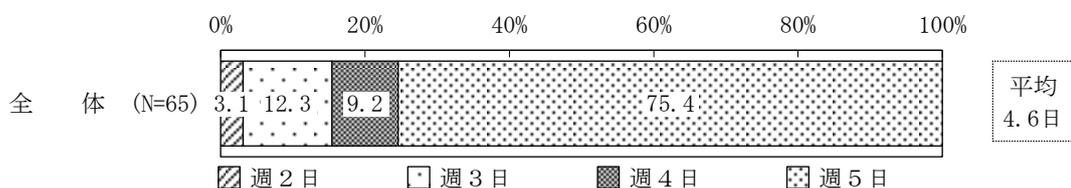


③ 長期休暇期間中

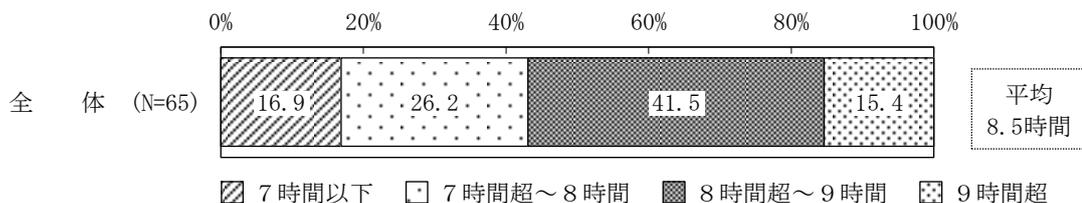
留守家庭児童教室（学童保育）を「利用している」人の長期休暇期間中の平日の利用日数は、「週5日」（75.4%）、「週3日」（12.3%）などとなっており、週平均利用日数は4.6日です。1日の利用希望時間数は「8時間超～9時間」（41.5%）が最も高く、次いで「7時間超～8時間」（26.2%）となっており、1日当たり平均利用希望時間数は8.5時間です（図表2-40）。また、利用希望時間帯は、9時台から15時台が高くなっています（図表2-41）。

図表2-40 長期休暇期間中の利用日数・利用時間数（留守家庭児童教室（学童保育）を利用している人）

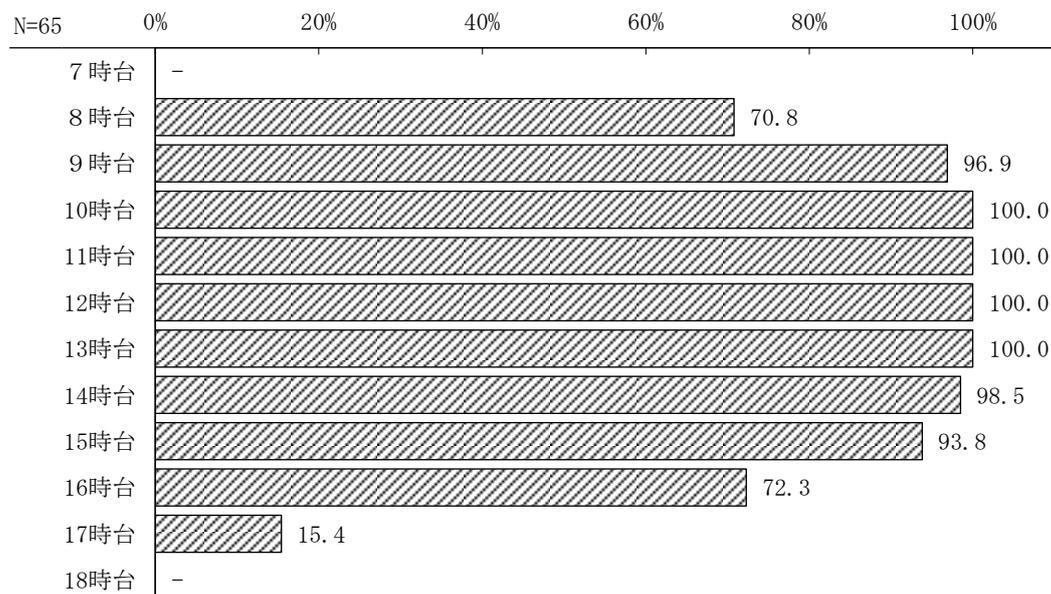
【利用日数】



【利用時間数】



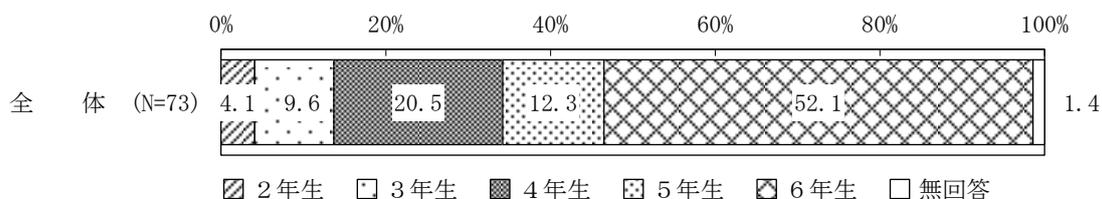
図表2-41 長期休暇期間中の利用時間帯（留守家庭児童教室（学童保育）を利用している人）



(2) 利用希望学年

留守家庭児童教室（学童保育）を「利用している」人に何年生まで利用したいかたずねたところ、「6年生」（52.1%）が最も高く、次いで「4年生」（20.5%）、「5年生」（12.3%）となっています。

図表2-42 何年生まで留守家庭児童教室（学童保育）を利用したいか（留守家庭児童教室（学童保育）を利用している人）

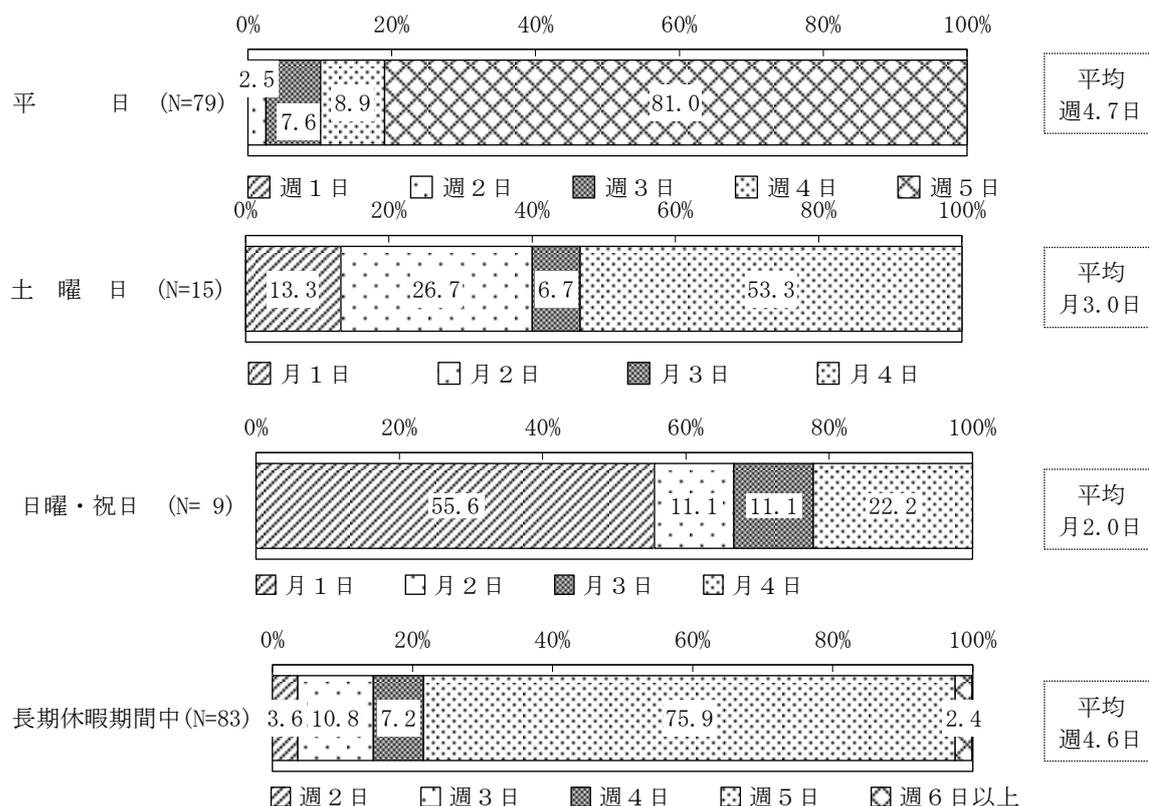


(3) 留守家庭児童教室（学童保育）の利用希望日数・時間等

① 留守家庭児童教室（学童保育）の利用希望日数

(1)の①で「利用している」または「利用していないが、できれば今後利用したい」と答えた人の利用希望日数は、図表2-43のとおりです。平日は「週5日」が高く、週平均利用希望日数は4.7日です。土曜日の利用希望は15人、日曜・祝日の利用希望は9人となっています。夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の利用希望は83人あり、75.9%が「週5日」を希望しています。

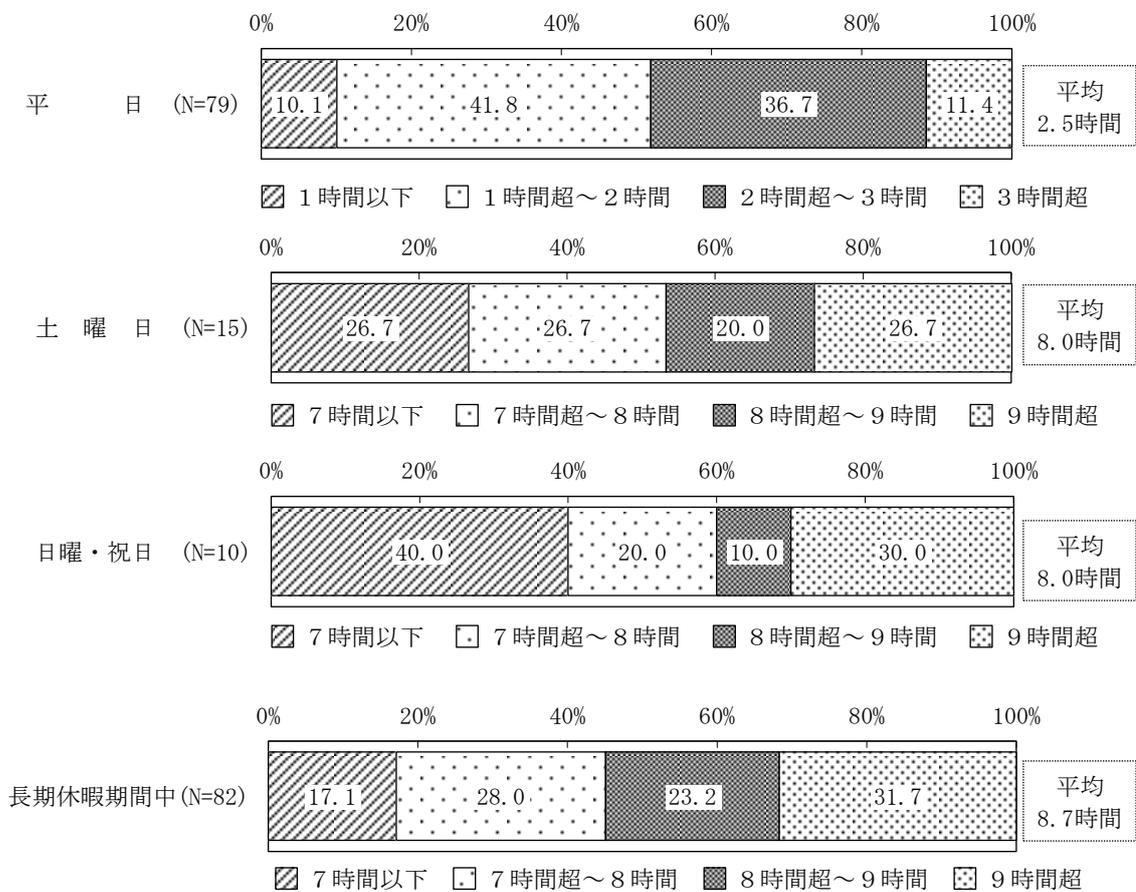
図表2-43 留守家庭児童教室（学童保育）の利用希望日数（留守家庭児童教室（学童保育）の利用意向がある人）



② 留守家庭児童教室（学童保育）の利用希望時間数

(1)の①で「利用している」または「利用していないが、できれば今後利用したい」と答えた人の1日の利用希望時間数は、図表2-44のとおりです。平日は「1時間超～2時間」(41.8%)が高く、次いで「2時間超～3時間」(36.7%)となっており、1日当たり平均利用希望時間は2.5時間です。夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の1日の利用希望時間数は「9時間超」(31.7%)、「7時間超～8時間」(28.0%)、「8時間超～9時間」(23.2%)と様々です。

図表2-44 留守家庭児童教室（学童保育）の利用希望時間数（留守家庭児童教室（学童保育）の利用意向がある人）



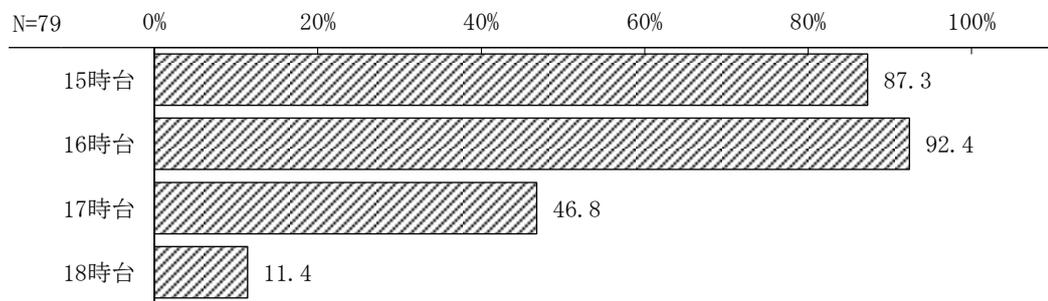
③ 利用希望時間帯

利用希望時間帯は、平日は15時台・16時台が高くなっています。

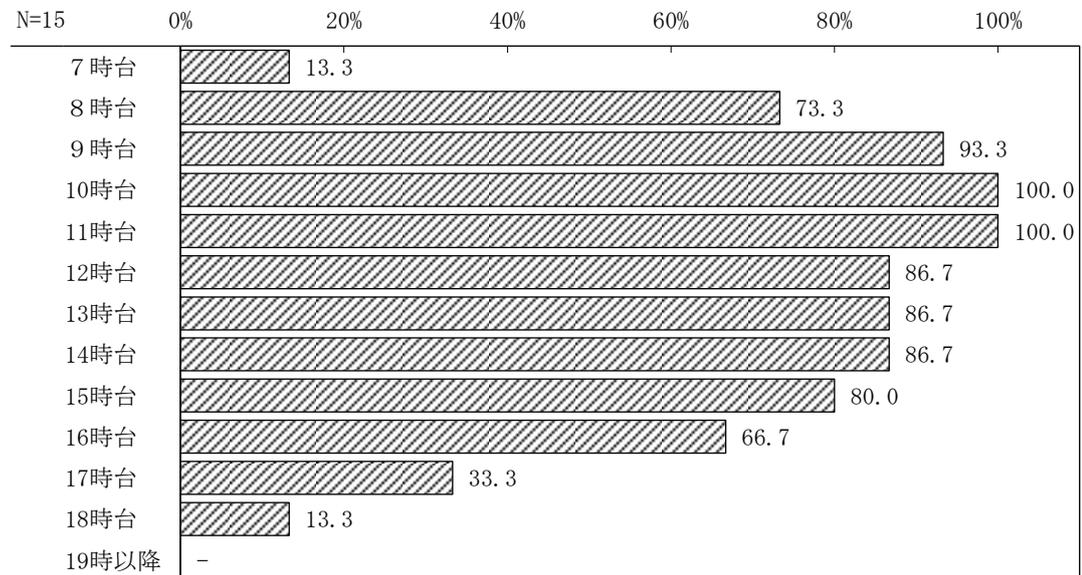
土曜日の利用希望15人は、8時台から15時台を70%以上の方があげています。日曜・祝日の利用希望10人のうち、80%以上の方が9時台から15時台を希望しています。夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の利用希望は、平日の放課後より多く、その70%以上が8時台から16時台を希望しています。

図表2-45 留守家庭児童教室（学童保育）の利用希望時間帯（留守家庭児童教室（学童保育）の利用意向がある人）

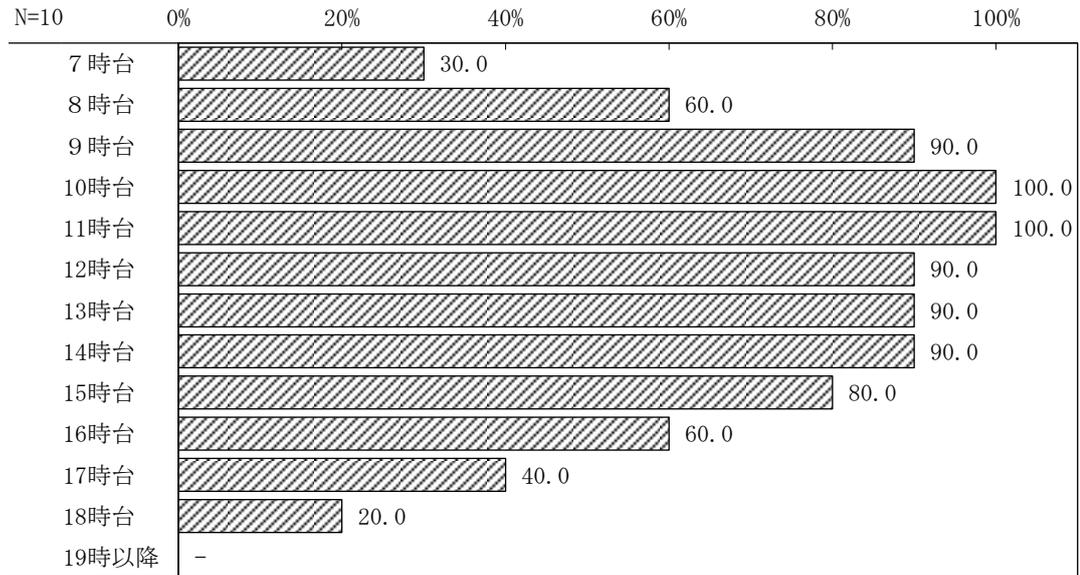
【平日】



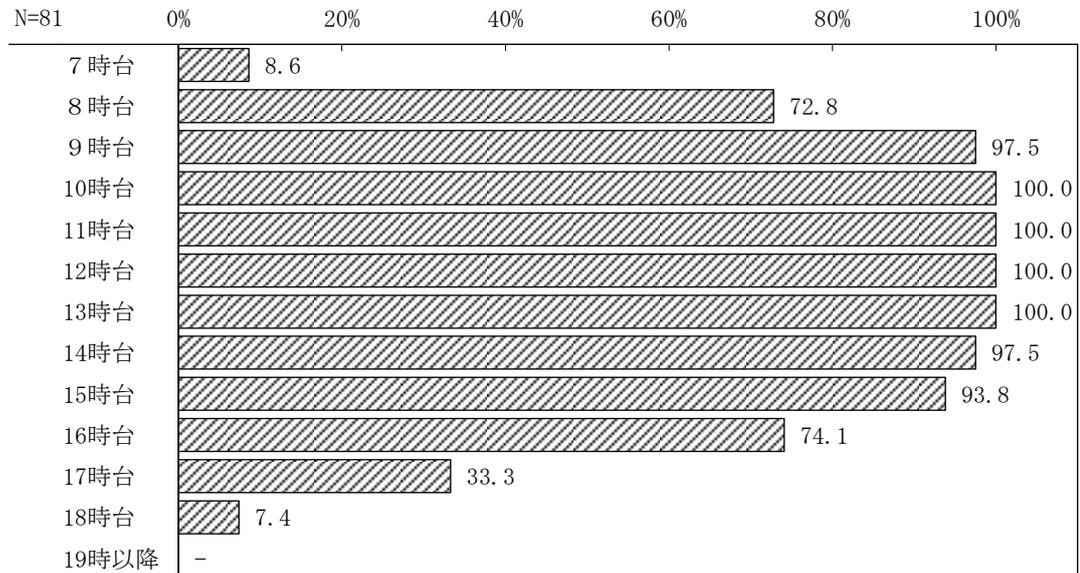
【土曜日】



【日曜・祝日】



【長期休暇期間中】

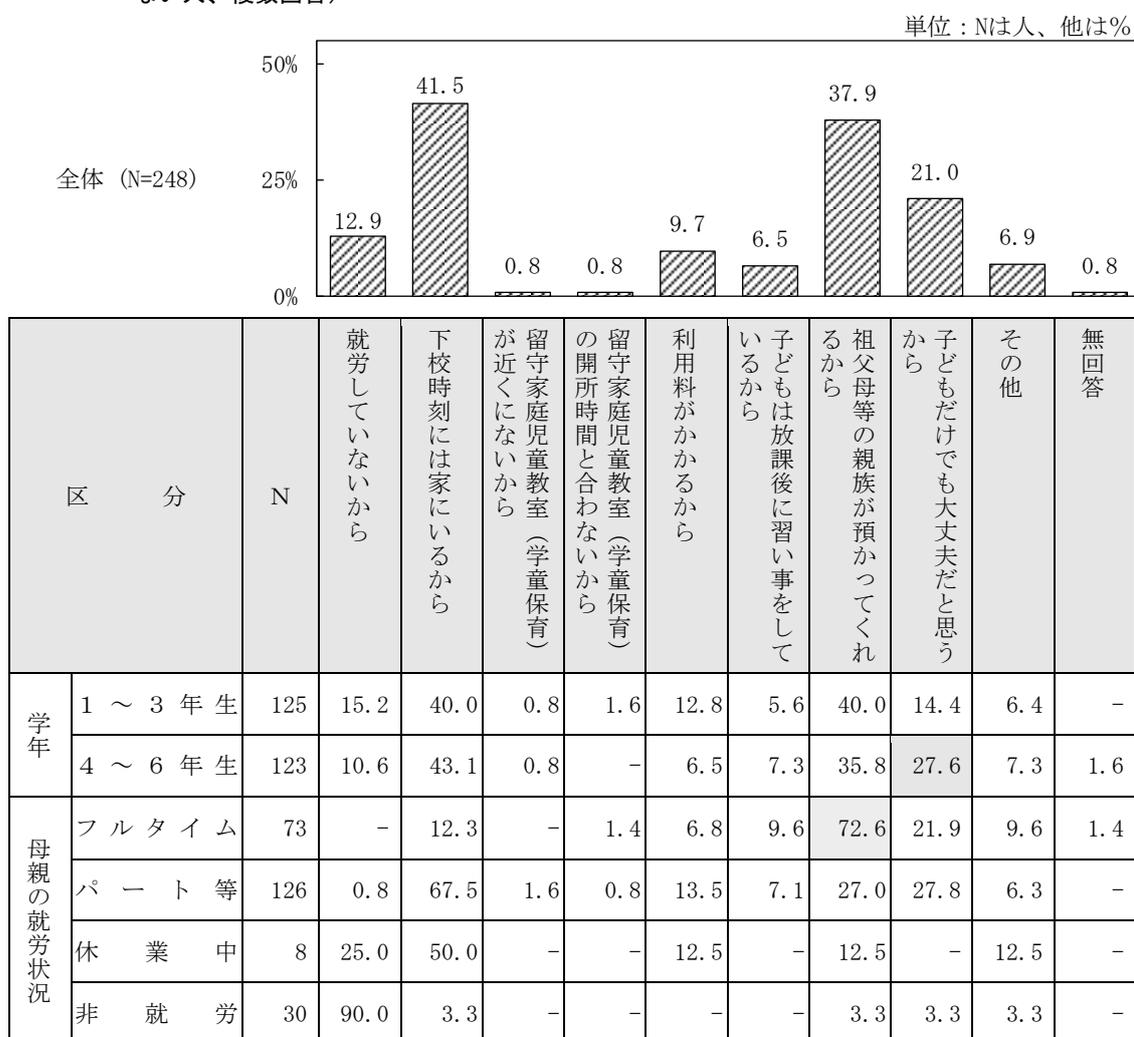


(4) 留守家庭児童教室（学童保育）を利用しない理由

留守家庭児童教室（学童保育）を「利用していないし、今後も利用する必要はない」と答えた人の利用していない主な理由は、「下校時刻には家にいるから」（41.5%）、「祖父母等の親族が預かってくれるから」（37.9%）、「子どもだけでも大丈夫だと思うから」（21.0%）などとなっています。学年別にみると、4～6年生は「子どもだけでも大丈夫だと思うから」が27.6%と高くなっています。母親の就労状況別にみると、フルタイムは「祖父母等の親族が預かってくれるから」が70%を超えています。

「その他」として、図表2-47の内容が記載されていました。

図表2-46 留守家庭児童教室（学童保育）を利用しない理由（留守家庭児童教室（学童保育）を利用しない人、複数回答）



図表 2-47 留守家庭児童教室（学童保育）を利用しない理由（その他、留守家庭児童教室（学童保育）を利用しない人、複数回答）

- ・子どもが行きたがらないから（2人）
- ・高学年になり、学童よりも家の方がよいと言い出した
- ・以前使っていたが、安心して預けられる環境ではなかった（2人）
- ・学童保育の質や内容についてよくない噂を耳にしたため。担当者や内容、予定など公開してほしい
- ・初めての夏休みに一度利用したが、酷い対応を受けて二度と利用したくないと思った。お金を払っているのに来てほしくないようなことを言われ、正直返金してほしい
- ・学童終了時間に迎えに行けないから。夏休みも時間的に預けられない
- ・就労時間が短いと学童に入れないと役場で断られたから
- ・就労時間が足りないから、不規則のため
- ・支援学級の子は要相談と言われた
- ・特別学級に通っているのが対象外だから
- ・放課後等デイサービスに行っているから
- ・放課後等デイサービスのあと祖父母宅
- ・自宅で仕事をしているから
- ・育休中で家に私（母）がいるから
- ・子どもの意見を尊重していきたいため

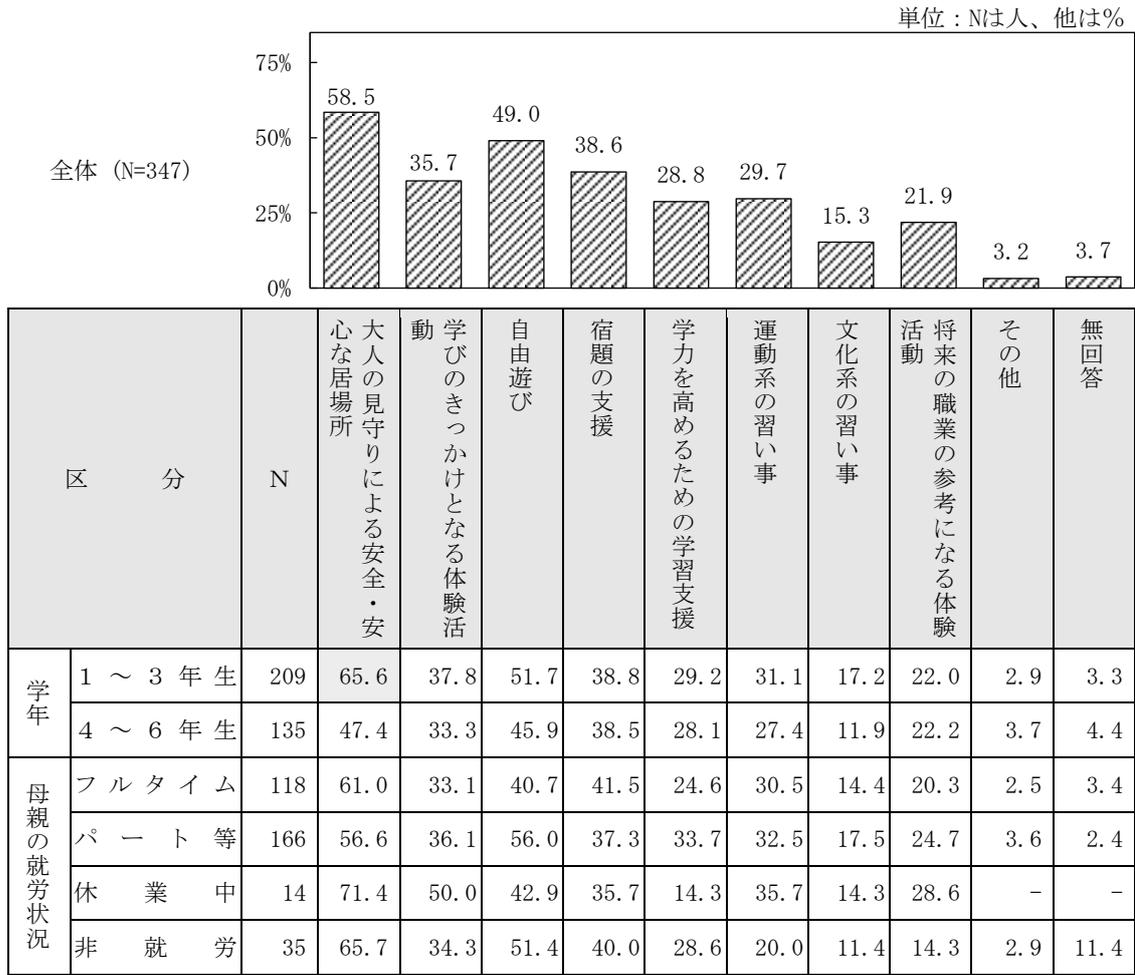
(5) 放課後に必要だと思うもの

お子さんの放課後に必要だと思うものをたずねたところ、「大人の見守りによる安全・安心な居場所」（58.8%）、「自由遊び」（49.0%）、「宿題の支援」（38.6%）、「学びのきっかけとなる体験活動」（35.7%）などとなっています。

学年別にみると、1～3年生は「大人の見守りによる安全・安心な居場所」が65%を超えています。

「その他」として、図表 2-49の内容が記載されていました。

図表 2-48 放課後に必要だと思うもの（複数回答）



図表 2-49 放課後に必要だと思うもの（その他、複数回答）

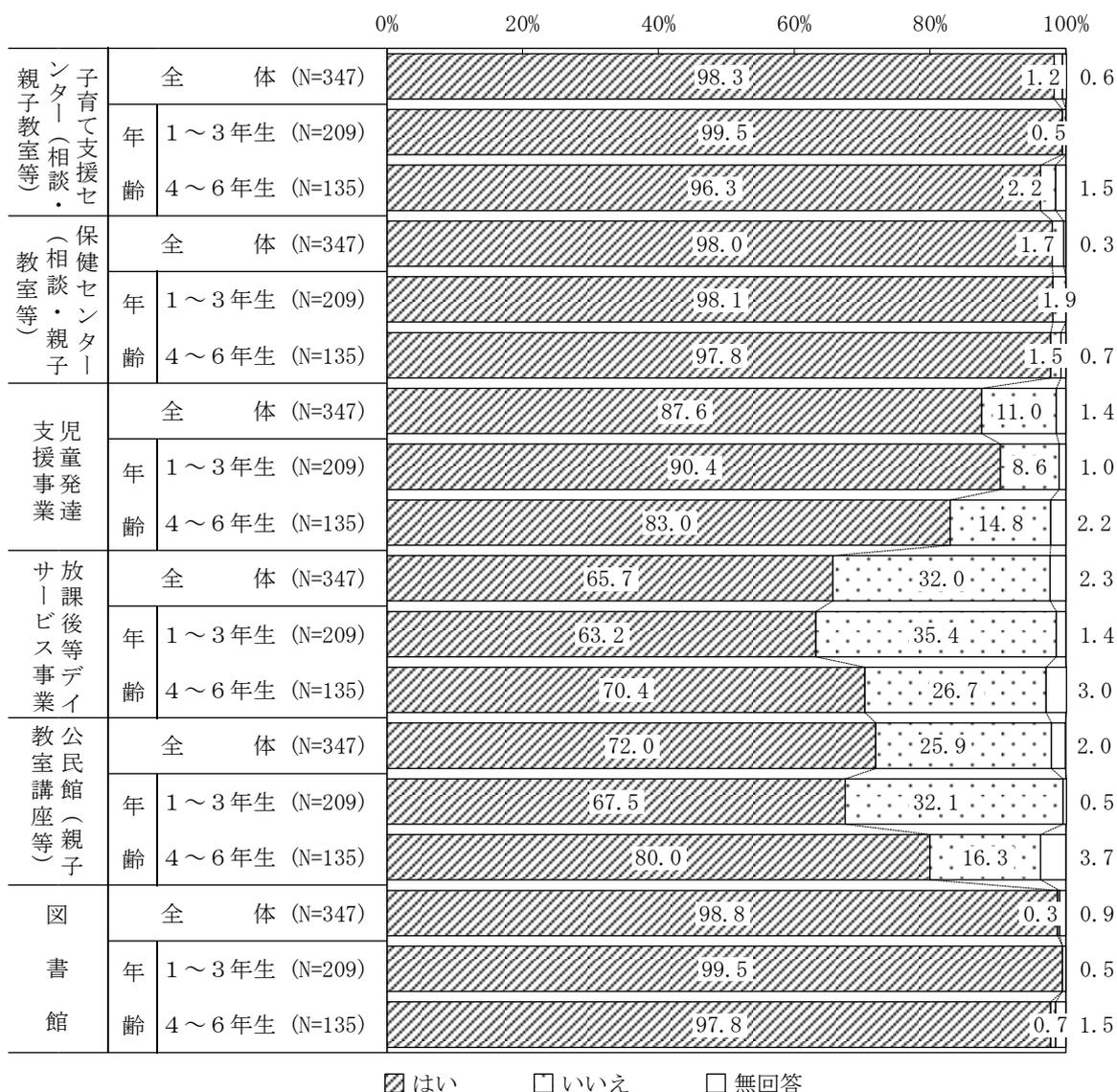
- ・友だちと遊ぶ（3人）
- ・人とのつながり
- ・ボルダリングやアスレチックのような、高学年の子どもでも遊べる遊具のある公園
- ・子どもだけで遊べる安心安全な場所（広い公園）
- ・児童館
- ・池田町にある児童館へたまに遊びに行きます。揖斐川町にもあるといいと思います
- ・子どもがやりたいと思ったことをできるようにすること
- ・地域の方々にも有能な方などがいると思うので、地域社会の構築の見直し、公的な場所の利用を検討してはどうか（図書館、体育館、農業・園芸活動など）
- ・投資運用など経済的な視点から先見性を高める教育の場

6 子育て支援事業等の利用状況

(1) 子育て支援事業等の認知度

子育て支援事業や施設等で認知度が高いのは、「図書館」(98.8%)、「子育て支援センター(相談・親子教室等)」(98.3%)、「保健センター(相談・親子教室等)」(98.0%)などです。比較的認知度が低いのは、「放課後等デイサービス事業」(65.7%)、「公民館(親子教室等)」(72.0%)です。学年別にみると、4～6年生は1～3年生に比べて「公民館(親子教室等)」(72.0%)が12.5ポイント高くなっています。

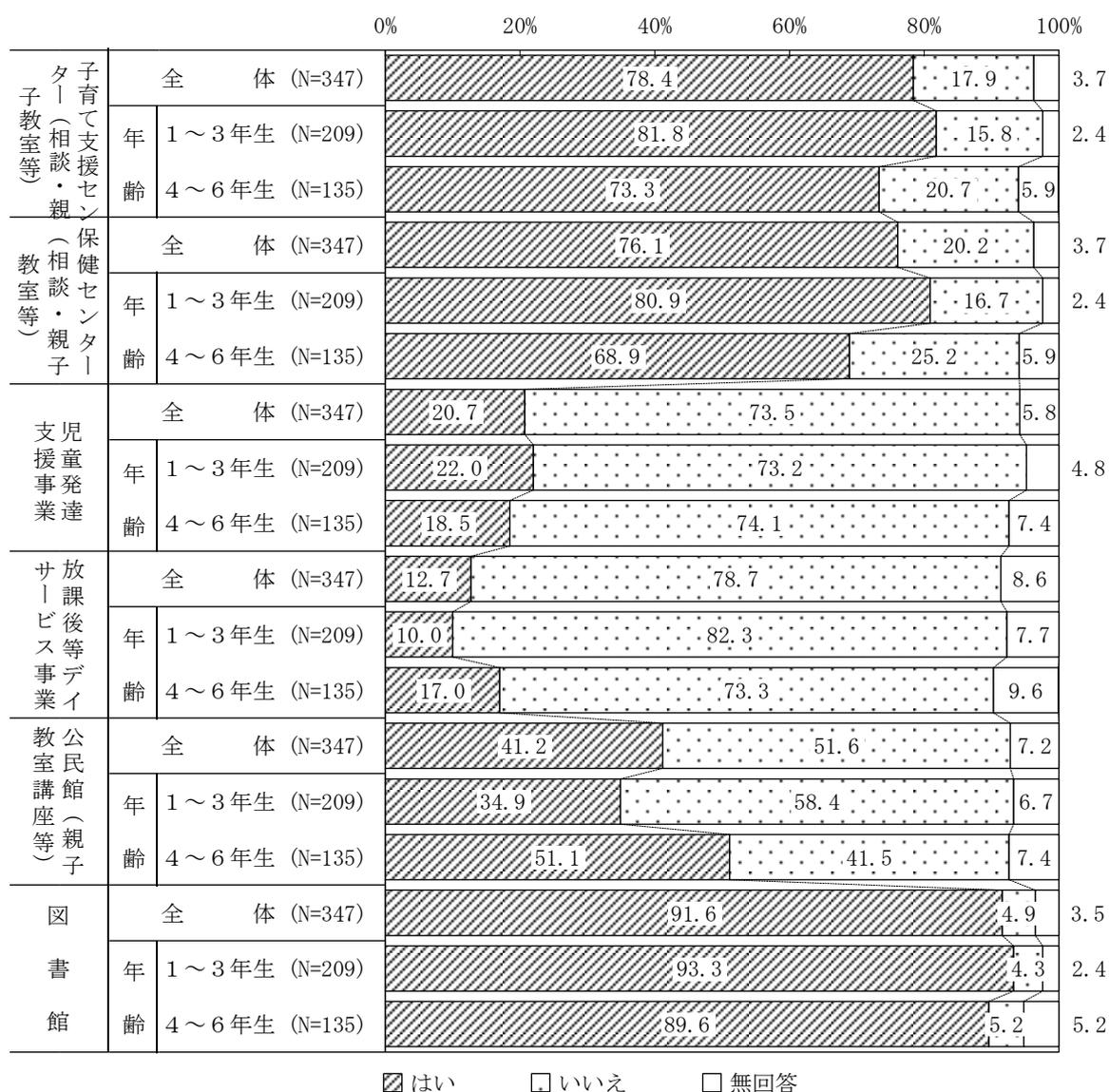
図表2-50 子育て支援事業等の認知度(「知っている」)



(2) 子育て支援事業等の利用経験

利用経験が高いのは、「図書館」(91.6%)、「子育て支援センター(相談・親子教室等)」(78.4%)、「保健センター(相談・親子教室等)」(76.1%)です。利用経験が最も低いのは、「放課後等デイサービス事業」の12.7%で、「児童発達支援事業」も20%台です。学年別にみて最も差があるのは「公民館(親子教室等)」であり、4～6年生が1～3年生を16.2ポイント上回っています。

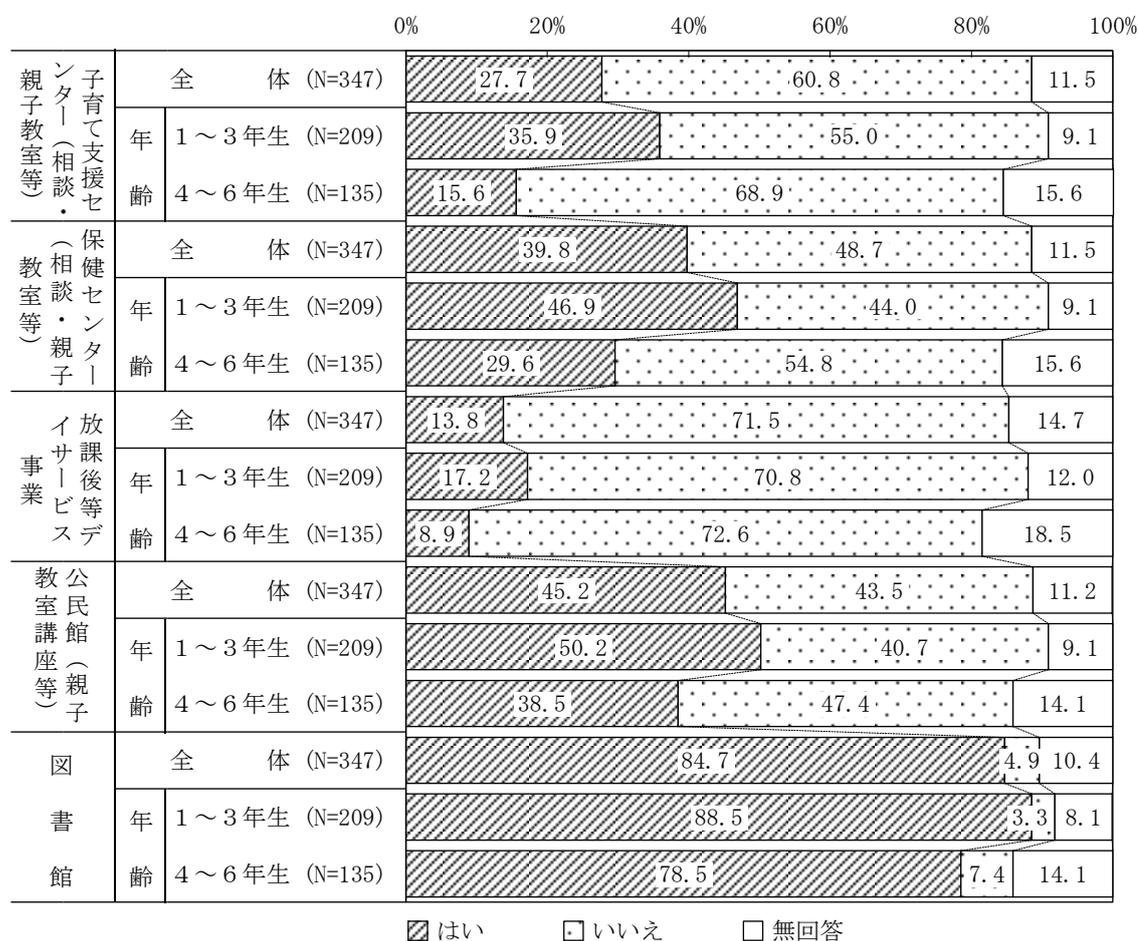
図表2-51 子育て支援事業等の利用経験(「これまでに利用したことがある」)



(3) 子育て支援事業等の利用意向

(2)の利用経験より利用意向が高くなっているのは、「放課後等デイサービス事業」、
「公民館（親子教室等）」で、そのほかのサービスは利用経験を下回っています。

図表 2-52 子育て支援事業等の利用意向（「今後利用したい」）

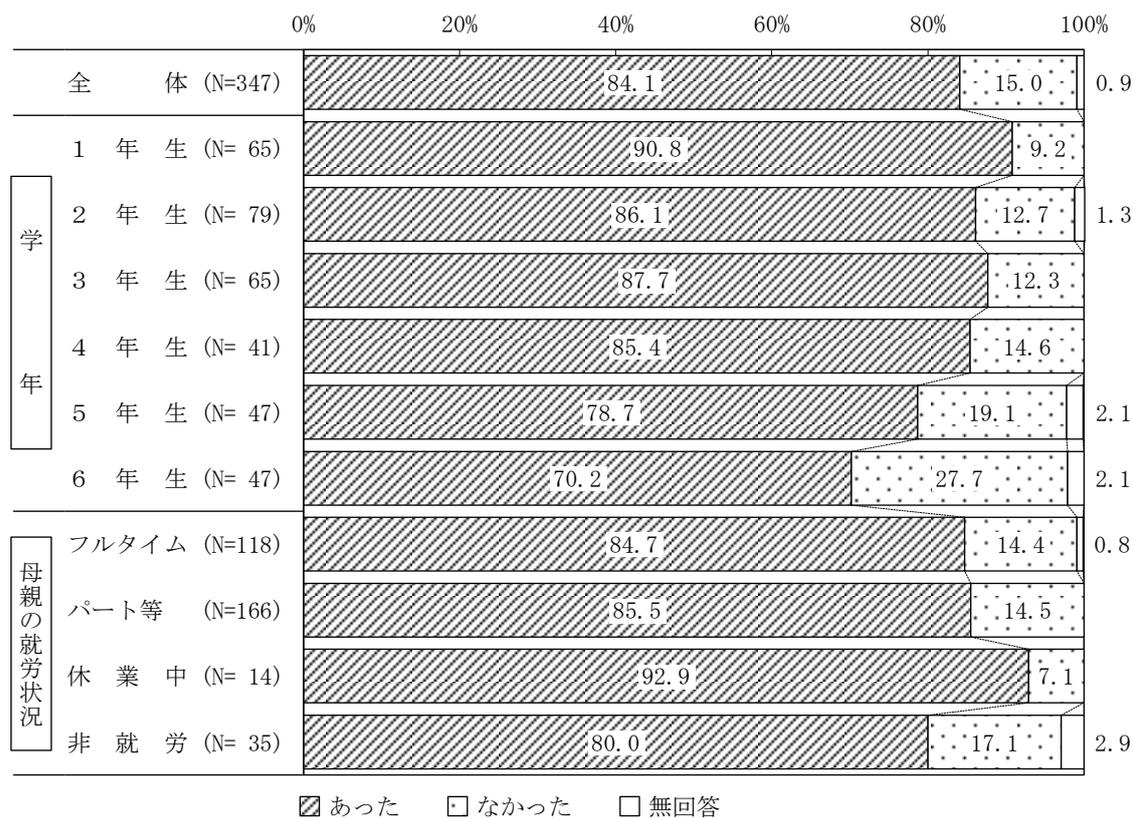


7 子どもが病気の時の対応

(1) 子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無

この1年間に、子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無については、「あった」が84.1%、「なかった」が15.0%です。学年が上がるにつれて「あった」が低下する傾向にあります。

図表2-53 子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無



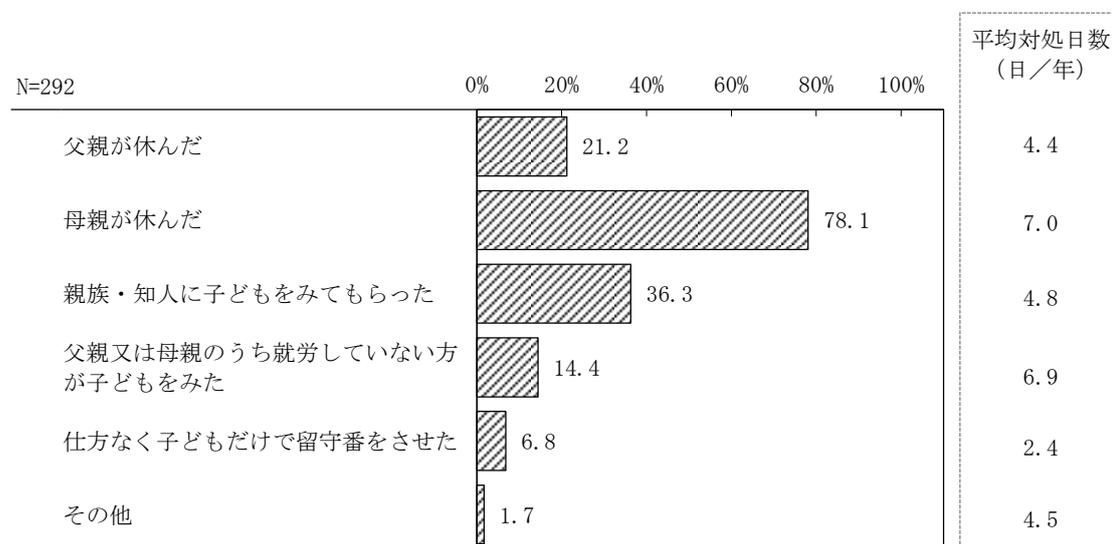
(2) 子どもが病気等で学校を休んだ場合の対処方法

この1年間に、子どもが病気等で学校を休んだ場合の対処方法については、「母親が休んだ」の78.1%が最も高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」(36.3%)、「父親が休んだ」(21.2%)の順となっています。

対処が必要だった年間の日数の平均を対処方法別にみると、「母親が休んだ」は7.0日、「親族・知人に子どもをみてもらった」は4.8日、「父親が休んだ」は4.4日となっています。

「その他」として、「仕事をしながら見ていた」、「職場に連れて行けるので連れて行った」、「自宅で仕事」、「姉妹で留守番した」の記載がありました。

図表2-54 子どもが病気等で学校を休んだ場合の対処方法（子どもが病気等で学校を休んだ人、複数回答）



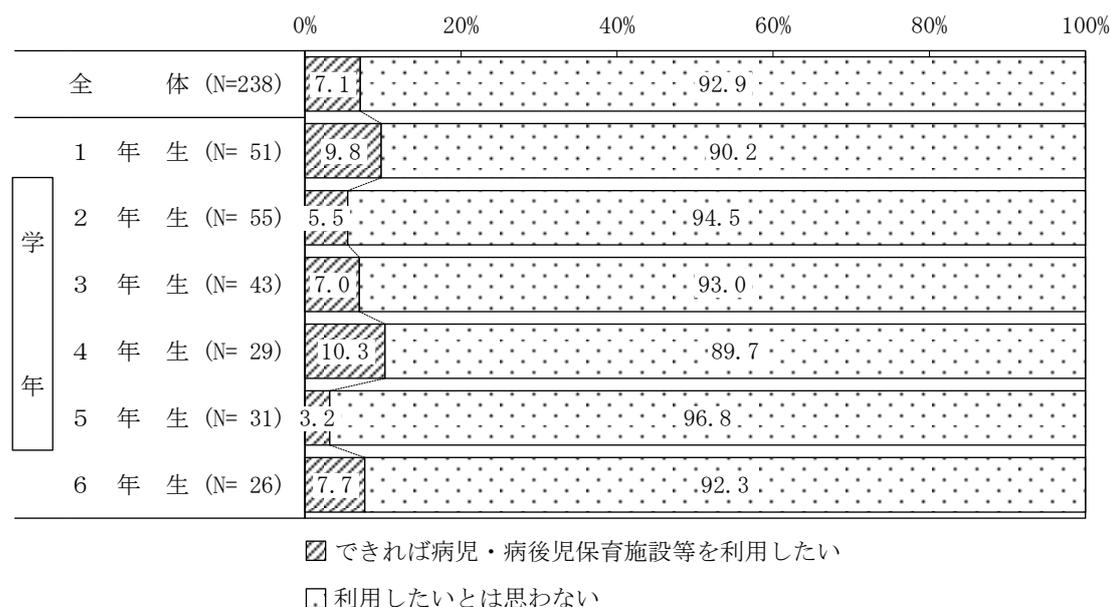
(注) 「病児・病後児の保育を利用した」、「ベビーシッターを利用した」という選択肢には該当がなかった。

(3) 子どもが病気等で学校を休んだ場合の施設の利用意向

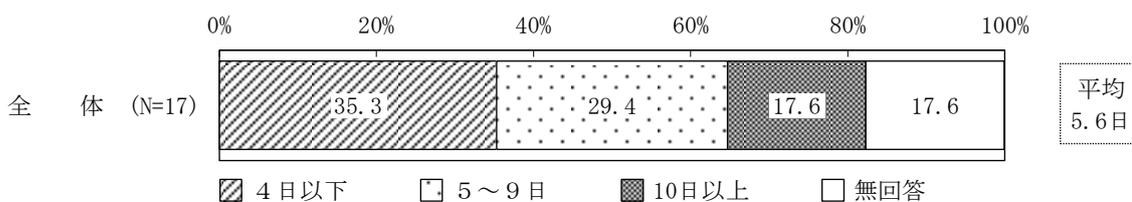
子どもが病気等で学校を休んだ時、親が仕事を休んで対処した人の施設の利用意向は7.1%です（図表2-55）。

施設に預けたいと思った平均日数は5.6日です（図表2-56）。

図表2-55 子どもが病気等で学校を休んだ場合の施設の利用意向（子どもが病気等で学校や休んだ際に親が休んだ人）



図表2-56 施設に預けたいと思った日数（日／年、病児・病後児保育等を利用したい人）

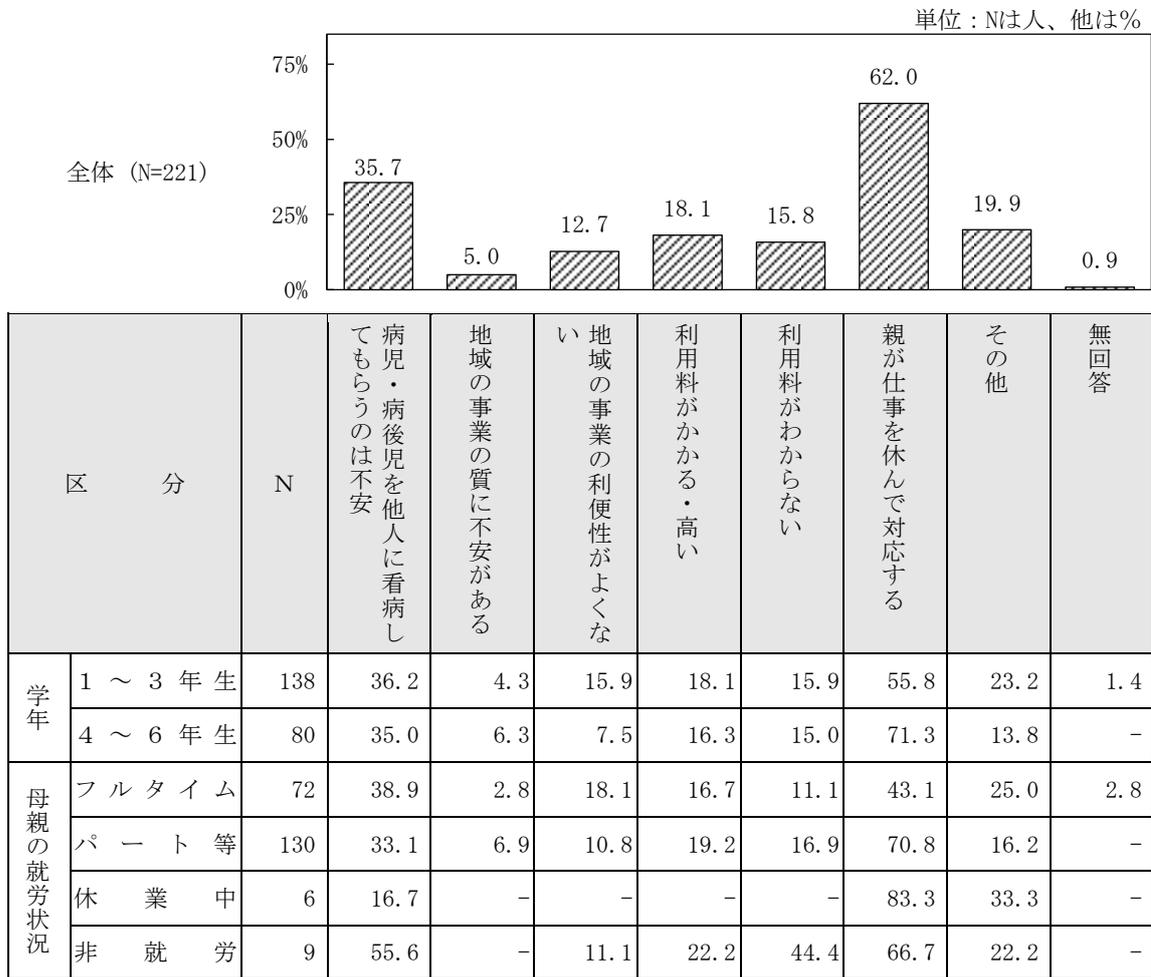


(4) 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由

病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない人にその理由をたずねたところ、「親が仕事を休んで対応する」が62.0%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看病してもらうのは不安」(35.7%)、「利用料がかかる・高い」(18.1%)となっています。

「その他」として図表2-58の内容が記載されていました。

図表 2-57 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由（病児・病後児保育施設等の利用を希望しない人、複数回答）



図表 2-58 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由（その他、病児・病後児保育施設等の利用を希望しない人、複数回答）

- ・事前登録等、手続きなどが面倒である（8人）
- ・利用方法がわからない（4人）
- ・お弁当を作るのが手間（2人）
- ・利用できる時間帯が合わない
- ・診断書の書類をドクターに書いてもらうことが手間
- ・利用前の受診する時間がそもそも取れない。出勤前にその時間はない
- ・預けるための荷造りが面倒
- ・連れて行くのが面倒
- ・準備（持ち物）の手間を考えると家の方が気分的に楽
- ・内容等いまいちわからない
- ・どこにあるのか知らない
- ・体調の悪いときくらい、一緒にいてあげたい
- ・病気のとときくらいは一緒にいてあげたい、安心させたい
- ・病気のとときほど親が側にいてあげたい
- ・病気で辛いとき、親に甘えたいと思うから
- ・子どもが心細いと思うため

-
-
- ・体調不良のときは心理的に不安になりがちだと思うので、側にいてあげたい
 - ・子どもが親を望んでいたのも、その気持ちに対応すればよいと思う
 - ・子ども自身が親以外の看病に不安を感じる
 - ・知らない人に看病してもらうのは、子どもが心細いと思うため
 - ・子どもが不安な思いをするかもしれないから
 - ・病気のときくらい子どもを見てあげたい。子どもがかわいそう
 - ・子の心のケアのため
 - ・家族（祖父母）が、子どもが体調不良の際は、母親が仕事を休んで世話をすべきだという考えなので
 - ・他の病児の子から違う風邪をもらってくる。逆に移してしまったらと思ってしまう
 - ・他の感染症が心配だから
 - ・子どもがバラバラな場所で生活していると、それぞれの子への対応が不安
 - ・そのときの病状や状況によって利用を考えたい
 - ・自前で何とかなる
 - ・子どもを見てくれる親族がいるから
 - ・体調が良くなってきたが、学校はまだ行けないときは祖父母が見てくれるから
 - ・見てもらえる人がいる
 - ・余程の理由がない限り、他人のお世話になりたいと思わない
 - ・今回は子どもの入院で当てはまらなかった
 - ・働いても利用料が同じくらいのため、家で看ている
 - ・子どもの年齢が大きいので利用しなくても大丈夫
 - ・職場で休めるスペースがある

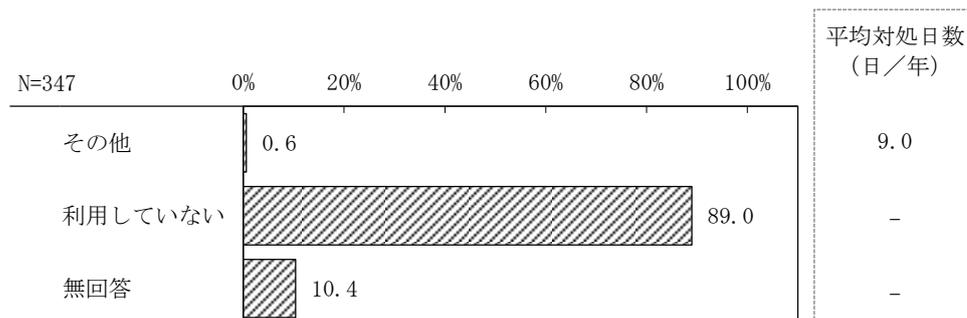
8 不定期の事業や宿泊を伴う一時預かり

(1) 不定期に利用している事業

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業は「利用していない」が89.0%を占めています。

「その他」として、「職場の託児所」、「児童館」が記載されていました。

図表 2-59 不定期に利用している事業（複数回答）



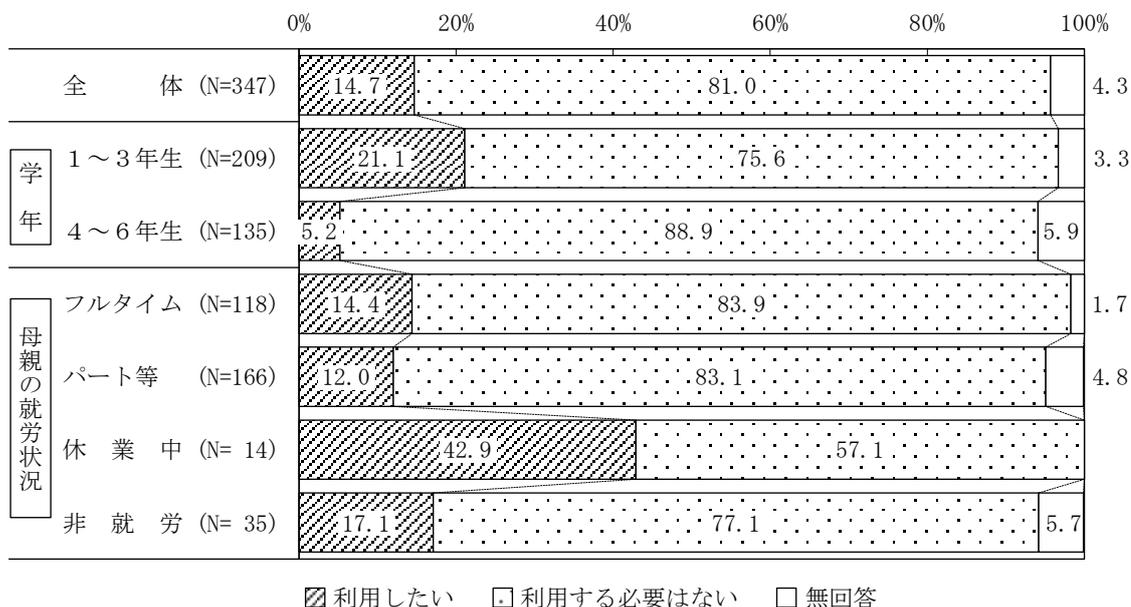
(注) 「夜間養護等事業」、「ベビーシッター」という選択肢には該当がなかった。

(2) 不定期の預かり等の事業の利用意向

① 不定期の預かり等の事業の利用意向

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、子どもを預かってくれる事業を不定期に「利用したい」と答えているのは14.7%です。学年別にみると、1～3年生は4～6年生に比べて「利用したい」が15.9ポイント高くなっています。

図表 2-60 不定期の預かり等の事業の利用意向

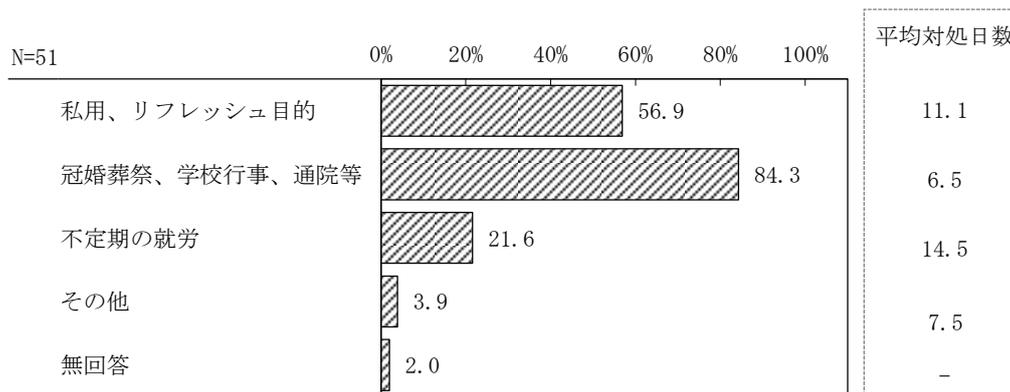


② 不定期の預かり等の事業の利用目的

①で「利用したい」と答えた51人に利用目的をたずねたところ、「冠婚葬祭、学校行事、通院等」(84.3%)、「私用、リフレッシュ目的」(56.9%)、「不定期の就労」(21.6%)となっています。

各目的別の1年間の利用希望日数をみると、「不定期の就労」の14.5日が最も多くなっています。

図表2-61 目的別の不定期の預かり事業の利用希望（不定期の預かり事業を利用したい人、複数回答）

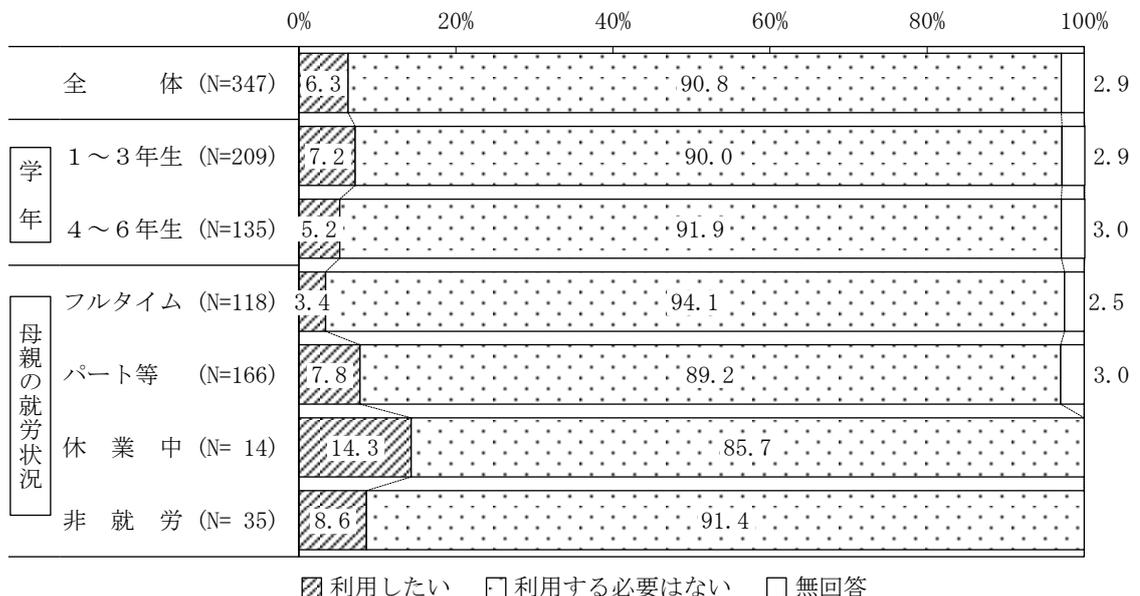


(3) 短期入所生活援助事業

① 短期入所生活援助事業の利用意向

保護者の用事によって短期入所生活援助事業（ショートステイ）を「利用したい」と答えているのは6.3%です。

図表2-62 短期入所生活援助事業の利用意向

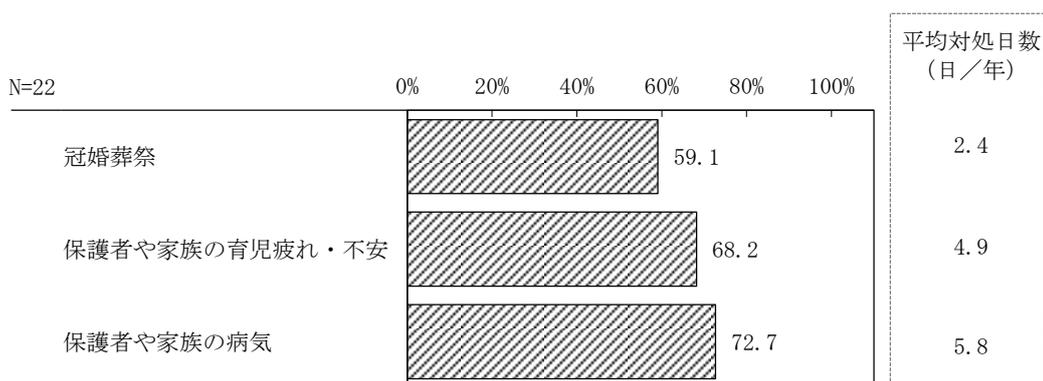


② 目的別の短期入所生活援助事業の利用希望

①で「利用したい」と答えた人の利用目的をたずねた結果が図表2-63です。「保護者や家族の病気」(72.7%)、「保護者や家族の育児疲れ・不安」(68.2%)、「冠婚葬祭」(59.1%)となっています。

目的別の1年間の利用希望日数をみると、「保護者や家族の病気」が5.8日と最も多く、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が4.9日、「冠婚葬祭」が2.4日です。

図表2-63 目的別の短期入所生活援助事業の利用希望（短期入所生活援助事業を利用したい人、複数回答）



(注)「その他」という選択肢には該当がなかった。

9 子育て観やサービスの満足度

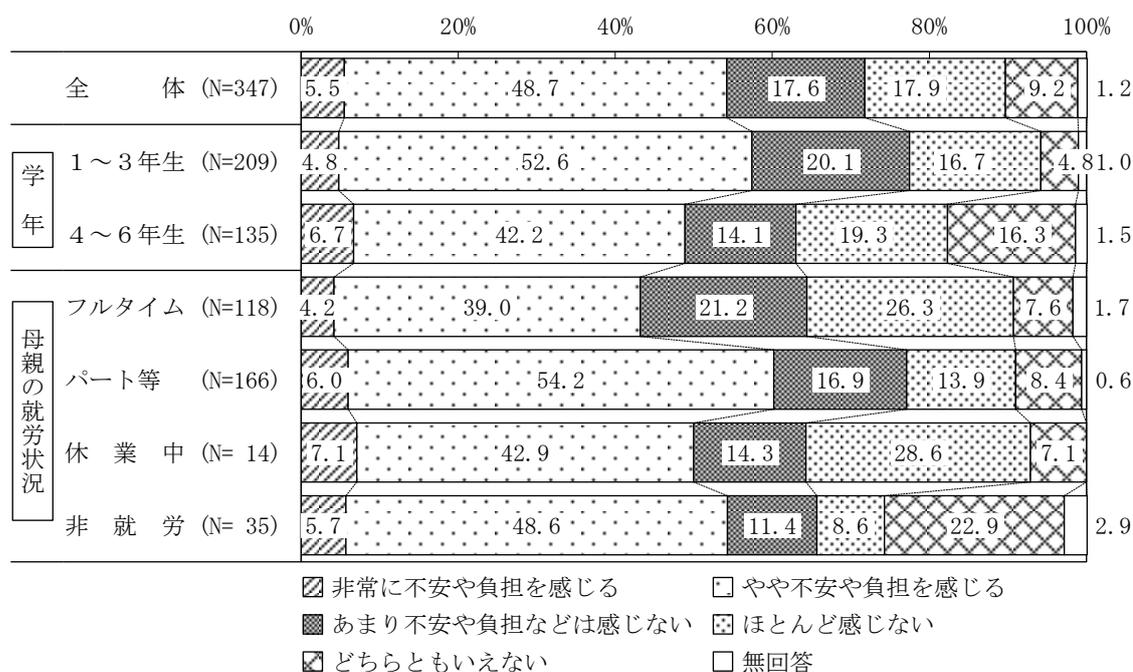
(1) 子育てに関する不安や負担

子育てに関して不安や負担を感じたことがあるかたずねたところ、「やや不安や負担を感じる」が48.7%と最も高く、これに「非常に不安や負担を感じる」(5.5%)を加えた〈不安や負担を感じる〉が54.2%を占めています。「あまり不安や負担などは感じない」(17.6%)と「ほとんど感じない」(17.9%)を合計した〈不安や負担は感じない〉は35.5%です。

学年別では1～3年生は〈不安や負担を感じる〉が高くなっています。

母親の就労状況別みると、フルタイムは〈不安や負担を感じる〉が比較的低い割合です。

図表2-64 子育てに関する不安や負担

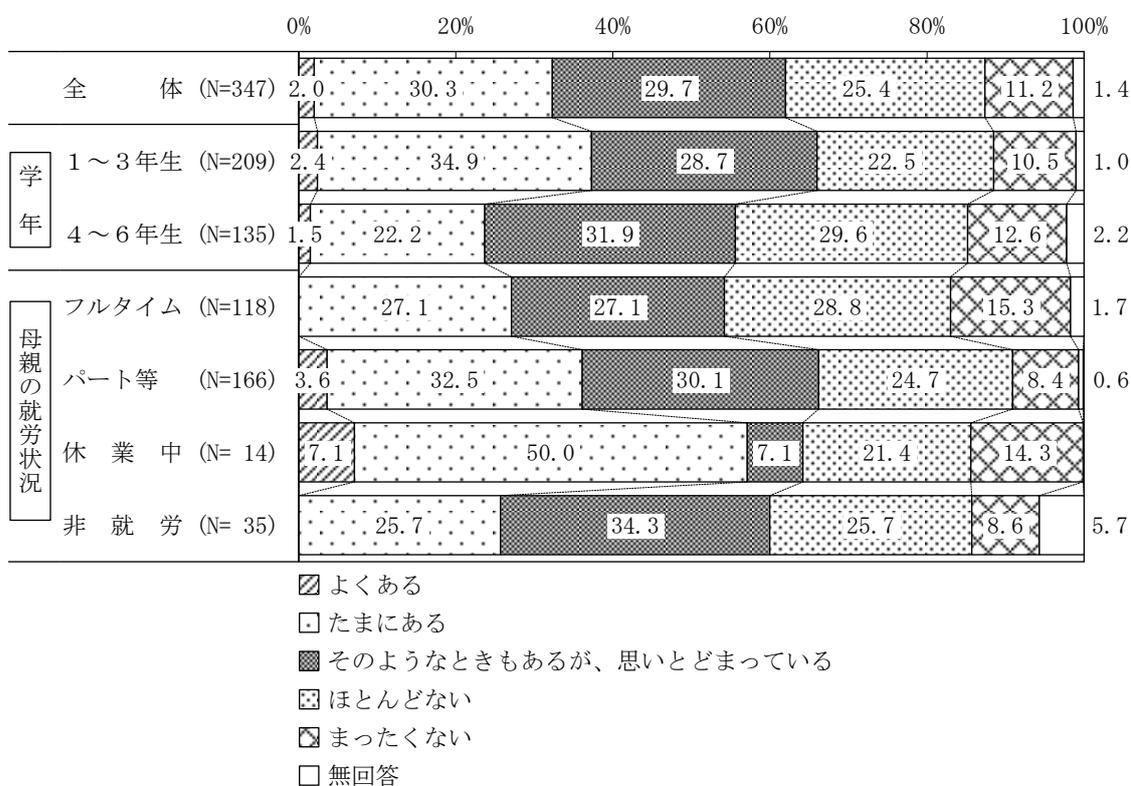


(2) 子どもに対する暴言や暴力

「子どもに対して思わずたたいたり、子どもを傷つける言動をしたり、子どもの世話をしないことがあるか」という設問では、「たまにある」が30.3%と最も高くなっており、これに「よくある」(2.0%)を加えた〈子どもを傷つけることがある〉が32.3%あります。

学年別にみると、1～3年生は4～6年生に比べて〈子どもを傷つけることがある〉が13.6ポイント高くなっています。

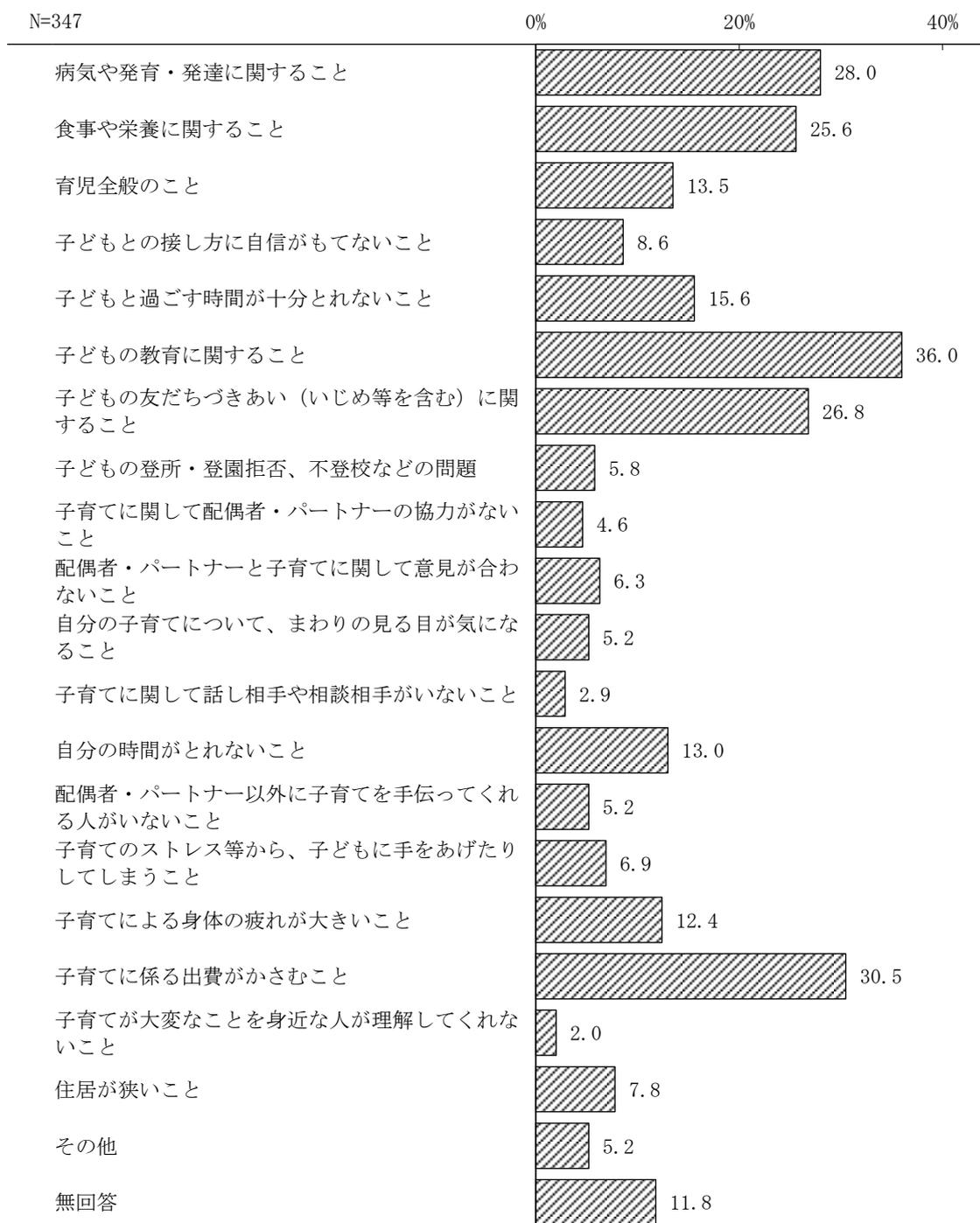
図表2-65 子どもに対する暴言や暴力



(3) 子育てに関する悩みごと、気になること

子育てに関して、日頃悩んでいることや気になることは「子どもの教育に関するこ
と」が36.0%と最も高く、次いで「子育てに係る経費がかさむこと」(30.5%)、「病
気や発育・発達に関すること」(28.0%)、「子どもの友だちづきあい(いじめ等を含
む)に関すること」(26.8%)となっています。

図表2-66 子育てに関する悩みごと、気になること(複数回答)



学年別では、1～3年生は4～6年生に比べて「食事や栄養に関すること」、「子どもの教育に関すること」が10ポイント以上高くなっています。

母親の就労状況別では、フルタイムは「子どもと過ごす時間が十分とれないこと」が高くなっています。

「その他」として図表2-68の内容が記載されていました。

図表2-67 子育てに関する悩みごと、気になること（年齢・母親の就労状況別、複数回答）

単位：Nは人、他は%

区 分	学 年		母親の就労状況			
	1～3年生	4～6年生	フルタイム	パート等	休業中	非就労
N	209	135	118	166	14	35
病気や発育・発達に関すること	30.1	24.4	22.0	31.3	42.9	22.9
食事や栄養に関すること	29.7	18.5	22.0	30.7	28.6	22.9
育児全般のこと	16.3	9.6	9.3	16.3	-	14.3
子どもとの接し方に自信がもてないこと	10.5	5.9	4.2	12.0	14.3	2.9
子どもと過ごす時間が十分とれないこと	16.7	14.1	27.1	10.8	14.3	-
子どもの教育に関すること	40.2	29.6	33.9	36.7	35.7	37.1
子どもの友だちづきあい（いじめ等を含む）に関すること	26.3	28.1	25.4	25.9	14.3	37.1
子どもの登所・登園拒否、不登校などの問題	6.2	5.2	3.4	5.4	28.6	5.7
子育てに関して配偶者・パートナーの協力がいないこと	5.3	3.7	3.4	5.4	7.1	5.7
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと	5.3	8.1	5.9	7.2	7.1	2.9
自分の子育てについて、まわりの見目が気になること	6.2	3.7	5.1	4.8	21.4	2.9
子育てに関して話し相手や相談相手がないこと	1.9	4.4	0.8	3.6	-	5.7
自分の時間がとれないこと	13.4	12.6	13.6	10.2	21.4	25.7
配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	6.2	3.7	3.4	4.2	14.3	14.3
子育てのストレス等から、子どもに手をあげたりしてしまうこと	8.1	4.4	5.1	8.4	14.3	5.7
子育てによる身体の疲れが大きいこと	15.3	8.1	11.9	12.7	14.3	14.3
子育てに係る出費がかさむこと	31.6	29.6	25.4	35.5	35.7	28.6
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれないこと	1.9	2.2	2.5	0.6	7.1	2.9
住居が狭いこと	6.7	9.6	5.9	9.6	-	8.6
その他	6.2	3.7	6.8	3.0	14.3	8.6
無回答	11.0	13.3	16.1	9.6	14.3	5.7

図表 2-68 子育てに関する悩みごと、気になること（その他、複数回答）

- ・仕事と子育ての両立（3人）
- ・姑が放課後子どもの世話をしてくれています（近距離別居）。いろいろなストレスにより、生理時に毎回39℃の高熱で、何度も倒れ、クリニックにて「ストレスによるホルモンバランスのみだれ」と診断されました。現在はピルを服用して落ち着きましたが、何とかしたいと思っています
- ・小学校のタブレットを遊びに使っていること（音楽、ゲーム等）
- ・学校教育について
- ・習い事をさせたくても、子どもがしたくても、どれも送迎が必要で、または当番もあったりして、兄弟がいると一緒に習い事じゃないとできない。どちらかの兄弟が留守番や、やらないなど犠牲になっている
- ・上の子の行事の際に、下の子を預けられないこと（保育入所前）
- ・児童精神科系の専門医療機関が近隣に少ないこと
- ・預け先が祖父母しかないこと
- ・祖父母の不必要な干渉
- ・フルで復帰した場合、学校の宿題を見てあげる時間が取れなくなってしまうこと
- ・子どもだけ（友人と）で安心して遊べる場所が少ない
- ・長期休暇にプール等もなくなり、子どもがのびのびできない
- ・子ども会、PTA役員など親が担わなければならない役が多く、また少子化のため役がすぐ回ってくる。フルタイムで働いている親には大きな負担となっているのに見直されることがない
- ・PTAや子ども会など役員に当たったときに負担が大きい
- ・ママ友関係について
- ・雨漏りがしてカビが生えている家に住ませなければいけない。建て直すこともできない
- ・特になし

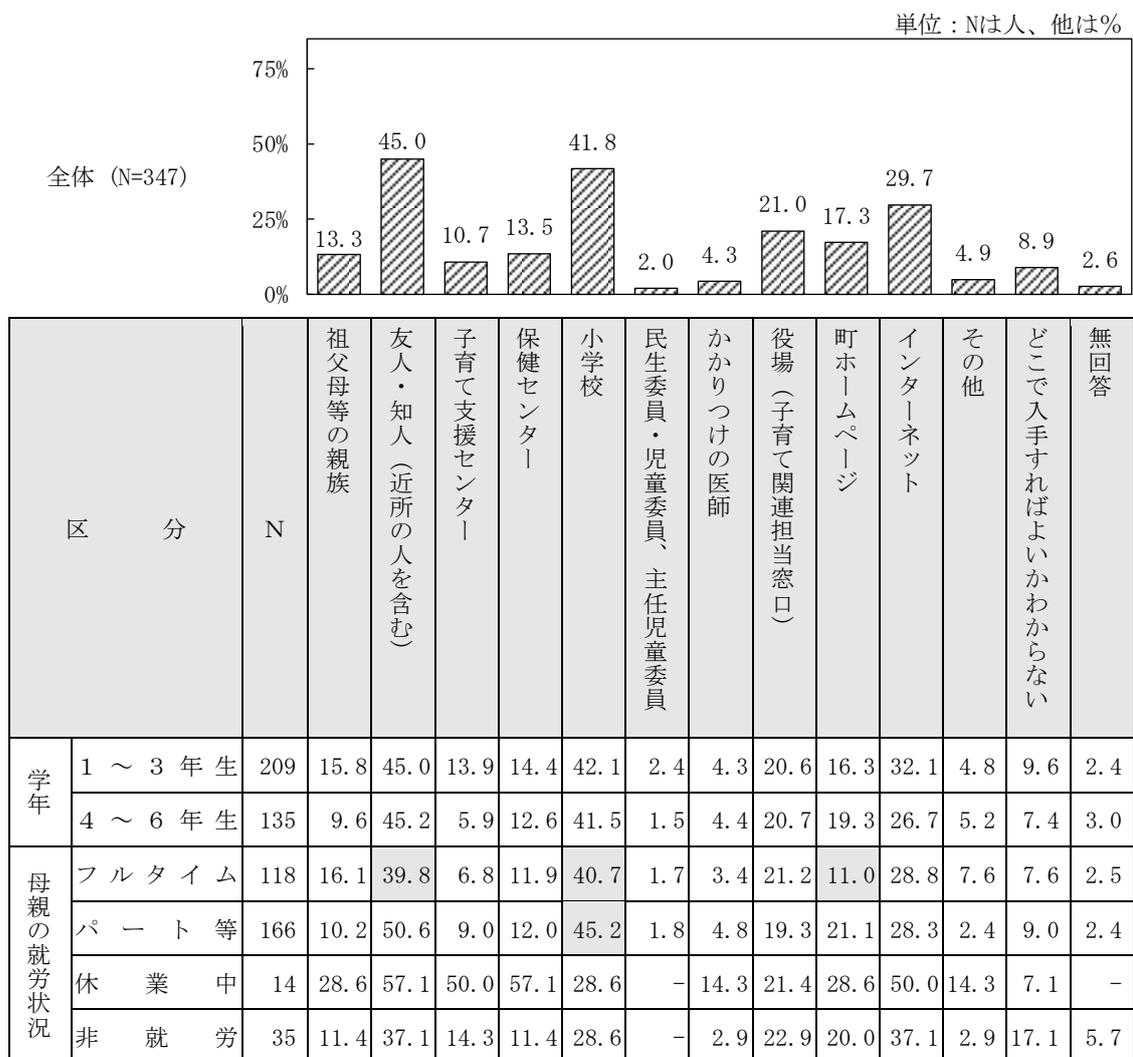
(4) 子育てに関する情報の取得方法

子育てに関する情報の取得方法は「友人・知人（近所の人を含む）」が45.0%と最も高く、「小学校」（41.8%）、「インターネット」（29.7%）、「役場（子育て関連担当窓口）」（21.0%）となっています。また、「どこで入手すればよいかわからない」が8.9%あります。

母親の就労状況別では、休業中や非就労に比べて、フルタイムやパート等は「小学校」が高くなっています。また、フルタイムは「友人・知人（近所の人を含む）」、「町ホームページ」が低くなっています。

「その他」として「広報（16人）」、「広報無線」、「学校の便り」という記載がありました。

図表2-69 子育てに関する情報の取得方法（複数回答）

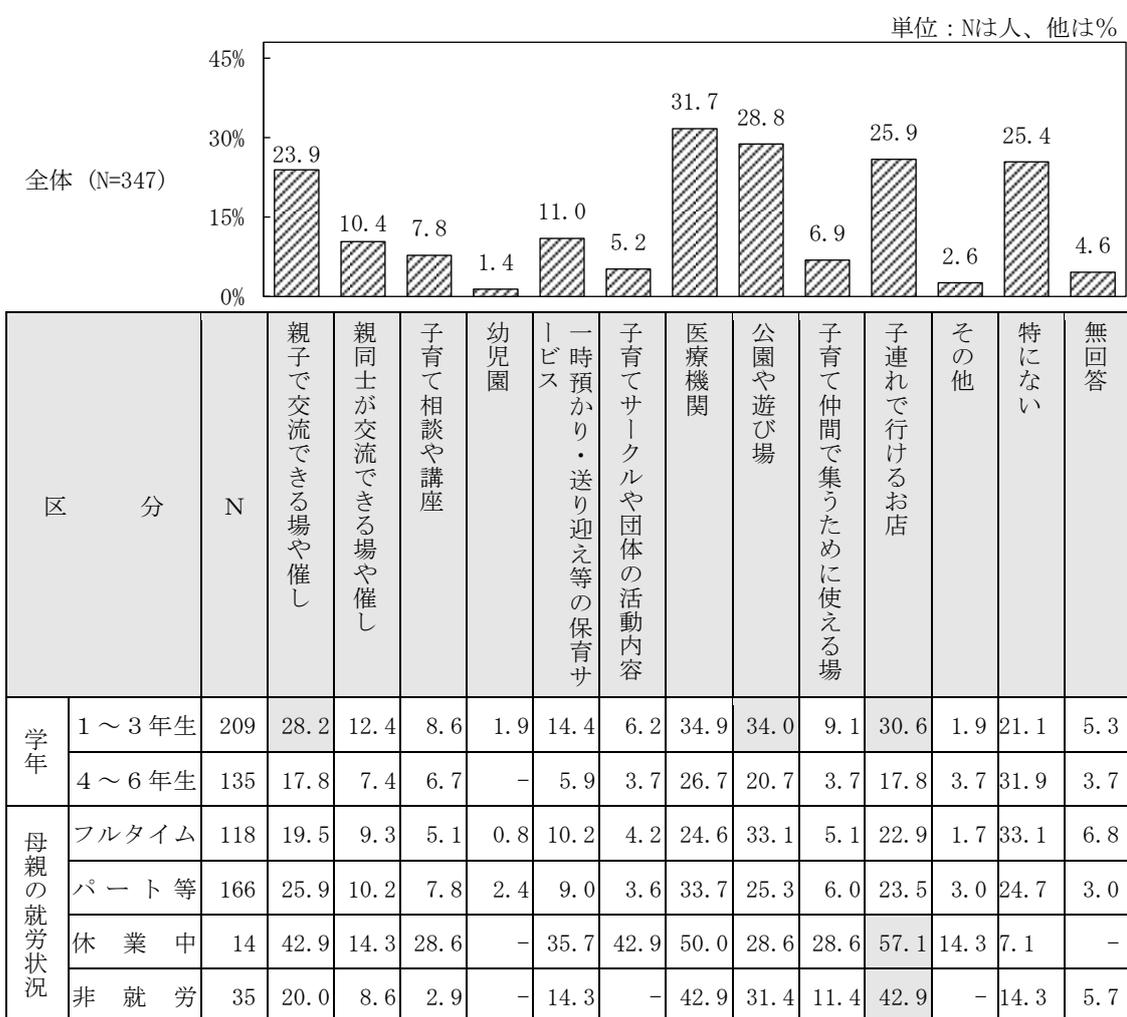


(5) 子育てに関して知りたい情報

子育てに関して知りたい情報は「医療機関」が31.7%と最も高く、「公園や遊び場」(28.8%)、「子連れで行けるお店」(25.9%)、「親子で交流できる場や催し」(23.9%)となっています。学年別では、1～3年生は4～6年生に比べて「親子で交流できる場や催し」、「公園や遊び場」、「子連れで行けるお店」が10ポイント以上高くなっています。母親の就労状況別にみると、フルタイムやパート等に比べて、休業中や非就労は「子連れで行けるお店」が高くなっています。

「その他」として図表2-71の内容が記載されていました。

図表2-70 子育てに関して知りたい情報（複数回答）



図表2-71 子育てに関して知りたい情報（その他、複数回答）

<ul style="list-style-type: none"> ・習い事（2人） ・習い事ができる施設 ・塾 ・教育、スポーツ ・教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校、大学支援 ・申請すればもらえるお金や受けられるサービス ・雨の日でも遊べる無料の場所 ・いつでも対応してもらえる電話相談、SNS
---	---

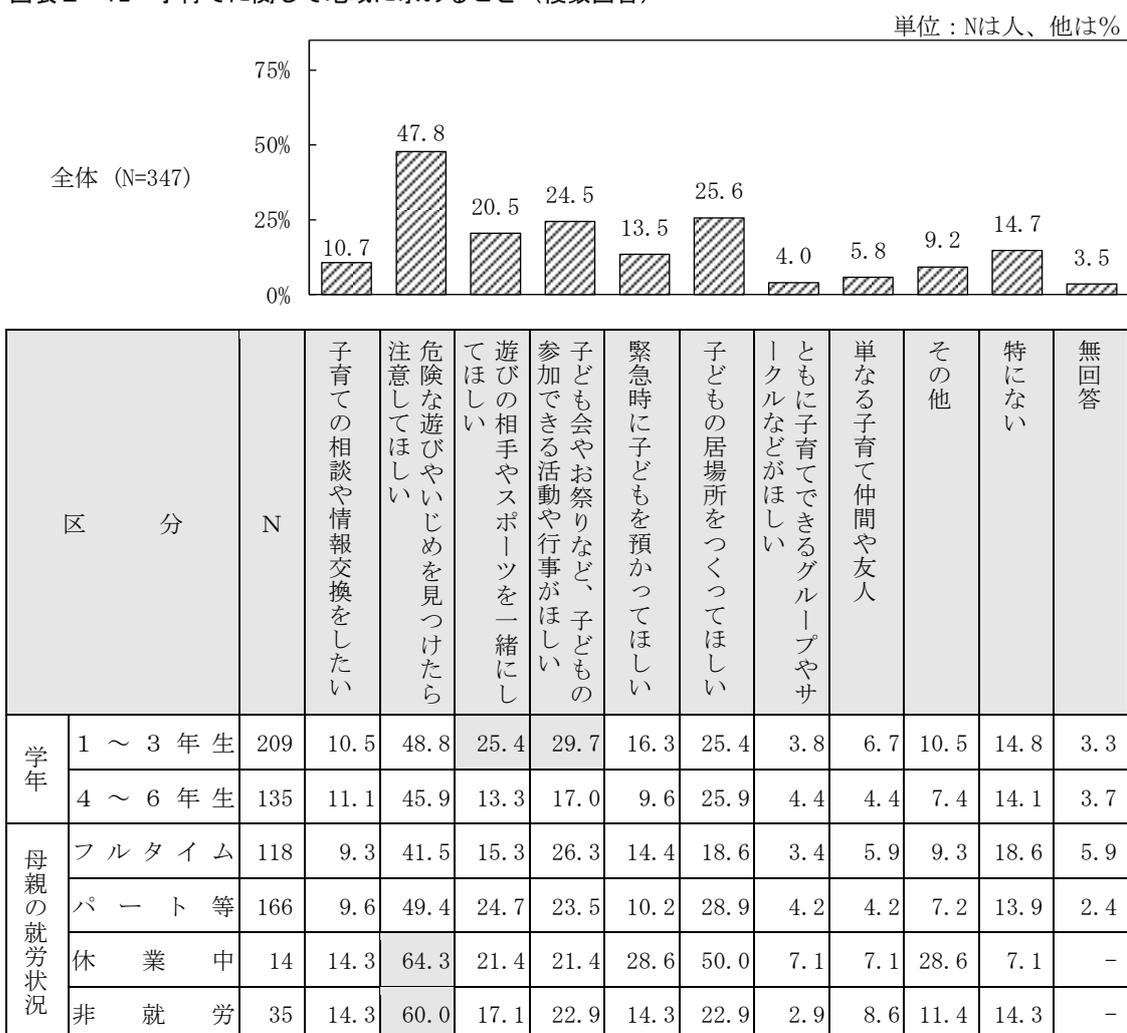
(6) 子育てに関して地域に求めること

子育てに関して地域に求めることは「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」が47.8%と最も高く、「子どもの居場所をつくってほしい」(25.6%)、「子ども会やお祭りなど、子どもの参加できる活動や行事がほしい」(24.5%)などとなっています。

学年別にみると、1～3年生は4～6年生に比べて「遊びの相手やスポーツを一緒にしてほしい」、「子ども会やお祭りなど、子どもの参加できる活動や行事がほしい」が10ポイント以上高くなっています。母親の就労状況別にみると、フルタイムやパート等に比べて、休業中や非就労は「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」が高くなっています。

「その他」として図表2-73の内容が記載されていました。

図表2-72 子育てに関して地域に求めること（複数回答）



図表 2-73 子育てに関して地域に求めること（その他、複数回答）

- ・児童館がほしい（2人）
- ・習い事（スポーツ、文化系）の充実（2人）
- ・少年団以外のスポーツが気軽にできる場がもう少しあると嬉しいです
- ・スポーツ少年団の種類が少ない
- ・塾の充実
- ・学びの場
- ・子どもがやりたいと思うことが身近にあり、自主的に通える環境
- ・岐阜、大垣方面への高校に通いやすいようにバスを増やしてほしい
- ・公園等の横断歩道の信号を点滅でもよいので設置してほしい。心配で遊びに行かせにくい
- ・ゆめパークの横断が危険なので、信号を付けてほしいです
- ・脛永周辺にも公園など子が遊べる場をつかってほしい
- ・脛永地区に大きな公園がないのでつかってほしい。遊び場がないので学校で遊んでいるが、ボールはダメとか制限が多いため
- ・近所の公園の整備をしてほしい
- ・子どものみで行ける店がほとんどない
- ・子どもの遊び場。集まってTVを見たり、ゲームをしたり、リビングで遊ぶので児童館があるといい
- ・家以外で遊べる場所
- ・子どもが自分で行ける範囲での施設（公園、児童館等）
- ・近所のお店（駐車場辺）で友だち同士で遊んでいると、地域の方から注意された子がいたのですが、子どもだけで遊ぶ場所（公園など）がないからお店の駐車場に居たので、子どもたちが安全で安心して集まれる場所をつかってほしい
- ・イベントや体験をする機会をつかってほしい
- ・月に2～3回、週末に家から出かけられるようにイベントを開催してほしい
- ・小児科ではなく、ベビー・キッズ専門の病院がほしい
- ・医療機関の充実
- ・カウンセリングが受けられる場
- ・適応指導教室の拡充
- ・役員などを減らしてほしい
- ・行事が負担
- ・行事に参加を求めすぎないでほしい
- ・様々な面で母親に負担がかかっているの、地域での役をもっと減らしてほしいです
- ・子ども会やその他学校行事が土日が多いと感じる。仕事と重なっているので負担を感じる
- ・移住者募集（若い人）
- ・子どもの人数を増やしてほしい
- ・香害や化学物質過敏症のことを知り、公共機関の手洗いせっけん類を無香料にしたり、アルコール消毒を置かない、消臭剤を置かない。職員に洗濯を無香料ですることが予防になり、香料で体調を崩す人も行政サービスが受けられる環境を整えることにつながると周知してほしい。マイクロプラスチックに包まれた香料を流さないの、川や海の自然を守ることもつながります。一人ひとりの心掛けが未来につながります
- ・揖斐川町は子育て支援にかなりがんばっていただいている。それをもっと外部（他地域）にもPRしてほしい
- ・公民館の活動で、皆さんがいつもいろいろな行事をしてくださって助かっています。楽しく参加させていただいています。
- ・サポーターさんが登下校時見守りしてくれていてありがたい。今後も継続して見守りをお願いしたい

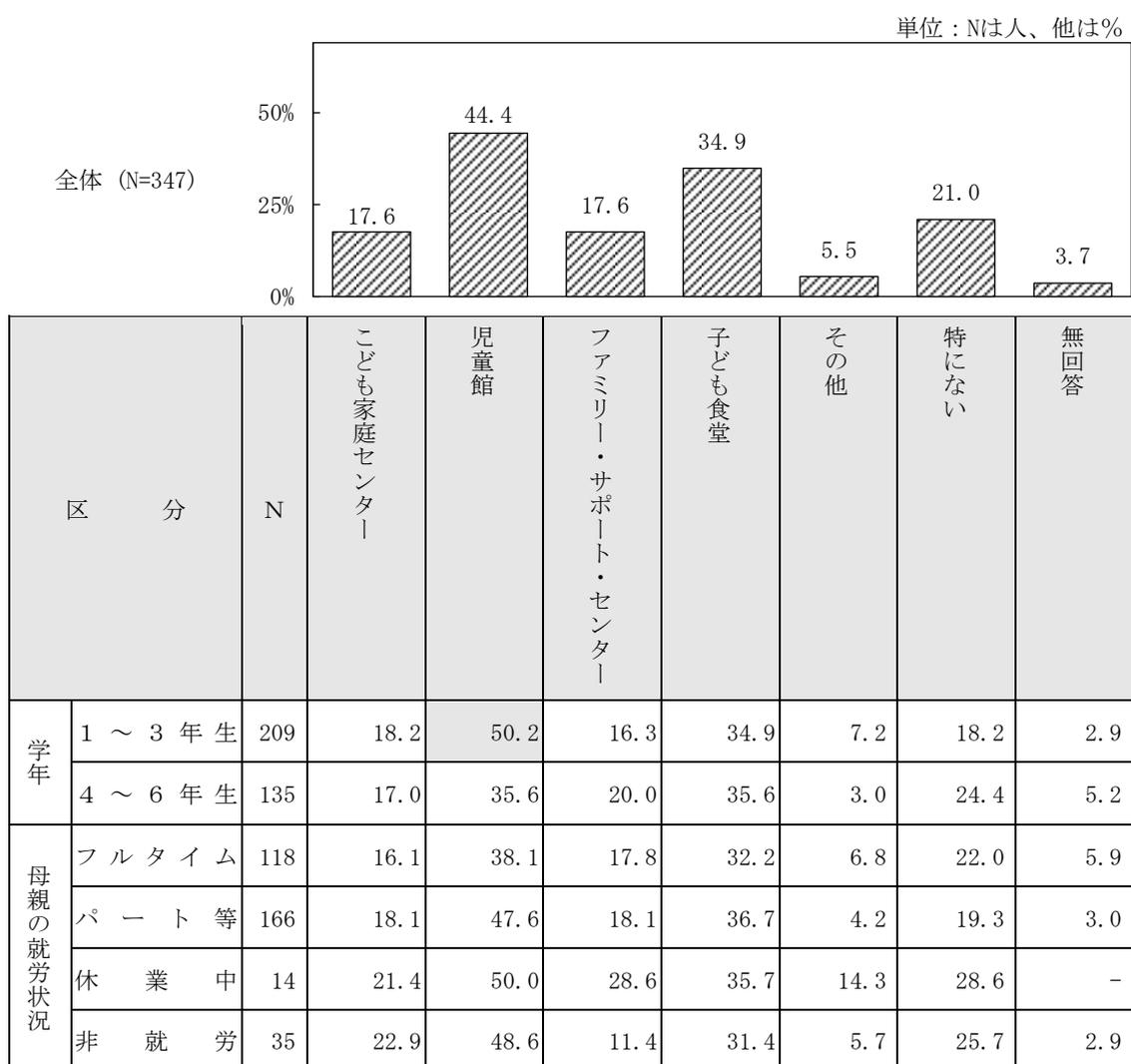
(7) 揖斐川町にあるとよい子育て支援施策

揖斐川町にあるとよい子育て支援施策をたずねたところ、「児童館」が44.4%と最も高く、次いで「子ども食堂」(34.9%)などとなっています。

学年別では、1～3年生は4～5年生に比べて「児童館」が14.6ポイント高くなっています。

「その他」として図表2-75の内容が記載されていました。

図表2-74 揖斐川町にあるとよい子育て支援施策（複数回答）



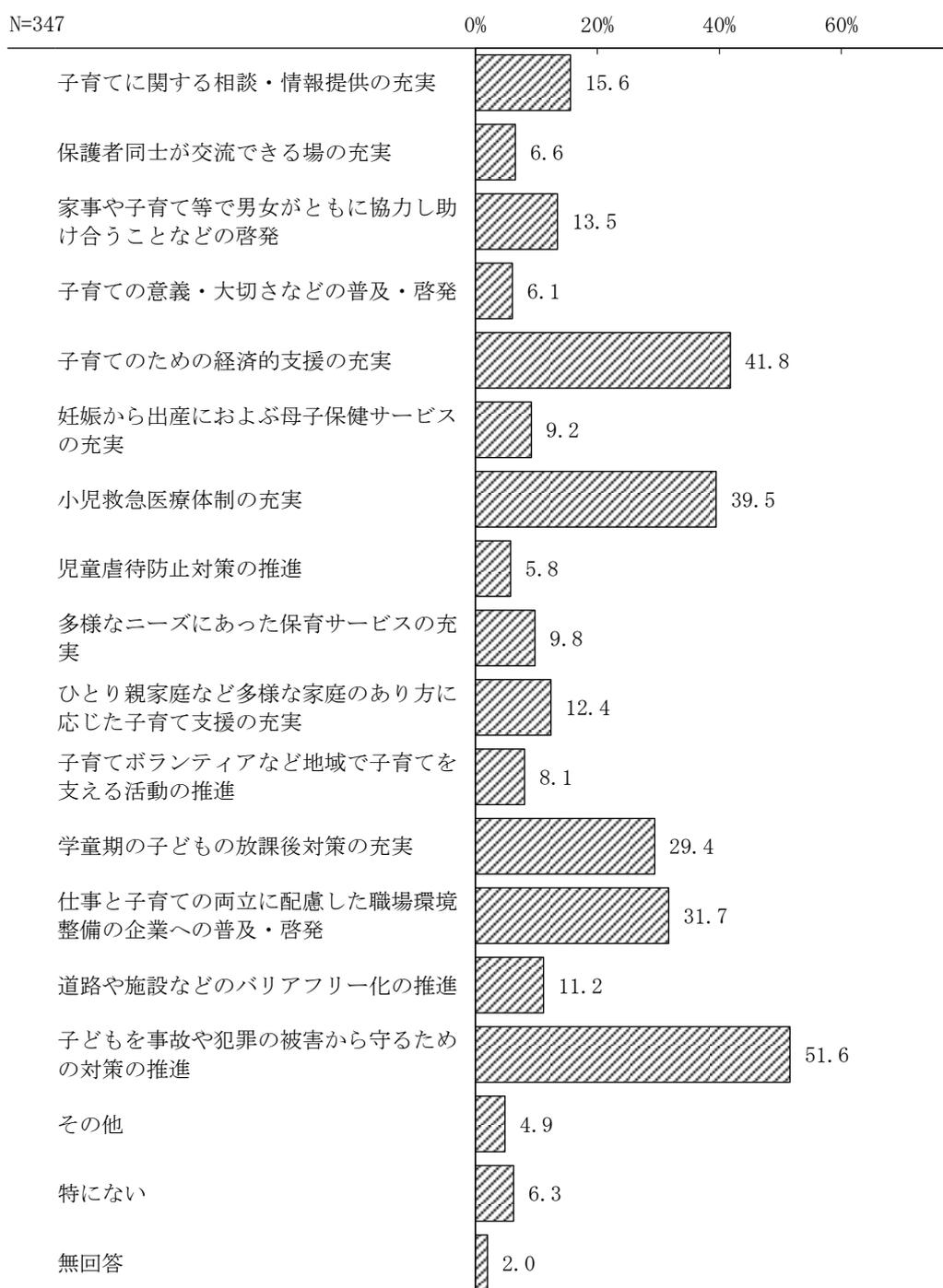
図表 2-75 揖斐川町にあるとよい子育て支援施策（その他、複数回答）

- ・大きな公園（2人）
- ・公園（サッカー、バスケ、スケボーなど大きい子が利用しやすい場所）
- ・近くに小学生も遊べるような公園や広場がほしい（大野町の中小の前のような）
- ・放課後のサポートの充実
- ・町民プール（水泳教室）
- ・夏休み等に子どもが遊べる場
- ・子どもだけで遊ぶところ
- ・子どもが気軽に集まって勉強する場所
- ・雨天時でも運動のできる場所
- ・学習塾
- ・揖斐川町中心部だけに施設を置くのではなく、揖斐川町の隅々まで行ける距離だとよい
- ・子どもだけで宿泊できる施設
- ・学童でも体を動かして遊べる広い場所
- ・適応指導教室
- ・外国籍を持つ未就園児から児童及びその保護者への支援
- ・経済的支援
- ・使わなくなったおもちゃ、服、制服などを無料で交換できたりもらったりできる場所
- ・こども家庭センター、児童館、ファミリー・サポート・センターを結集させて、子育てに関してはココという場所をつくる

(8) 力を入れてほしい子育て支援

力を入れてほしい子育て支援をたずねたところ、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が51.6%と最も高く、次いで「子育てのための経済的支援の充実」(41.8%)、「小児救急医療体制の充実」(39.5%)、「仕事と子育ての両立に配慮した職場環境整備の企業への普及・啓発」(31.7%)、「学童期の子どもの放課後対策の充実」(29.4%)となっています。

図表1 力を入れてほしい子育て支援 (〇は5つまで)



学年別では、1～3年生は4～6年生に比べて「学童期の子どもの放課後対策の充実」が17.4ポイント高くなっています。

その他として、図表2-77の内容が記載されていました。

図表2-76 力を入れてほしい子育て支援（年齢別・母親の就労状況別、○は5つまで）

単位：Nは人、他は%

区 分	学 年		母親の就労状況			
	1～3年生	4～6年生	フルタイム	パート等	休業中	非就労
N	209	135	118	166	14	35
子育てに関する相談・情報提供の充実	15.8	15.6	15.3	12.7	21.4	20.0
保護者同士が交流できる場の充実	6.7	6.7	4.2	8.4	7.1	2.9
家事や子育て等で男女がともに協力し助け合うことなどの啓発	14.8	11.9	11.9	16.3	7.1	14.3
子育ての意義・大切さなどの普及・啓発	7.2	4.4	6.8	4.8	7.1	11.4
子育てのための経済的支援の充実	45.0	37.0	44.1	41.6	28.6	42.9
妊娠から出産におよぶ母子保健サービスの充実	10.0	8.1	8.5	7.2	21.4	17.1
小児救急医療体制の充実	42.1	34.8	38.1	40.4	50.0	37.1
児童虐待防止対策の推進	6.7	4.4	6.8	4.2	7.1	8.6
多様なニーズにあった保育サービスの充実	11.0	7.4	11.9	7.2	14.3	14.3
ひとり親家庭など多様な家庭のあり方に応じた子育て支援の充実	14.4	8.9	9.3	12.7	14.3	11.4
子育てボランティアなど地域で子育てを支える活動の推進	10.0	5.2	8.5	8.4	14.3	2.9
学童期の子どもの放課後対策の充実	35.9	18.5	33.9	28.3	35.7	22.9
仕事と子育ての両立に配慮した職場環境整備の企業への普及・啓発	30.6	34.1	33.9	30.1	21.4	34.3
道路や施設などのバリアフリー化の推進	12.0	10.4	7.6	13.3	14.3	17.1
子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進	55.0	46.7	47.5	53.0	57.1	57.1
その他	4.8	5.2	5.1	5.4	14.3	-
特にない	4.3	9.6	5.9	5.4	-	14.3
無回答	2.4	1.5	3.4	1.8	-	-

図表 2-77 力を入れてほしい子育て支援（その他、○は5つまで）

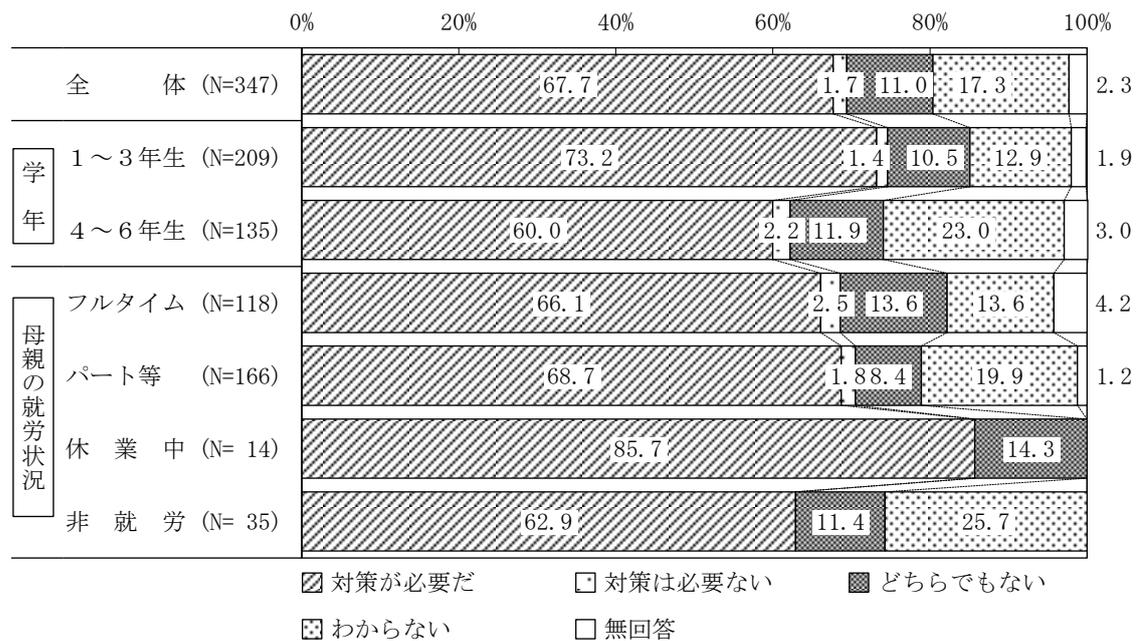
- ・支援が必要な子ども発達に関すること。もっと積極的に働きかけていく。今、発達に課題のある子どもが多い中、幼児教育が重要視されています。不登校など成長してから問題になることも多いと思います。早めの対策として、健診などでしっかり伝えていくなど、保護者の受容は大変ですが、町の将来を担う子どもたちのために、幼児のうちから相談など気軽にできる何かがないかと思えます
- ・障がいまではないが、他の子どもに馴染めないグレーゾーンの子が気軽に学べる、遊べる施設があればほしい
- ・不登校の子の平日の日中の居場所づくり
- ・人権尊重。予防接種の予定の確認を同級生保護者が揃うオープンな場とする。マスクや消毒をしない（咳エチケットや流水手洗いなどの）選択がない状況で指導される。人によってできる範囲に差があり、倒れるなど健康被害があることが周知されなかった。運動時はマスクを外すよう指導してくれているが、マスクで表情や顔のアラを隠せることに安心を覚えてしまい、マスク依存になっている子（大人も）がいるため寄り添いながら外せる環境をつくってほしい
- ・子ども会の廃止（親の負担が大きい）
- ・土曜出勤なので完全週休二日制を就学中（高卒）まで認めるように企業へ働きかけをしてほしい（成人したら土曜出勤も可）
- ・小児科の24時間病院
- ・児童館みたいな子どもだけで集まれる場所があるといい
- ・子どもがもっと体験、学習できる場があると嬉しい
- ・子どもの遊び場、公園など外で遊んでほしい。親が関わってしまうため、リビングや家じゃないところで友だちと遊んでほしい
- ・子どもたちが遊ぶ行事、イベント
- ・土日に子どもが遊べる室内の施設がほしい
- ・公園など安心して遊べる場所（小規模で各地に）
- ・公園を脛永地区につくってほしい。緊急時の避難場所としても利用できるため
- ・放課後、自転車で学校へ子どもたちが行ったりする道の整備。車と自転車の距離が近くて怖い。子どもにも注意している
- ・通学路の街灯が少なすぎる
- ・車の送迎、バスに小学生だけでも乗せたい

(9) 揖斐川町の人口減少や少子化の現状に対する考え方

「揖斐川町の人口減少や少子化の現状についてどう思うか」という設問では、「対策が必要だ」が67.7%を占め、「わからない」(17.3%)、「どちらでもない」(11.0%)、「対策は必要ない」(1.7%)となっています。

学年別では、1～3年生は4～6年生に比べて「対策が必要だ」が13.2ポイント高くなっています。

図表2 揖斐川町の人口減少や少子化の現状に対する考え方



1 0 意見・要望等

(1) 子育て支援全般

- 少子化の中で、子どもや育児について考えてくださり感謝しています。(2年生)
- 揖斐川町独自の子育て支援があればと感じます。(2年生)
- アンケートの実施ありがとうございます。意見は特にありませんが、多様性の時代になり、かえって難しい面も多々あると思いますが、頑張ってください。(3年生)
- 隅々までの支援を願います。若い世代が離れるばかりです。中心部以外にも施設(空き家利用等)をつくってほしい。(2年生)
- 町報や放送でのいろいろな情報があり、特に小島地区はおじまーでの行事があってありがたいと思っています。できるだけ参加させていただき、これからの揖斐地区を担うであろう子どもたちの成長を見守っていきたいです。これからも楽しいことをお願いしたいです。(6年生)
- 子ども・子育て支援事業計画の策定に当たり、子どもの意見も聞き、取り入れていただけるとよいと思います。(1年生)
- 町内放送のチャイム(朝昼夕)が学校のチャイムに変わったが、子どもは休みの日にまで学校のチャイムは聞きたくないと言っています。前のチャイムに戻してほしい。学校のチャイムを聞きたくない子もいるのでは。(3年生)
- 夏の暑い時期、小学生低学年が帰る時間帯が一番暑い時間帯になるので、暑い時期は1時間時間をずらす等の対策をしてほしいです。また、夏はランドセルが暑いので、かばんの対策もお願いしたいです。(2年生)
- アンケートに記入し、どこまで行政でやっていただけるのか正直不安です。高齢者に目を向けられているのはよくわかりますが、子どもたちにももっと優しいまちになるとよいと思います。せっかく広々とした場所なのに、うまく活用されていないように感じ、もったいないと思います。山や河川を利用した遊びなど自然体験ができるとよいといつも思います。(1年生)
- 子どもたちが自分で買い物に行けるお店が少ないので、もっとお店ができるとお使いとかにも行けるかと思います。(3年生)
- 小学校行事や幼稚園行事の際に行事対象でない子ども(園に入所前の)を預かってもらえる施設があるといい。授業参観などがあつた際、働いていない母親は子どもを預けられない。数時間のために家族もなかなか休めない。(1年生)

○最近の人は過保護すぎる。自転車で出かけることを拒みすぎる。心配し過ぎる。うちは自転車で遊びに行くが、自立してない子が多すぎて、車で乗せて行くのが当たり前、17時に帰らない。時計を見てないので時間にルーズな子が多い。児童館があったらみんなで自転車で行くし、17時帰宅の習慣がつくと思うし、ママ友と関わらないから楽でいい。(5年生)

(2) 留守家庭児童教室 (学童保育)

○留守家庭児童教室の利用料を安くしてほしい。(2年生)

○学童が高い。(2年生)

○学童利用料が高い。母子家庭ですので、金銭的に寄り添った支援をしてほしい。(1年生)

○学童の利用料を減額してほしいです。おやつ代も引き落としにしてほしいです。(2年生)

○以前学童を利用していましたが、預かる子どもの人数が少ないからとおやつ代を値上げされました。おやつは学童の先生が買ってきてくれますが、毎月使い切らずに次の月に持ち越しているようです。次月には人数が変わっている可能性もあるので考え直してほしいです。(4年生)

○学童保育に関して、1人当たり1か月4,500円+おやつ代等が負担に感じる家庭もたくさんあると思います。きょうだいが多ければ更に負担は増えるので、2人目以降、3人目以降は半額や無料にするなど支援していただければ家庭の負担も減り、助かる方がたくさん見えると思います。(2年生)

○幼稚園には、兄弟と一緒に園にいるときは保育料半額や全額免除があるので、小学校でも学童の兄弟の割引がほしい。土日に利用できるサービスが充実してほしい。(2年生)

○留守家庭児童教室について。夏休みだけの利用はしたことがあるが、春休みだけの利用もできるとよいと思っています。(2年生)

○現在、子どもの面倒を見てもらえる家族がいるので、学童保育が利用できない。しかし、家の周囲に子どもが少なく、子ども同士で遊ぶことが少ないので、学童保育で同年代の子どもたちと遊ぶ機会を与える意味で利用できるようにしてほしい。(3年生)

○共働きのため学童に預けているが、学童の預かり時間がギリギリなため、18時30分から19時頃まで見てもらえると助かります。(1年生)

○放課後児童クラブの時間帯を19時までにしてほしい。夏休み、冬休み、春休みですが、7時30分～19時にしてほしいです。(5年生)

○一時的な学童の利用。有料でもいいので、仕事で子どもの迎えが間に合わないときの利用を検討していただきたい。(1年生)

-
- 学童保育について。長期休みは7時30分から預かってほしい。長期休み、平日ともに19時まで預かってほしい。学童保育の長期休みでの昼食の提供をしてほしい。(2年生)
 - 夏休み等の学童希望者だけでも給食やお弁当があると助かる。(3年生)
 - 有料でもいいので、夏休みなどの長期休みの学童での給食提供があるといいと思います。幼稚園の給食はあるし、給食センターも稼働しているようなので。(2年生)
 - 夏休み中、学童で弁当が取れるといい。(1年生)
 - 学童保育の申請条件が厳しくて、入ることができませんでした。結果、夕方の子どもの世話のために仕事を辞めることになってしまいました。正直悔しい思いをしています。学童保育のあり方を見直してほしい。(3年生)
 - 学童で土曜日でも利用できるとよい。(2年生)
 - 学童保育での時間が長いので、ワークショップやお仕事体験、昔の遊びなどプログラムのよきな仕組みがあるとうれしいです。(2年生)
 - 冬休みや夏休みの学童利用について。「利用希望者が少ないので休めませんか?」と言われることが多く困ります。仕事があつて休めず、頼れる人もいないため申し込んでいるのでわかってほしいです。我が家が行かなければ先生たちは休みになるとは思いますが、仕事なのでもう少し責任を持って預かってもらいたいです。(4年生)
 - 今まで利用した子育て施設の中で、学童の職員の質が一番悪い。仕事で預けているのに、迎えに行けば子どものことで文句を言われ、時間内に迎えに行っているのに「早く迎えに来い」と言われる。何のための、誰のための施設なのか。シルバーの小遣い稼ぎなら他でやってほしい。(3年生)

(3) 支援が必用な子ども

- 支援学級の先生をちゃんと学校で学んできている人にしてほしい。普通学級をまとめられない先生を支援学級に回すな。成長の妨げになっている。(6年生)
- 支援学級での補助の先生の人数を増やしてほしい。今は児童8人で1クラス、担任1人のため手の届かない部分がある。先生側からも今の支援が限界ですと言われたことがある。(2年生)
- 教員方の支援が必要とする子どもたちへの対応改善。すべてを理解してほしいとは言わないが、せめて差別的な目を向けるのはやめていただきたいと思います。すべての方がそうだとはいけません、一部の方です。(2年生)
- 学校の通級指導教育に通っているが、効果が感じられず、支援が不十分と感じている。専門

的知識を持ち、学力の向上のため援助できる人材を望む。(5年生)

- 外国籍をもつ未就園児から児童及びその保護者への支援。スーパーや公園に孤立している親子を見かける機会が多くなっている。いずれ問題になるのであれば早期から対応が必要のよう思う。(1年生)

(4) ひとり親家庭への支援

- 母子家庭で、実家で暮らしてはいますが、生活費等を渡しているため、経済的に支援はしてもらってなくても、母子手当支給対象外にされてしまうのはきついです。それならばもっと他の地域のようにアパート等を増やして学校はそのまま変わらなくてもいいように暮らせる場を提供してほしいです。(3年生)

(5) 児童館・公民館・図書館

- 児童館をつくってほしい。(3年生)
- 児童館がほしいです。土日に小学生が室内で過ごせる場所があるとありがたいです。(1年生)
- 子どもが遊びに行くのは公園か友だちの家しかありません。雨の日はどこも行けないので、児童館をつくってほしいです。もっと子どもが気軽に遊びに行ける場所があればよいと思います。(3年生)
- 小学生が放課後や土日、長期休みのときに遊びに行ける児童館をつくってほしいです。雨の日など外で遊べないような日でも体を動かせたり、健全な遊びができる場所があったらいいと思います。(5年生)
- 図書館で子どもが勉強等をしたと思ったときに、閉館が17時ではなかなか利用ができず残念です。19時か20時まで開いているといいと思います。(5年生)

(6) 遊び場・居場所

- 公園がもっとあったらいいと思います。(3年生)
- 各地区に簡単な公園や広場があるとよい。(3年生)
- 小さい公園がいくつかほしい。大きい公園は人がいすぎて小さい子が危ない。(4年生)
- 歩きや自転車でいけるような商業施設があるといいです。公園や遊べる場所もあるとありがたいです。(1年生)
- 子育てに関していろいろな政策や支援をしてくださってありがとうございます。揖斐地区に

は大きな公園がありますが、他の地区は少ないです。各地区に1か所ずつ公園があると、子どもたちの遊びの場ができると思います。子どもたちが外に遊び（学び）に行きたいと思えるような施設があるといいと思います。（5年生）

○子どもたちだけでも安全で安心して遊べる場所をつくってほしい。友だち同士遊べる場所がないので、友だちとの関わり合いが学校の中でしかできない。昔からずっと公園などをつくってほしいと書いてきたが、全然動きがないので、子どもだけが成長していった必要なくなってしまう。（5年生）

○放課後に子どもたちが集まれるようなもの（1年生）

○子どもが自力で行き来できる場所に住んでいる友だちが少なく、地域の子ども会も解散済みのため、学校と家庭以外の子どもの居場所が少ないことを問題視しています。（1年生）

○外や施設で体を動かして遊べる場所。学校では学ばないけど、生活する中でとても大切なことへの学びの場。整理整頓（収納）、掃除の仕方、お金の使い方・貯め方、職場体験、趣味等（6年生）

○晴れなら公園で遊んでいますが、雨の日など子どもが思いっきり体を動かせる室内のアスレチックがあればいい。筋力UPなどを目的とした施設、子どもが行きたくなる場所。安全性を考慮して、利用は小学生以上。支援センターは小さい頃よく通ったが、未就園児までしか利用できないため。（2年生）

(7) 学校・教育

○人口減少や少子化について。学区の再編、合併の計画を進め、バスの利用ができる通学を考えてほしい。（3年生）

○過疎が止まらない、子育て世代が町外に出て行って、どんどん子どもの人口が減るのが問題。集団スポーツの部活が中学校でできないのは問題外の由々しきことだと思います。そろそろ中学校の合併を希望します。（2年生）

○生徒数も少なく、人口減少による税収も少なくなるばかりなので、小中一貫の学校を町立でつくり、そこでクラブ活動など充実したものをつくってほしい。また、英語など何かに特化した学校教育などを実施してほしい。（1年生）

○小中一貫校（各地区別）というのを一度検討してほしいです。今は発達に少し障害があったり、グレーゾーンと言われる子も多いと言います。9年間という長いスパンでの教室、また、中学1年生のとまどい軽減や小学校から中学への情報の共有、メリットは大きいと思います。兄弟が多い家庭も多いので、保護者の役員などの負担も少なくなると思います。（2年生）

-
- 小学校のいじめ問題について、しっかりとしてほしい。(5年生)
 - 教員の少なさが気になる。先生が児童に対して少なく、勉強がわからないときに聞けなくて、そのまま授業が進んでしまうみたいです。(1年生)
 - 小学校の各学年の人数が少なすぎるのでは。スクールバスなどを活用して、揖斐小、揖斐中にまとめてはいかがでしょうか。お友だちも増えますし、バスを使うなら安心もあります。(1年生)
 - 学校給食がおいしく、栄養もしっかり取れるように。物価が上がって給食が質素にならないように、町の予算、税金を使ってほしいです。(5年生)
 - 算数セットやピアノ、習字道具等、学習で使用するものを各家庭負担でなく、学校備品として貸し出しできたらよかった。(6年生)
 - 小学校の支援員さんが長年同じ学校で勤めてみえます。先生方は異動がありますが、支援員さん方はどうなのでしょう。せめて町内の学校で異動等があってもよいと思います。また、平等な雇用という点からただ単に継続ではなく、定期的に見直していただけるとうれしいです。風通しのよい学校教育のため、ご検討いただけると幸いです。(4年生)
 - 教育方面から子どもたちへ、自分で考え動く、そしてできたときの喜びや達成感を味わってほしいので、そういう場面を少しずつ増やしてほしい。(6年生)
 - 子どもは揖斐川町(谷汲)が好きだと言います。いつまでも大好きな町であり続けられるようなまちづくりをお願いしたいです。特に谷汲は幼小中ずっと同じクラスメイトです。他の学校との交流もあるといいと思う。(3年生)

(8) 不登校の子どもへの支援

- 小学生の息子が不登校です。池田町の適応指導教室(ほほえみ教室)に通っています。通室している子の人数が増えてきて、先生も手いっぱいだし、教室の広さも足りていないと感じます。揖斐川町にも適応指導教室をつくらせていただくと選択肢が増えてありがたいです。(1年生)
- 過疎地域では不登校の児童はより孤立してしまうので、学校や行政、地域の理解や支援が必要だと思います。不登校児童生徒の居場所を確保できるように。(1年生)
- 子どもが不登校になったとき低学年だったので、一人で留守番をさせるわけにもいかず、働けなくなりました。私自身も不安定な精神状態になり、辛い思いをしました。学校は無理に行かせなくてもいいという国の方針もありますが、実際に学校以外に居場所がないことを痛感しました。親と子ども両方のフォローや経済的な支援を充実してもらえるとありがたいです。

す。(3年生)

(9) 地域の関わり

- ご近所であっても、子ども同士、親同士がどんどん疎遠になっていっている気がします。関わりがとにかく少ないです。(5年生)
- 子育てに関して配慮がなされ、環境に恵まれていると感じています。多くの大人目で地域の子どもたちを育てていきたいと思っています。子を持つ親は就労している人が多く、登下校のサポーター等、地域の方に助けていただけるとありがたいのですが。町から募っていただけると助かります。(4年生)
- 私が今考えているのは、お年寄りと子どもが交流できる場をつくること。家で暇をしているお年寄りの方、大人が仕事時に1人で家にいる子どもを掛け合わせて、楽しい時間をお互いに過ごせる場所。お年寄りの方は子どもとふれ合い、認知症予防に、大人は安心して預けられ、子どもは好きに遊べる。ウインウインな場所を各地区の公民館でできないか。検討していただけると嬉しいです。(1年生)
- 小島地区はおじまーるを利用し、様々な活動をしている印象がある。夏休み期間もボランティアだとは思いますが、ポスター教室や読書感想文教室を、得意な親さんがやってくれていると聞いた。そのような教室があると助かる家庭もあると思う。(3年生)

(10) スポーツ・地域活動

- 夏休み以外に、幼児スポーツ教室のような町内の子どもたちが学べたり、遊べたりする教室がもっとあるとうれしいです。(2年生)
- 親も月に1度くらい休めると思うので、学校のプール当番をしながらでも夏休みのプールを開放してほしい。子どもと大人がつながる前に、小→中→高→大→大人と、公民館などで子ども同士が繋がれる行事があるとよい。(2年生)
- 町民プールが開催されないと夏休みを持て余してしまう、あると助かる。(2年生)

(11) 習い事

- 合唱や楽器、料理教室やチームスポーツ等、人口が少ないゆえに町内では施設が見つからず、子どもがやりたいことができない状況。都会まで何十分もかけて通わなくても習い事やスポーツができる環境を整えてほしい。(3年生)
- 都会に比べると習い事の種類が少ない、または習い事までの距離が遠いため躊躇してしま

う。子どもの視野を広げるためにもそういったものを充実してもらえるとありがたい。(2年生)

○何をするにも送迎が必要な地域なので、希望者を集めてまとめて送ったりしてもらえたらありがたい。少年団も当番ができなくてやれない人もいる。いろいろな習い事に挑戦させたくてもできない。どの子どもやりたいことや能力を伸ばしてあげられたらと思います。子ども1人なら親の力だけでもできるかもしれないけど、仕事もあると時間的に無理。これは贅沢な悩みでしょうか、親の努力不足でしょうか。(3年生)

○支援級の子が通える習い事があるといい。集団行動ができないと難しいと断られることが多く、なかなかやりたいことをやらせてあげられない。(2年生)

○私は名古屋から揖斐川町へ結婚のため移住したが、みなさんとてもいい人たちばかりで、狭いコミュニティは面倒くさいと思うこともあるけど、みんなが親切で、ある程度顔見知りで、私はステキなところだと感じることの方が多い。ただ、子どもが成長してくると、何か習い事をしたと思ったときの習い事の種類や、進学などで使用する交通の便がとっても不便なこと。これではみんな若い人たちは町外に出て行ってしまうなと思うところがあります。(5年生)

(12) 移動手段・送迎

○今後、高校や大学に通う手段があるか(養鉄存続)心配。(2年生)

○久瀬地域はふれあい、ちょうどよい時間帯の路線バスがなく、特に中高に通うことが不便だと感じます。送迎などの負担が大きいですので支援をお願いしたいです。(4年生)

○コミュニティバスで、おばあちゃんの家に行かせたいが、小学生のみで乗ることができないと聞いた。(3年生)

○少年団でお世話になっています。県内でも遠方、県外にも遠征に行かせていただき、充実した活動をさせていただいています。そのようなとき、町バス(運転士さんも)を利用できたらありがたいと思います。(3年生)

(13) 医療

○休日医療、小児医療が充実したらいいと思います。(3年生)

○小児科だけの病院もほしい。(1年生)

○老人に手厚い環境ばかりなので、将来の子どもたち、揖斐川町のためのまちづくりを考えてほしい。医療機関も手薄になり、何かあったときすぐ対応できない環境での子育ては不安で

しかない。田舎から都会へ転出して仕方がない。町長をはじめ役場スタッフが未来を見据えてまちづくりを行ってほしいです。(6年生)

- 今後の少子高齢社会を維持できる社会保障制度の見直しが急務である。特に医療費抑制につながる窓口負担の見直しはされるべき。家で安静にしていれば治り、特に投薬などは不要の症状でも「無料」だからとにかく病院へ行き、検査して薬をもらえば安心と思っている人が多いのではないかと。窓口負担が無料なのは税金で支払っているから。子どもや生活保護もワゴンコインは負担、高齢者も2割、3割負担し、現役世代が納める税額を減らし、手取りを増やす施策が子どもを産み育てる、婚姻数を増やすことにつながると考える。(1年生)
- 子育てしにくいまち、揖斐川町。休日や夜間の病院がない。わかりにくい。やる気ない。放デイも一つしかない。ずっと変わらない。こうやって書いても変わらないでしょうね、残念です。(3年生)

(14) 子育て環境・安全

- 登下校の道の整備、安全性。学校の駐車場が狭い。(2年生)
- まだ小学1年生で先のことにはなりますが、中学校の老朽化が気になっています。年始に隣県で大きな地震もありましたし、もしこの地域でも大きな地震があったときに耐震はどうか心配しています。(1年生)
- 大雪警報が出ても休みにならないのはとても危ない。通学途中に何かあったとき、すぐに駆け付けられない。仕事も休めない。子どものことを思うのであれば見直してほしい。何でもかんでも受け入れてはいけないと思う。本当に手が足りない人だけ預かるべき。本当にやめてもらいたい。(4年生)
- 登下校の安全の確保(歩道橋設置等)。(2年生)
- 下校サポーターの高齢化などで、子どもが少人数だけでの下校になり不安も感じます。学童保育という枠の中だけではなく、全校下校時間で揃えられるよう、低学年の子たちが学校内で過ごせる場所、遊びがあれば親としても安心です。全員で下校であれば子どもたちにも安心感があると思います。(3年生)
- 分団登校ですが、6年生と1年生では歩くスピードが違い、1年生は一生懸命ついていく感じます。できれば、安全サポートさんが学校付近まで付き添ってくださると助かります。(1年生)
- 通学路となっている交通量の多い県道など横断歩道をつくってほしい。(4年生)
- 小学校のグラウンドが他校と比べて小石が多く、危険と感るので対策してもらいたい。

(3年生)

○通学(サポーター)の見守り強化、防犯強化。(1年生)

(15) 学校や地域の行事・役について

○町子連役員や地区役員等、親の負担になっているから辞めたい。(3年生)

○役員等の負担軽減。(2年生)

○役員が多い、シルバーさんの協力をお願いしたい。(1年生)

○子どもが少なく、PTA、子ども会等の役員がすぐ回ってくる。親の負担が大きい。(2年生)

○人数が少ないため、人間関係が固定されたり、PTA等の負担が大きい。学校の統合も考える必要があるのではないか。(1年生)

○少子化に伴う子育て中の保護者に対する地域活動や保護者活動が多い。PTAや子ども会役員など。仕事、子育て、家庭のことで手いっぱいなのに更に負担が増えます。(1年生)

○子どもの人数が少なくなり、役員の負担が増える一方です。子ども会をやっても人数が集まらない。役員は人に任せたい人が多いので、無理に今までと同じように進めなくてもいいのかなと思います。が、やりたくない人に限って文句を言うという世の中。町や小学校で決定していただけると助かります。(2年生)

○PTA役員、子ども会役員、旗当番、防犯パトロール、雪かき当番、ゴミ当番、女性防火クラブ、福祉委員など、とにかく役が多すぎて、非常に負担が多い地域だと感じています。そのため、もし娘が将来地元で子育てをしたいと言ったとしても「大変だから揖斐川町に住むのはやめた方がいいよ」と答えると思います。少子化対策に必要なことは、働く女性が子育てをしやすい環境が整っていることだと思っています。これからの女性はほとんどの方が仕事を持つことになると思いますし、日本の経済のためにもそうあるべきです。その女性の負担が減らない限り、子どもは増えないのではないのでしょうか。(5年生)

○学校の資源回収は地域の負担が多い。各家庭に回って回収したりする。学校に集めてもらえるようにしてほしい。(1年生)

○揖斐川町には本気で子育てに力を入れていただきたいです。町内で完結させるのではなく、他地域と連携を取り、学び、よりよいものにしてください。学校役員や地域の仕事も多く、共働きで近くに預け先がない家庭には負担が大きすぎます。預け先がないのに親だけで会議に参加することは不可能です。不要な仕事はなくしていかないと人口増加にもつながりません。他地域に比べ、子育て支援課も不親切な人が多いです。(2年生)

○町内会で行われているゴミ当番（集積所に6時50分から8時15分くらいまで当番で立つ）があるが、子どもの準備もあるし、仕事にも間に合わないので、仕事に遅刻してまで必要な仕事なのか、最初と最後にカゴの出し入れだけすればよいのではと思います。他にも昔、子どもがたくさん（若い人が多かった）いたときのままの行事（町内会の祭りや神事、掃除）が多々あり、高齢者が多くなり、「私たちは動けないが若い人にやってほしい」ということが多く、共働き家庭が多くなっている現状と合っていない。これから人口は減る一方なので、それに見合ったまちの仕組み（行事やシステムなど）にアップデートして欲しい。（4年生）

(16) 子育てと仕事の両立

- 役場などの子育て支援も必要ですが、フルタイムで働く母としては勤め先（企業）にも看病で休んだときなどの理解や補償などがあるといい。（6年生）
- 仕事と子育ての両立支援として、在宅勤務やフレックス制度があると助かると思う場面がよくあったので、そういった職場環境整備がなされることを強く望みます。まずは揖斐川町役場が他の企業のお手本となるような取組をやってみたいと思います。（4年生）
- 3人の子どもの学校行事、病気、通院、PTA役員の仕事等で、有休がギリギリなので、仕事と子育ての両立に配慮した職場環境整備をぜひお願いしたいです。私（母親）が体調不良でも有休が足りなくなるといけないので、仕事を休むことができません。（3年生）
- 子育ては女性がやって当たり前だと思っている男性が多いまち。女性の社会復帰の後押しをもっと行ってほしい。女性ももっと働きたい。子育てが一段落した頃に、職に就けるように支援してほしい。だから女性は子を持つと積極的に思わない。（3年生）
- 以前、1歳で会社へ復帰した際、保健センターで「会社であなたの代わりはいるけど、母親の代わりはいない」と言われたことでひどく傷ついた。仕事、育児の両立など好きでやっているわけではない。もう少し働く母親の気持ちになって相談に乗ってもらいたいと思う。二度と利用したくないと思ったし、今でも不愉快だ。保健センターのスタッフ等もっと研修すべき。（1年生）

(17) 人口減少・少子化対策

- 少子高齢化、過疎化を食い止めるには、移住を促進するしかないと考えます。そのためには更なる子育て支援の充実と、移住支援と、そのPRが必要です。子育て支援については、このアンケートにある内容を促進してほしい。移住支援としては、①空き家バンクの充実（町

が借り上げ、買い上げし、リフォームした後、移住者に賃貸、譲渡する。空き家保有者への積極的なアプローチ。リフォーム支援金、リフォーム業者斡旋など) ②名古屋、大垣、岐阜への通勤手段PR (例えば、揖斐駅から名古屋駅なら約1時間で行けるなど、意外にも通勤圏にあるということ) ③企業誘致(職場確保のため) ④イベント開催(揖斐川町へ足を運んでいただき、知ってもらい、移住のきっかけをつくる。揖斐川マラソンや揖斐祭りなど、他地域からたくさんの人々が集う場にて、移住を促進するブースを設置するなど)(2年生)

○高齢化が進むので、現役世代が働ける環境(例、企業の誘致等)を増やして、子どもが増える方法を考えてほしい。過疎化が進み、税収も乏しくなると、教育や医療に財源が回らなくなるので、就労できる環境を整えてほしい。若い世代が揖斐川町から外(都市部)へ出なくてもよいのが理想ではある。難しいとは思いますが。(6年生)

○子育て世代に明確な利益があると思わせなければ人口は絶対に増えない。若者への支援と働ける企業の誘致に力を入れてほしいです。(1年生)

○我が子が卒業するときには今のままでいくと6年生7人です。人が少なくて卒業アルバムがつかれないかもと先生に言われました。子の人数が少ないのは親のせいではないのに私たちに負担がくるのはおかしいと思いました。卒アル代が足りないので、つくりたいなら差額を保護者が負担するという話が出ているのです。(4年生)

○子どもの数が少なくて、合併などが不安。揖斐に残りたいけど、家を建てる土地がないと聞くため、管理ができてない田や空き家を分譲地にするなど、町が助成などしてくれたらと思う。(2年生)

(18) 経済的な負担と支援

○揖斐川町での給食費無料化や修学旅行費補助や入学祝い金など他の市町村より子ども支援等が充実していると思い、実際恩恵を受けているものとしては嬉しいし、他の人に自慢できる点です。これからも続けてほしいと思います。できれば小中学校のランドセル、学生カバンの無料化などがあるとありがたいです。(5年生)

○各学年で使用する学習用品が高額。特に3年生になる年は、絵の具、習字道具、リコーダーと負担が大きすぎる。補助してもらえるとありがたいです。(2年生)

○インフルエンザワクチン接種等の補助をしていただけると助かります。(5年生)

○インフルエンザワクチンの補助金の金額を増やしてほしいです。幼稚園の送迎。交通弱者や出産後等、町のバスで対応してほしいです。(1年生)

○子育て中の親への支援をしてほしい。交通の便が悪いため、子どもが高校へ通うにも交通費

がかかりすぎると思う。子どもたちが行きたい所へ通えなくなってしまう。全額免除してほしい。住民税も子育て世代は免除してほしい。(4年生)

- 教育のために貯金をしても、税金で取られる分を計算すると何をしているのかわからない。ひとり親への重視も大事だと思うが、真面目が損をしている配分を何とかしてほしい。(5年生)
- 現在、下の子どもが支援級に通っておりますが、住んでいる地区の学校には支援級がなく両親で送迎して通わせています。私はフルタイムで仕事をしていましたが、学童に通わせてもフルタイムでは迎えの時間に間に合わないため短時間勤務で働いていますが、その分給料も下がり、そこに学童の料金もかかるため、生活はとても苦しいです。子どものためなのでお金には代えられないと思いましたが、送迎もしくは金銭面で何か補助をいただけると、同じような状況で、子どもに適切な支援をする環境を与えてあげられない親御さんも助かると思いますし、同じように悩んでいる方がみえると思います。何年生までこのように子どもを通わせてあげられるかはわからない状況です。(1年生)
- 大学までの無償化が理想。(2年生)
- 公園ができたり、チャイルドシート貸し出しや、18歳まで医療費無料など子育ての面でもとてもいいことがたくさんある揖斐川町だと思います。が、親世代の税金が高いとあまり意味がないのではと感じることも。商業施設が少ないので、税金対策に何かあるといいのですが、お金のことは難しいと思います。お金だけではないですね。(5年生)

(19) 相談・情報提供

- カウンセリングしてもらえる場所がほしい。話を聞いてくれる場所がほしい。時間外で相談などできる場所がどこにあるかわからない。(1年生)
- 子どものことで相談できるところがほしい。放課後デイももう少しあってほしい。別のところにして定期的に行けるようにしたいが、身近な場所がない。慣れたところに行きたい。2年目以降は行ける日数が少なくなってしまうのが残念。(3年生)
- フルタイム勤務の方が少ないのか、出産後の保育所等への入所の時期、募集要項等の情報をすんなり入手できることが少なかったため、母子手帳配布の際に大まかな流れを教えていただけるとありがたかったと思います。(2年生)
- 脛永地区はあまり揖斐川町の子どもの情報が学校からも入ってこない。池田町の情報の方が多く入ってくるため、もっと揖斐川町のことを知りたい。(5年生)
- 支援が必要な子へのサービス、制度等、自分で調べたり聞かないと教えてくれないので知ら

ない人が多い。うちは早い段階でアップルに通い始め、自分でも情報収集していたので、気になることは相談して案内してもらえたが、自分でこれはどうなのかと聞かなかつたら知らないままだった。必要な時期に必要な情報、申請等を案内、提案してもらえるとすごく助かると思う。(2年生)

○揖斐川町は、子育てについて、手厚いまちだと感じています。医療費・給食費無料、入学や修学旅行等の援助。ただ、そのアピールが弱い。自然が多いことを活かした施設が少ないと感じる。後者は金銭的なことも大きいと思うが、HP等で、もっとアピールするといいいのではないかと感じる。(2年生)

○この調査結果や意見に対する対策など、どのような形で町民に報告されますか。明確に開示していただきたいです。(2年生)

(20) 行政への意見・要望

○地域振興券はもっと幅広い場所で利用できたら嬉しいです。(2年生)

○いろいろな課があり過ぎて複雑すぎる。役場職員の人への対応が良い人、悪い人の差が大きすぎる。町民の税金で動いているなら、もう少し考えて行ってほしい。無駄な会議があり過ぎる。(1年生)

(21) その他

○食料品の買い物をするのに揖斐川町にはスーパーが少ない。大量に食品を買うため、池田町や大野町へ買いに行くことが多い。もう少しショッピングできる場所があればいいと思う。(5年生)

第3部

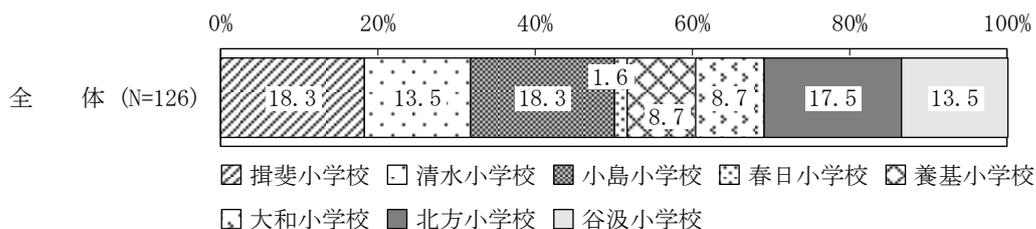
小学生調査、中学生調査、
16～17歳調査

1 小学生調査

(1) 小学校

現在通っている小学校は、「揖斐小学校」、「小島小学校」がともに18.3%と最も高く、次いで「北方小学校」（17.5%）、「清水小学校」および「谷汲小学校」（13.5%）となっています。

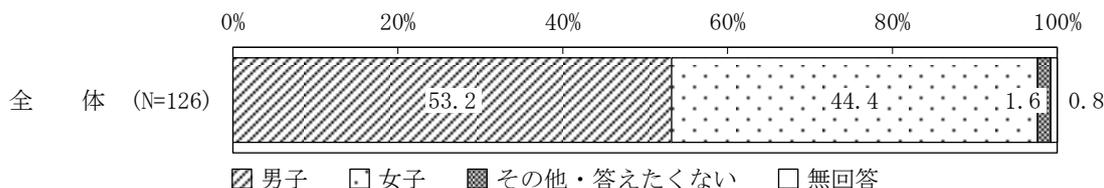
図表3-1 小学校



(2) 性別

回答者の性別は、「男子」が53.2%、「女子」が44.4%です。

図表3-2 性別

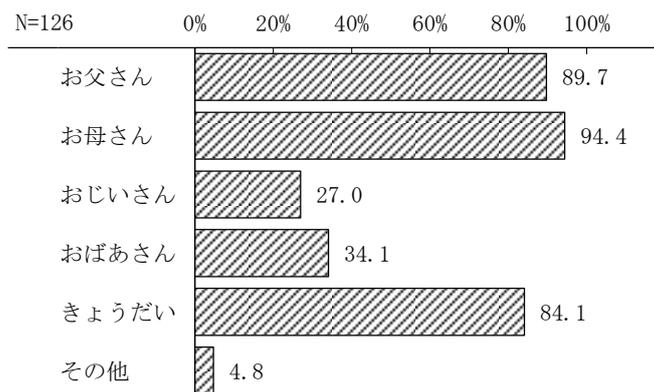


(3) 同居者

回答者の同居者は「お母さん」が94.4%と最も高く、次いで「お父さん」（89.7%）、「きょうだい」（84.1%）、「おばあさん」（34.1%）、「おじいさん」（27.0%）となっています。

「その他」として「おじいちゃんの弟」、「ひいおばあさん」、「いとこ」という記載がありました。

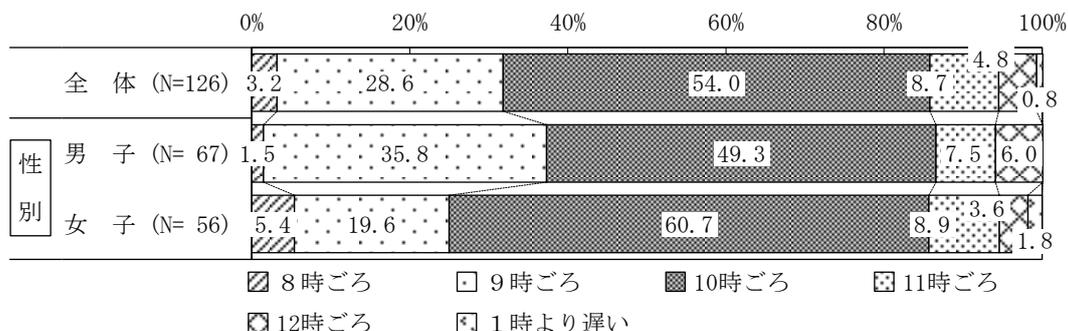
図表3-3 同居者（複数回答）



(4) 平日の就寝時間

平日の就寝時間は「10時ごろ」が54.0%と最も高く、「9時ごろ」(28.6%)、「11時ごろ」(8.7%)となっています。性別にみると、男子は女子に比べて「9時ごろ」が高く、「10時ごろ」が低くなっています。

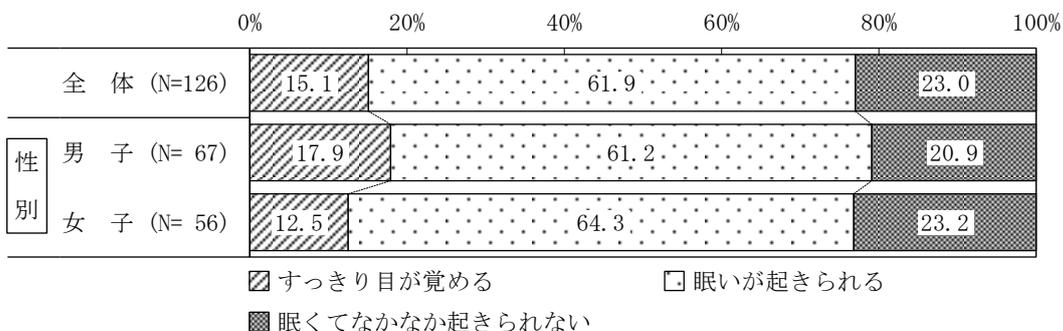
図表3-4 平日の就寝時間



(5) 朝、すっきりと起きられるか

平日の朝、すっきりと起きられるかたずねたところ、「眠いが起きられる」が61.9%を占め、「眠くてなかなか起きられない」(23.0%)、「すっきり目が覚める」(15.1%)となっています。

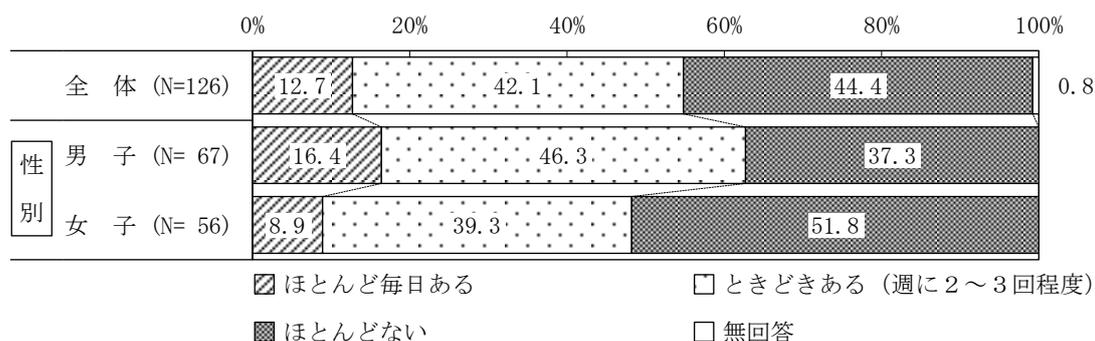
図表3-5 朝、すっきりと起きられるか



(6) 睡眠不足

睡眠不足と覚めることがあるかたずねたところ、「ほとんどない」が44.4%と最も高く、「ときどきある（週に2～3回程度）」（42.1%）、「ほとんど毎日ある」（12.7%）となっています。性別にみると、男子は女子に比べて「ほとんどない」が低く、「ほとんど毎日ある」と「ときどきある（週に2～3回程度）」が高くなっています。

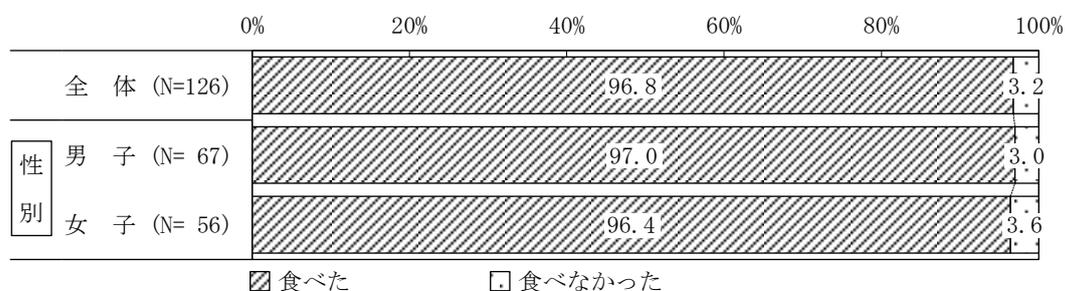
図表3-6 睡眠不足



(7) 朝食の摂取

調査票の回答日に朝食を食べたかたずねたところ、「食べた」が96.8%を占めています。「食べなかった」は3.2%です。

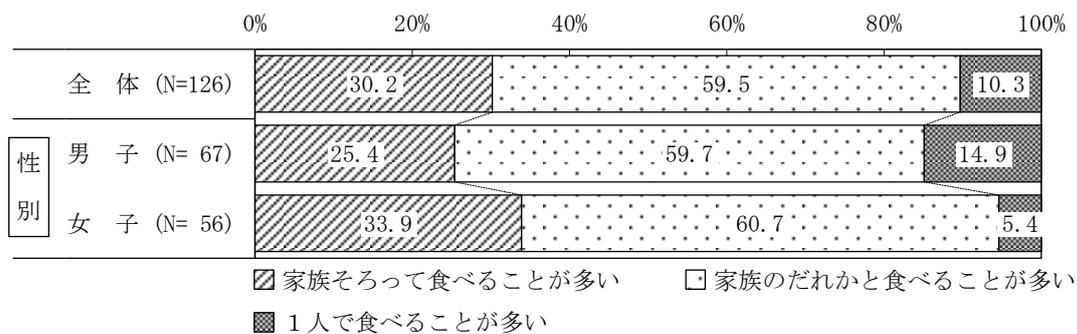
図表3-7 朝食の摂取



(8) 誰と食事をとっているか

食事を誰ととっているかたずねたところ、「家族のだれかと食べることが多い」が59.5%と最も高く、「家族そろって食べることが多い」(30.2%)、「1人で食べるが多い」(10.2%)となっています。90%近くの人が家族と一緒に食事をしています。

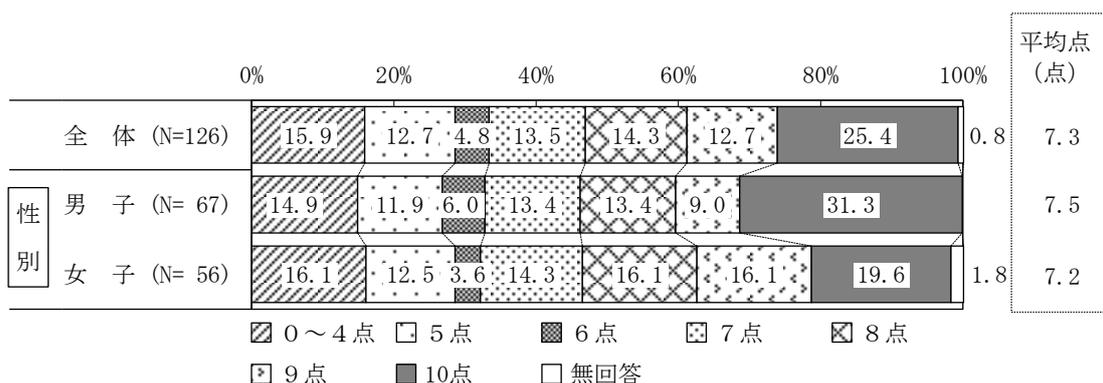
図表3-8 誰と食事をとっているか



(9) 生活の満足度

今の生活の満足度を「まったく満足していない」を0点、「とても満足」を10点とした場合、何点になるかをたずねたところ、「10点」が25.4%と最も高く、次いで「0～4点」(15.9%)、「8点」(14.3%)、「7点」(13.5%)となっており、平均点は7.3点です。性別にみると、男子は女子に比べて「10点」が11.7ポイント高くなっています。

図表3-9 生活の満足度

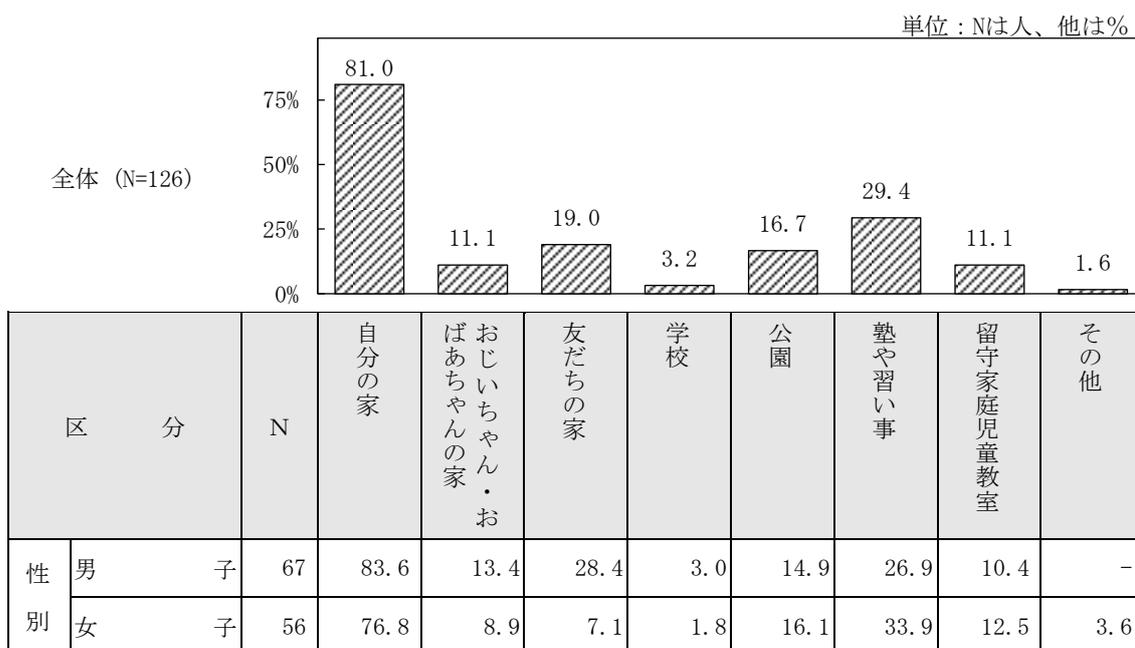


(10) 放課後過ごす場所

放課後から夕食前までの時間、過ごす場所は「自分の家」が80%以上となっており、「塾や習い事」(29.4%)、「友だちの家」(19.0%)、「公園」(16.7%)となっています。

「その他」として「一区の会館」という記載がありました。

図表3-10 放課後過ごす場所 (○は3つまで)

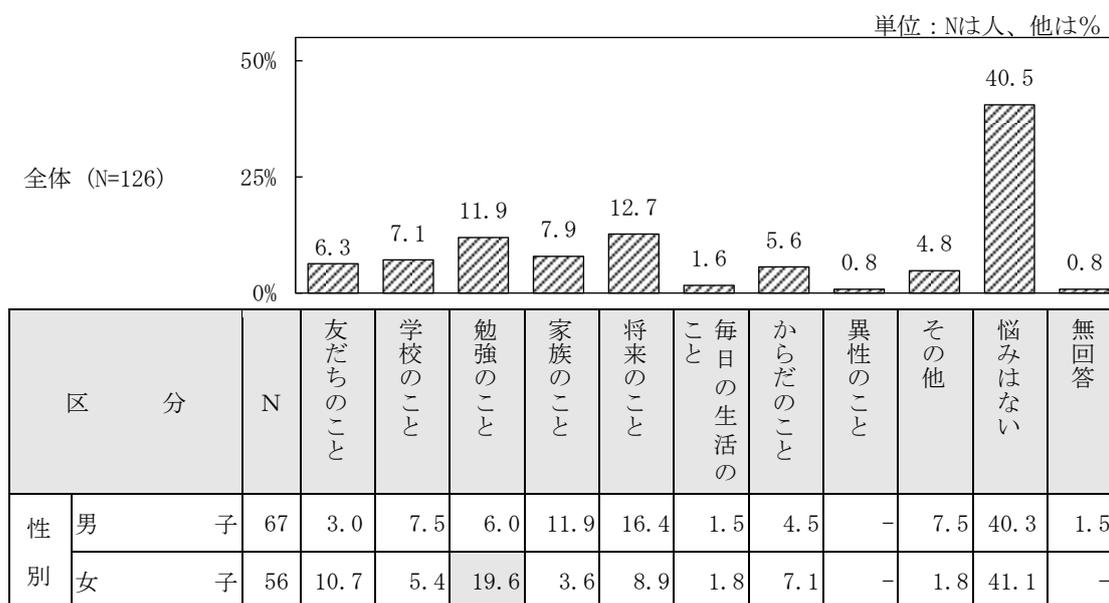


(11) 最も悩んでいること・気がかりなこと

今、最も悩んでいること・気がかりなことをたずねたところ、「悩みはない」が40.5%と最も高くなっており、次いで「将来のこと」(12.7%)、「勉強のこと」(11.9%)などとなっています。性別にみると、女子は男子に比べて「勉強のこと」が10ポイント以上高くなっています。

「その他」として「卓球のこと」、「空手の先生のこと」、「習い事のこと」、「登校のこと」、「他人への攻撃」、「交差点で車が止まらない」という記載がありました。

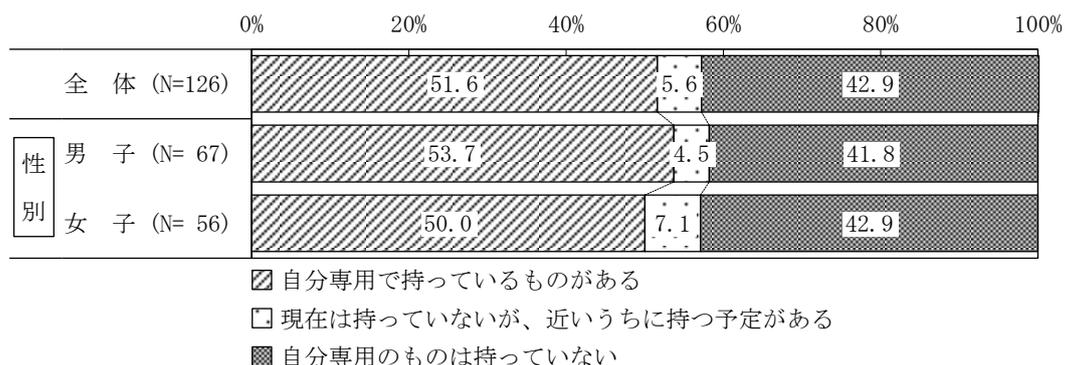
図表3-11 最も悩んでいること・気がかりなこと



(12) 携帯電話やスマートフォン等の所持

自分専用の携帯電話やスマートフォン、パソコンを所持しているかたずねたところ、「自分専用で持っているものがある」が51.6%と最も高く、「自分専用のものは持っていない」(42.9%)、「現在は持っていないが、近いうちに持つ予定がある」(5.6%)となっています。

図表3-12 携帯電話やスマートフォン等の所持



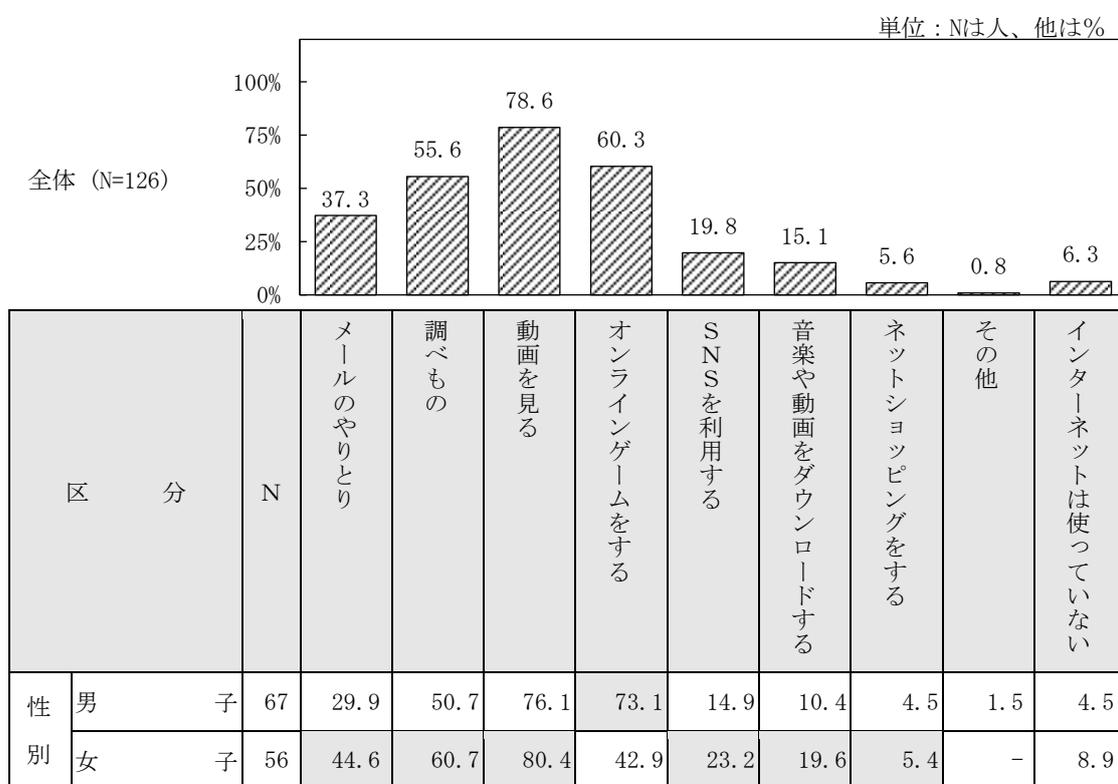
(13) インターネットの用途

インターネットを使ってどんなことをしているかたずねたところ、「動画を見る」が78.6%と最も高く、次いで「オンラインゲームをする」(60.3%)、「調べもの」(55.6%)、「メールのやりとり」(37.3%)となっています。

性別にみると、女子は男子に比べて多くの項目で高くなっています。また、男子は女子に比べて「オンラインゲームをする」が30.2ポイント高くなっています。

「その他」として「編集をする」、「マンガを見る」、「いろいろなもののホームページをみる」という記載がありました。

図表3-13 インターネットの用途（複数回答）

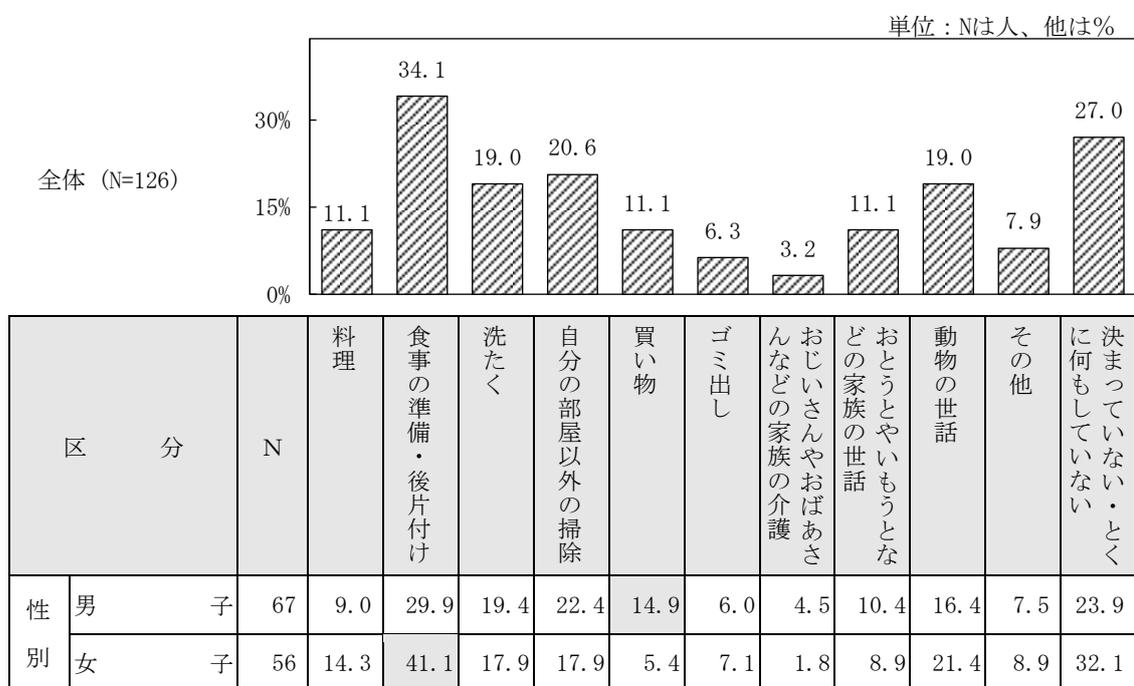


(14) 家事作業

家で決まって行っている手伝いや家事作業があるかたずねたところ、「食事の準備・後片付け」が34.1%と最も高く、「決まっていない・とくに何もしていない」(27.0%)、「自分の部屋以外の掃除」(20.6%)、「洗たく」および「動物の世話」(19.0%)となっています。性別にみると、男子は女子に比べて「買い物」が高く、「食事の準備・片付け」が低くなっており、それぞれ10ポイント前後の差があります。

「その他」として「お風呂を入れる(2人)」、「洗濯物をたたむ(2人)」、「花の水やり」、「自分の部屋の掃除」、「カーテンを開ける」、「たまにいろいろやる」という記載がありました。

図表3-14 家事作業(複数回答)

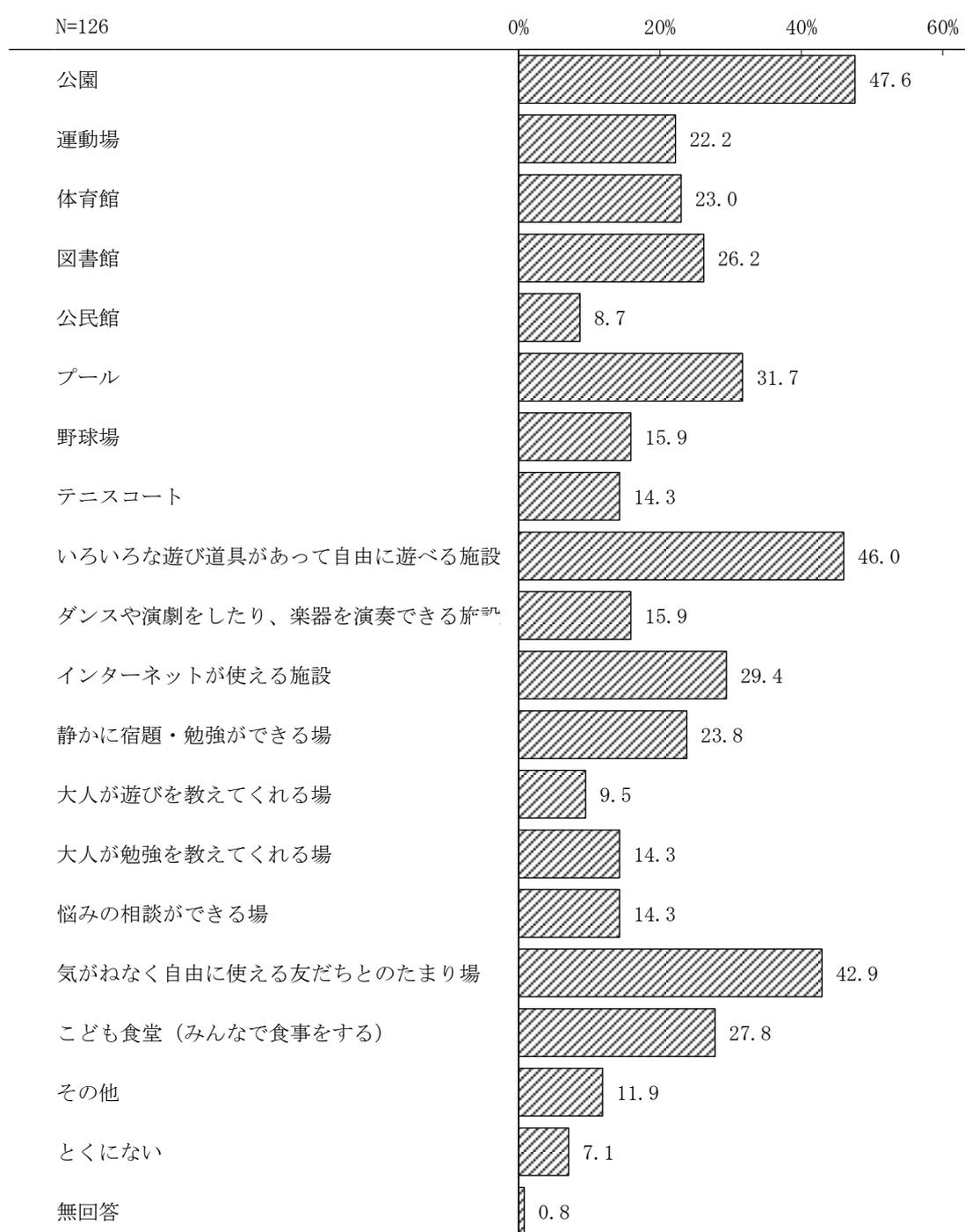


(15) 近くにあるとよい遊び場・施設

近くにあるとよい遊び場や施設をたずねたところ、「公園」が47.6%と最も高くなっており、「いろいろな遊び道具があって自由に遊べる施設」(46.0%)、「気がねなく自由に使える友だちとのたまり場」(42.9%)、「プール」(31.7%)となっています。

「その他」として図表3-16の内容が記載されていました。

図表3-15 近くにあるとよい遊び場・施設（複数回答）



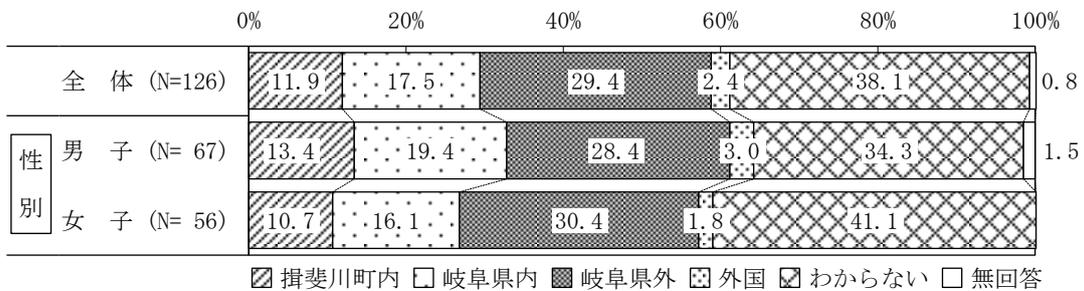
図表3-16 近くにあるとよい遊び場・施設（その他、複数回答）

<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングモール（4人） ・コンビニ ・友だちとの家が近いこと ・みんなでゲームをする ・ゲームセンター ・カンフー道場 	<ul style="list-style-type: none"> ・トランポリンがある施設 ・バッティングセンター ・バスケコート ・子どもジム ・マンガが読み放題の場
---	---

(16) 大人になったときに住みたい場所

大人になったときに住みたい場所は「わからない」が38.1%と最も高く、「岐阜県外」（29.4%）、「岐阜県内」（17.5%）、「揖斐川町内」（11.9%）、外国（2.4%）となっています。

図表3-17 大人になったときに住みたい場所

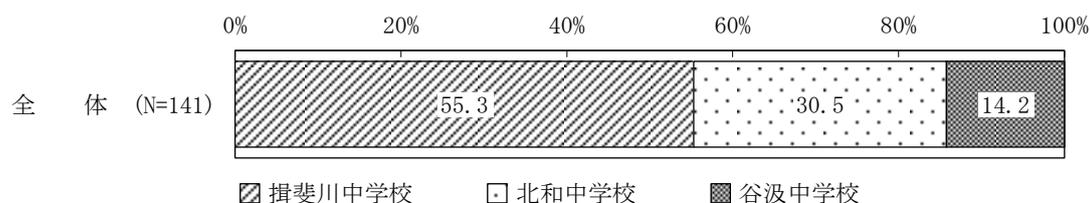


2 中学生調査

(1) 中学校

現在通っている中学校は、「揖斐中学校」が55.3%と最も高く、「北和中学校」(30.5%)、「谷汲中学校」(14.2%)となっています。

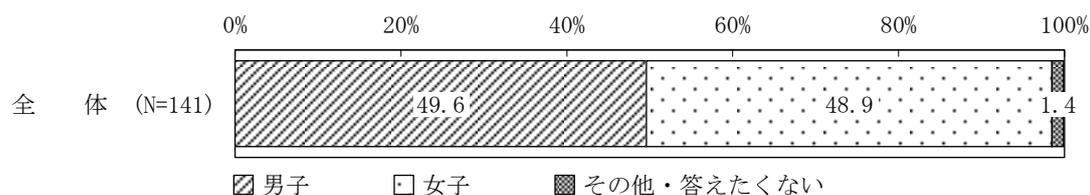
図表3-18 中学校



(2) 性別

回答者の性別は、「男子」が49.6%、「女子」が48.9%です。

図表3-19 性別

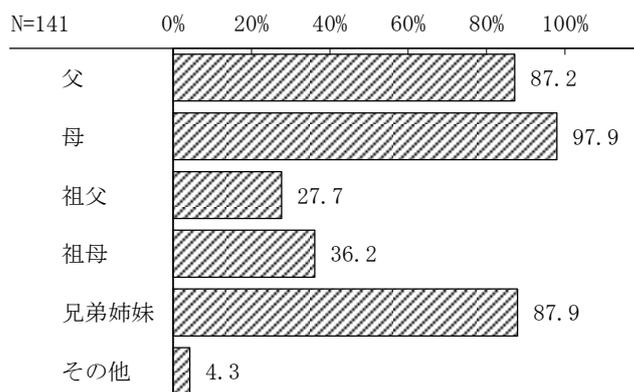


(3) 同居者

回答者の同居者は「母」が97.9%と最も高く、次いで「兄弟姉妹」(87.9%)、「父」(87.2%)、「祖母」(36.2%)、「祖父」(27.7%)となっています。

「その他」として「おば(3人)」、「おじ(2人)」、「ひいおばあちゃん」、「ひいおじいちゃん」という記載がありました。

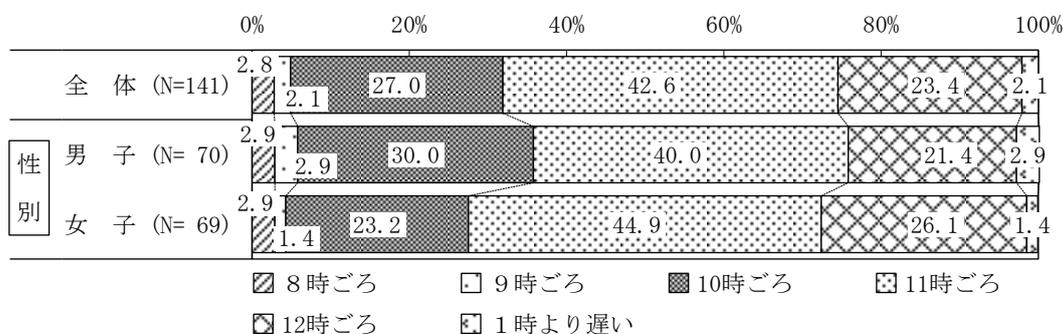
図表3-20 同居者(複数回答)



(4) 平日の就寝時間

平日の就寝時間は「11時ごろ」が42.6%と最も高く、「10時ごろ」(27.0%)、「12時ごろ」(23.4%) となっています。

図表3-21 平日の就寝時間

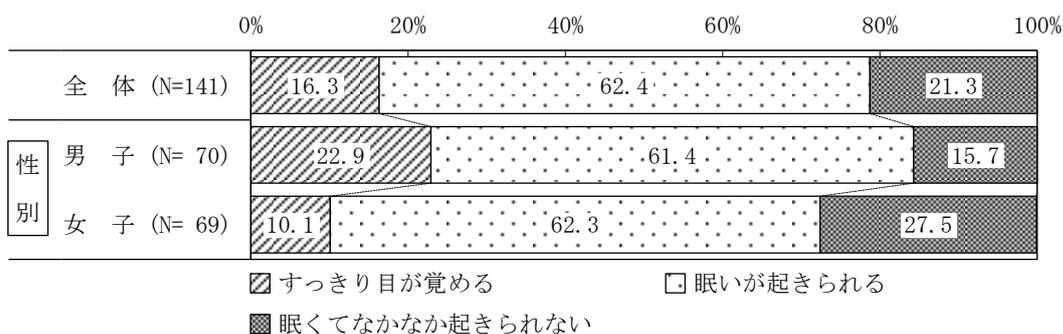


(5) 朝、すっきりと起きられるか

平日の朝、すっきりと起きられるかたずねたところ、「眠いが起きられる」が62.4%を占め、「眠くてなかなか起きられない」(21.3%)、「すっきり目が覚める」(16.3%) となっています。

性別にみると、男性は女子に比べて「すっきり目が覚める」が高く、「眠くてなかなか起きられない」が低くなっています。

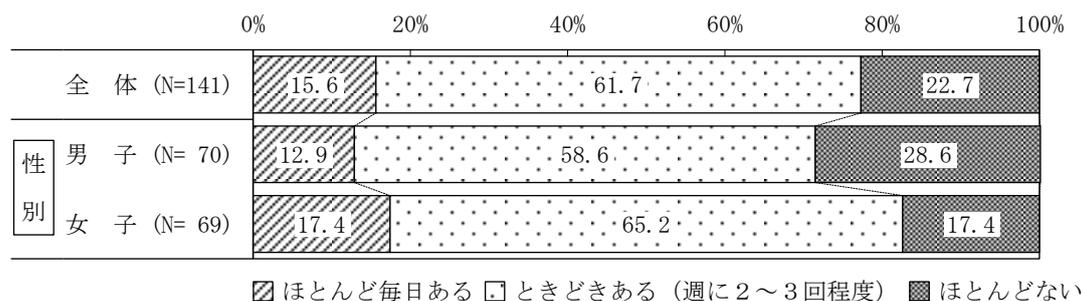
図表3-22 朝、すっきりと起きられるか



(6) 睡眠不足

睡眠不足と覚えることがあるかたずねたところ、「ときどきある（週に2～3回程度）」が61.7%と最も高く、「ほとんどない」（22.7%）、「ほとんど毎日ある」（15.6%）となっています。性別にみると、男子は女子に比べて「ほとんどない」が10ポイント以上高くなっています。

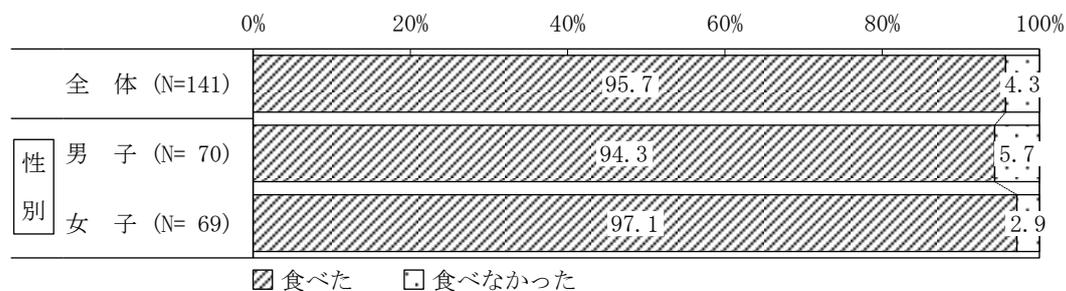
図表3-23 睡眠不足



(7) 朝食の摂取

調査票の回答日に朝食を食べたかたずねたところ、「食べた」が95.7%を占めています。「食べなかった」は4.3%です。

図表3-24 朝食の摂取

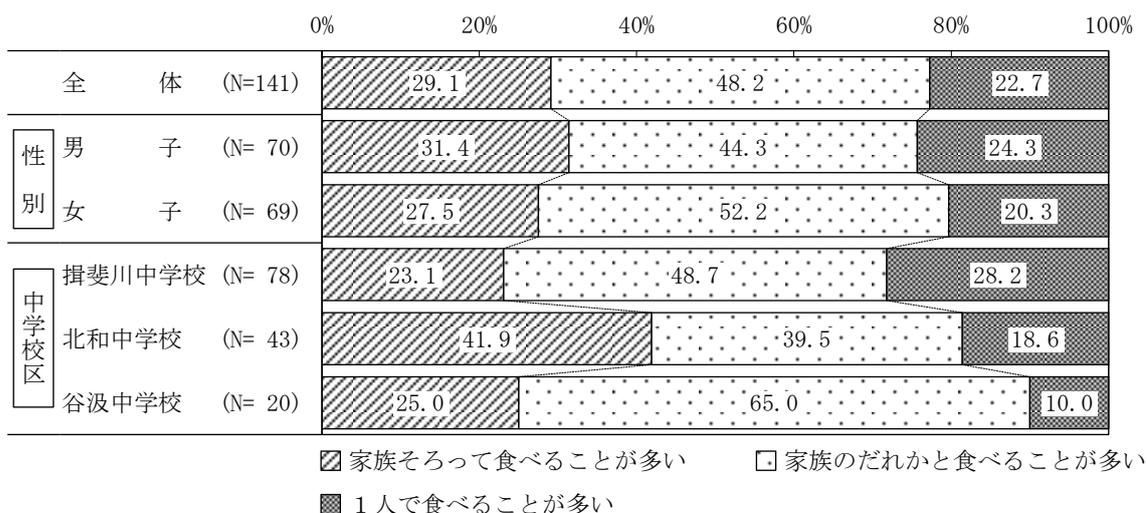


(8) 誰と食事をとっているか

食事を誰ととっているかたずねたところ、「家族のだれかと食べることが多い」が48.2%と最も高く、「家族そろって食べることが多い」(29.1%)、「1人で食べることが多い」(22.7%)となっています。家族と一緒に食事をしているのは77.3%です。

中学校区別では、揖斐川中学校区は「1人で食べるが多い」が30%近くの高い割合です。

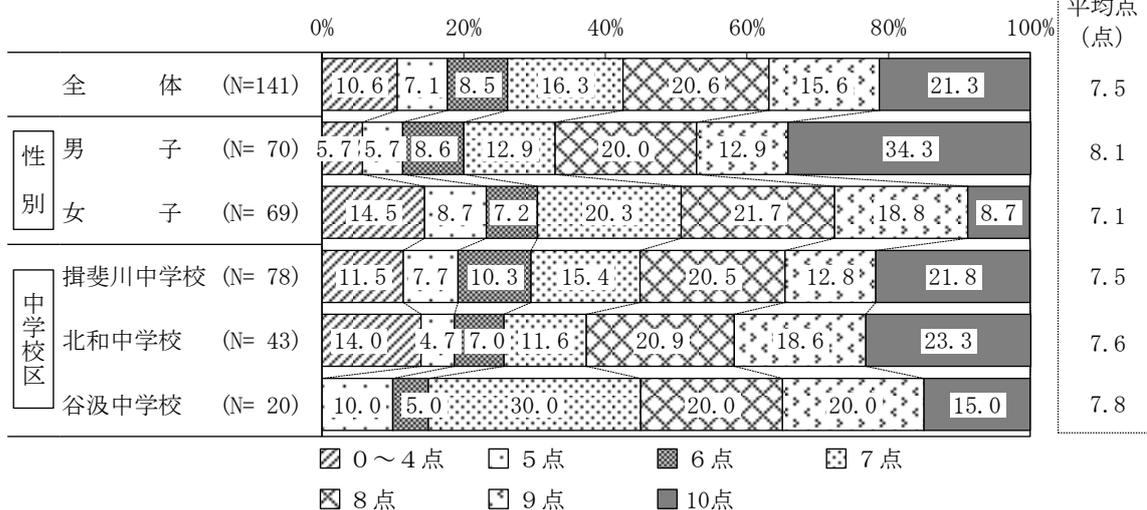
図表3-25 誰と食事をとっているか



(9) 生活の満足度

今の生活の満足度を「まったく満足していない」を0点、「とても満足」を10点とした場合、何点になるかをたずねたところ、「10点」が21.3%と最も高く、次いで「8点」(20.6%)、「7点」(15.6%)となっており、平均点は7.5点です。性別にみると、男子は女子に比べて「10点」が25.6ポイント、平均点が1.0点高くなっています。

図表3-26 生活の満足度

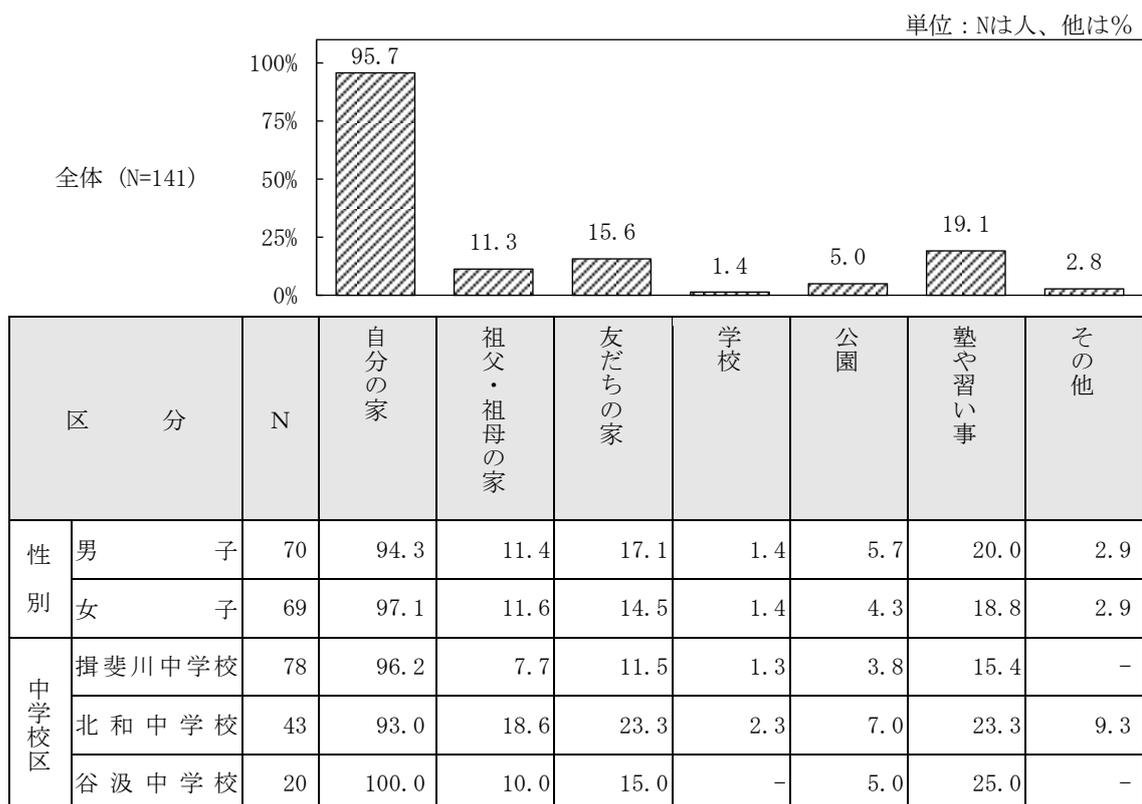


(10) 放課後過ごす場所

放課後から夕食前までの時間、過ごす場所は「自分の家」が95.7%と最も高く、「塾や習い事」(19.1%)、「友だちの家」(15.6%)、「祖父・祖母の家」(11.3%) となっています。

「その他」として「外(2人)」、「テニスコート」という記載がありました。

図表3-27 放課後過ごす場所 (〇は3つまで)



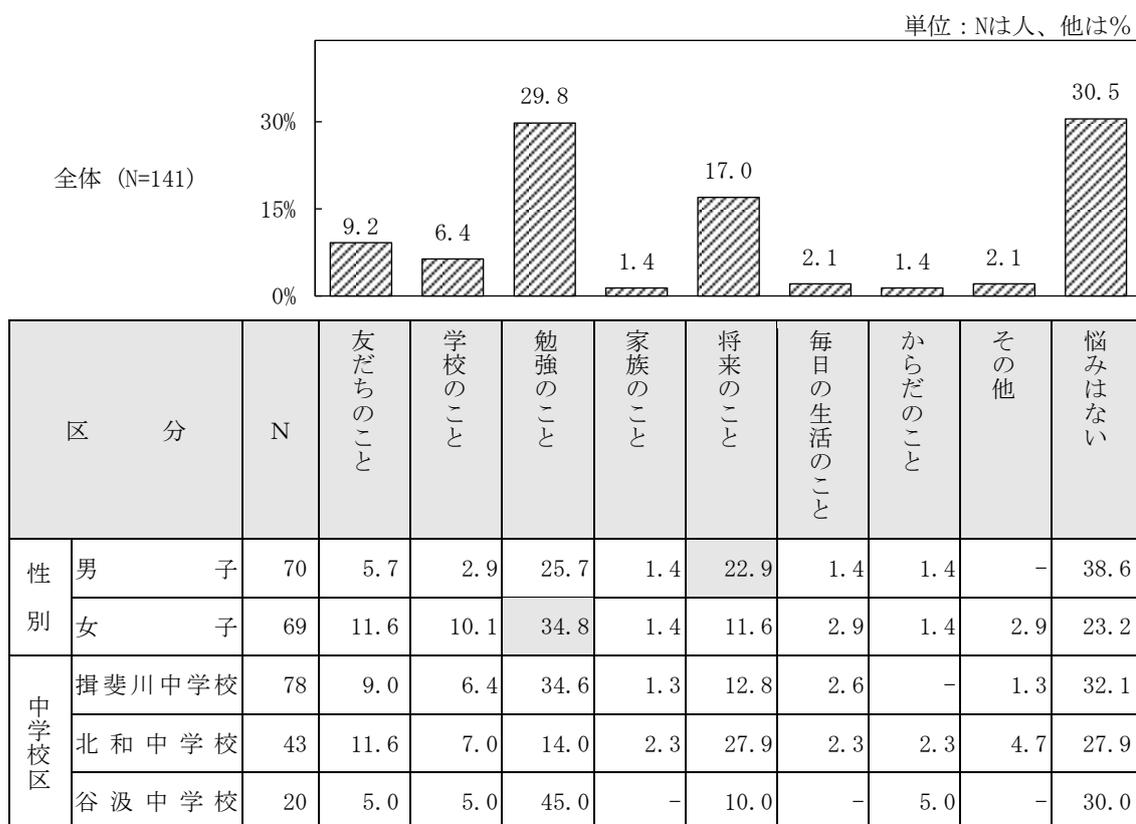
(11) 最も悩んでいること・気がかりなこと

今、最も悩んでいること・気がかりなことは、「悩みはない」が30.5%と最も高くなっていますが、「勉強のこと」も29.8%の高い割合です。そのほかでは、「将来のこと」(17.0%)、「友だちのこと」(9.2%)などの順となっています。

性別にみると、男子は女子に比べて「将来のこと」が高く、「勉強のこと」が低くなっており、それぞれ10ポイント前後の差があります。

「その他」として「人間関係(2人)」、「テニスのこと」という記載がありました。

図表3-28 最も悩んでいること・気がかりなこと



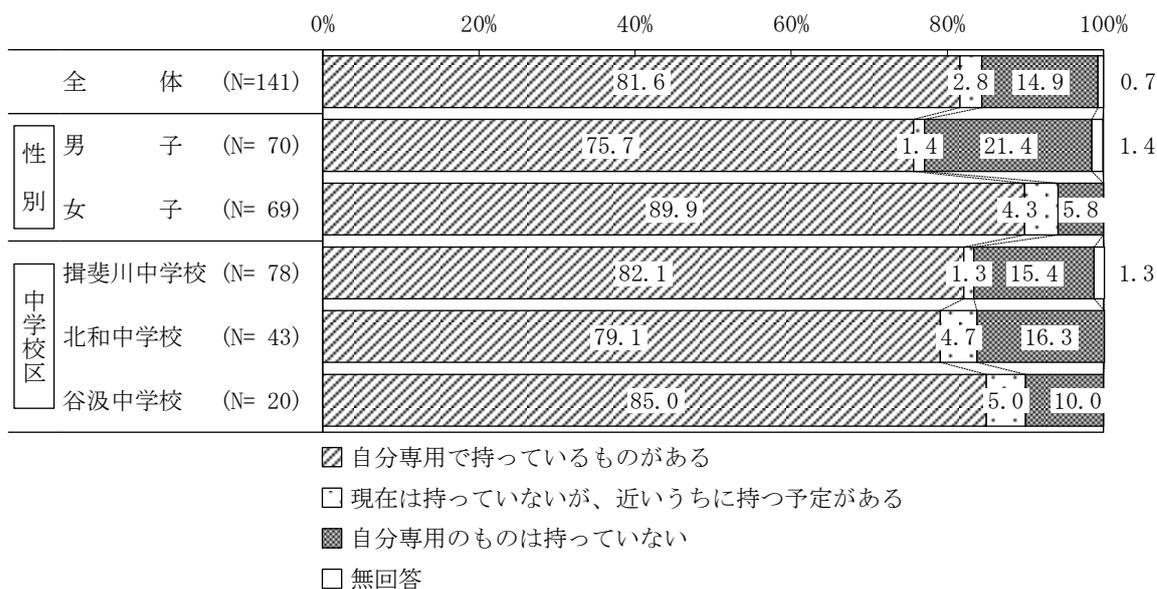
(注)「異性のこと」という選択肢には該当がなかった。

(12) 携帯電話やスマートフォン等の所持

自分専用の携帯電話やスマートフォン、パソコンを所持しているかたずねたところ、「自分専用で持っているものがある」が81.6%を占めており、「自分専用のものは持っていない」(14.9%)、「現在は持っていないが、近いうちに持つ予定がある」(2.8%)となっています。

性別では、女子は男子に比べて「自分専用で持っているものがある」が14.2ポイント高くなっています。

図表3-29 携帯電話やスマートフォン等の所持



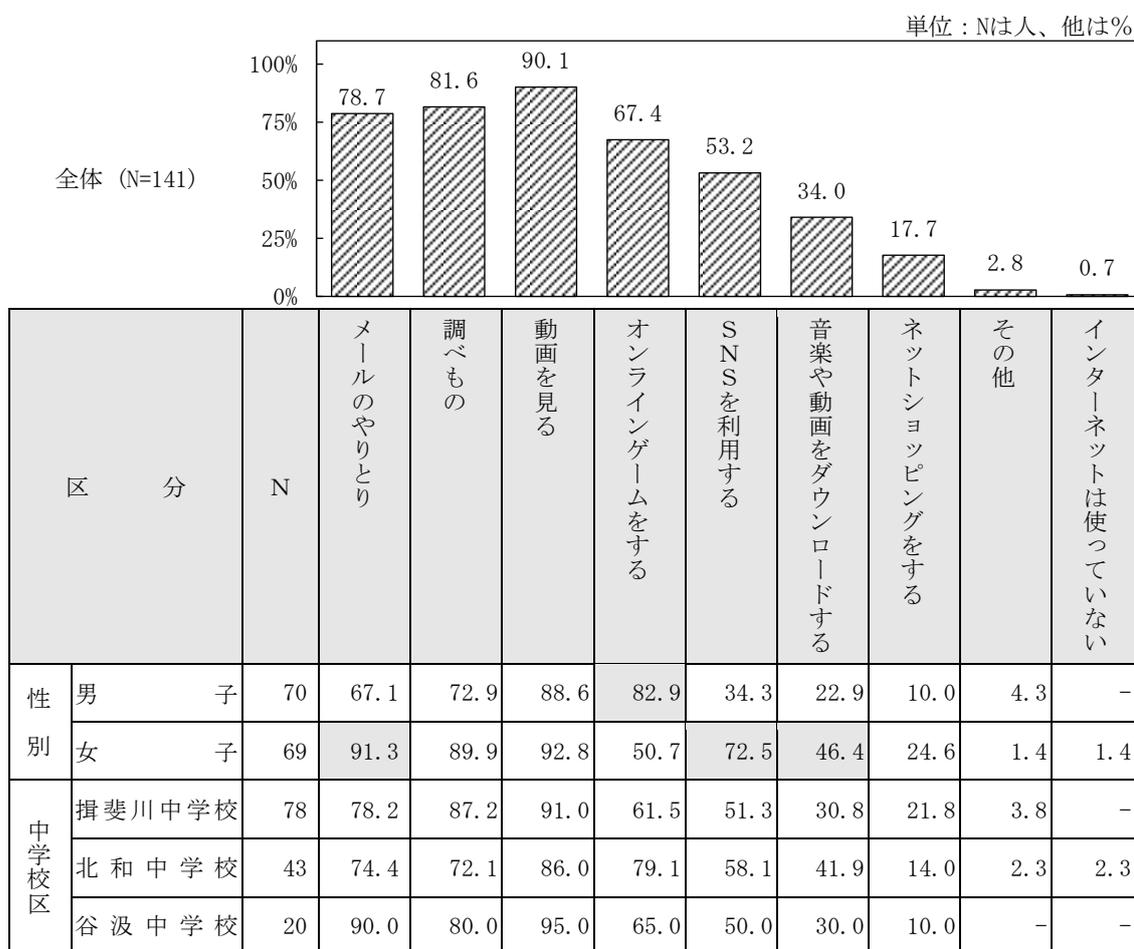
(13) インターネットの用途

インターネットを使ってどんなことをしているかたずねたところ、「動画を見る」が90.1%と最も高く、次いで「調べもの」(81.6%)、「メールのやりとり」(78.7%)、「オンラインゲームをする」(67.4%)となっています。

性別にみると、女子は男子に比べて多くの項目で高くなっています。また、男子は女子に比べて「オンラインゲームをする」が高く、「メールのやりとり」、「SNSを利用する」、「音楽や動画をダウンロードする」が低くなっており、それぞれ20ポイント以上の差があります。

「その他」として「勉強」、「ミュージック」、「撮影」、「カメラ」という記載がありました。

図表3-30 インターネットの用途（複数回答）



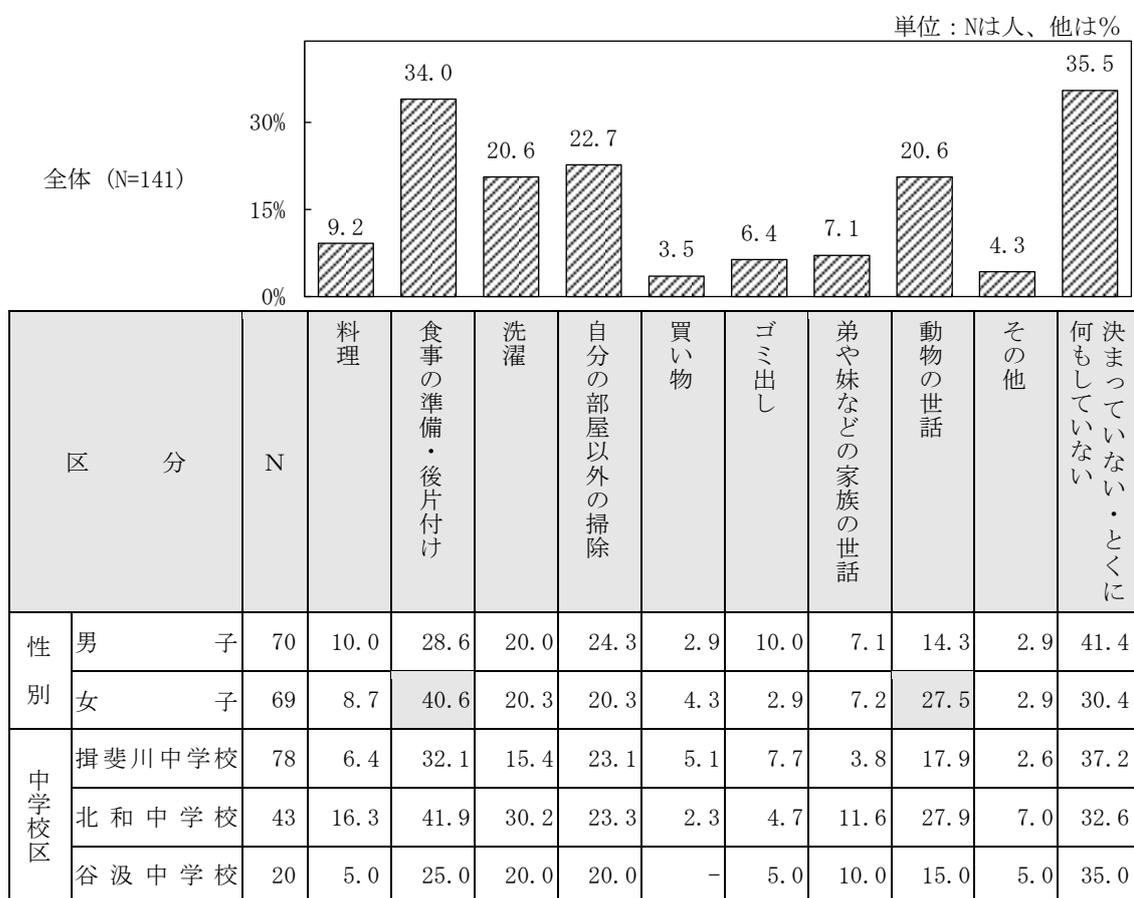
(14) 家事作業

家で決まって行っている手伝いや家事作業があるかたずねたところ、「決まっていな
い・とくに何もしていない」が35.5%と最も高く、次いで「食事の準備・後片付け」
(34.0%)、「自分の部屋以外の掃除」(22.7%)、「洗濯」および「動物の世話」
(20.6%) となっています。

性別にみると、女子は男子に比べて「食事の準備・後片付け」、「動物の世話」が10
ポイント以上高くなっています。

「その他」として「決まっていないけど、自分からする(2件)」、「タオル変え」、
「靴並べ」、「車洗い(旅館の家の手伝い)」、「机ふき」という記載がありました。

図表3-31 家事作業(複数回答)



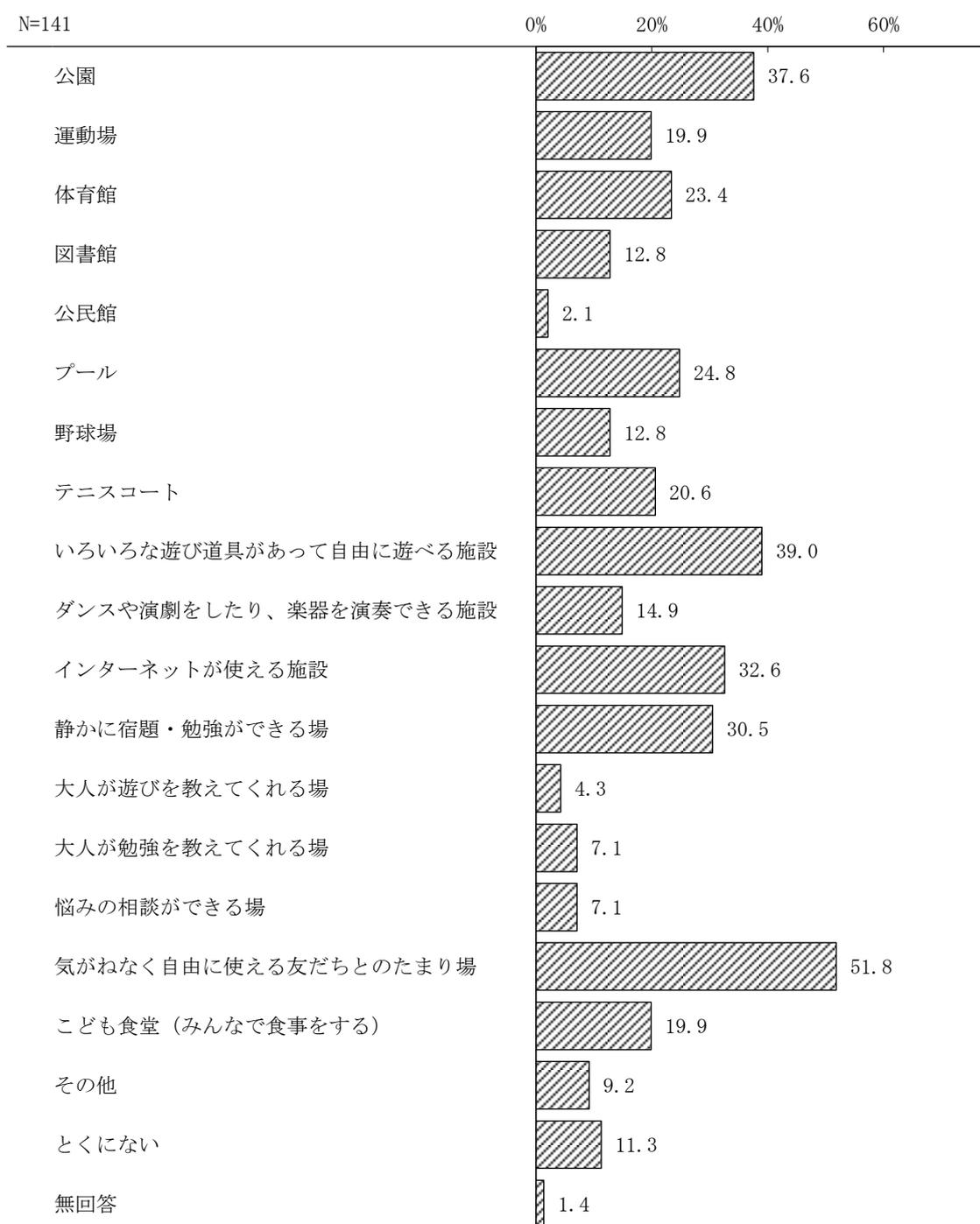
(注)「祖父や祖母などの家族の介護」という選択肢には該当がなかった。

(15) 近くにあるとよい遊び場・施設

近くにあるとよい遊び場や施設をたずねたところ、「気がねなく自由に使える友だちとのたまり場」が51.8%と最も高くなっており、「いろいろな遊び道具があって自由に遊べる施設」(39.0%)、「公園」(37.6%)、「インターネットが使える施設」(32.6%)、「静かに勉強・宿題ができる場」(30.5%)となっています。

「その他」として図表3-33の内容が記載されていました。

図表3-32 近くにあるとよい遊び場・施設（複数回答）



図表 3-33 近くにあるとよい遊び場・施設（その他、複数回答）

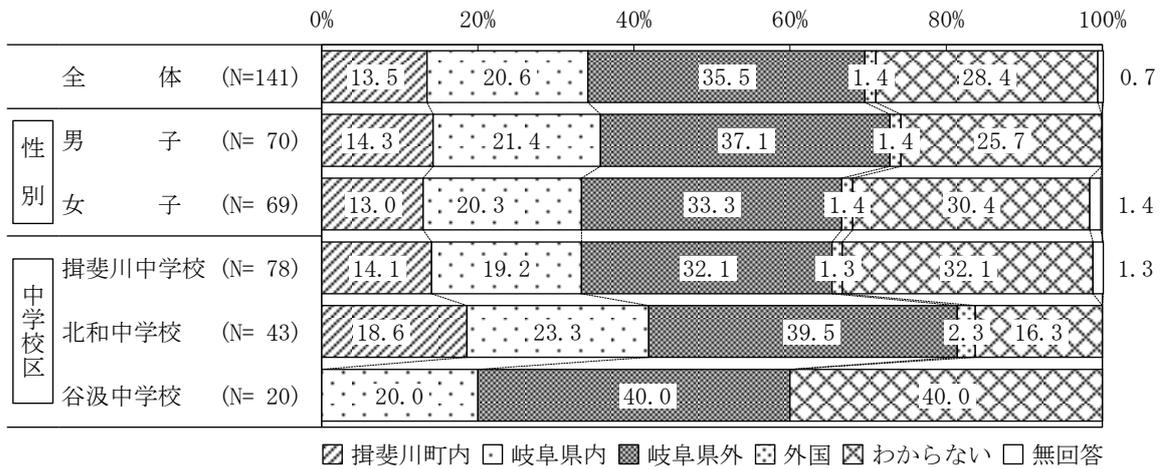
<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニ（2人） ・バスケットコート（2人） ・ショッピングモール（2人） ・スケボーができる場所（ハーフパイプなど） ・アミューズメント施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・外食チェーン店 ・アトリエ ・お金なしで子どもが泊まれる場所 ・ゲームセンター
--	---

(16) 大人になったときに住みたい場所

大人になったときに住みたい場所は「岐阜県外」が35.5%と最も高く、「わからない」(28.4%)、「岐阜県内」(20.6%)、「揖斐川町内」(13.5%)、外国(1.4%)となっています。

中学校区別では、谷汲中学校は「揖斐川町内」と答えた人はいませんでした。

図表 3-34 大人になったときに住みたい場所

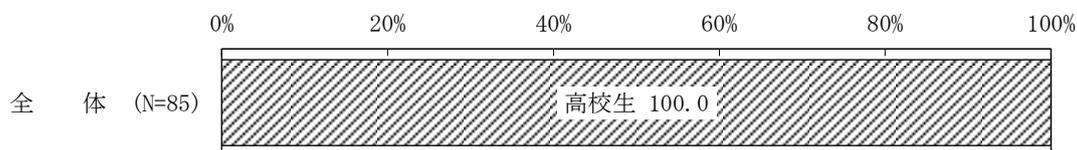


3 16～17歳調査

(1) 現在の立場

回答者は全員「高校生」です。

図表3-35 現在の立場

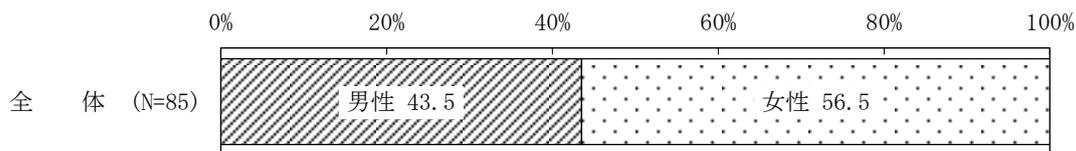


(注)「就労者 (就職している)」、「未就労者 (高校生以外)」、「その他」という選択肢には該当がなかった。

(2) 性別

回答者の性別は、「男性」が43.5%、「女性」が56.5%です。

図表3-36 性別

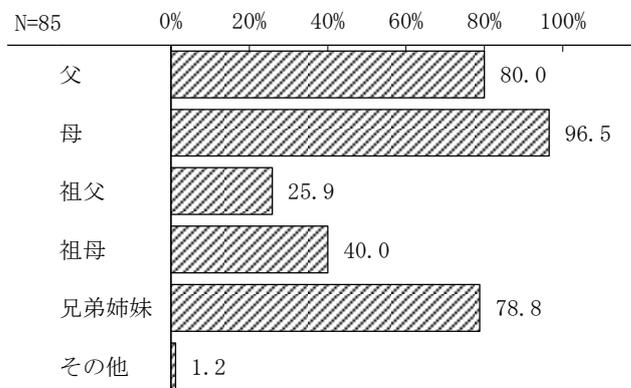


(注)「その他・答えたくない」という選択肢には該当がなかった。

(3) 同居者

回答者の同居者は「母」が96.5%と最も高く、次いで「父」(80.0%)、「兄弟姉妹」(78.8%)、「祖母」(40.0%)、「祖父」(25.9%)となっています。

図表3-37 同居者 (複数回答)

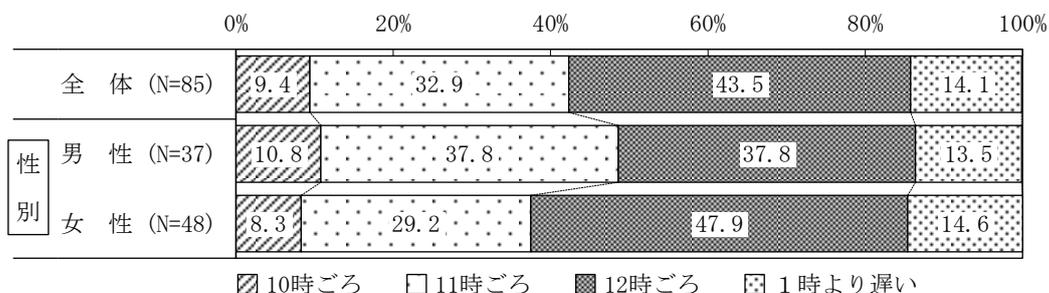


(4) 平日の就寝時間

平日の就寝時間は「12時ごろ」が43.5%と最も高く、「11時ごろ」(32.9%)、「1時より遅い」(14.1%)、「10時ごろ」(9.4%)となっています。

性別では、

図表3-38 平日の就寝時間

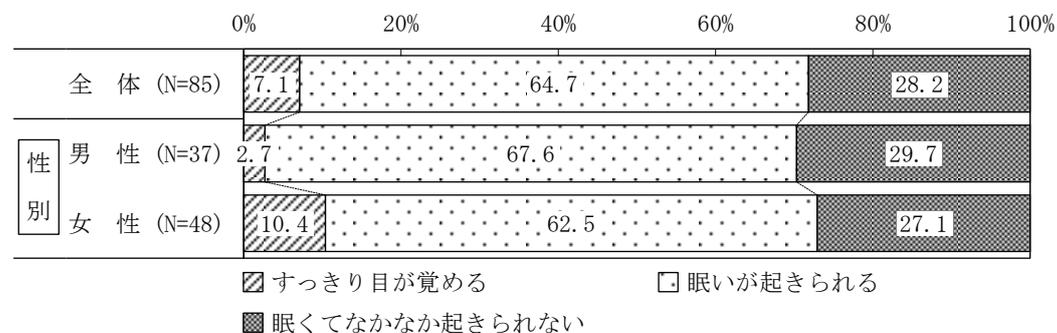


(注)「8時ごろ」、「9時ごろ」という選択肢には該当がなかった。

(5) 朝、すっきりと起きられるか

平日の朝、すっきりと起きられるかたずねたところ、「眠いが起きられる」が64.7%を占め、「眠くてなかなか起きられない」(28.2%)「すっきり目が覚める」(7.1%)となっています。

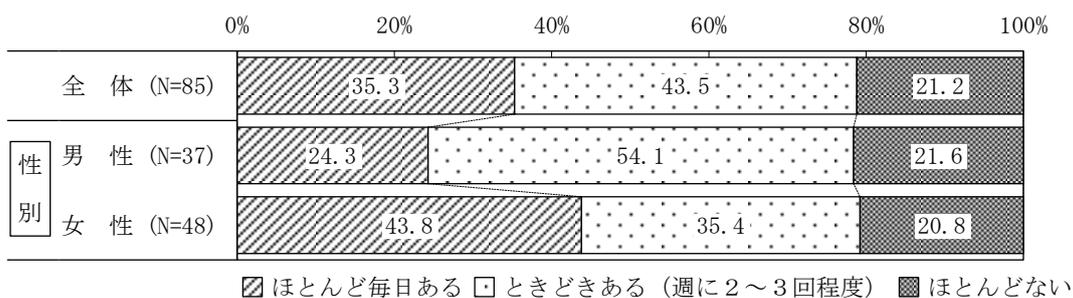
図表3-39 朝、すっきりと起きられるか



(6) 睡眠不足

睡眠不足と覚えることがあるかたずねたところ、「ときどきある（週に2～3回程度）」が43.5%と最も高く、「ほとんど毎日ある」（35.3%）、「ほとんどない」（21.2%）となっています。性別では、女性は男性に比べて「ほとんど毎日ある」が20ポイント近く高くなっています。

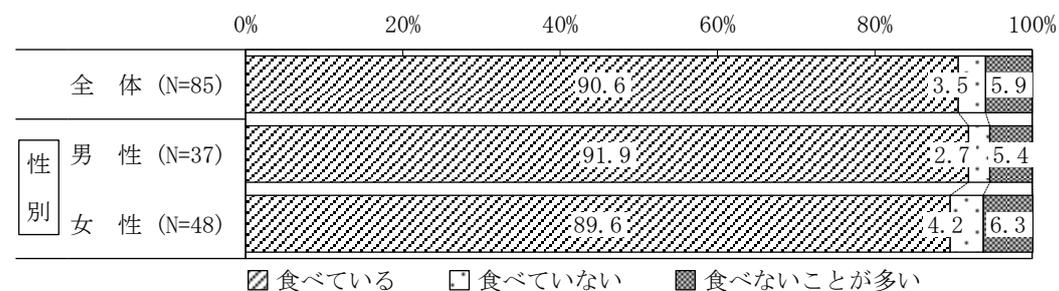
図表3-40 睡眠不足



(7) 朝食の摂取

普段、朝食を食べているかたずねたところ、「食べている」が90.6%を占めており、「食べないことが多い」（5.9%）、「食べていない」（3.5%）となっています。

図表3-41 朝食の摂取

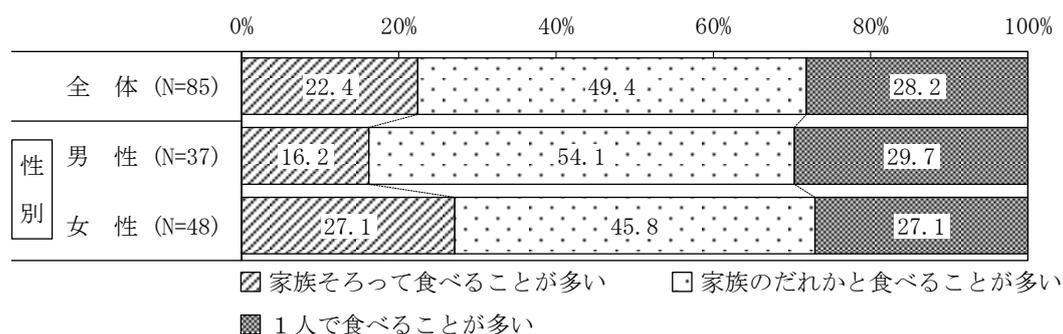


(8) 誰と食事をとっているか

食事を誰ととっているかたずねたところ、「家族のだれかと食べることが多い」が49.4%と最も高く、「1人で食べることが多い」(28.2%)、「家族そろって食べるが多い」(22.4%)となっています。家族と一緒に食事をしているのは71.8%です。

性別では、女性は男性に比べて「家族そろって食べるが多い」が10ポイント以上高くなっています。

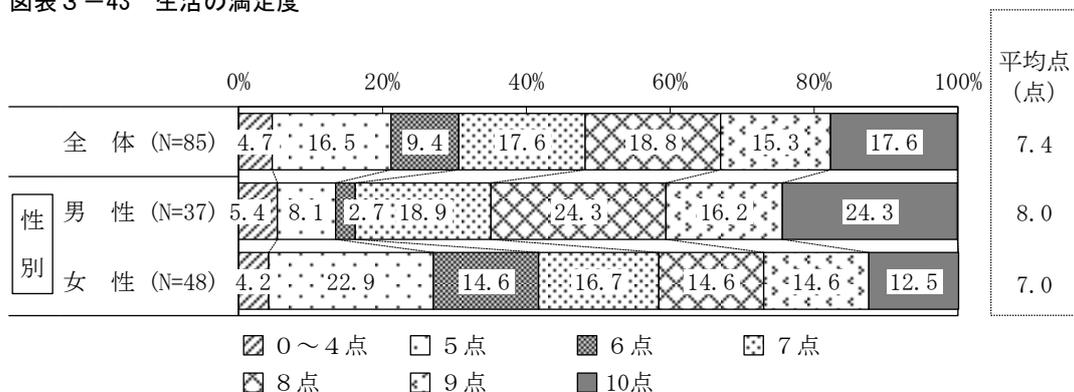
図表3-42 誰と食事をとっているか



(9) 生活の満足度

今の生活の満足度を「まったく満足していない」を0点、「とても満足」を10点とした場合、何点になるかをたずねたところ、「8点」が18.8%と最も高く、次いで「7点」および「10点」(17.6%)、「5点」(16.5%)、「9点」(15.3%)となっており、平均点は7.4点です。性別にみると、男性は女性に比べて平均点が1.0点高くなっています。

図表3-43 生活の満足度

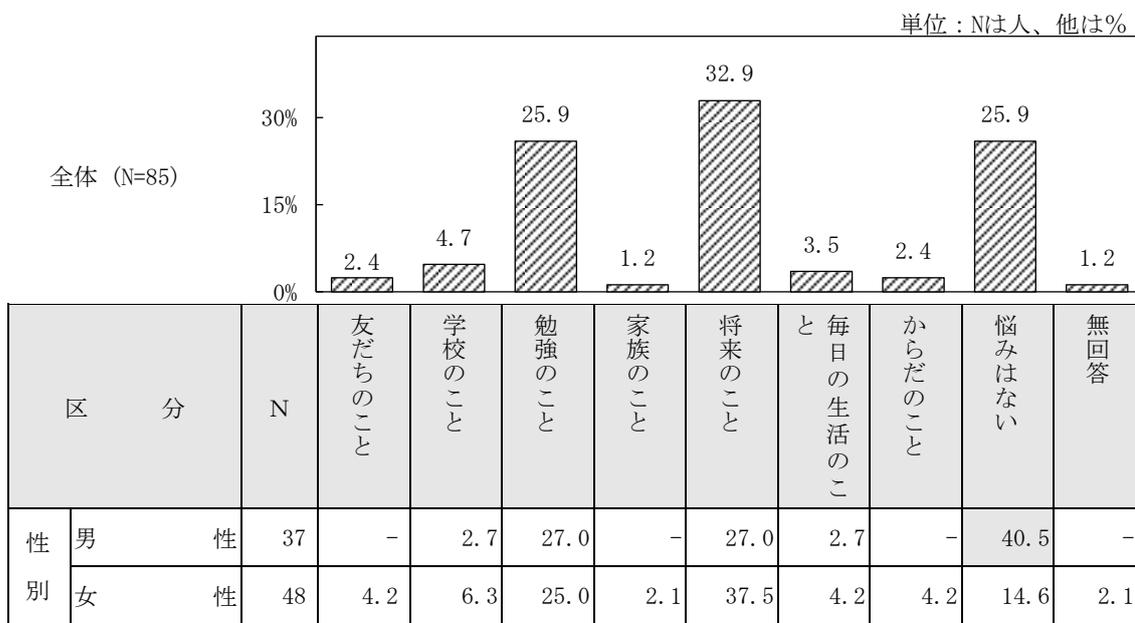


(10) 最も悩んでいること・気がかりなこと

今、最も悩んでいること・気がかりなことは、「将来のこと」が32.9%と最も高くなっており、「勉強のこと」(25.9%)、「悩みはない」(25.9%)となっています。

性別では、男性は女性に比べて「悩みがない」が25.9ポイント高くなっています。

図表3-44 最も悩んでいること・気がかりなこと

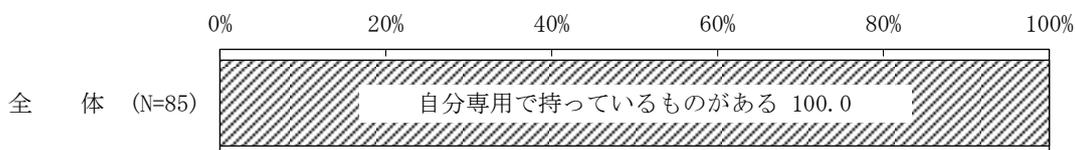


(注)「職場のこと」、「仕事のこと」、「異性のこと」、「その他」という選択肢には該当がなかった。

(11) 携帯電話やスマートフォン等の所持

自分専用の携帯電話やスマートフォン、パソコンを所持しているかたずねたところ、回答者は全員、「自分専用で持っているものがある」と答えています。

図表3-45 携帯電話やスマートフォン等の所持



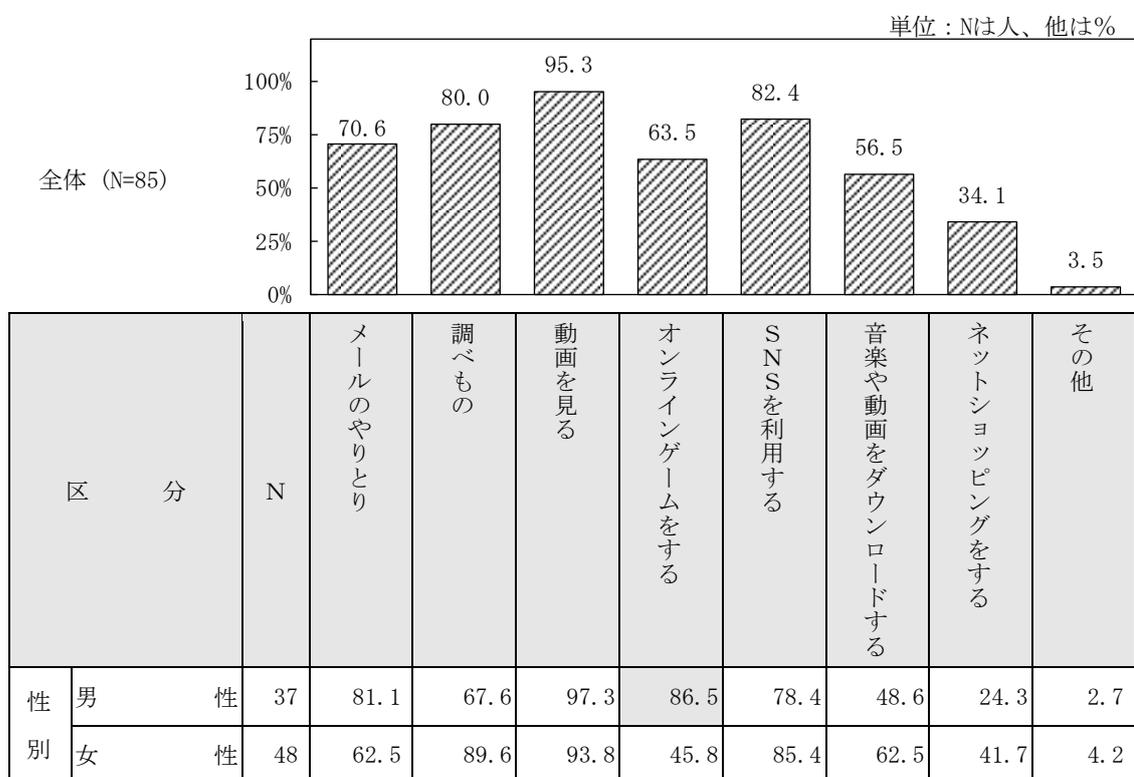
(12) インターネットの用途

インターネットを使ってどんなことをしているかたずねたところ、「動画を見る」が95.3%と最も高く、次いで「SNSを利用する」(82.4%)、「調べもの」(80.0%)、「メールのやりとり」(70.6%)、「オンラインゲームをする」(63.5%)、「音楽や動画をダウンロードする」(56.5%)となっており、多くの項目が過半数を占めています。

性別にみると、男性は女性に比べて「オンラインゲームをする」が40ポイント以上高く、「調べもの」が22.0ポイント低くなっています。

「その他」として「創作」、「学校との連絡」、「学校の宿題」、「勉強」、「塾（オンライン）」、「オンライン授業」、「レポート」、「音楽を聴く」という記載がありました。

図表3-46 インターネットの用途（複数回答）



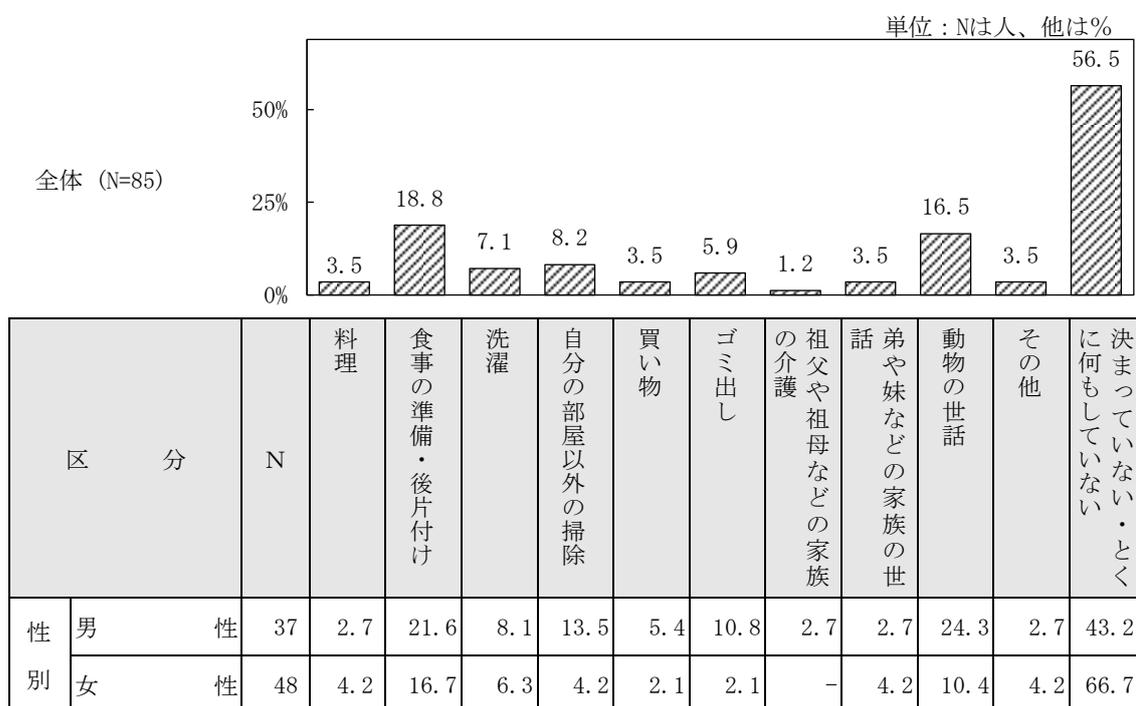
(注)「インターネットは使っていない」という選択肢には該当がなかった。

(13) 家事作業

家で決まって行っている手伝いや家事作業があるかたずねたところ、「決まっていな
い・とくに何もしていない」が56.5%と最も高く、「食事の準備・後片付け」(18.8%)、
「動物の世話」(16.5%)となっています。性別にみると、女性は男性に比べて多くの
項目で高くなっています。

「その他」として「決まっていはいないが、どれもやっている」、「頼まれたらやる。た
まに自分からやる」、「洗濯物を干す」という記載がありました。

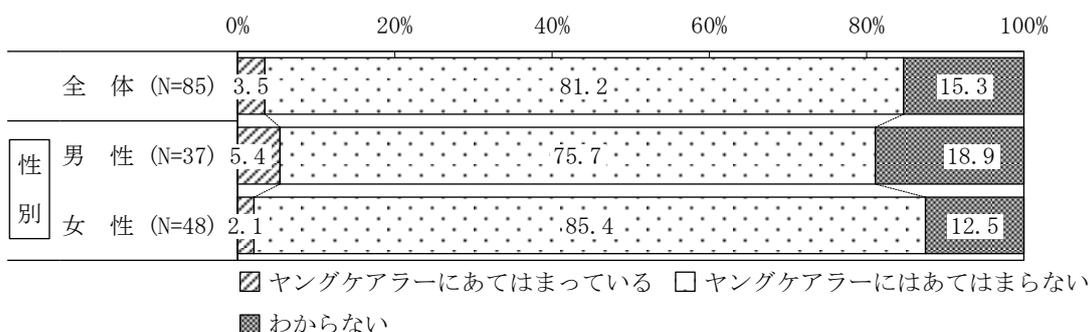
図表3-47 家事作業（複数回答）



(14) ヤングケアラー

自分が「ヤングケアラーにあてはまっている」と考えているのは3.5%です。

図表3-48 ヤングケアラー

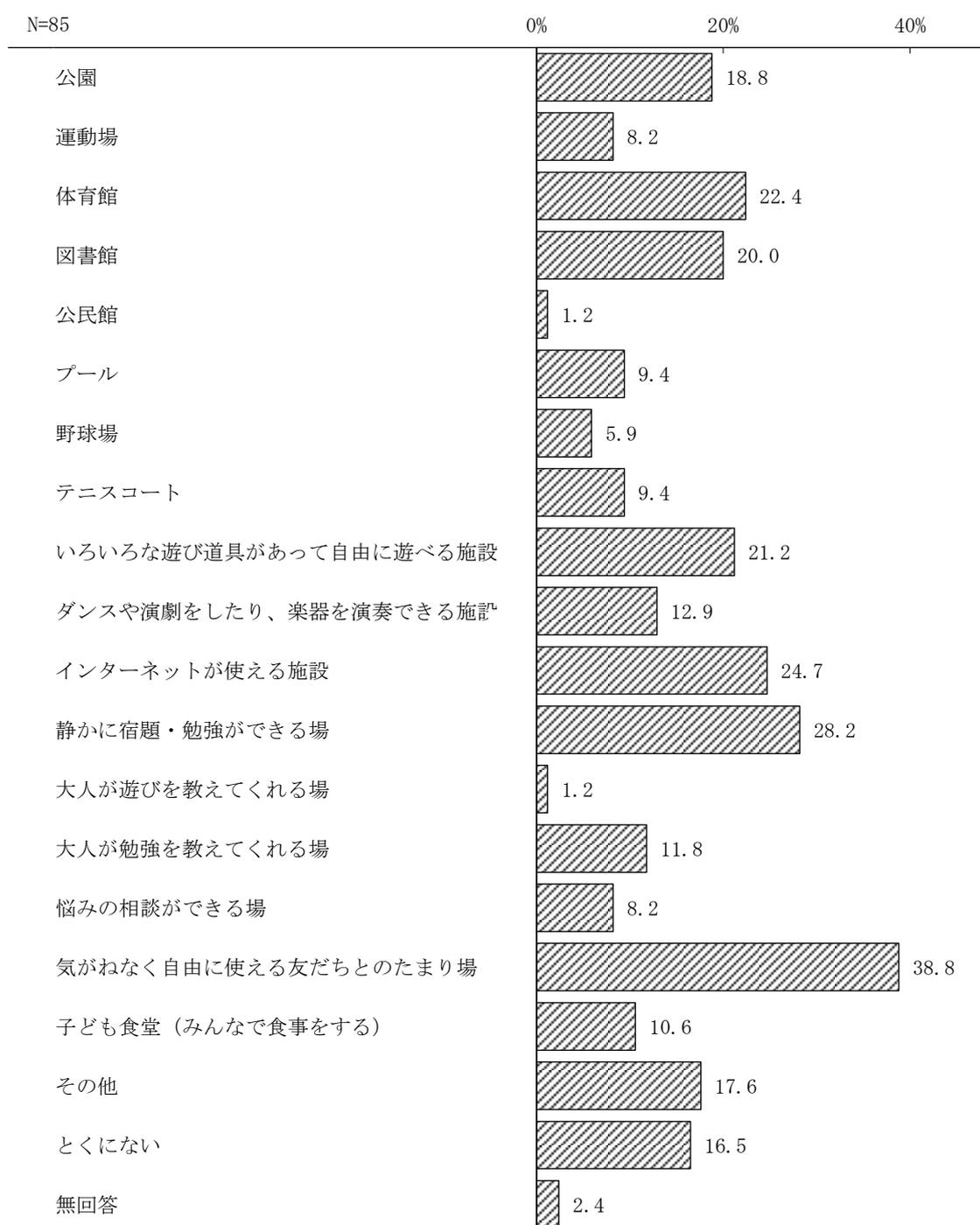


(15) 近くにあるとよい遊び場・施設

近くにあるとよい遊び場や施設をたずねたところ、「気がねなく自由に使える友だちとのたまり場」が38.8%と最も高くなっており、「静かに勉強・宿題ができる場」(28.2%)、「インターネットが使える施設」(24.7%)、「体育館」(22.4%) などとなっています。

「その他」として図表3-50の内容が記載されていました。

図表3-49 近くにあるとよい遊び場・施設（複数回答）



図表3-50 近くにあるとよい遊び場・施設（その他、複数回答）

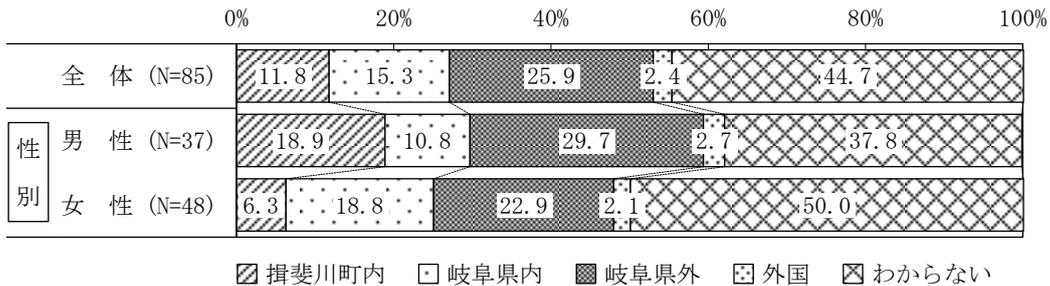
<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングモール（6人） ・カラオケ（4人） ・100円均一ショップ（2人） ・バスケットコート（2人） ・ライブやフェスの会場（2人） ・コンビニ ・飲食店 ・カフェ 	<ul style="list-style-type: none"> ・絶景写真スポット ・トレーニング施設 ・映画館 ・ペットショップ ・ゲームセンター ・無料の施設 ・駅
---	--

(16) 大人になったときに住みたい場所

大人になったときに住みたい場所は「わからない」が44.7%と最も高く、「岐阜県外」（25.9%）、「岐阜県内」（15.3%）、「揖斐川町内」（11.8%）、外国（2.4%）となっています。

性別では、男性は女性に比べて「揖斐川町内」が高くなっています。

図表3-51 大人になったときに住みたい場所

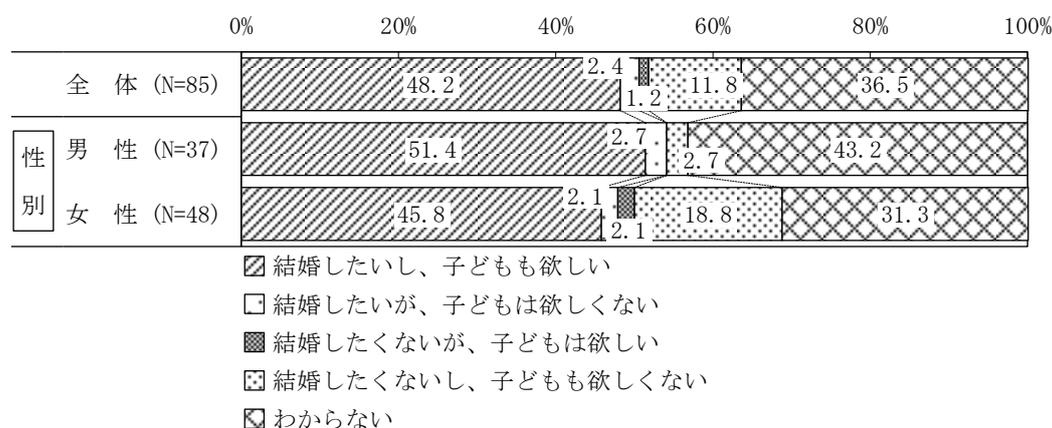


(17) 結婚すること、子どもを持つことについての考え

「結婚すること、子どもを持つことについてどのように考えているか」という設問では、「結婚したいし、子どもも欲しい」が48.2%を最も高くなっており、次いで「わからない」(36.5%)、「結婚したくないし、子どもも欲しくない」(11.8%)となっています。

性別にみると、女性は男性に比べて「結婚したくないし、子どもも欲しくない」が16.1ポイント高くなっています。

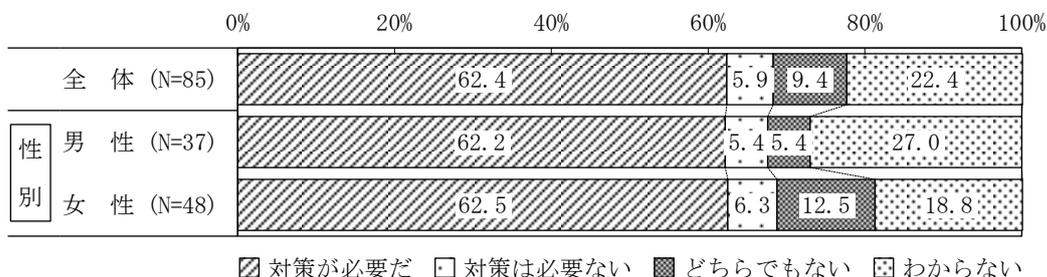
図表3-52 結婚すること、子どもを持つことについての考え



(18) 揖斐川町の人口減少や少子化の現状に対する考え方

「揖斐川町の人口減少や少子化の現状についてどう思うか」という設問では、「対策が必要だ」が62.4%を占め、「わからない」(22.4%)、「どちらでもない」(9.4%)、「対策は必要ない」(5.9%)となっています。

図表3-53 揖斐川町の人口減少や少子化の現状に対する考え方



4 子どもが住みやすくなるために、必要な取組

(1) 小学生

- 公園を増やしてほしい。(5人)(北方小 女子)(養基小 女子)(揖斐小 男子(2人))
(揖斐小 女子)
- 公園をつくってほしい。(清水小 男子)
- 公園や、遊具で遊べる場所を増やしてほしい(清水小 男子)
- 公園や遊具を増やす。(谷汲小 男子)
- 公園でボール遊びができるようにする。もっと公園がほしい。(春日小 男子)
- 公園をたくさんつくって、どこでも自由に遊べるようにしてほしい。(揖斐小 女子)
- いろいろな遊び道具があるキャンペーン。(小島小 男子)
- 子どもは体を動かすのが好きだから公園や運動場があったほうがいいと思う。(揖斐小 女子)
- 遊べる場を増やす。(北方小 男子)
- 遊ぶ場所を増やす(公園やちょっとした買い物ができる場所)(小島小 男子)
- みんなが遊べるところ。便利なものをつくる。(北方小 男子)
- 子どもでも楽しく遊べるところ。(清水小 女子)
- みんなの憩いの場をつくる必要がある。(大和小 男子)
- みんなが楽しくなるような店、場所(北方小 女子)
- 家族で楽しく遊べる施設をつくる。(養基小 女子)
- 室内で遊べるところ(養基小 女子)
- 子どもたちが楽しめる。(大和小 女子)
- 友だちと遊べるところ。(春日小 女子)
- 子どもが気軽に遊べる施設がもっと増えたらいいと思う。(小島小 男子)
- 遊びの施設をもっと多くつくってほしい。(小島小 男子)
- みんなが明るく過ごせる場所がいい。(小島小 女子)
- 子どもが楽しめる行事をする。(2人)(清水小 女子)(養基小 女子)
- 楽しい企画を行う。(北方小 女子)
- 地域の人と一緒にできるイベント。(小島小 女子)
- 今のままで十分いい。じゃんけん大会。勝った人に景品をあげるイベント。(小島小 男子)

-
- いろいろなイベントをたくさんする。(小島小 男子)
 - お祭りとかで町おこし。みんなで楽しめるイベントをたくさんやりたい。コロナ前と変わら
ずにしたい。楽しくしたい。(北方小 女子)
 - 勉強を教えてくれる。(小島小 女子)
 - 掃除・パーティー。(北方小 女子)
 - 警察署をつくる(北方小 女子)
 - 子どもをもう少し自由にさせる取組が必要。(北方小 女子)
 - 子どものやりたいことに対応し、それを実現することだと思います。(清水小 女子)
 - 田んぼをなくす。山、木を減らす。公園など遊び場をつくる。買い物ができる場所を多くつ
くる。(北方小 女子)
 - 登校するときはバスがいい。(北方小 男子)
 - 揖斐川町は子どもにとって楽しいことがあまりないから、楽しいことをふやせばいい。(北
が多少 男子)
 - そもそも揖斐川町は何をやっても住みやすくない。(北方小 女子)
 - 住みやすくなる工夫をすればよい。(清水小 男子)
 - 住みやすい。(3人)(清水小 女子(2人))(清水小 男子)
 - 私は住みやすいので大丈夫です。(清水小 女子)
 - 住みやすいからない。(清水小 男子)
 - 家族で仲良くできる取組。(清水小 性別不明)
 - あいさつをしたら返す取組。(清水小 女子)
 - 地域とのふれあい。(養基小 女子)
 - 環境にやさしいことをすること。(大和小 男子)
 - 豊かな環境を守りつつ、自分にできることをたくさんしていきたい。(大和小 男子)
 - 自然を大切にする取組。(養基小 女子)
 - ゴミ拾い。(清水小 男子)
 - ちょっと汚いところがあるのできれいにしてほしい。(小島小 男子)
 - 子どもや大人でゴミを拾ったり、人権無視をしないような大人も子どもも安心して暮らせる
取組が必要。(養基小 女子)
 - 犯罪のないきれいな自然豊かな揖斐川町にするとよいと思う。(小島小 男子)
 - みんなが差別しないような取組が必要だと思う。(小島小 男子)
 - 事故がないようにする。(大和小 男子)

-
- 迷子の子にやさしく気遣ったり、性別にかかわらずみんな一緒に食事ができたり、遊べたりするようにする。(大和小 男子)
 - 市の中であいさつを増やす取組。(小島小 女子)
 - いろいろな店などを多くする。(大和小 男子)
 - 悩みをなくせるような電話を増やす。(養基小 女子)
 - ショッピングモールをつくってほしい。(小島小 女子)
 - ショッピングモール(小島小 女子)
 - コンビニをもう少し増やした方がいいと思う。(養基小 女子)
 - コンビニを増やしてほしい。(揖斐小 女子)
 - スマイルキャンペーン。1週間笑顔だったらシールを1つ貼る。(養基小 男子)
 - 揖斐川町の木を使った大きな施設。(谷汲小 男子)
 - 狭い道路をできるだけ広くしてほしい。(揖斐小 女子)
 - 自転車が安全に通れる道路。(揖斐小 男子)
 - 暗いところに街灯をつけてほしい。歩道を整備してほしい。(揖斐小 女子)
 - もっと通学路や交差点に歩行者優先の標識を置いてほしい。(小島小 男子)
 - 交通事故をなくす。(小島小 男子)
 - 町民プール復活。(揖斐小 女子)
 - プールをつくってほしい。(揖斐小 男子)
 - 昔あったスーパーをたててほしい。町民プールもたててほしい。(揖斐小 男子)
 - 文房具屋さんなどは、子どもに対しては半額のようになればいいと思う。(小島小 男子)
 - みんなで楽しく幸せに暮らせるような取組。(小島小 女子)
 - 田舎から都会にする。ビルとかをつくる。(小島小 男子)
 - 毎日4時間授業がいい。(小島小 女子)

(2) 中学生

- 遊ぶ、集まれる施設がもっとあったほうがいいと思います。(揖斐川中 男子)
- 友だちと遊びに行けるところが近くにほしい。(揖斐川中 女子)
- みんなと遊べるところ。(揖斐川中 女子)
- 子どもが遊べる施設を増やす。(揖斐川中 女子)
- 子どもが楽しめるような施設を建てること。(揖斐川中 女子)
- 子どもが楽しめる施設を近くに建てる。(揖斐川中 男子)

-
- 子どもが楽しめる場所を増やす。(揖斐川中 女子)
 - 遊び施設(揖斐川中 男子)
 - 遊べる施設をつくる。(揖斐川中 女子)
 - 遊ぶ施設を増やす(公園など)(揖斐川中 女子)
 - 遊ぶ場所をつくる。(3人)(揖斐川中 女子)(揖斐川中 男子(2人))
 - 遊べる場所や自分から学べる場所をつくる。(揖斐川中 男子)
 - 一定の間隔で遊び場や施設をつくる。(揖斐川中 男子)
 - 施設の設置や自分たちみんなが楽しい場。(北和中 男子)
 - 公園など、子どもたちが自由に遊べる場所や、行きたいけど遠くにある場所などが揖斐川町にあつたらいいと思いました。(揖斐川中 女子)
 - 遊べるところを増やす。(3人)(北和中 女子)(北和中 男子)(谷汲中 男子)
 - 公園とか遊べる場所を増やす。(北和中 男子)
 - もっと公園をつくる。(5人)(揖斐川中 女子)(揖斐川中 男子)(北和中 女子)(北和中男子)(谷汲中 男子)
 - 大きな公園をつくる。(揖斐川中 女子)
 - 子どもたちがいっぱいおもいっきり遊べたりする公園など。(谷汲中 男子)
 - 揖斐川町は公園が少ないし、あっても少し遠いので、いろいろなところに公園をつくって、みんなが遊べるようにすることが大切だと思う。(谷汲中 男子)
 - 広場をつくる。(北和中 男子)
 - 小さい子どもでもゆったり遊べる施設をつくること。(揖斐川中 女子)
 - 年齢関係なく、気軽に友だちなどと会える施設。(谷汲中 男子)
 - 子どもが気軽に行ける場所をつくる。(揖斐川中 女子)
 - 気軽に遊べるところを増やしたりする取組。(揖斐川中 男子)
 - 子どもだけで行ける(徒歩、自転車)お店が少なすぎる。(揖斐川中 女子)
 - 子どもにとっていい場所や行事があることが必要だと思います。(揖斐川中 男子)
 - 安全な場所を多くつくる(危険な場所を減らす)。公園とか遊べるところを増やす。(北和中 女子)
 - 子どもたちが交流できる場をつくったり、地域ごとに交流したりなど、遊ぶ相手をみつけることで住みやすくなると思う。(揖斐川中 女子)
 - 子どものみたまり場をつくる。(2人)(揖斐川中 男子)(谷汲中 男子)
 - 友だちと遊べる場所が制限されているので、集まれる場所などがほしい。(北和中 女子)

-
- もっと子どもたちが楽しめたり、自由に遊んだりする施設を増やしてほしいと思います。そして、もっと住みやすくなるようにしてほしいです。(北和中 女子)
 - 学校が終わった後に友だちと遊んでいると、近くの人に注意されたことなどを聞くので、子どもでも一人の人間なので、注意されるのは違うのではないのかなと思います。集まっている場所が危ないと感じるのなら、集まれる場所をつくってほしいです。(谷汲中 女子)
 - プールなどが揖斐川町にはない気がするので、のびのび遊べる場所がほしい。(北和中 女子)
 - カフェや遊べるところをたくさん増やしたほうがいいと思います。(北和中 男子)
 - 子どもがリラックスできるものを建てる。(北和中 男子)
 - 遊べるところや買い物ができるところなどを増やした方がいいと思う。(揖斐川中 女子)
 - 十分過ごしやすいですが、遊びに行く時の行き先が町外しかないので、何らかがあるともっと過ごしやすいかなと思います。(北和中 女子)
 - 遊べる施設と範囲を増やす。ほかの中学は知りませんが、北方地区はスーパーも公園もなくつまらない。子どもが集まって遊べる施設をつくってほしいです。(北和中 女子)
 - 子どもにとって勉強がやりやすい場所などが必要だと思う。(谷汲中 女子)
 - もっと遊べる場所をつくったり、運動できるような取組。(北和中 男子)
 - ゆめパークなどの公園で、ボールの利用を可能にする。(北和中 男子)
 - 大きい体育館がほしい。(谷汲中 男子)
 - 揖斐川町内でのイベントを増やす。(揖斐川中 女子)
 - オープンなイベントを1つか2つ増やす。(北和中 その他)
 - もっと若い人を集めるイベント (北和中 男子)
 - いろいろな人と交流する場を多くする。(揖斐川中 女子)
 - 地域の人と子どもたちがもっと関わられるようにする取組。(谷汲中 女子)
 - すべての年齢の方々に寄り添った施設をつくっていくこと。ユニバーサルデザインを取り入れること。建物などの清潔感を保つこと。(北和中 男子)
 - 子どもたちだけでなく、どのような年代の人でも楽しめるようなイベントやお祭りを企画する。(揖斐川中 女子)
 - お祭りを増やす。(北和中 男子)
 - 特産品をつくる。(北和中 男子)
 - レンタル自転車 (揖斐川中 男子)
 - 充実した育成環境。(揖斐川中 男子)

-
- 地域活動を増やす。(揖斐川中 女子)
 - 子どももルールを守り、年齢関係なしにあいさつをし、助け合いをする。(北和中 女子)
 - 宿題をなくす。(揖斐川中 男子)
 - 校則を厳しくしすぎない。クラスの担任が生徒のことをよく見てやさしく関わる。(揖斐川中 女子)
 - 指導者のハラスメントをなくす(パワハラ、モラハラ、セクハラなど)(北和中 女子)
 - 咳をするときはマスクをする(手で覆う人がいるので感染が広がる)。(北和中 女子)
 - 誰にでも平等な対応が受けられるようにする。(北和中 女子)
 - やっぱり学校に行きたくない人を減らすとよりよくなると思う。(北和中 男子)
 - 学校の校舎で、トイレを新しくしたり、体育館を広くしてほしい。(谷汲中 男子)
 - 今通っている中学校が古いので、トイレが臭くて和式もあるので、トイレを新しくしてほしいです。(谷汲中 男子)
 - 学校のトイレの掃除。(谷汲中 女子)
 - 学校のトイレをきれいにすること。小学校のトイレはきれいだったが、中学校のトイレは臭いし暗いので怖い。トイレに行くのをためらってしまう。気持ちよくトイレを使用したいので、トイレを明るく、臭くないものにしてもらいたい。(谷汲中 女子)
 - トイレを新しくしてほしい(和式が多い)。(谷汲中 男子)
 - 通学路の隣にある森の柵が短いと感じる。動物が越えて、こちらにこられそうな高さなので、もっと高くしてほしい。(谷汲中 女子)
 - 車のゆずりあいをして、横断歩道を使いやすくする。(揖斐川中 男子)
 - 横断歩道の安全性をもっと高める。(谷汲中 女子)
 - 道路の舗装。(揖斐川中 男子)
 - 道を広くせよ。(揖斐川中 男子)
 - もう十分住みやすいです。強いて言うならガタガタな道を整えたり、曲がり角の危ないところにカーブミラーがあったらいいなと思います。(揖斐川中 女子)
 - 谷汲に街灯を増やしてほしい。子どもとかだと怖い。自転車ででかける時に、暗いと危ないから。(谷汲中 男子)
 - 外灯などを増やすと暗くなったときに安全さが増えると思う。(北和中 男子)
 - 揖斐川駅からの本数と行き先が少ない。(揖斐川中 女子)
 - 養老鉄道の本数を増やす。(揖斐川中 男子)
 - 養老鉄道の運営を続けること。(揖斐川中 女子)

-
- 駅をもう1個ぐらいつくる。(北和中 男子)
 - いろいろな施設をつくる。(2人)(揖斐川中 女子(2人))
 - 遊び場や施設をつくる。(揖斐川中 女子)
 - 施設のアンケートから何か1つでもつくる。(揖斐川中 女子)
 - 施設の充実。(揖斐川中 男子)
 - 新しい施設を増やす。(揖斐川中 男子)
 - 店を増やす。(2人)(揖斐川中 女子)(北和中 男子)
 - コンビニを増やす。(揖斐川中 男子)
 - コンビニがほしい。ショッピングモールとか遊べるところもほしい。(谷汲中 女子)
 - 近くにスーパーなど便利なものがある。(揖斐川中 女子)
 - 自転車で行くときにコンビニなどが遠いので、近くにあるといいと思う。(北和中 男子)
 - 谷汲はゲンキー以外、あまり何もなくて不便なので、コンビニとかをもっと増やしてほしい。
(谷汲中 男子)
 - 谷汲にもっとコンビニを増やすと便利だと思う。(谷汲中 男子)
 - 外食チェーン店を増やす。(揖斐川中 男子)
 - ファミレスをつくって、家族の食事の場を設ける。(揖斐川中 性別不明)
 - 洋食系(ラーメンなど)の店があまりなくて、洋食好きの人は揖斐川町を出ないといけ
ないので、めんどくさい。(谷汲中 男子)
 - ショッピングモールなどをつくる。(揖斐川中 男子)
 - ショッピングモールを置く。過ごしやすい施設を置く。(揖斐川中 女子)
 - ショッピングモールを設立。(揖斐川中 男子)
 - お店を建てる。(揖斐川中 女子)
 - 買い物しやすい施設。(谷汲中 男子)
 - 自分で行けるようなところに大きな施設。(北和中 男子)
 - 北方地区にもコンビニをつくる。小中学生が気軽に行ける。(谷汲中 男子)
 - 北方の方にコンビニが全くないので、コンビニが近くにほしい(北和中 女子)
 - 北方や何もなくてどこに何か建てる。(北和中 女子)
 - 自分の住んでいる北方3区は、周りにお店も公園もなく、友だちと遊べるところまで5~10
分かかります。なので、何か少しでもいいから買えるお店や、みんなと遊べる公園をつく
ってほしいです。(北和中 男子)
 - みんなが仲良く、安心して暮らせるまちをつくっていくこと。(揖斐川中 女子)

-
- 子どもたちの相談にしっかり乗ってあげる。(揖斐川中 女子)
 - 悩み相談ができる場所を増やす。(揖斐川中 女子)
 - 安心できるような施設などをつくったりすること。悩みを相談できるところ。(北和中 男子)
 - どこに行くにも遠い。(揖斐川中 女子)
 - 地域の良さをもっと知りたい。(揖斐川中 女子)
 - 何もしなくていいと思います。(揖斐川中 女子)
 - 揖斐川町の自然を使って、幅広く体験することができる取組。(揖斐川中 女子)
 - ゴミなどを外に捨てない。(揖斐川中 男子)
 - ゴミの処理をする。(北和中 男子)
 - まちの清浄。リサイクルして環境をよくする。(谷汲中 男子)
 - ボランティア。(谷汲中 女子)
 - ゴミ拾い。学校を掃除する。(谷汲中 女子)
 - 個人的に無理な気もするけど、僕は今の揖斐川町が好きです。(揖斐川中 男子)
 - 子どもが住みやすい環境を整える。場所、ルール改定、居場所。(揖斐川中 男子)
 - 住みやすいかわからない。(揖斐川中 男子)
 - 運動をいっぱいして取り組みたいです。(揖斐川中 男子)
 - 家をもっとつくる。(揖斐川中 男子)
 - 少子高齢化を防ぐ。過疎化を防ぐ。(北和中 男子)
 - 町長が、みんなが暮らしやすくなるように呼びかけをする。(北和中 男子)
 - 意見を取り入れる。(北和中 女子)
 - 楽しいところを増やして、みんなが生きやすい地域。(北和中 女子)
 - やさしい関係をつくってあげて、誰もが苦しくない環境をつくってあげる。(北和中 女子)
 - お昼の音楽を戻す。あれを聞くと落ち着く。(北和中 男子)
 - みんなの要望が多いのをやる。(北和中 男子)

(3) 16～17歳

- 大学や高校等、遠方に行かざるを得ないので、それに対する支援が必要だと思う。(女性)
- お店を増やす。スーパー、衣料品、100円均一ショップ等。交通手段の確保。電車に乗るまでが遠すぎる。バスが少なすぎる。使いづらい。(男性)

-
- 宿題や勉強ができて、友だちと過ごせる場所があるといい。(女性)
 - インターネットが使えると、勉強でのタブレットや調べたいことがあるときにも便利なので自由にインターネットが使える場所がほしい。(女性)
 - 家の側に駅がほしい。(男性)
 - 電車やバスの本数を多くする。(女性)
 - 公共交通機関の充実。大型商業施設の誘致。(女性)
 - バス等の公共交通機関の復活。(男性)
 - 交通手段を増やす。(男性)
 - 交通の便の改善。(公共交通) (女性)
 - 飲食店を増やす。親に頼らずに、いろいろなところに行ける交通手段がほしい。(女性)
 - 人が集まるイベント。バスの本数を増やす (男性)
 - 通学が便利であること。(女性)
 - 新幹線をつくる。(男性)
 - 今の若い世代の保護者にアンケートを取り、施設やイベント等を開催するといい。今の子どもたちが喜ぶような、ゲームやICTを活用したイベント等が目につきやすいと思う。(男性)
 - 駅や学校が遠くて早い時間から家を出なくてはならない。とても寒い。(女性)
 - メディアコスモスみたいな建物をつくってほしい。岐阜駅まで1本で行ける交通手段がほしい。100円均一ショップがほしい。(女性)
 - 遊ぶ場所、食べる場所を多くつくってほしい。(男性)
 - 子どもたちが遊ぶ場を増やす。マンションとか家を建てる。(リフォームもあり) (女性)
 - 子どもが楽しく遊べるところをつくる。(男性)
 - 遊べる場所をつくる。補助金を出す。教育費を負担する。(女性)
 - 自由に勉強ができる場の提供。教え合い、1人で集中、カフェみたいな場所。遊べる場所を増やす。バスケットコート。公園。(女性)
 - バスの値段を距離毎にする。インターネットが使える勉強ができる場。外で遊べる場所を増やす。イベントができる広場をつくり、イベントを増やす。花火や祭りだけでなく、ライブやフェス等。(女性)
 - コンビニがあった方が生活しやすくなって、人口減少も少しくらいは対策できると思います。(女性)
 - 子どもが歩いて行ける距離に遊べる場所があったらいいと思う。(女性)

-
- もっと遊べるところがほしい。カラオケとかプリクラとか、飲食店等。(女性)
 - コンビニ等、店が少ないので不便。(男性)
 - 店が少ない。(女性)
 - 魅力的な場所に力を入れ(お店を増やす等)、有名になったり、行きたくなったりするように工夫する。(性別不明)
 - 公園を増やす。(男性)
 - 小学生の荷物を減らす。(男性)
 - いろいろなイベント。施設の充実。他の県・町にないものの追加。揖斐川にないものの追加。他のところのいいところ取りをして新たな政策。寄付金・補助金・援助の充実。(男性)
 - 人と接する時間を多くする。いじめをなくす。(男性)
 - ポイ捨てをなくす。(男性)
 - 人口が減少しているようなので、人口を増やす政策が必要だと思います。施設を増やせば人口が増えるわけではないと思います。ゼネコンに使っているお金を、人口を増やすために使ってください。(女性)
 - 幼稚園・幼児園の子どもの受け入れを強化して、親が働きやすい環境を整える。小学生以下の子へ町から勉強に使える文房具や学校で使う必需品をセットにして配る。(女性)
 - ごみや地域の当番が多くて両親は「嫌だ。できるなら、ここを出たい。」とよく言っている。地域の行事や当番を少なくして、しがらみなく自由な町にすれば、全国から人が集まると思う。自己中心的な行動で周囲に迷惑をかける老人をなくす取組が必要だと思う。(女性)
 - 働くところ。(男性)
 - 大人世代が働く場所の充実。定住しやすい環境づくり。(女性)
 - 自由に使える施設を増やす。不審者情報が入った場合は、見回りを強化する等したら住みやすくなると思う。(女性)
 - 自然等、揖斐川町の特色を生かした授業・学習の実施。保護者が住みやすい、働きやすい環境づくり。給食費無償や修学旅行補助等、金銭面での政策をこのまま継続してもらおう。(男性)
 - 木材遊具等、自然のものに触れる公園をつくる。ショッピングモールを近場につくる。(女性)
 - 子育て支援の徹底。(女性)

第4部

まとめと考察

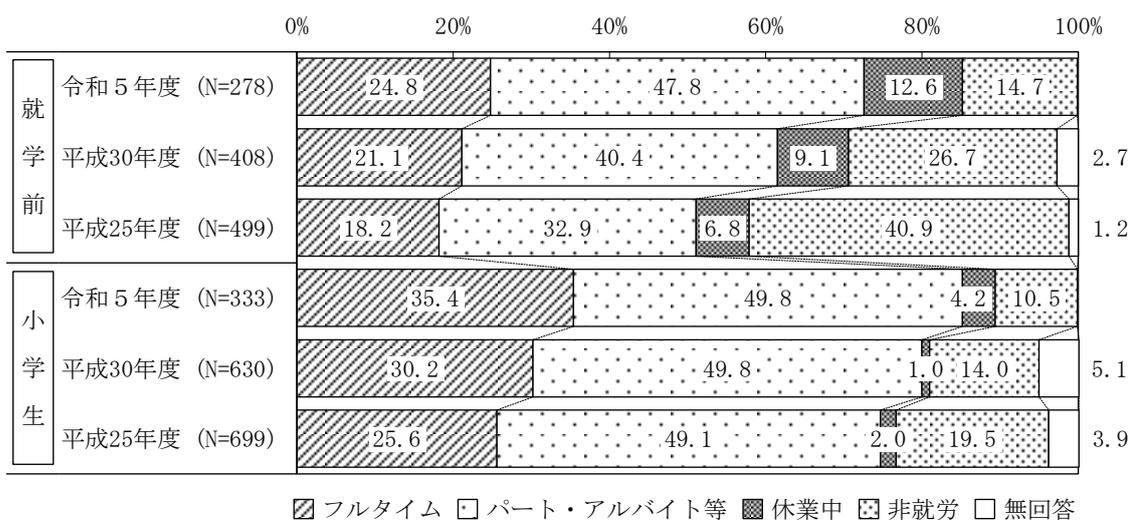
本部には、平成25年度、平成30年度に実施した「揖斐川町子ども・子育て支援事業に関わるニーズ調査結果報告書」と比較分析した項目があります。この場合、「平成25年度」、「平成30年度」とあるのは上記調査を指し、「令和5年度」とあるのは今回の調査を指し

1 仕事と子育て

(1) 母親の就労状況・形態

母親の就労状況・形態をみると、就学前児童、小学生の母親ともに「フルタイム」、「パート等」、「育休・介護休業中」を合計した〈就労している割合〉が上昇し、「就労していない（非就労）」が低下を続けています。小学生の保護者では89.4%が就労しています。

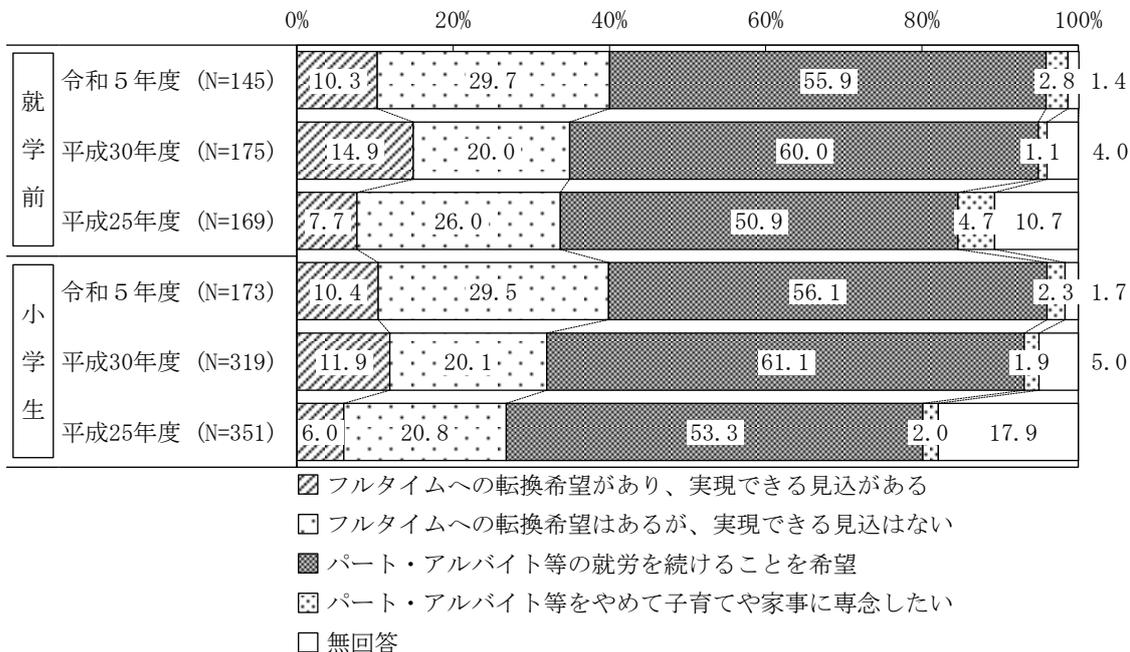
図表4-1 母親の就労状況・形態（就学前児童・小学生保護者）



(2) フルタイムへの転換希望

就学前児童、小学生の母親ともに、パート等と答えた母親のフルタイムへの転換の「希望がある」が上昇しています。

図表4-2 フルタイムへの転換希望（就学前児童・小学生保護者）

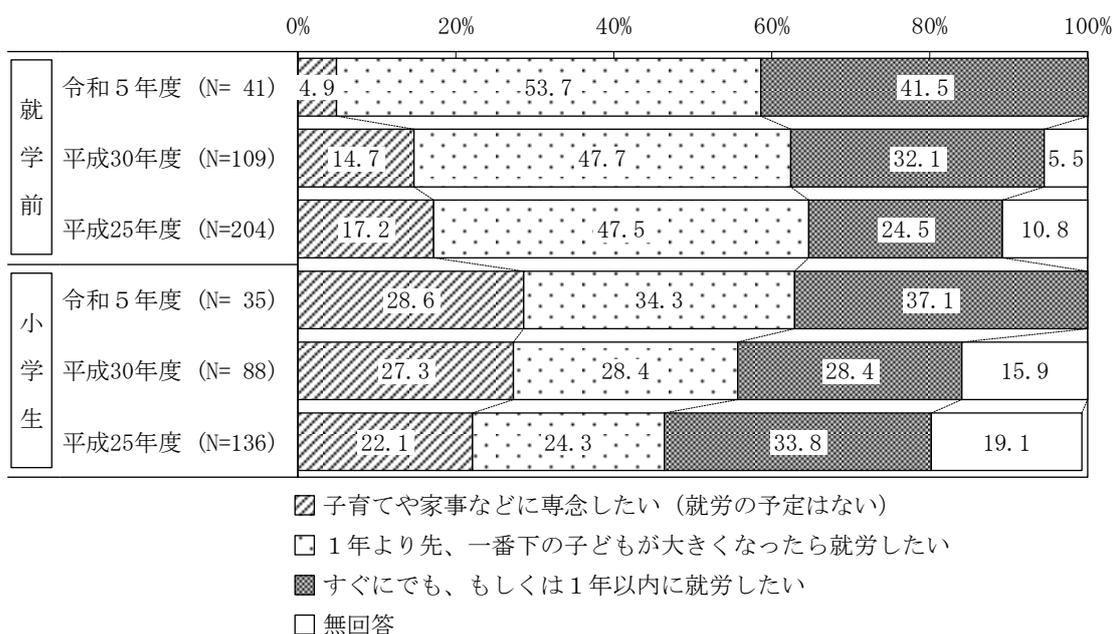


(3) 就労していない母親の就労意向

就労していない母親の就労意向は、就学前児童の母親は「子どもがある程度大きくなったら就労したい」及び「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が上昇し、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が低下しており、就労を希望する人の割合が高くなっています。

小学生の母親は「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が上昇しており、希望者はすでに就労している割合が高いと推察されます。

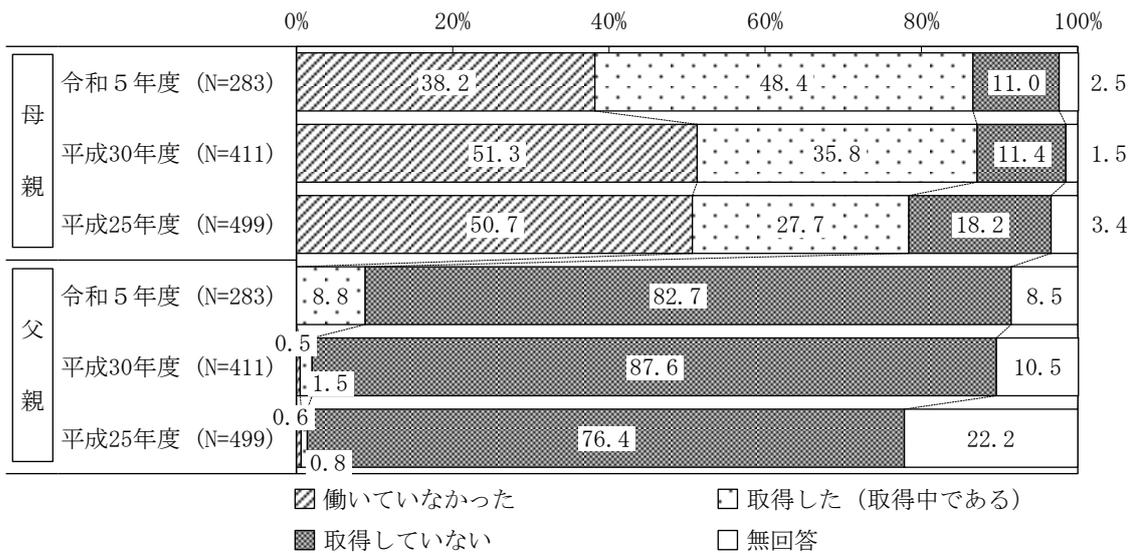
図表4-3 就労していない母親の就労意向（就学前児童・小学生保護者）



(4) 育児休業の取得状況

図表4-4は、就学前児童の保護者の育児休業の取得状況です。母親の取得状況を見ると、「取得した（取得中である）」が上昇し、令和5年度には48.4%となりました。この図表には、就労していない人を分母に含めているので、就労している人だけで計算すれば75%を超えます。父親の取得状況を見ると、令和5年度は「取得した（取得中である）」が高くなっています。

図表4-4 育児休業の取得状況（就学前児童保護者）



2 教育・保育事業

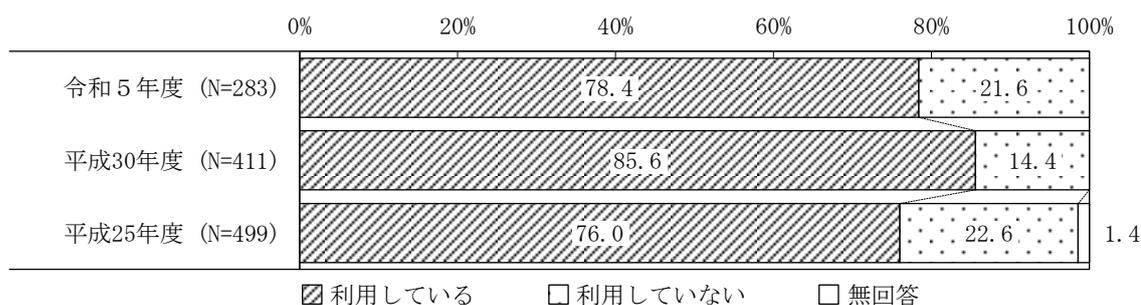
(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況と利用意向

幼稚園、保育園、認定こども園など定期的な教育・保育事業の平日の利用については、78.4%が「利用している」と回答しており、平成30年度と比べて7.2ポイント低下しています（図表4-5）。

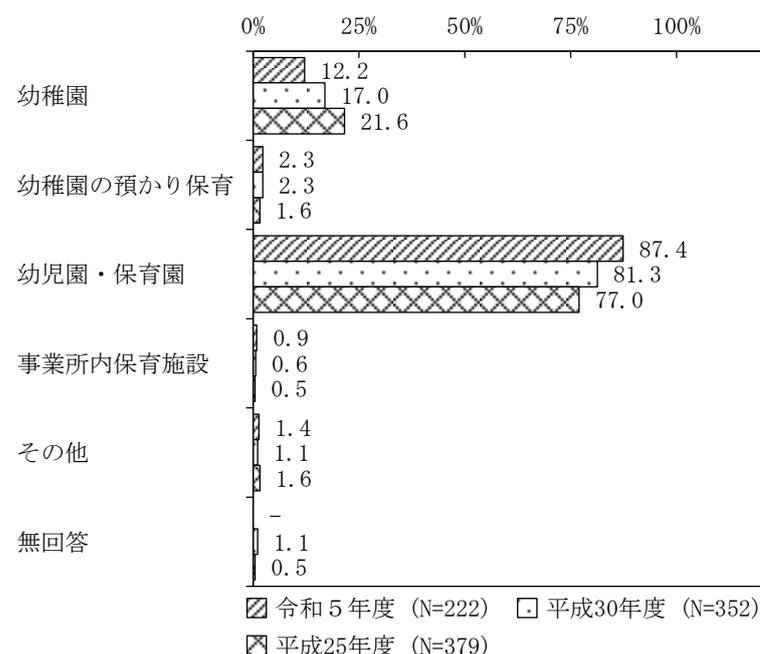
利用状況について事業別にみると、「幼児園・保育園」が上昇し、「幼稚園」は低下しています（図表4-6）。

利用希望について事業別にみると、「幼児園・保育園」を除いた事業は利用希望が利用状況を上回っています。なお、年齢により利用できない事業もありますが、利用意向は回答のまま集計しています（図表4-7）。

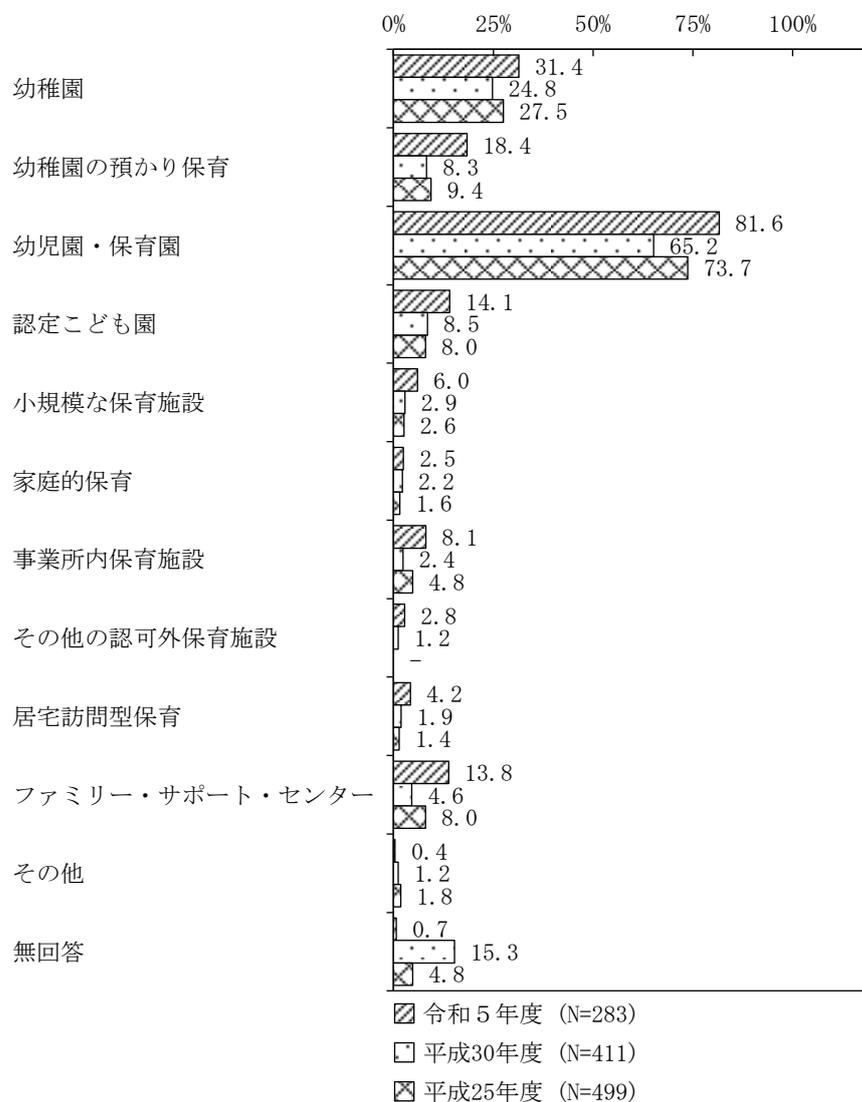
図表4-5 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無（就学前児童保護者）



図表4-6 定期的な教育・保育事業の利用状況（複数回答、就学前児童保護者）



図表４－７ 定期的な教育・保育事業の利用希望（複数回答、就学前児童保護者）



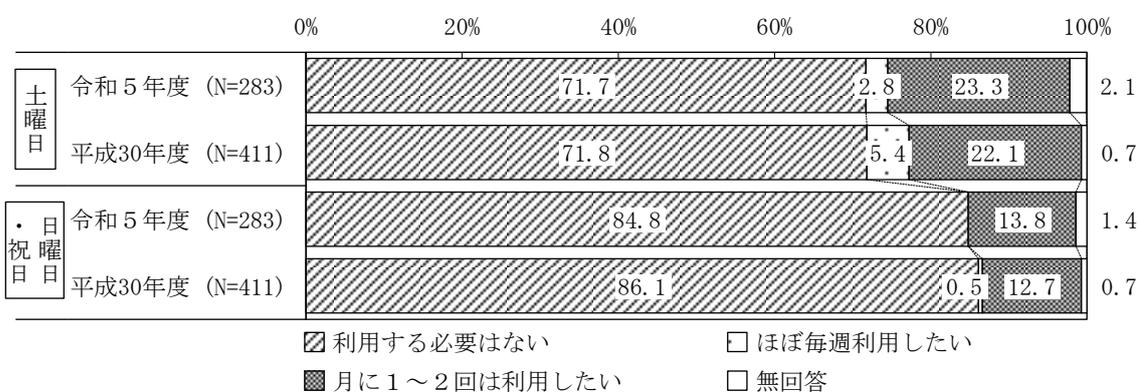
(2) 土・日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向

土曜日の定期的な教育・保育事業については、「ほぼ毎週利用したい」が2.8%、「月に1～2回は利用したい」が23.3%あります。

日曜日・祝日は、「ほぼ毎週利用したい」と答えた人はおらず、「月に1～2回は利用したい」が13.8%です。

土・日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向に大きな変化は見られませんが、土曜日の「ほぼ毎週利用したい」が平成30年度に比べて2.6ポイント低下しています。

図表4-8 土・日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向（就学前児童保護者）

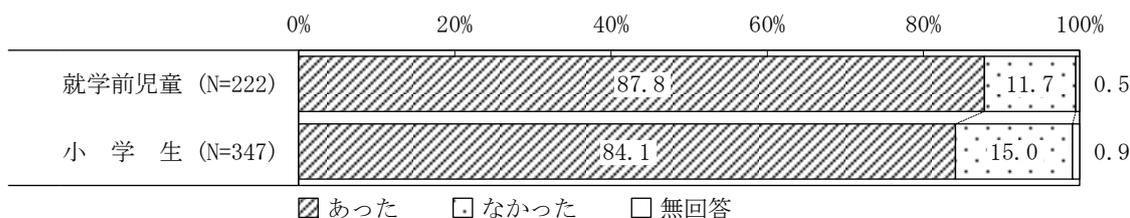


(3) 子どもが病気の時の対応

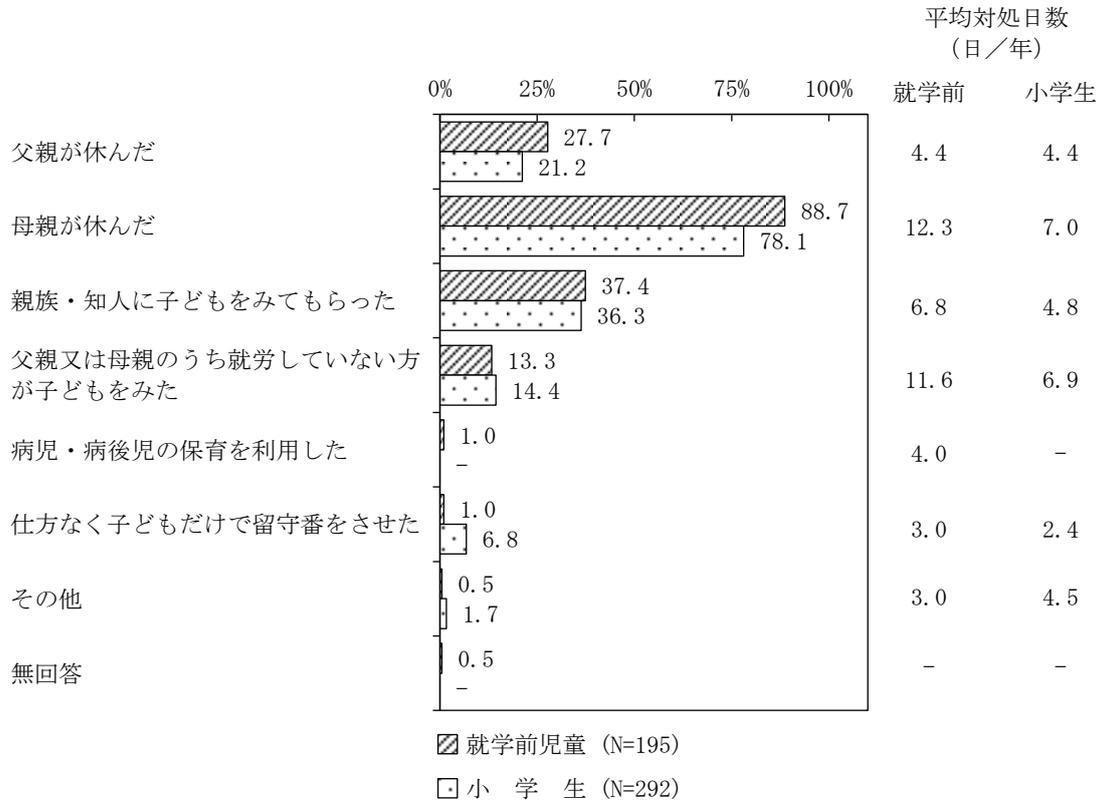
子どもが病気やケガで幼稚園、保育園、認定こども園などを休んだことが「あった」と答えているのは87.8%、小学校を休んだことが「あった」と答えているのは84.1%です（図表4-9）。

園や小学校を休まなければならなかった時の対処方法としては、「母親が休んだ」が高い割合を示しています（図表4-10）。

図表4-9 子どもが病気等で保育園・幼稚園や学校が利用できなかったことの有無（就学前児童・小学生保護者）



図表4-10 子どもが病気等で園や小学校を利用できなかった時の対処方法（複数回答、就学前児童・小学生保護者）

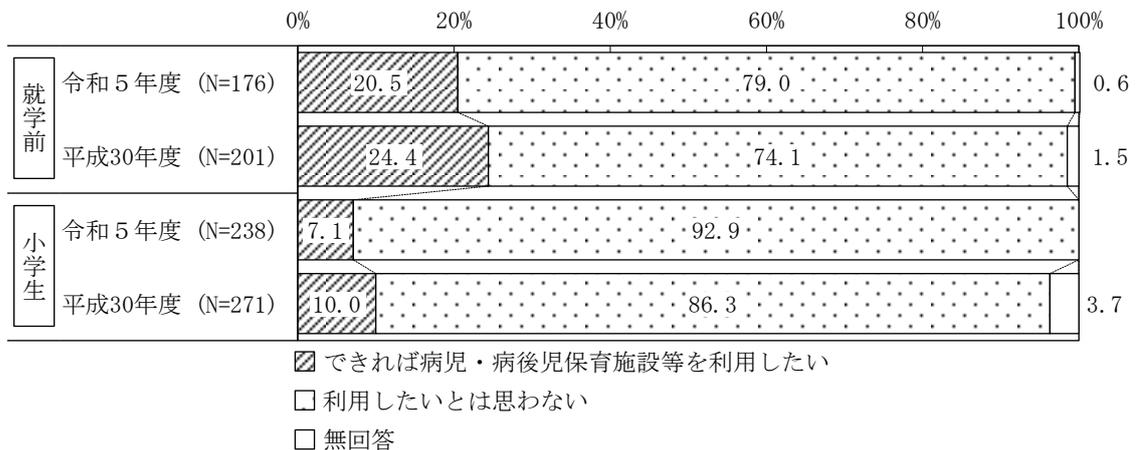


(注)「ベビーシッターを利用した」という選択肢には該当がなかった。

(4) 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業ができなかった時の施設の利用意向

子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できず、親が仕事を休んで対処した人のうち、病児・病後児保育施設等を利用したい人をみると、就学前児童の20.5%、小学生の7.1%が「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と答えており、いずれも平成30年度より低くなっています。

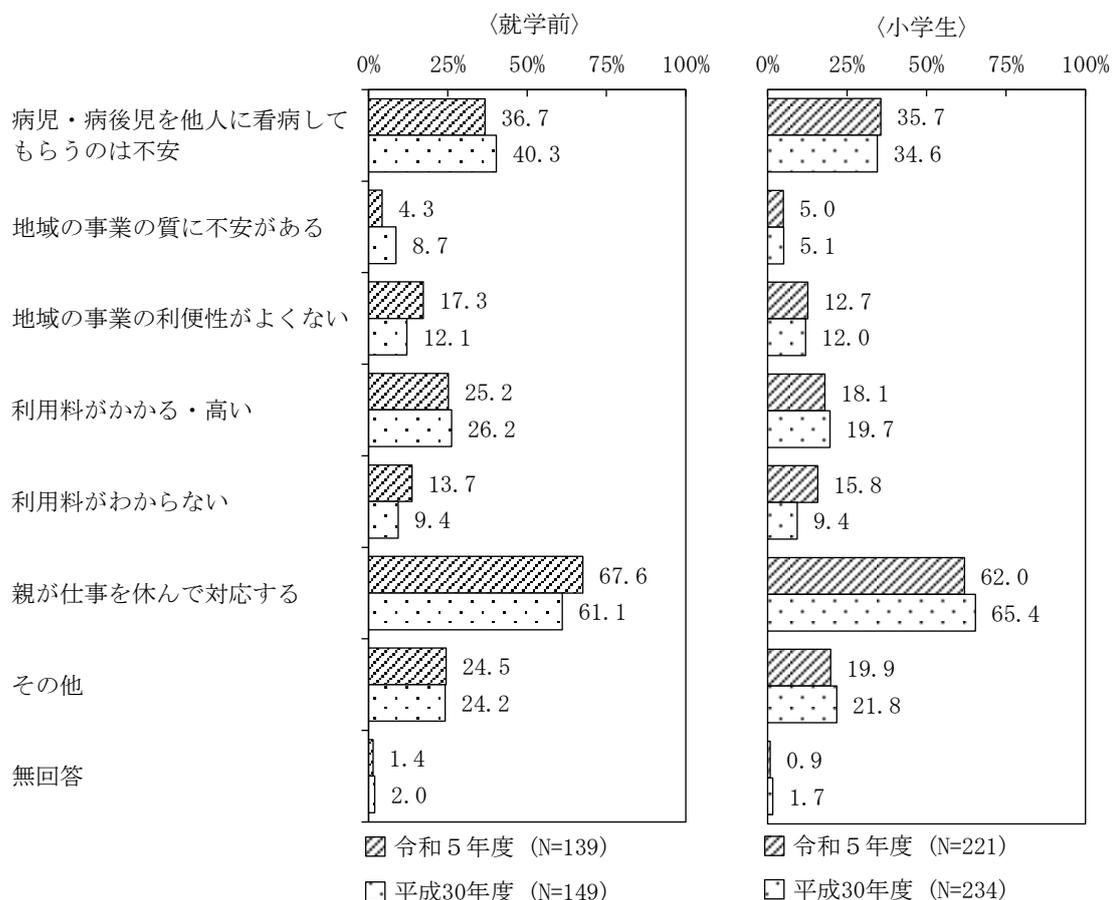
図表4-11 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業ができなかった時の施設の利用意向（子どもが病気等で学校や園を休んだ際に親が休んだ人、就学前児童・小学生保護者）



(5) 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由

病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由としては、就学前児童、小学生の保護者ともに「親が仕事を休んで対応する」が高い割合を示しています。

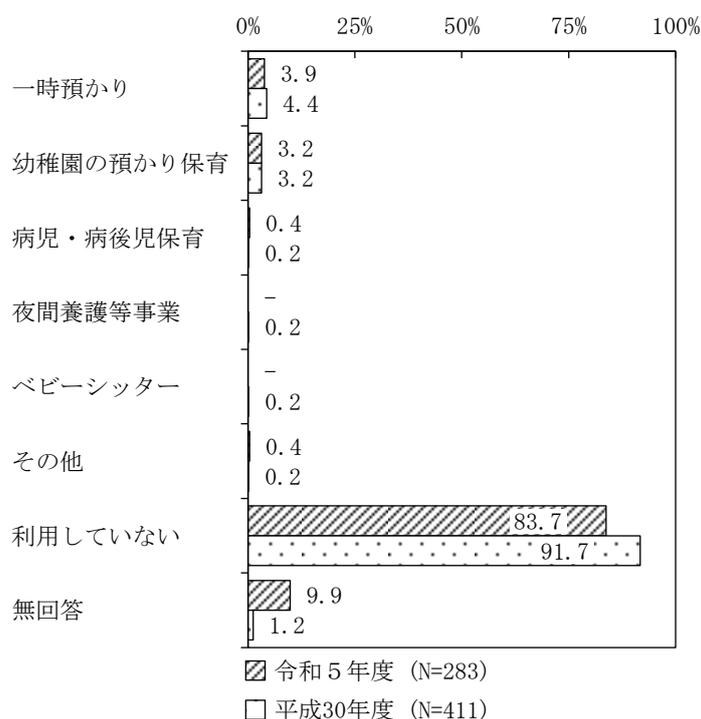
図表4-12 病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由（複数回答、就学前児童・小学生保護者）



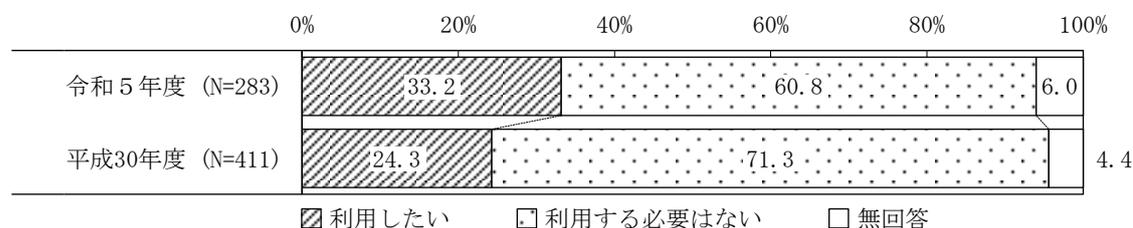
(6) 不特定の教育・保育事業

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、不定期に利用している事業としては、「一時預かり」(3.9%)、「幼稚園の預かり保育」(3.2%) などあまり高くはありません(図表4-13)。しかし、不特定の教育・保育事業を「利用したい」と答えた人は33.2%あり、平成30年度より8.9ポイント高くなっています(図表4-14)。

図表4-13 不特定の教育・保育事業の利用状況(複数回答、就学前児童保護者)



図表4-14 不特定の教育・保育事業の利用意向(就学前児童保護者)

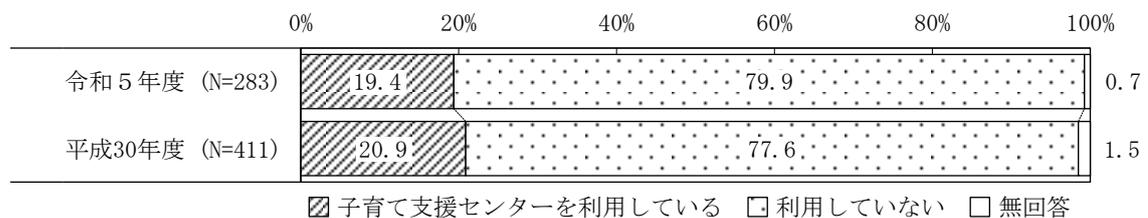


3 子育て支援センターの利用状況と利用意向

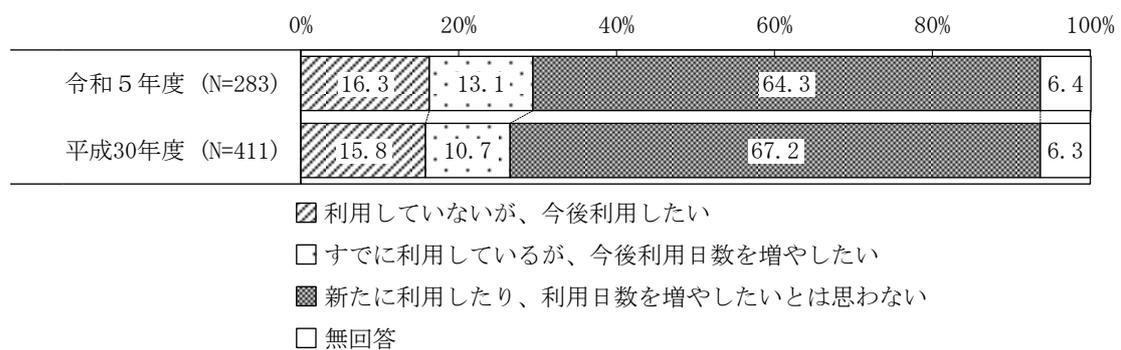
子育て支援センターの利用状況をたずねたところ、「子育て支援センターを利用している」が19.4%です。「利用していない」が79.9%を占めています。

図表4-16で子育て支援センターの利用意向をみると、「利用していないが、今後利用したい」が16.3%、「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」が13.1%、合わせて29.4%となっており、平成30年度より2.9ポイント高くなっています。

図表4-15 子育て支援センターの利用状況（就学前児童保護者）



図表4-16 子育て支援センターの利用意向（就学前児童保護者）

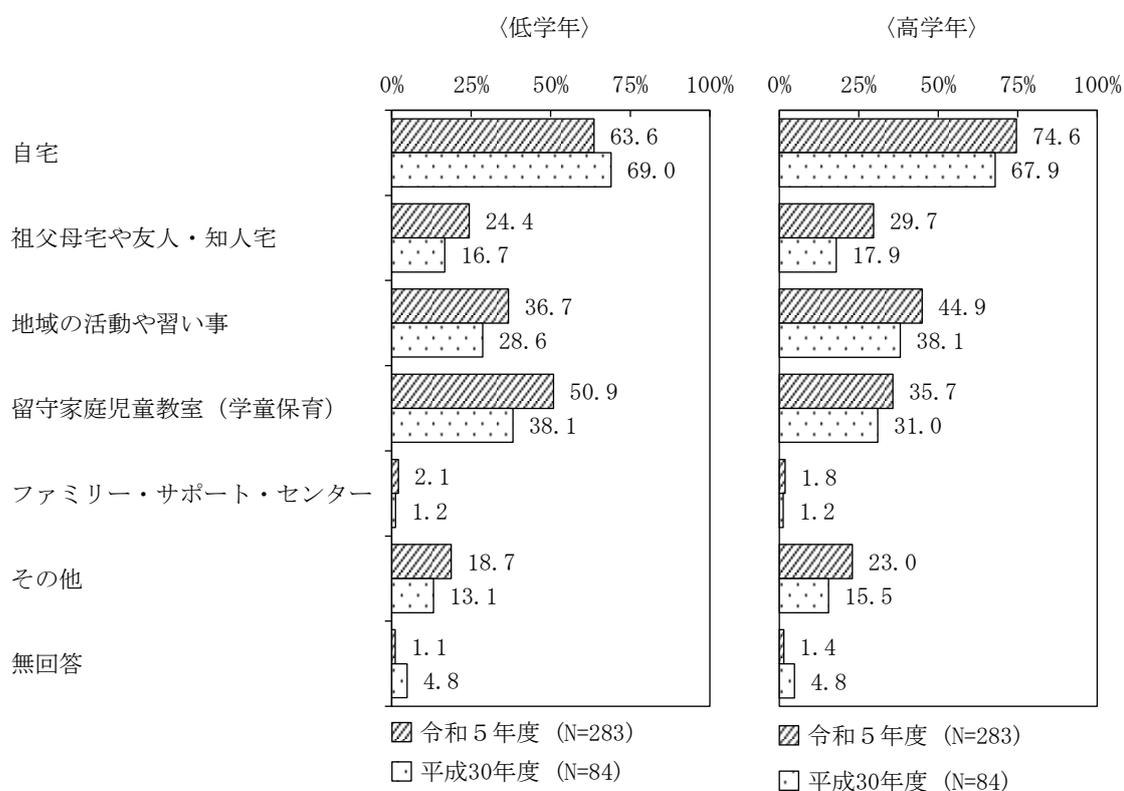


4 放課後の居場所

(1) 希望する放課後の過ごし方（就学前児童）

就学前児童のお子さんが小学生になったらどのような場所で放課後の時間を過ごさせたいと思うかたずねたところ、低学年、高学年ともに「自宅」が高くなっています。また、平成30年度と比べると、低学年は「地域の活動や習い事」、「留守家庭児童教室（学童保育）」が、高学年は「留守家庭児童教室（学童保育）」がそれぞれ10ポイント前後高くなっています。

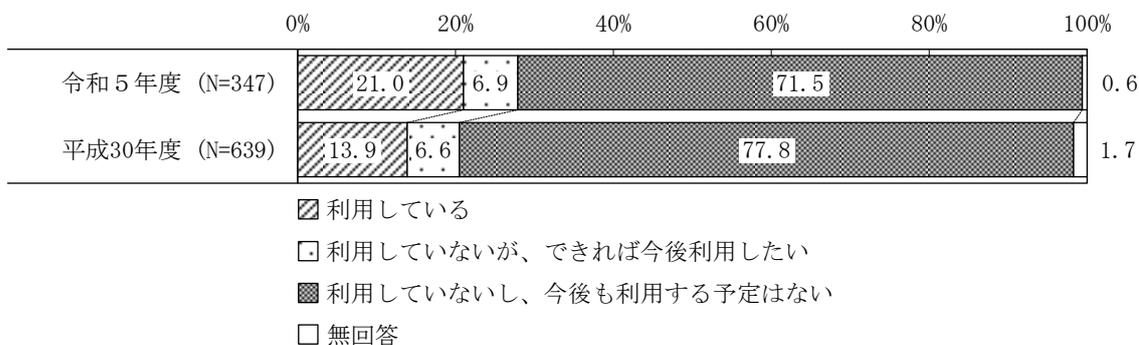
図表4-17 希望する放課後の過ごし方（複数回答、小学生保護者）



(2) 留守家庭児童教室（学童保育）の利用状況

留守家庭児童教室（学童保育）の利用率は21.0%となっており、平成30年度に比べると7.1ポイント高くなっています。

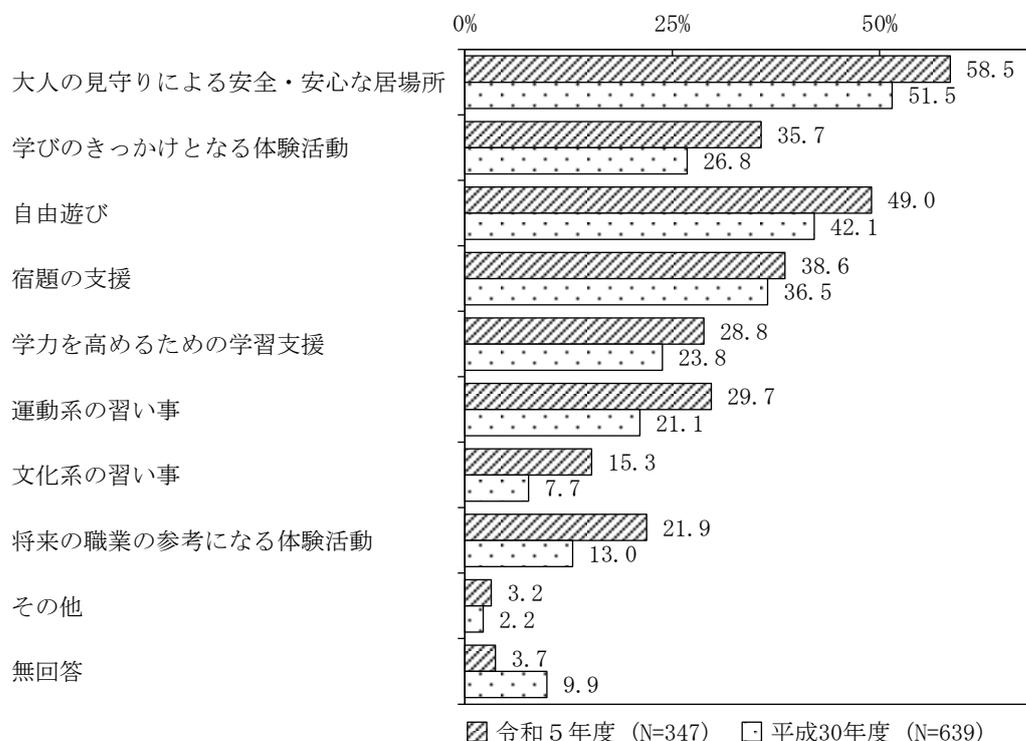
図表4-18 留守家庭児童教室（学童保育）の利用状況（小学生保護者）



(3) 放課後に必要なもの

お子さんの放課後に必要だと思うものは、いずれの項目も平成30年度に比べて高くなっています。

図表4-19 放課後に必要なもの（小学生保護者、複数回答）

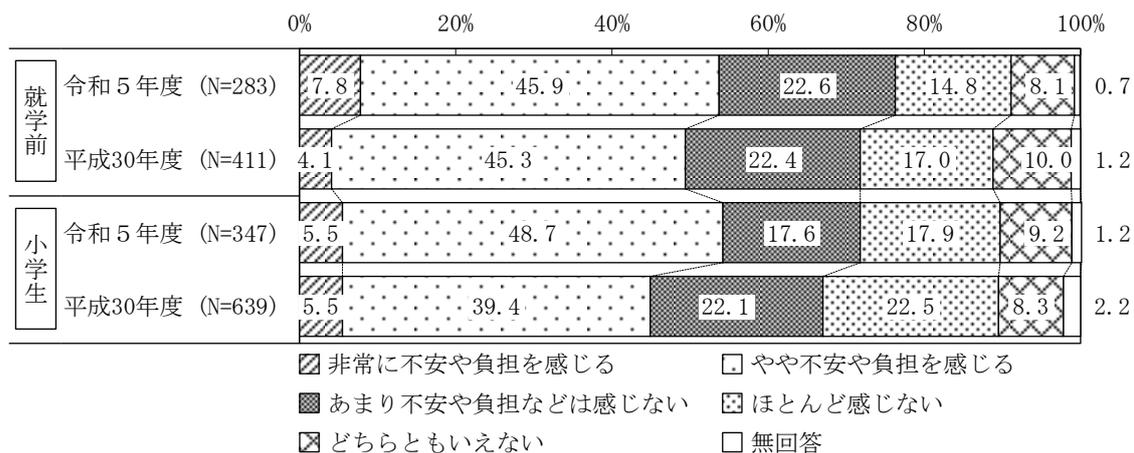


5 子ども・子育て支援の充実のために

(1) 子育てに関する不安や負担

子育てに関して不安や負担を感じている人は、就学前児童、小学生の保護者ともに高くなっています。

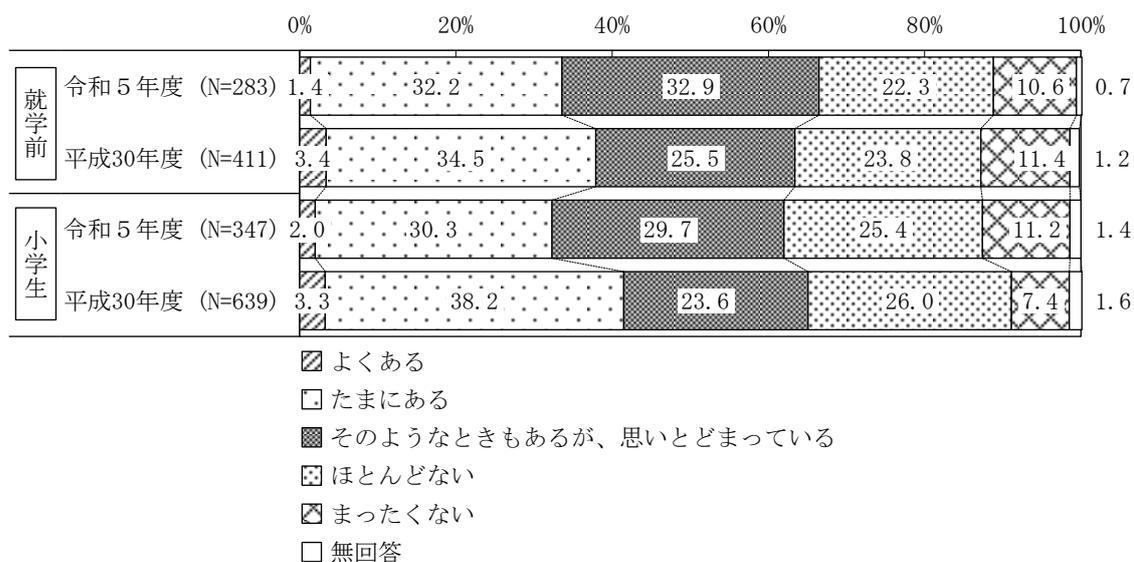
図表4-20 子育てに関する不安や負担（就学前児童・小学生保護者）



(2) 子どもに対する暴言や暴力

子どもに対して思わずたいたり、子どもを傷つける言動をしたり、子どもの世話をしないことがあるかたずねたところ、平成30年度に比べて、就学前児童、小学生の保護者ともに「よくある」、「たまにある」が低下しています。

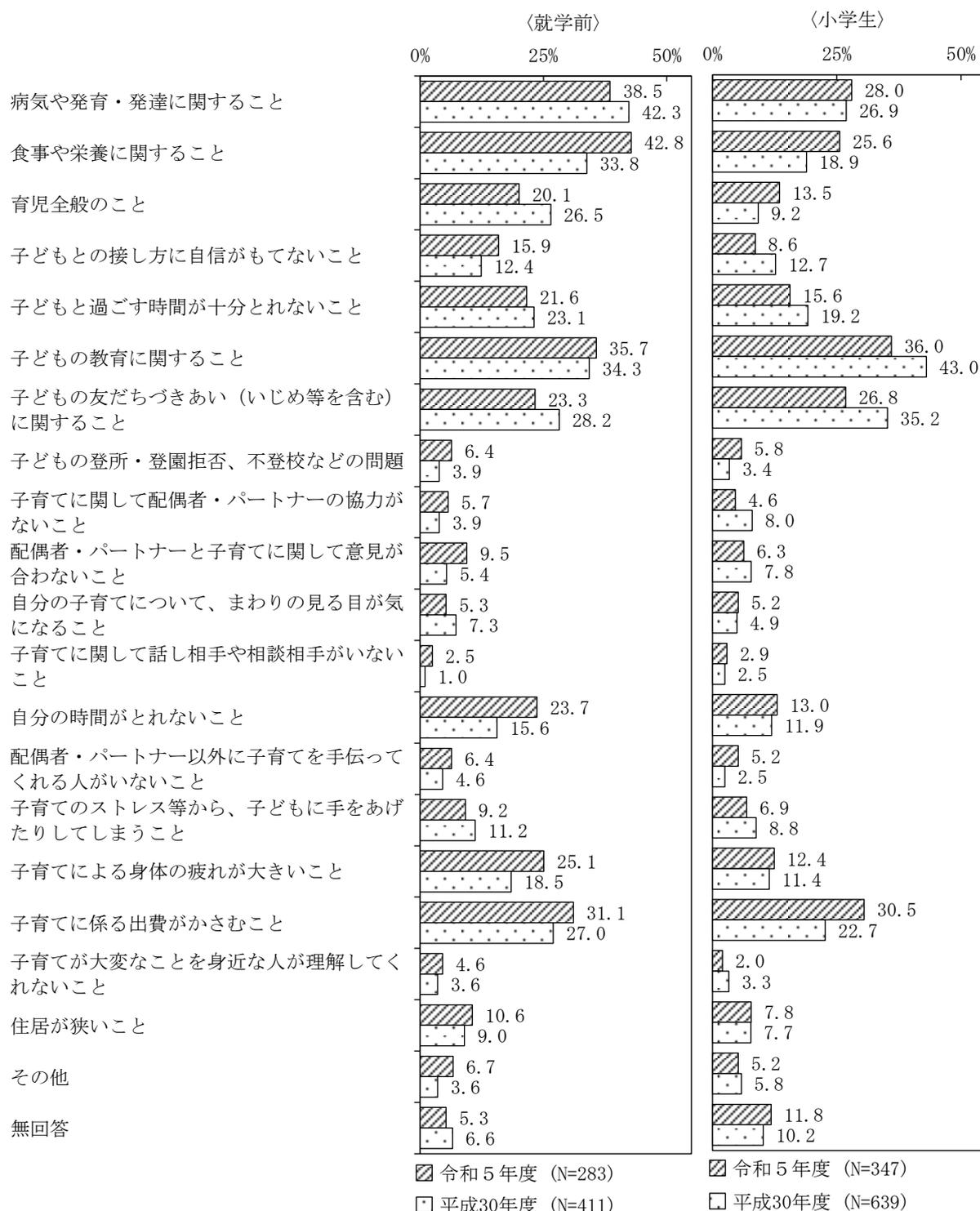
図表4-21 子どもに対する暴言や暴力（就学前児童・小学生保護者）



(3) 子育ての悩み

図表4-22は子育てに関して、日頃悩んでいることや気になることをたずねた結果です。平成30年度と比べると、就学前児童の保護者は「食事や栄養に関すること」、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が、小学生の保護者は「食事や栄養に関すること」、「子育てに係る出費がかさむこと」がそれぞれ5ポイント以上高くなっています。

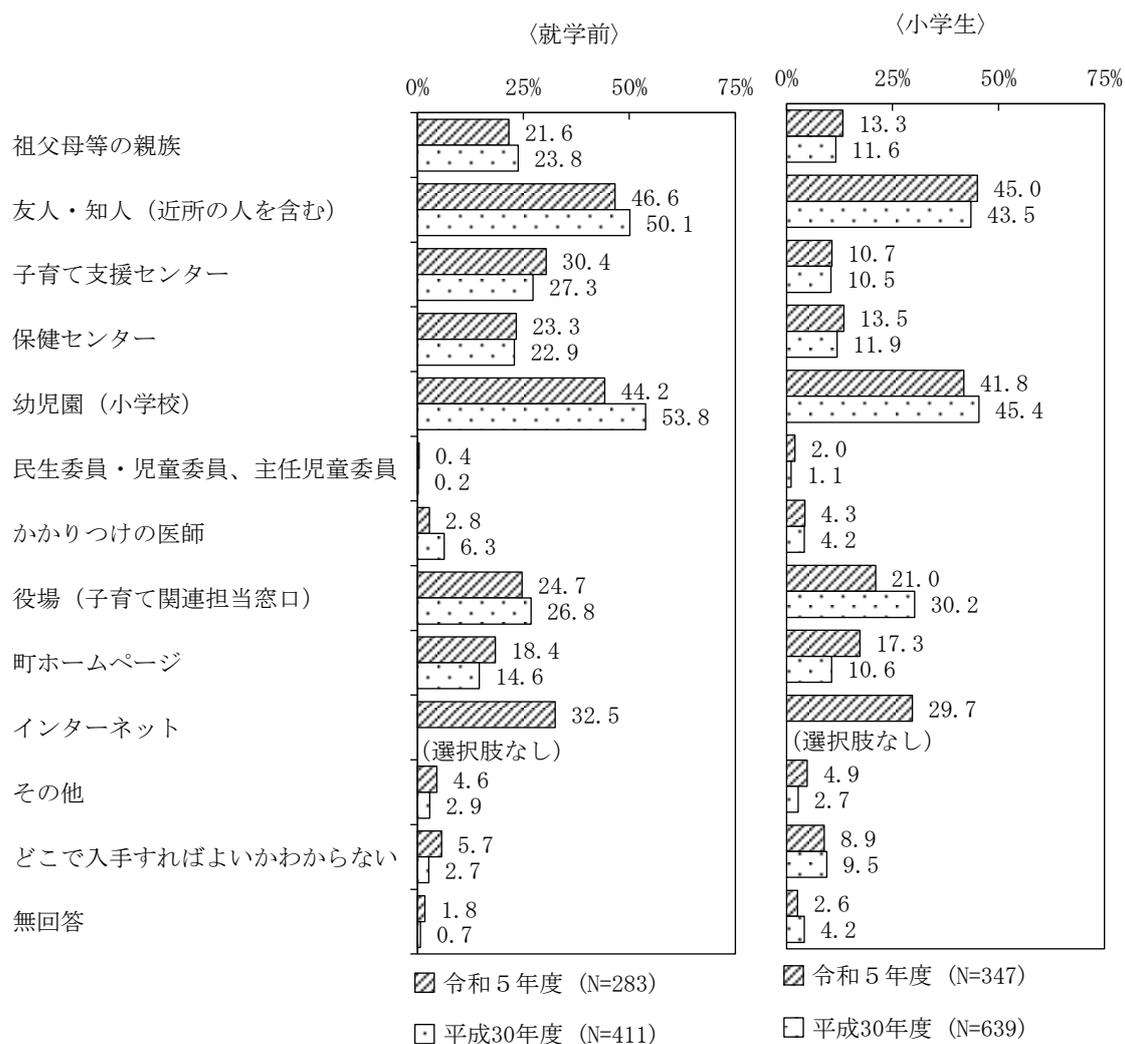
図表4-22 子育ての悩み（複数回答、就学前児童・小学生保護者）



(4) 子育てに関する情報の取得方法

図表4-23は子育てに関する情報の取得方法をたずねた結果です。平成30年度と比べて、就学前児童の保護者は「幼稚園」が、小学生の保護者は「役場（子育て関連担当窓口）」が10ポイント近く低くなっています。

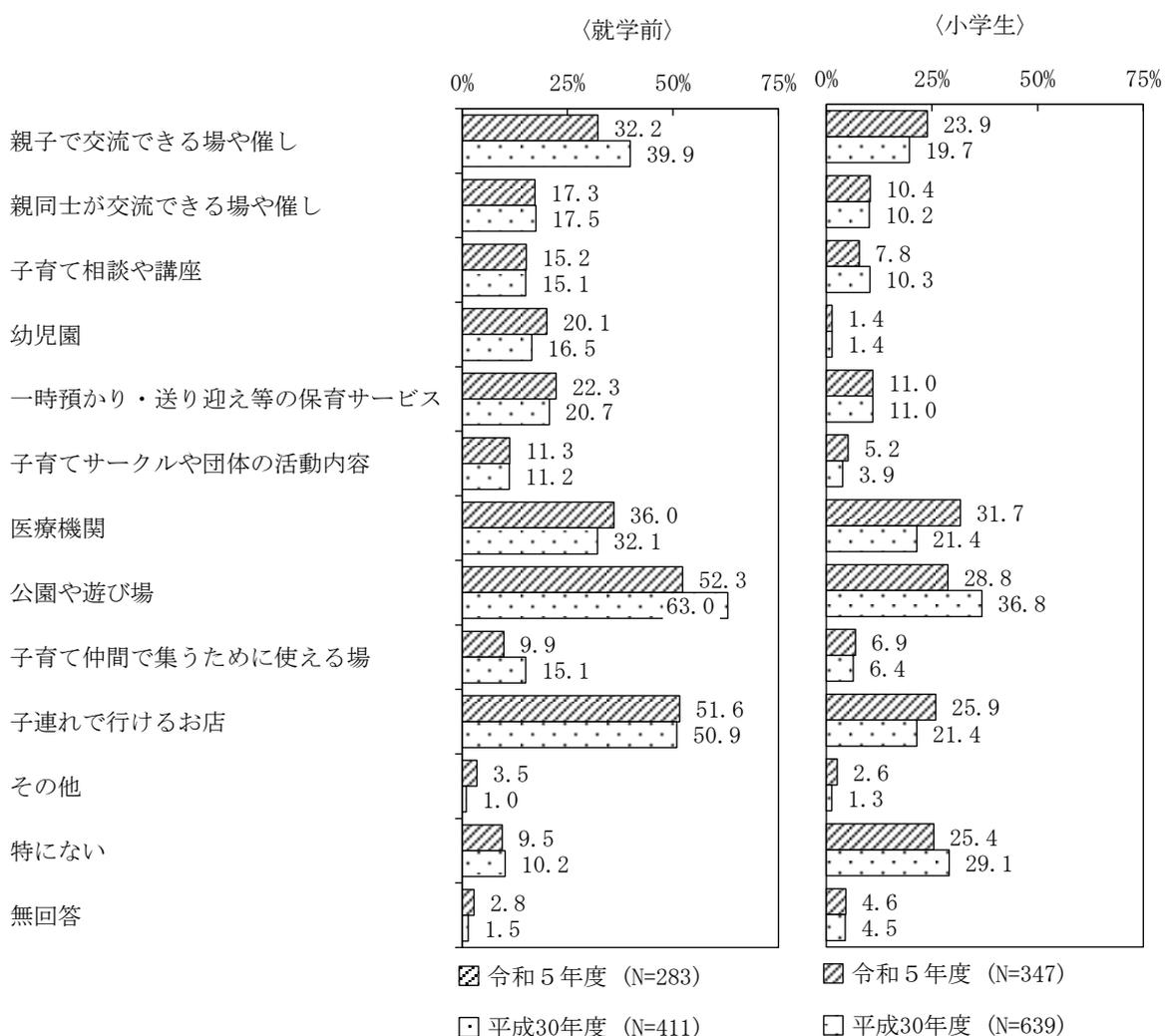
図表4-23 子育てに関する情報の取得方法（複数回答、就学前児童・小学生保護者）



(5) 子育てに関して知りたい情報

図表4-24は子育てに関して知りたい情報をたずねた結果です。平成30年度と比べて、就学前児童の保護者は「公園や遊び場」が低く、小学生の保護者は「医療機関」が高くなっており、それぞれ10ポイント以上の差があります。

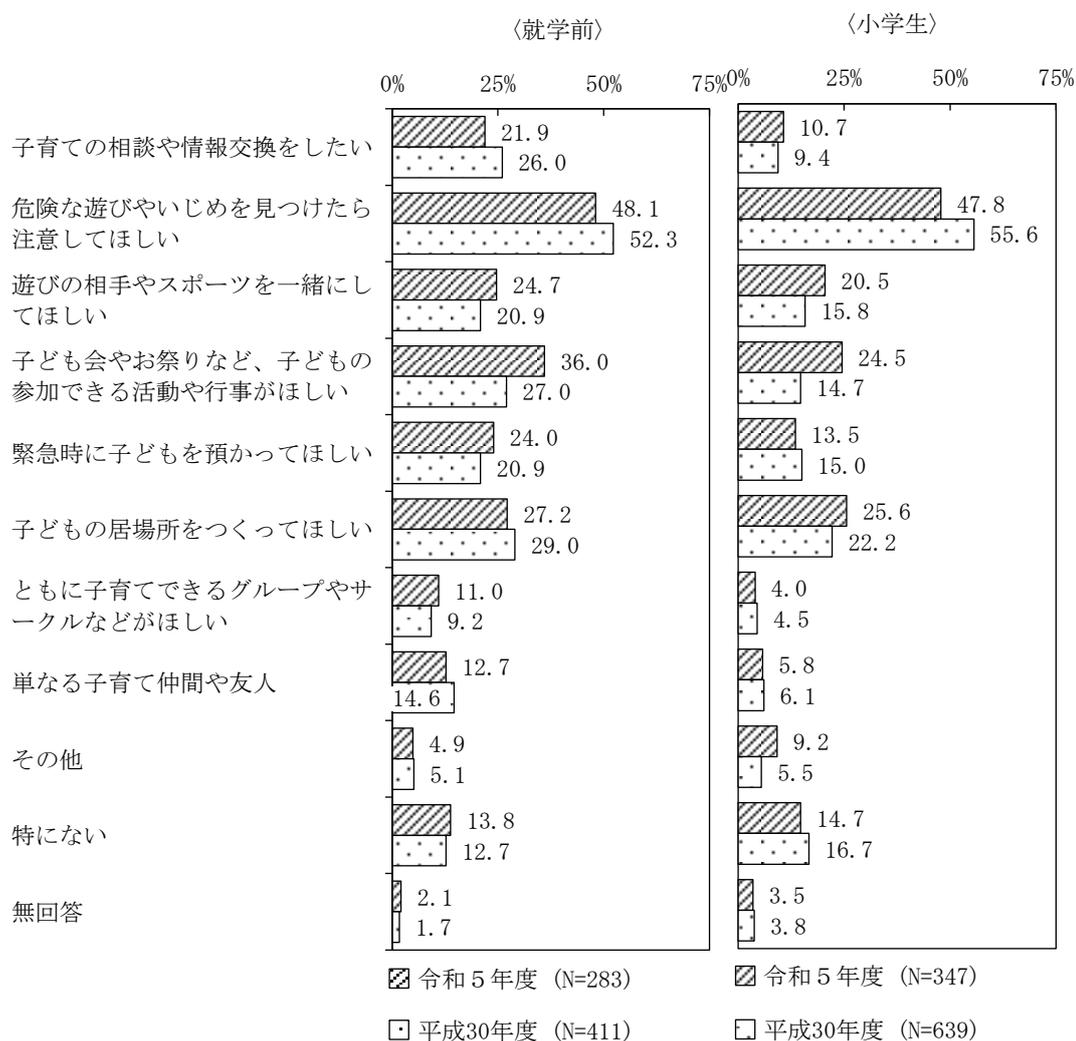
図表4-24 子育てに関して知りたい情報（複数回答、就学前児童・小学生保護者）



(6) 子育てに関して地域に求めること

図表4-25は子育てに関して地域に求めることをたずねた結果です。就学前児童、小学生の保護者ともに「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」が最も高くなっています。また、平成30年度と比べると、就学前児童、小学生の保護者ともに「子ども会やお祭りなど、子どもの参加できる活動や行事がほしい」が10ポイント近く高くなっています。

図表4-25 子育てに関して地域に求めること（複数回答、就学前児童・小学生保護者）

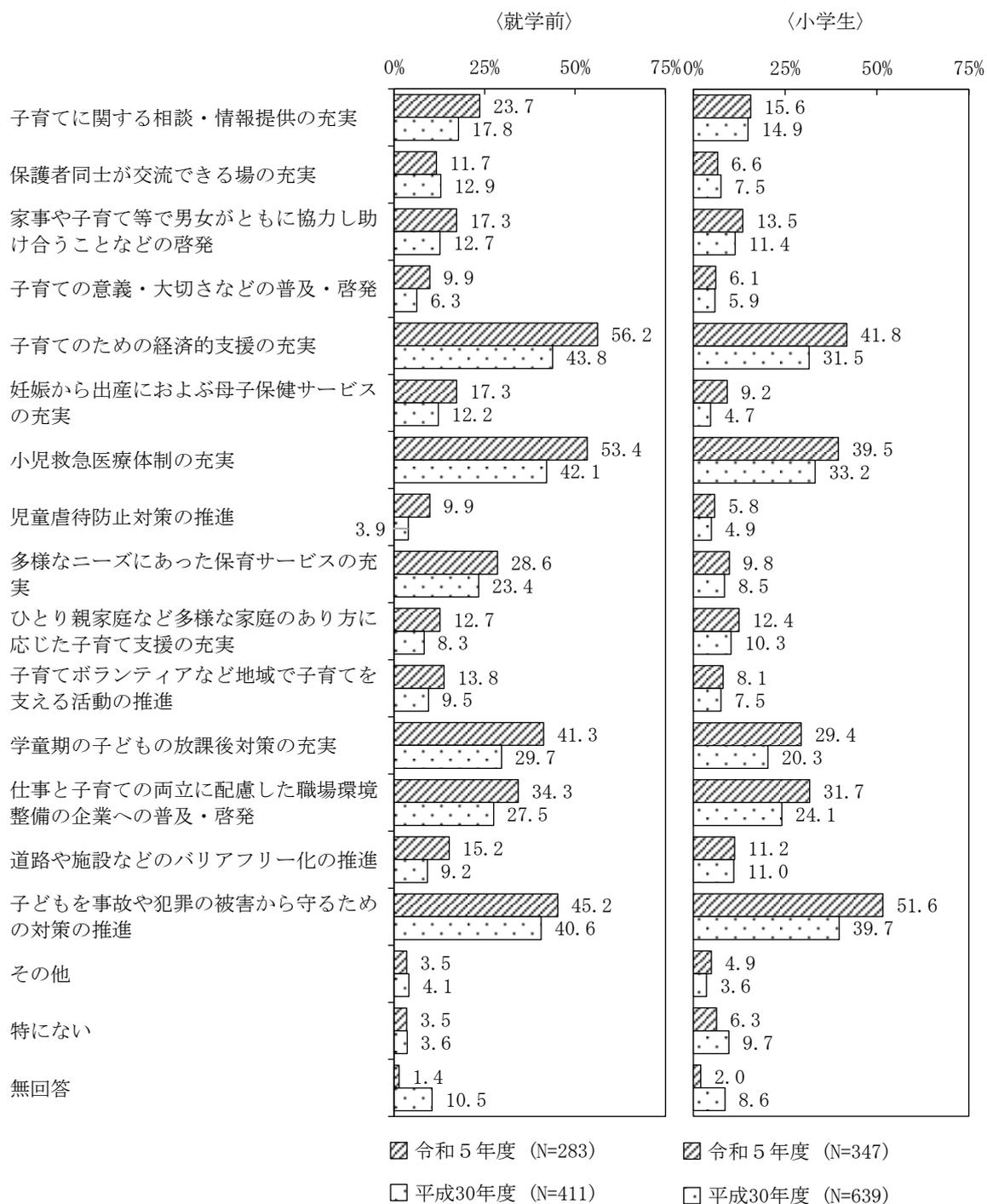


(7) 力を入れてほしい子育て支援

図表4-26は力を入れてほしい子育て支援についてたずねた結果です。就学前児童の保護者は「子育てのための経済的支援の充実」及び「小児救急医療体制の充実」が、小学生の保護者は「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が50%を超え

る高い割合です。また、平成30年度と比べると、就学前児童の保護者は「子育てのための経済的支援の充実」、「小児救急医療体制の充実」、「学童期の子ども放課後対策の充実」が、小学生の保護者は「子育てのための経済的支援の充実」、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」がそれぞれ10ポイント以上高くなっています。

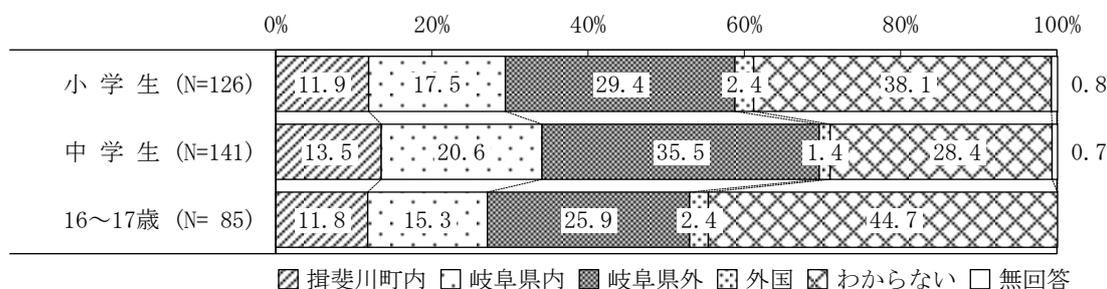
図表4-26 力を入れてほしい子育て支援（〇は5つまで、就学前児童・小学生保護者）



(8) 大人になったときに住みたい場所

大人になったときに「揖斐川町内」に住みたい人は、小中学生、16～17歳のいずれも10%台となっています。

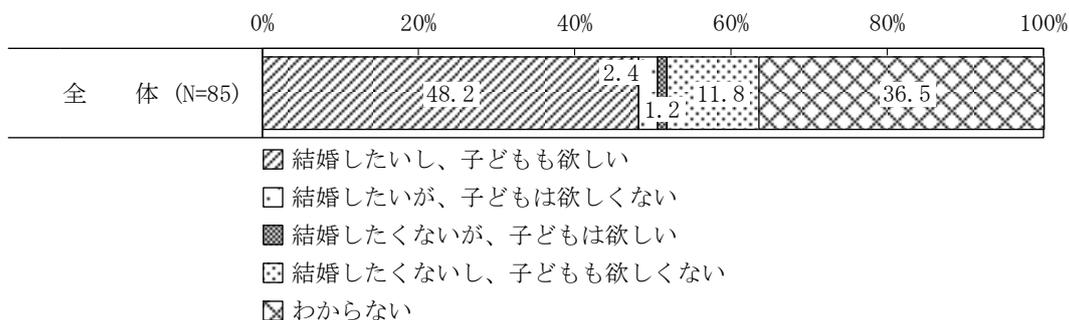
図表4-27 大人になったとき、住みたい場所（小学生、中学生、16～17歳）



(9) 結婚すること、子どもを持つことについての考え

将来、「結婚したいし、子どもも欲しい」と考えている16～17歳は約半数です。

図表4-28 結婚すること、子どもを持つことについての考え（16～17歳）



6 考 察

(1) 就労している母親の増加

就労している母親（フルタイム、パート・アルバイト等、育休・介護休業中）の割合は上昇を続けており、令和5年度の就学前児童の母親は85.2%、小学生の母親は89.4%となっています。この5年間についてみても、就学前児童の母親は14.6ポイント、小学生の母親は8.4ポイント高くなっています。また、現在、パート等で働いている人はフルタイムへの転換希望が高くなっています。

これらは、男女共同参画社会の促進、子ども・子育て支援に係る制度の充実、人手不足による女性の労働力への需要の増大、経済的に共働きをせざるを得ない世帯の増加などが要因として考えられます。

このような背景のもと、幼稚園、幼児園・保育園などを利用する割合は80%近くを占めています。サービス利用率の上昇と同時に出生数の減少を踏まえて、必要なサービスの確保・見直しを行っていく必要があります。

(2) 父親の育児休業の取得

育児休業を取得する保護者の割合も高くなっています。特に、母親の取得率は、令和5年度は48.4%の高い率です。父親は8.8%と平成30年度より7.3ポイント高くなっていますが、依然として女性に比べると低い水準です。

厚生労働省「令和4年度雇用均等基本調査」における男性育休取得率は17.13%となっており、国と比べても本町の男性の育児休業の取得率は低いことがうかがえます。男性が育児休業を取得することが当たり前となるような社会の風土を醸成するために、啓発活動等や環境整備を行い、男性が積極的に育児に参加しやすい社会を目指していかなければなりません。

(3) 幼稚園、幼児園・保育園

約80%の人が平日の定期的な教育・保育事業を利用しています。保育事業の利用状況について事業別にみると、「幼児園・保育園」が上昇し、「幼稚園」が低下しています。共働き世帯の増加にともない、保育のニーズが高まっていることがうかがえます。

自由意見では、幼稚園・幼児園・保育園について、保育士や幼稚園教諭の人員不足の解消や労働環境の改善、保育・教育のより一層の充実が望まれています。

その他には、施設の改善、慣らし保育の制度改善に関することなどが記載されており、これらに対する改善や情報提供が必要です。

(4) 病児・病後児保育

子どもが病気等で園や小学校を休まなければならなかったときの対処方法としては、母親が仕事を休む割合が高くなっており、病児・病児保育の利用意向は平成30年度に比べて低下しています。病児・病後児保育の利用を希望しない理由は、就学前児童、小学生の保護者ともに「親が仕事を休んで対応する」が60%以上となっています。その一方で、「病児・病後児を他人に看病してもらうのは不安」や「利用料がかかる・高い」なども25%以上と高くなってしています。

病児・病後児保育は、不定期に利用している事業としての利用率は低くなっているものの、保護者が安心して働くために必要なサービスであるため、事業の安全性と信頼の確保に努めるとともに、病児・病後児保育に関する情報を広く提供していく必要があります。

(5) 子育て支援センター

子育て支援センターの利用状況や利用意向は、平成30年度から大きな変化はみられません。自由意見では、よかった点として、親のリフレッシュになることがあげられています。改善点としては、空調整備や休日の利用を求める意見が寄せられており、環境の改善や休日の開館などについて検討していく必要があります。

(6) 子育て環境・安心

子育てに関して、地域に求めることは、就学前児童、小学生の保護者ともに「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」が最も高くなっています。また、小学生の保護者は放課後に必要なものとして「大人の見守りによる安全・安心な居場所」が過半数を占めており、地域全体で子どもを育てていくための意識の醸成が必要です。

力を入れてほしい子育て支援としては、就学前児童、小学生の保護者ともに「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が高くなっています。

保護者は、子どもたちが安心して成長できる環境の確保を強く求めており、地域の見守り体制の強化や地域全体の防犯意識の向上を通じて、子どもたちが安心して遊び、成長できる環境を実現することが大切です。

(7) 放課後の過ごし方

留守家庭児童教室（学童保育）を利用している割合は、平成30年度より7.1ポイント高くなっています。特に、1・2年生の利用割合が高くなっており、フルタイムで就労している保護者が多いことがうかがえます。

自由意見では、学童保育の利用料やおやつ代が負担になっているとの声があり、特に、ひとり親家庭や多子家庭の負担が重たくなっていることが推察されます。

さらに、小学生の保護者に、放課後に必要なものをたずねたところ、いずれの項目も平成30年度と比べて高くなっており、学習支援、運動・文化的活動、遊びの充実など、多様な居場所づくりや活動支援の充実が求められていることがわかります。

(8) 子育ての負担

平成30年度と比べて、子育てに不安や負担を感じる保護者が高くなっています。

また、自由意見では、PTA、子ども会、町内会をはじめとする役員の負担を軽減する必要性が指摘されています。

人口減少や共働き世帯が増えている中、子育てや仕事で役員や地域の活動に参加する余裕がない人が多いことが考えられ、負担軽減のための見直しをしていくことが必要です。

(9) 児童虐待の防止

平成30年度と比べると低下していますが、依然として、子どもに暴力や暴言を言うてしまうことがある保護者が30%以上います。

痛ましい児童虐待を未然に防ぐために、産前産後の心身の不調や妊娠・出産・子育てに関する悩みを抱え、周囲の支えを必要としている人に、妊娠・出産・子育てに関する相談がしやすい体制の整備や、地域の子育て支援サービスの充実を図っていかねばなりません。また、虐待を受けている子どもや支援を必要としている家庭を早期に発見し、適切な保護や支援を図るために、関係機関が適切に連携し、対応していくことが重要です。

(10) 情報

情報の取得方法としては、友人・知人や幼稚園・学校が高くなっています。また、イ

インターネットも30%前後の高い割合です。自由意見では、子ども子育てに関する情報が得られないため、積極的に発信してほしいという意見が記載されていました。

インターネットの普及にともない、情報の信頼性の低下や情報過多によって保護者が混乱し、不安になることが懸念されます。行政から情報を取得している保護者は平成30年度と比べて低くなっていますが、引き続き、幼稚園や学校等と連携しながら、正確な情報を積極的に発信していくことが必要です。

(11) 経済的な支援

未就学児童の保護者の32.9%、小学生児童の保護者の33.7%と約3人に1人が、経済状況が苦しいと感じています。また、力を入れてほしい子育て支援として、就学前児童、小学生の保護者ともに「子育てのための経済的支援の充実」が高くなっています。

自由意見では、給食費の無償化や18歳までの医療費の無償化などの経済的支援が充実していると記載がある一方で、子どもの教育費やインフルエンザワクチンの予防接種の補助金の増額など、さらなる経済的な支援を望む意見が寄せられています。

本町は高校生までの子どもの医療費無償化や第2子以降の保育料無料化など、子育て世帯を手厚く支援しています。しかし、子育てや教育に関する支出や実質賃金の低下によって、経済的な支援が必用な世帯が増えていることが推察され、経済的支援の拡充を検討していく必要があります。

(12) 少子化対策

子ども・子育て支援は、子どもの育ちと、家族の子育てを支援するものには違いありませんが、その根本には子どもを増やしたいというねらいがあります。

結婚観については、高校生の約半数は結婚願望があり、子どもも欲しいと考えていますが、大人になったときに揖斐川町内に住みたいと考えているのは11.8%です。これは、結婚して子どもが産まれても揖斐川町外で子どもを産み育てたいと考えている人が多いことがうかがえます。

本町においては、出生数の減少や結婚や仕事を理由とした転出により、人口は減少を続けています。出産・子育ては個人の自由な選択によるものであることは当然ですが、中長期を含めた少子化施策について検討していく必要があります。

揖斐川町こども計画
ニーズ調査報告書

令和6年3月

発行 ◆ 揖斐川町
編集 ◆ 揖斐川町住民福祉部子育て支援課
〒501-0692
岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪 133 番地
TEL 0585-22-2791
